

第13表 寺田・産宮通遺跡出土土器観察表

遺物番号	報告区	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
1	SH01	I区	弥生 壺	(口)12.0	口縁部1/8	石英大~小多、長石中・小少	内：2.5Y3/1黒褐 外：2.5YR5/8赤褐	(口)ヨコナデ、マメツ	(口)ヨコナデ		
2	SH01	I区	弥生 壺		口縁部小片	石英大~小多、長石大・中普	内外：5YR7/4にぶい黄・橙・2.5Y2/1黒	(口)ヨコナデ	(口)ヨコナデ、ナデ		
3	SH01	I区	弥生 壺		体部1/8	石英大・中多、長石大・中普、赤色粒子大少	内：7.5YR6/4にぶい黄・橙 外：2.5YR7/6橙・10YR7/4にぶい黄・橙	(体)オサエ、ナデ	(体)ハケメ、マメツ		黒班
4	SH01	I区	弥生 甕	(口)13.9	口縁部2/8	石英大・中多、長石大・中少	内：10YR8/3浅黄橙・2.5YR6/8橙 外：2.5YR7/8橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)ハケ		黒班
5	SH01	I区	弥生 甕		口縁部小片	石英大~小多、長石大微	内：5YR6/8橙 外：10YR7/3にぶい黄・橙・7.5YR6/6橙	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、オサエ	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、マメ		
6	SH01	I区	弥生 甕		体部1/8	金雲母中少、石英大・中多、長石大・中少	内：10YR4/4褐 外：5YR5/6明赤褐	ハラケズリ、オサエ	横ナデ、ハケ、マメツ		
7	SH01	I区	弥生 壺	(底)3.3	底部8/8	石英大~小多、長石大~小少	内：2.5YR6/6橙・5YR7/6橙 外：2.5YR6/6橙・7.5YR7/6橙	(体)底ハラケズリ後ナデ	(体)底オサエ後ナデ		黒班
8	SH01	I区	弥生 壺	(底)4.3	底部8/8	石英大~小多、長石大微	内：5YR6/6橙・2.5Y2/1黒 外：10YR7/3にぶい黄・橙	(体)底オサエ後ナデ	(体)ハケ後ナデ、オサエ後ナデ、ヨコナデ(底)ナデ		黒班
9	SH01	I区	弥生 壺	(底)7.8	底部3/8	石英大・中普、赤色粒子大微	内：10YR7/4にぶい黄・橙・5YR7/6橙 外：7.5YR7/6橙・5YR7/6橙	(体)底オサエ後ナデ	(体)タタキ後ハケ後ナデ(底)ナデ		内面赤色顔料
10	SH01	I区	弥生 壺	(底)4.6	底部2/8	金雲母中微、石英大~小普、長石中・小少	内：10YR4/1褐灰 外：5YR6/6橙・10YR4/1褐灰	(体)ハケ(底)剥離	(体)ハケ(底)ナデ		
11	SH01	I区	弥生 鉢	(底)4.1	底部8/8	石英大・中多、長石大・中少	内：10YR8/1灰白・10YR6/6明黄褐 外：10YR8/1灰白・10YR7/4にぶい黄・橙	ナデ	(体)ナデ、オサエ後ナデ(底)ナデ		
12	SH01	I区	弥生 鉢		口縁部小片	金雲母中少、石英大・中多、長石中微	内：10YR7/4にぶい黄・橙・2.5Y2/1黒 外：10YR7/4にぶい黄・橙	(口)ヨコナデ	(口)ヨコナデ		
13	SH01	I区	弥生 鉢	(口)13.0	口縁部1/8	石英大・中多、長石大・中微	内外：10YR7/8明黄褐	マメツ	(口)ナデ(体)オサエ後ナデ		黒班
14	SH01	I区	弥生 鉢	(口)18.7	口縁部小片	石英大・中多、長石大・中普	内：2.5Y2/1黒・10YR7/3にぶい黄・橙 外：7.5YR7/6橙	(口)ヨコナデ(体)ハケ(体)ハケ、ナデ	(口)剥離、ヨコナデ(体)ハラミガキ状の幅広調整後ナデ、ナデ		
16	SH02	I区	弥生 甕	(口)17.8	口縁部1/8	石英・長石中・小多	内外：2.5Y3/1黒褐	(口)ヨコナデ(体)板ナデ	ヨコナデ		
23	SH03	II区	弥生 壺	(底)4.7	底部8/8	石英大~小少、長石大・中少	内：10YR5/1褐灰 外：10YR5/1褐灰・2.5Y2/1黒	(体)底ハケ	(体)オサエ、ナデ、ハラケズリ(底)ハラケズリ		
24	SH03	II区	弥生 壺	(底)3.0	4/8	石英・長石大・中少、赤色粒子大微	内：5YR7/6橙 外：5YR7/6橙・10YR8/3浅黄橙	(体)板ナデ後ハケ、板ナデ(底)ハケ	(体)ハケ(底)ナデ		黒班
25	SH03	II区	弥生 壺	(底)5.0	底部3/8	石英大・中少、長石中少	内：7.5YR7/6橙・5YR7/6橙 外：10YR7/6明黄褐	(体)ナデ(底)オサエ	(体)タタキ後ハケ、ナデ(底)タタキ後板ナデ		黒班
26	SH03	II区	弥生 高杯		杯部2/8	石英大・中少、長石中微	内外：10YR8/3浅黄橙	マメツ	マメツ		
27	SH03	II区	弥生 高杯		脚部3/8	石英・長石大~小少	内外：10YR8/3浅黄橙	杯部(底)ナデ、剥離 脚部ナデ、板ナデ	ハラミガキ、ナデ		穿孔・欄残存
28	SH03	II区	弥生 鉢	(口)14.0 (高)4.7 (底)4.0	4/8	石英大・中少、長石大~小少	内外：5YR7/6橙・10YR8/4浅黄橙	(口)ヨコナデ、ハケ後ナデ(体)ハケ後ナデ(底)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ(底)ナデ		
29	SH03	II区	弥生 鉢	(口)10.2 (高)6.3 (底)1.8	2/8	石英・長石大~小多	内：10YR8/3浅黄橙・2.5Y7/1灰白・2.5Y2/1黒 外：10YR8/3浅黄橙	(体)ハケ、ナデ(底)ナデ	(体)ハケ、ナデ(底)ナデ		外面にハラ記号か
30	SH03	II区	弥生 鉢	(口)12.8 (高)6.7 (底)3.0	6/8	石英大・中少、長石大~小多	内：5YR7/6橙・10YR5/1褐灰 外：5YR7/6橙・10YR5/1褐灰	(口)ハケ(体)底ハケ	(口)ナデ、絞リ痕(底)ナデ		木葉瓦痕
31	SH03	II区	弥生 鉢	(口)16.1 (高)8.4 (底)3.2	6/8	石英大・中微、長石大・中少、赤色粒子中微	内：10YR7/3にぶい黄・橙 外：2.5Y7/3淡黄	ヨコナデ、ナデ	(口)ヨコナデ、ナデ(体)ナデ、オサエ(底)ナデ		黒班
32	SH03	II区	弥生 鉢	(口)16.8 (高)8.0 (底)3.0	3/8	石英・長石大・中少	内外：5YR6/6橙・5YR3/1黒褐	(口)ヨコナデ(体)底ハケ	(口)ヨコナデ、タタキ(体)底タタキ		
33	SH03	II区	弥生 鉢	(口)20.6	2/8	石英大・中多、長石大・中普、赤色粒子中微	内：10YR7/4 にぶい黄・橙・10YR6/2灰黄褐 外：10YR7/3にぶい黄・橙・10YR4/1褐灰	マメツ	(口)マメツ、タタキ(体)タタキ		
35	SH04	II区	弥生 甕	(口)13.3	上半部2/8	角閃石大微、石英大・中普、長石大~小少、赤色粒子大微	内：10YR5/1褐灰・2.5YR6/8橙 外：2.5YR6/8橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ、ナデ	(口)ヨコナデ(体)マメツ、オサエ		
36	SH04	II区	弥生 甕	(口)16.3	口縁部2/8	石英・長石大・中少、赤色粒子大微	内外：7.5YR8/6浅黄橙	(口)ヨコナデ(体)ナデ	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、ハケ後ナデ		

報告番号	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
37	SH04	II区	弥生鉢	(底)4.0	底部7/8	石英大~小少、長石中少	内：10YR7/4浅黄橙・5YR7/6橙 外：5YR7/4にぶい橙	ハケ	(体)ナデ、オサエ後ナデ(底)ナデ	内面赤色顔料
38	SH04	II区	弥生鉢	(底)3.1	底部8/8	石英、長石大~小少	内：10YR7/2にぶい黄橙・7.5YR1.7/1黒 外：5YR7/4にぶい橙・7.5YR1.7/1黒	ハケ後ナデ	ナデ	
39	SH04	II区	弥生鉢	(口)9.1 (高)5.4 (底)3.4	7/8	石英大、中少、長石大~小少、赤色粒子大微	内外：10YR8/8浅黄橙	(口)ナデ(体)オサエ後ナデ(底)ナデ	(口)ナデ(体)オサエ後ナデ(底)ナデ	
40	SH04	II区	弥生鉢	(底)3.0	底部8/8	石英大少、長石大、中少	内外：5YR7/6橙	(体)板ナデ(底)オサエ	(体)ナデ、絞リ底、オサエ(底)ナデ	
41	SH05	II区	弥生甕	(底)3.4	底部8/8	角閃石大微、石英、長石大、中少、赤色粒子中微	内外：2.5Y8/3浅黄橙	ナデ	(体)ナデ、オサエ(底)ナデ	
42	SH05	II区	弥生甕	(底)2.8	底部4/8	金雲母大微、石英、長石大、中普、赤色粒子大少	内：10YR6/8にぶい黄橙・10YR5/1褐 外：2.5Y6/4にぶい黄・2.5Y5/1黄灰	ハケ後ナデ	(体)オサエ後ナデ、オサエ後タタキ(底)ナデ	木葉圧痕
43	SH06	II区	弥生壺	(口)13.5	口頸部3/8	石英大、中普、長石大、中少、赤色粒子大微	内：7.5YR8/4浅黄橙・10YR8/8浅黄橙 外：10YR8/4浅黄橙	(口)頸ヨコナデ、オサエ、ナデ	(口)ヨコナデ(頸)ハケ、ナデ	
44	SH06	II区	弥生壺	(口)16.0	口頸部3/8	石英大、中普、長石大、中多	内：10YR8/2灰白 外：10YR8/3浅黄橙・10YR8/2灰白	(口)ヨコナデ(頸)(体)ナデ	(口)ヨコナデ(頸)ヨコナデ、ハケ後ナデ(体)ハケ後ナデ、タタキ後ナデ	
45	SH06	II区	弥生甕	(口)13.7	上半部2/8	石英、長石大、中少	内：10YR6/1褐灰 外：10YR5/1黒褐	(口)ヨコナデ、ハケ(体)ヨコナデ、オサエ後ナデ、オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ、ハケ(体)タタキ後ナデ	
46	SH06	II区	弥生甕	(底)5.0	底部2/8	石英、長石大、中多	内：2.5Y2/1黒 外：5YR6/2灰褐・2.5Y2/1黒	(体)ナデ(底)オサエ後ナデ	(体)ナデ、オサエ後ナデ(底)ナデ	木葉圧痕
47	SH06	II区	弥生甕	(底)3.6	底部6/8	石英中、小少、長石大、中少、赤色粒子大、中少	内：2.5Y7/2灰黄・2.5Y6/1黄灰 外：10YR7/2にぶい黄橙・10YR7/4にぶい黄橙	ナデ	(体)タタキ(底)ナデ	黒斑
48	SH06	II区	弥生甕	(底)4.8	底部2/8	金雲母大、中多、角閃石大、中普、石英、長石大、中多	内：2.5YR6/6橙 外：10YR3/1黒褐・5YR5/6明赤褐	オサエ後ナデ	(体)ハケラケズリ後ナデ(底)ナデ	下川津B類
49	SH06	II区	弥生壺	(底)2.8	底部8/8	石英、長石大、中普	内：2.5Y6/1黄灰・2.5Y4/1黄灰 外：5YR7/6橙	(体)ハケ(底)オサエ後ハケ	ナデ	
50	SH06	II区	弥生甕	(底)4.2	底部8/8	石英、長石大、中少	内：10YR6/1褐灰 外：10YR7/2にぶい黄橙・10YR6/1褐灰	ハケ	(体)タタキ後ハケ、ナデ(底)ハラケズリ後ナデ	
51	SH06	II区	弥生鉢	(口)17.2 (高)7.9 (底)4.1	7/8	石英大、中普、長石、赤色粒子大~小少	内：10YR8/6浅黄橙 外：10YR8/3浅黄橙	(口)ナデ、ハケ(体)ハケ	(口)ナデ(体)タタキ後ナデ(底)ナデ	
52	SH06	II区	弥生製塩土器	(底)3.3	底部8/8	角閃石中、小少、石英小微、長石大、中少	内：7.5YR5/6明褐 外：7.5YR6/6橙	(体)底(脚)ナデ	(体)底(脚)ハラケズリ(脚)ナデ	
53	SH06	II区	土器集中部	(口)23.4	上半部2/8	石英大、中少、長石大、中普	内：10YR7/2にぶい黄橙・10YR6/2灰黄褐 外：10YR8/3浅黄橙	ヨコナデ	(口)ヨコナデ(頸)ハケ	外面波状の線刻
54	SH06	II区	土器集中部	(口)15.4	口頸部3/8	石英、長石大、中多	内：7.5YR8/6浅黄橙・10YR8/4浅黄橙 外：10YR8/4浅黄橙・5YR7/6橙	マメツ	マメツ	
55	SH06	II区	土器集中部	(口)15.5	口頸部4/8	石英、長石大、中多、赤色粒子大少	内外：10YR8/3浅黄橙	(口)割離ハケ後ナデ(頸)ハケ後ナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ、ハケ(頸)(体)ハケ	内面赤色顔料
56	SH06	II区	土器集中部		口縁部3/8	石英大、中普、長石大、中少、赤色粒子大微	内外：7.5YR8/4浅黄橙・10YR8/8浅黄橙	ヨコナデ、オサエ、ナデ、ハラケズリ	ハケ、タタキ後ハケ	
57	SH06	II区	土器集中部		6/8	石英大、中普、長石中、小普	内外：10YR8/2灰白・10YR8/4浅黄橙 外：2.5Y8/2灰白	ハケ、ハケ後ナデ、ハケ	タタキ後ナデ、タタキ後ハケ	黒斑
58	SH06	II区	土器集中部	(底)8.0	下半部8/8	金雲母中微、石英大、中普、長石大、中少	内：2.5Y3/1黒褐 外：2.5Y8/2灰白	(体)ハケ(底)オサエ	(体)タタキ後ナデ(底)ナデ	
59	SH06	II区	土器集中部	(口)12.4 (底)2.8 (高)15.5	6/8	石英、長石大~小普	内：10YR8/4浅黄橙 外：10YR8/4浅黄橙・5YR7/6橙	(口)ヨコナデ(体)ナデ(底)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)タタキ後ハケ	黒斑
60	SH06	II区	土器集中部	(口)13.8	上半部2/8	石英大、中普、長石大、中多、赤色粒子中微	内：10YR8/2灰白・7.5YR8/4浅黄橙 外：7.5YR8/6浅黄橙・10YR8/3浅黄橙・10YR4/2灰黄褐	(口)ヨコナデ(体)ハケ、オサエ、ナデ	(口)ヨコナデ(体)タタキ後ハケ	
61	SH06	II区	土器集中部	(口)13.5	口縁部2/8	金雲母中少、角閃石大、中微、石英大微、長石大、中微、赤色粒子大微	内：5YR6/4にぶい橙 外：7.5YR5/4にぶい褐	(口)ヨコナデ(体)板ナデ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)ナデ	下川津B類
62	SH06	II区	土器集中部	(口)15.0	口頸部2/8	石英大、中少、長石中微	内外：10YR8/3浅黄橙	(口)ヨコナデ、マメツ(体)ナデ	(口)ヨコナデ(体)タタキ	

遺物番号	告遺標名	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
63	SH06	II区	土器集 中部	弥生 甕	(口)13.0	口頸部1/8	石英大・中少、長石大～小少	内：10YR8/3浅黄橙・外：10YR8/3浅黄橙・10YR7/3にぶい黄橙	ナデ	(口)ナデ(体)タタキ	
64	SH06	II区	土器集 中部	弥生 甕	(口)11.0	上半部3/8	石英大・中少、長石大・中少	内：7.5YR8/2灰白・5YR8/4淡黄橙・外：7.5YR8/2灰白・7.5YR8/4浅黄橙	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、オサエ、ハケ	(口)ヨコナデ(体)タタキ後ハケ	
65	SH06	II区	土器集 中部	弥生 甕	(口)15.0	上半部1/8	石英大～小多、長石大・中少、赤色粒子大微	内：10YR8/4浅黄橙・外：10YR8/2灰白・5YR7/6橙	(口)ヨコナデ(体)ナデ	(口)ヨコナデ(体)タタキ後ハケ	黒班
66	SH06	II区	土器集 中部	弥生 甕	(底)3.0	下半部2/8	金雲母中微、石英大～小少、赤色粒子大微	内：2.5YR6/8橙・10YR6/3にぶい黄橙・外：2.5YR6/8橙・7.5YR6/6橙	ナデ	(体)タタキ、タタキ後ナデ(底)ナデ	
67	SH06	II区	土器集 中部	弥生 甕	(底)4.6	底部6/8	金雲母、角閃石・石英・長石中・小少	内：7.5YR5/4にぶい褐・外：7.5YR5/2灰褐・7.5YR5/4にぶい褐	ハラケズリ	ハラミガキ	下川津B類
68	SH06	II区	土器集 中部	弥生 甕	(底)5.0	底部8/8	金雲母・石英・長石大～小少、赤色粒子中微	内：10YR7/1灰白・外：10YR7/2にぶい黄橙	オサエ後ナデ	(体)ハケ(底)ナデ	黒班
69	SH06	II区	土器集 中部	弥生 甕	(底)4.6	底部8/8	石英大・中少、長石大～小少、赤色粒子大微	内：5YR7/6橙・10YR8/2灰白・外：2.5YR7/6橙・5YR6/3にぶい橙	(体)ハラケズリ・ハケ(底)ナデ	(体)ハラケズリ(底)ナデ	黒班
70	SH06	II区	土器集 中部	土師 壺	(口)25.9	底部8/8	金雲母中微、石英大・中少、長石大～小少	内：5YR7/6橙・外：2.5YR7/8橙	ハケ	ハケ、オサエ後ナデ	黒班
71	SH06	II区	土器集 中部	弥生 甕	(底)3.3	底部8/8	石英大・中少、長石大～小少、赤色粒子大微	内：2.5Y5/1黄灰・外：5YR7/6橙	オサエ後板ナデ	オサエ後ナデ、ナデ	木葉圧痕
72	SH06	II区	土器集 中部	弥生 甕	(底)3.8	底部8/8	石英大・中少、長石大～小少、赤色粒子大微	内：10YR7/2にぶい黄橙・外：10YR7/2にぶい黄橙・2.5YR7/6橙	板ナデ後オサエ	(体)タタキ後板ナデ(底)タタキ	黒班
73	SH06	II区	土器集 中部	弥生 壺	(底)3.6	底部8/8	石英大・中少、長石中・小少、赤色粒子大微	内：7.5YR8/1灰白・5Y4/1灰・外：7.5YR8/4浅黄橙・7.5YR5/1褐灰	板ナデ後ナデ	(体)ナデ、オサエ後ナデ(底)ナデ	木葉圧痕
74	SH06	II区	土器集 中部	弥生 甕	(底)4.1	底部8/8	石英大・中少、長石中・小少、赤色粒子中微	内外：10YR8/3浅黄橙	板ナデ後ナデ	(体)タタキ後ナデ(底)ナデ	木葉圧痕
75	SH06	II区	土器集 中部	弥生 高杯	(口)25.9	杯部1/8	石英・長石大～小普	内外：2.5Y8/3淡黄	(口)ヨコナデ(体)ハラミガキ(底)ハケ	(口)(体)ヨコナデ(底)ナデ	内面刺突文
76	SH06	II区	土器集 中部	弥生 高杯	(口)25.9	杯部2/8	石英・長石大・中少	内外：10YR8/4浅黄橙	ナデ	(口)ナデ(体)オサエ後ナデ	
77	SH06	II区	土器集 中部	弥生 高杯	(底)16.0	脚部1/8	石英大・中多、長石大～小少	内外：10YR7/2にぶい黄橙	ヨコナデ後ハケ、ヨコナデ	ヨコナデ	
78	SH06	II区	土器集 中部	弥生 高杯	(底)16.0	脚部3/8	石英大・中普、長石大・中少	内外：10YR8/4浅黄橙	杯部(底)マメツ 脚部絞り真・マメツ	マメツ	
79	SH06	II区	土器集 中部	弥生 高杯	(底)22.3	脚部1/8	石英・長石大・中少	内外：10YR8/3浅黄橙	ハケ、ヨコナデ	ハケ後ハラミガキ、ヨコナデ	
80	SH06	II区	土器集 中部	弥生 鉢	(口)16.0 (高)16.2 (底)2.4	5/8	石英大・中多、長石大・中普、赤色粒子大微	内外：5YR6/6橙	(口)ヨコナデ(体)ハラミガキ	(口)ヨコナデ(体)ハラケズリ後ナデ、ハラケズリ(底)ナデ	
81	SH06	II区	土器集 中部	弥生 鉢	(口)22.0	上半部2/8	石英大微、長石大少	内：10YR8/3浅黄橙・外：10YR8/3浅黄橙	ハケ、ナデ	タタキ後ナデ	外面赤色顔料 黒班
82	SH06	II区	土器集 中部	弥生 鉢	(口)29.3	口頸部1/8	石英・長石大～小少	内外：10YR8/3浅黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	
84	SP01	I区		弥生 壺	(底)10.7	底部1/8	石英大～小少、長石中・小少、赤色粒子大微	内外：5YR6/6橙	(体)板ナデ後ナデ	(体)ハラミガキ(底)ナデ	黒班
85	SP65	I区		弥生 壺	(底)4.0	底部2/8	石英大～小少、長石大・中普	内：5Y6/2灰オリーブ・外：5YR7/6橙	ナデ	ナデ	
86	SP65	I区		弥生 高杯		脚部7/8	石英大～小普、長石大・小普	内：10YR7/4にぶい黄橙・外：10YR7/3にぶい黄橙	杯部(底)剥離 脚部絞り真後ナデ	ヨコナデ	
88	SP90	II区		弥生 壺	(底)28.5	脚部2/8	石英大・中普、長石大・中少、赤色粒子大微	内外：5YR6/8橙	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	銅蝕文
89	SP90	II区		弥生 壺	(底)3.6	底部8/8	石英大～小普、長石中少	内：2.5Y2/1黒・外：5YR6/6橙・10YR4/1褐灰	(体)ハケ(底)オサエ後ハケ	(体)ナデ、オサエ後ナデ(底)ナデ	
90	SP90	II区		弥生 壺	(底)4.8	底部8/8	石英大～小少、長石大・中少、赤色粒子大微	内：2.5YR6/8橙・外：10YR7/3にぶい黄橙・5YR6/6橙	オサエ後板ナデ	(体)ハケ後ナデ(底)ナデ	黒班
91	SP91	II区		弥生 壺	(底)3.2	底部8/8	角閃石中少、石英大～小少、長石中・小少	内：10YR7/1灰白・5YR7/6橙・外：2.5Y7/2灰黄・5YR7/6橙	(体)ハラケズリ(底)オサエ	(体)ハケ(底)ナデ	黒班
92	SP91	II区		弥生 甕	(口)15.9	口縁部1/8	石英大・中少、長石中少	内：5YR6/4にぶい橙・10YR8/2灰白・外：7.5YR7/3にぶい橙	(口)ヨコナデ、ハケ後ナデ(体)ナデ	ヨコナデ、ハケ後ナデ	
93	SP91	II区		弥生 甕	(口)16.4	口縁部2/8	石英大～小少、長石大・中少、赤色粒子大微	内：10YR6/1褐灰・外：10YR6/1褐灰・10YR7/2にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ、ハケ(体)ナデ	

報告 番号	遺物 番号	調査 区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
94	SK14	II区		弥生 甕	(口)15.4	上半部1/8	石英・長石大~小少	内：2.5YR6/6橙・5YR7/6橙 外：2.5YR6/8橙・7.5YR7/6橙	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、ハラケズリ	(口)ヨコナデ(体)マメツ、ナデ	黒班
95	SK14	II区		弥生 甕		体部3/8	角閃石大少、石英・長石大・中少	内：5YR7/6橙 外：2.5Y3/1黒褐・5YR7/4にぶい橙	ハラケ・ナデ	タタキ後ハケ	
96	SK14	II区		弥生 壺	(底)4.2	底部2/8	石英大~小少、長石中少	内：7.5YR5/2褐灰・5YR6/4にぶい橙 外：7.5YR5/2灰褐・5YR6/4にぶい橙	(体)板ナデ後ナデ、ハケ(底)剥離	(体)ハケ、ナデ(底)ナデ	底部外面朝正裏
97	SK14	II区		弥生 壺	(底)5.4	底部3/8	石英大・中多、長石大~小多	内：7.5YR8/4浅黄橙 外：2.5YR6/8橙・10YR8/4浅黄橙	オサエ	マメツ	黒班
98	SK14	II区		弥生 鉢	(口)19.1	口縁部1/8	石英大・中多、長石大~小多	内：2.5YR6/8橙・7.5YR7/6橙 外：2.5YR6/8橙	ナデ	(口)ナデ、ハケ(体)ハケ、ナデ	
99	SK14	II区		弥生 鉢	(口)22.7 (底)4.0	3/8	石英大・中多、長石大・中普、赤色粒子大微	内：2.5YR6/8橙・7.5YR7/6橙 外：2.5YR6/8橙	(口)ヨコナデ、オサエ(体)ハケ	(口)ヨコナデ、ハケ後ヨコナデ(体)ハケ、タタキ後ナデ	黒班
100	SK17	II区		弥生 高杯		杯部1/8	石英大・中少、長石中少	内：7.5YR7/6橙 外：10YR7/8にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	
101	SK17	II区		弥生 鉢	(口)19.9 (底)4.5	6/8	石英大~小普、長石大~小多、赤色粒子中微	内：10YR8/4浅黄橙・10YR7/4にぶい黄橙 外：10YR7/4にぶい黄橙・5YR7/4にぶい橙	(口)ナデ、ハラミガキ(体)ハラミガキ(底)オサエ	(口)ナデ(体)オサエ後ナデ(底)ナデ	黒班
102	SK21	II区		弥生 高杯	(口)18.3	杯部1/8	角閃石中微、石英大~小少、長石大・中少	内外：10YR6/3にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(底)ナデ	(口)ヨコナデ(底)ハラミガキ後ナデ	黒班
103	SK21	II区		弥生 鉢	(口)12.9 (底)4.4	6/8	石英大・中普、長石中少	内：7.5YR7/4にぶい橙 外：5YR7/6橙	(口)ナデ(体)板ナデ	(口)ヨコナデ、ナデ、絞り痕(体)絞り痕、オサエ(底)ナデ	黒班
104	SK21	II区		弥生 鉢	(口)15.1 (底)3.4	底部3/8	石英大・中少	内外：5YR7/6橙	(口)ヨコナデ、ハケ(体)ハケ(底)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)絞り痕後ナデ(底)ナデ	
105	SK21	II区		弥生 鉢	(底)2.9	4/8	石英大・中普、長石大・中少	内：2.5YR6/6橙・10YR8/4浅黄橙 外：2.5YR6/6橙・10YR8/2灰白	ハケ	(体)ナデ、絞り痕、オサエ後ナデ(底)ナデ	
106	SK21	II区		弥生 鉢	(底)3.4	底部3/8	金雲母中微、石英中少、長石中微	内：10YR7/4にぶい黄橙・5YR7/6橙 外：10YR8/3浅黄橙・5YR7/6橙	ハケ	(体)ナデ、オサエ(底)ナデ	
107	SD01	I区		弥生 壺	(口)8.0 (底)2.0	7/8	石英大・中少、長石大~小少、赤色粒子大微	内：7.5YR7/6橙 外：7.5YR7/6橙・7.5YR8/6浅黄橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデハラケズリ(底)オサエ	(口)ヨコナデ(体)ナデ、オサエ後ナデ(底)ナデ	
109	SX02	II区		弥生 壺		頸部小片	石英大・中少、長石大~小少、赤色粒子中微	内外：10YR6/1褐灰	ナデ	(体)ヨコナデ、ナデ	頸部基部外面押圧を加えた突帯文
110	SX02	II区		弥生 甕	(底)5.3	底部3/8	石英大・中多、長石中・小多	内：2.5Y2/1黒 外：5YR7/6橙・5YR5/1褐灰	オサエ、ナデ	(体)オサエ(底)ナデ	
111	SX02	II区		弥生 甕	(底)6.3	底部5/8	石英大・中普、長石大・中多	内：10YR4/1褐灰 外：5YR7/6橙・10YR4/1褐灰	ナデ、剥離	(体)オサエ(底)ナデ	
112	SX04	II区		弥生 壺	(底)4.0	底部3/8	石英中・小少、長石大~小少	内：10YR8/3浅黄橙・10YR6/1褐灰 外：10YR6/1褐灰・10YR3/1黒褐	(体)ナデ(底)板ナデ、ナデ	ナデ	木葉圧痕
113	SX04	II区		弥生 甕	(底)4.6	底部5/8	石英大・中少	内外：2.5Y8/2灰白・10YR7/4にぶい黄橙	(体)ナデ(底)オサエ	(体)タタキ、ナデ	
114	SX04	II区		弥生 壺	(底)4.0	底部3/8	石英大・中微、長石大・中少、赤色粒子大微	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：10YR7/3にぶい黄橙・2.5YR6/6橙	(体)ハラケズリ(底)ハラケズリ後オサエ	(体)ハケ(底)ナデ	
115	SB03	I区	SP49	弥生 甕		口縁部小片	石英大・中少、長石中少	内：7.5YR6/6橙 外：7.5YR6/4にぶい橙・5YR6/6橙	マメツ	(口)マメツ、ハケ(体)ハケ	
116	SB03	I区	SP49	弥生 甕		肩部小片	金雲母中・小少、石英大~小少、長石大・中少	内：10YR4/3にぶい黄褐 外：10YR4/4褐	オサエ	タタキ	
117	SB03	I区	SP49	弥生 壺	(長)1.9 (厚)1.0	口縁部3/8	石英大少、長石大・中少、赤色粒子中微	内：2.5Y5/1黄灰・7.5YR7/6橙 外：7.5YR7/6橙	ナデ	剥離	円形浮文、竹管文
118	SB03	I区	SP49	弥生 壺	(底)1.8	底部3/8	石英大・中少	内：10YR5/2灰黄褐・10YR8/6浅黄橙 外：7.5YR5/2灰褐・10YR7/3にぶい黄橙	オサエ後ナデ	(体)オサエ後ナデ(底)ナデ	
119	SB03	I区	SP47	弥生 壺	(底)3.8	底部3/8	石英大~小普、長石大・中少	内：10YR7/4にぶい黄橙 外：10YR8/4浅黄橙	(体)ナデ	(体)ナデ、オサエ後ヨコナデ(底)ナデ	
120	SB03	I区	SP48	弥生 壺	(底)8.0	底部3/8	石英大・中普、長石中少	内：2.5Y5/1黄灰 外：2.5Y2/1黒	ハラケズリ後ナデ	ハラケズリ後ナデ	
121	SB03	I区	SP48	弥生 高杯		脚部小片	石英大・中普	内：10R5/8赤 外：10R5/6赤・2.5Y4/1黄灰・2.5Y7/2灰黄	杯部(底)ナデ 脚部ナデ、絞り痕	ナデ	
122	SB03	I区	SP49	弥生 鉢	(口)33.1	口縁部小片	金雲母・石英・長石大・中少	内外：7.5YR6/6橙	(口)ヨコナデ(体)ハケ	ヨコナデ	
123	SB03	II区	SP52	須恵 杯蓋		天井部1/8	長石中・小少	内外：N6/灰	回転ナデ	回転ハラケズリ	

遺物番号	報告区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
124	SB03	II区	須恵 甕		体部小片	石英中微、長石大~少	内：N6/灰 外：7.5Y7/1灰白	タタキ	タタキ	
127	SD02	I区	弥生 壺		口縁部小片 粒子大微	石英・長石大~小多、赤色	内：5YR4/1褐灰 外：5YR3/1褐灰	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部内面に線刻、口縁部外面に口縁文3条刻目
128	SD02	I区	弥生 壺		体部2/8	金雲母大・中多、石英大~小多、長石大・中少	内：7.5YR4/2灰褐 外：5YR7/6橙	オサエ、オサエ後ナデ	ハケ、ヨコナデ	
129	SD02	I区	弥生 壺	(底)4.2	底部8/8	石英大~小多、長石大・中少	内：10YR4/1褐灰 外：5YR6/6橙	(体)板ナデ後ナデ	(体)板ナデ後ナデ、ナデ(底)ナデ	外面へラ傷 黒班
130	SD02	I区	弥生 壺	(底)3.4	底部2/8	金雲母小微、石英大・中少、長石中・小少	内：7.5YR7/4にぶい橙・7.5YR8/8浅黄橙 外：7.5YR7/4にぶい橙・2.5Y8/1灰白	(体)ハケ(底)紋リ痕	(体)タタキ後ハケ(底)ナデ	外面赤色顔料
131	SD02	I区	弥生 壺	(底)5.0	底部1/8	石英・長石大・中普	内：N3/暗灰 外：5YR8/4淡橙	(体)板ナデ後ナデ(底)オサエ	(体)タタキ(底)ナデ	
132	SD02	I区	弥生 壺	(底)3.1	底部8/8	石英大・中少、長石中・小少	内：10YR8/4浅黄橙	板ナデ	ナデ	
133	SD02	I区	弥生 甕	(口)21.7	口縁部小片	金雲母中・小微、石英大~小多、長石大~小少、赤色	内：10YR8/6黄橙 外：7.5YR7/6橙	(口)ヨコナデ(体)へラケズリ後オサエ	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、ハケ	
134	SD02	I区	弥生 甕	(底)4.0	底部5/8	石英・長石大・中普	内：7.5YR8/6浅黄橙 外：7.5YR7/4にぶい橙	(体)ナデ	(体)ハケ後ナデ、タタキ後ナデ(底)ナデ	内面爪跡
135	SD02	I区	弥生 甕	(底)4.6	底部8/8	石英中少、長石中・小少	内：5YR7/8橙 外：10YR7/4にぶい黄橙	(体)ハケ、ナデ(底)ナデ	ナデ	
136	SD02	I区	弥生 甕	(底)5.5	底部1/8	金雲母中・小微、石英大・中普、長石大~小多	内：5X4/1灰 外：10YR7/4にぶい黄橙	(体)ハケ(底)オサエ	(体)タタキ(底)ナデ	黒班
137	SD02	I区	土師 鉢	(口)24.9	口縁部1/8	石英大~小普、長石大~小少	内：10YR7/8にぶい黄橙 外：7.5YR8/2灰白	(口)ヨコナデ、ハケ、ナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ、オサエ後ナデ	
138	SD02	I区	土師 杯	(口)14.0	3/8	石英大~小普、長石大・中普	内外：7.5YR5/6明褐	ヨコナデ	(口)ヨコナデ(体)ナデ	
139	SD02	I区	土師 甕	(口)15.8	口縁部1/8	石英大・中普、長石中・小微	内：2.5Y8/2灰白 外：10YR7/4にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)ナデ	ヨコナデ	
140	SD02	I区	土師 甕	(口)28.8	口縁部2/8	石英大・中少、長石大・中普	内：7.5YR8/6浅黄橙 外：10YR8/4浅黄橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ハケ	(口)ヨコナデ(体)ハケ	
141	SD02	I区	土師 甕	(口)16.0	口縁部1/8	石英大・中少、長石大~小少	内外：10YR8/4浅黄橙	(口)ヨコナデ(体)ナデ	ヨコナデ	
142	SD02	I区	土師 甕	(口)15.8	口縁部1/8	金雲母小微、石英大~小少、長石大~小普	内：7.5YR4/6褐 外：5YR7/8橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ハケ、ナデ	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ、ナデ	
143	SD02	I区	須恵 杯蓋	(口)11.8	蓋3/8	長石大・中微	内：N8/灰白 外：N7/灰白	回転ナデ	回転ナデ、回転へラケズリ	回転方向時計廻
144	SD02	I区	須恵 杯身	(口)9.5	2/8	石英大・中少、長石大~小普	内外：N7/灰白	回転ナデ	回転ナデ	回転方向時計廻
145	SD02	I区	須恵 杯身	(口)10.2 (高)3.7	3/8	石英中・小微、長石大~小少	内外：N6/灰	(口)回転ナデ(底)回転ナデ後仕上ケナデ	(口)回転ナデ(底)回転ナデ後仕上ケナデ	回転方向逆時計廻
146	SD02	I区	須恵 高杯	(底)7.8	脚部4/8	長石中・小普	内：N7/灰白 外：5Y7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	
147	SD02	I区	須恵 高杯	(底)9.0	脚部1/8	石英・長石大・中少	内：10YR7/6明黄褐 外：10YR7/4にぶい黄橙	回転ナデ	回転ナデ	
148	SD02	I区	須恵 小型壺		1/8	長石中・小普	内外：N7/灰白	回転ナデ	回転ナデ	
149	SD02	I区	弥生 壺	(口)24.6	口縁部1/8	石英・長石大~小少、赤色	内：10YR8/1灰白 外：7.5YR8/6浅黄橙・7.5YR8/2灰白	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ	
150	SD02	I区	弥生 壺	(口)14.7	口縁部小片	石英・長石大~小少、赤色	内：5YR7/6橙 外：2.5YR6/6橙	ヨコナデ	ヨコナデ	外面赤色顔料
151	SD02	I区	弥生 壺	(口)14.7	口縁部2/8	石英大・中普、長石大・中少	内：7.5YR7/4にぶい橙・10YR8/2灰白 外：7.5YR8/6浅黄橙	ヨコナデ、オサエ	ヨコナデ、ハケ後ヨコナデ	外面赤色顔料
152	SD02	I区	弥生 壺		頸部1/8	石英大・中多、長石大~小少、赤色	内：10YR7/8明黄褐 外：2.5YR7/8橙	ナデ	ハケ、ハケ後ナデ	
153	SD02	I区	弥生 壺		体部2/8	石英・長石大・中普	内：5YR8/4淡橙 外：5YR7/6橙・5YR8/4淡橙	剥離、オサエ後板ナデ	オサエ後ナデ、ナデ	黒班
154	SD02	I区	弥生 壺		口縁部小片	金雲母小微、石英大・中少、長石中・小少	内外：10YR8/3浅黄橙	ナデ	ナデ	外面竹管文
155	SD02	I区	弥生 壺	(底)4.2	底部7/8	石英大・中少、長石大~小少、赤色	内：10YR8/3浅黄橙 外：7.5YR7/6橙	板ナデ後ナデ	(体)ナデ(底)へラケズリ後ナデ	

遺物番号	報告番号	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
156	SD02	I区	下層	弥生 甕	(底)3.7	底部7/8	石英・長石大～小普	内：10YR8/2灰白 外：7.5YR8/2灰白	板ナデ	(体)タタキ(底)ナデ	黒班
157	SD02	I区	下層	弥生 壺	(底)3.4	底部8/8	石英・長石大・中少	内外：10YR8/3浅黄橙	(体)板ナデ工具による放射状に近い刺突調整	(体)ハケ後ナデ(底)ナデ	黒班
158	SD02	I区	下層	弥生 壺	(底)3.0	底部8/8	石英大・中普、長石大・中少	内：10YR8/4浅黄橙 外：10YR8/3浅黄橙	板ナデ	(体)板ナデ後ナデ(底)ナデ	黒班
159	SD02	I区	下層	弥生 甕	(底)3.0	底部1/8	石英大・中多、長石中・小多	内：10YR7/4にぶい黄橙 外：7.5YR6/4にぶい黄橙	(体)ハケケズリ後ナデ(底)オサエ	(体)タタキ後ハケ、オサエ、ハケ	黒班
160	SD02	I区	下層	弥生 甕	(底)6.2	底部2/8	石英大～小少、長石中少、赤色粒子大微	内：10YR7/6明黄褐 外：5YR6/6橙・10YR8/4浅黄橙	ハラケズリ後ナデ・マメツ	(体)ナデ、マメツ、ヨコナデ(底)ハラケズリ	
161	SD02	I区	下層	弥生 壺	(底)6.6	底部8/8	金雲母中微、石英・長石大・中普	内：2.5Y8/2暗灰黄 外：10YR8/4浅黄橙	(体)板ナデ(底)オサエ	(体)タタキ後ナデ(底)ナデ	黒班
162	SD02	I区	下層	弥生 高杯	(底)6.6	脚部5/8	石英大・中多、長石大・中少	内外：5YR7/6橙	杯部(底)ナデ 脚部絞り痕後ナデ	ナデ	穿孔は二対か、三孔残存
163	SD02	I区	下層	弥生 高杯	(底)6.6	脚部6/8	石英・長石大・中少	内：10YR7/2にぶい黄橙 外：2.5Y8/3淡黄	杯部(底)剥離 脚部オサエ(爪跡)・ナデ	オサエ・ナデ	
164	SD02	I区	下層	弥生 高杯	(底)6.6	脚部4/8	石英・長石大・中少、赤色粒子大・中普	内外：5YR7/6橙	杯部(底)ナデ 脚部ナデ、ハケ	杯部(底)ナデ、オサエ後ナデ 脚部ナデ、オサエ後ナデ	穿孔一孔残存
165	SD02	I区	下層	弥生 高杯	(底)6.6	脚部7/8	石英大・中少、長石中少	内外：5YR7/6橙	杯部(底)ナデ 脚部ナデ	ナデ	
166	SD02	I区	下層	土師 甕	(底)6.3	小片	石英大・中少、長石大～小普	内外：7.5YR7/6橙	オサエ	オサエ・ナデ	
168	SD04	II区		弥生 壺	(底)6.3	頸部2/8	石英大・中少、長石大～小多、赤色粒子大微	内外：7.5YR4/1灰褐・7.5YR3/1黒褐	(体)板ナデ後ナデ(底)オサエ後ナデ	(体)ハラミガキ(底)ナデ	
169	SD04	II区		須恵 杯身	(口)12.2	口縁部小片	石英大・中少、長石中少	内外：N7/灰白	回転ナデ	回転ナデ	
170	SD04	II区		須恵 壺	(底)6.6	体部2/8	石英大・中少、長石大～小少	内外：N8/灰白	(体)回転ナデ	(体)回転ナデ、回転ハラケズリ後ナデ、回転ハラケズリ	171と同一か
171	SD04	II区		須恵 壺	(底)6.6	2/8	長石中少	内外：N7/灰白	(体)回転ナデ	(体)回転ナデ、回転ハラケズリ後ナデ	170と同一か
172	SB01	I区	SP18	弥生 壺	(底)6.0	底部3/8	石英大・中少、長石大・中微、赤色粒子大微	内：10YR7/4にぶい黄橙 外：10YR8/3浅黄橙	(体)回転ナデ(底)ヨコナデナデ	(体)回転ナデ、ハラ切り後ナデナデ	黒班
173	SB01	I区	SP07	弥生 壺	(底)5.2	底部2/8	石英大・中普、長石大・中少	内：7.5YR8/4浅黄橙 外：10YR8/2灰白	ナデ	(体)ナデ、オサエ後ナデ(底)ナデ	
174	SB01	I区	SP07	土師 小皿	(口)7.4 (高)1.1 (底)5.2	1/8	石英大～小少、長石中・小少	内外：2.5YR7/8橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転糸切り	
175	SB01	I区	SP07	土師 小皿	(口)7.0 (高)1.2 (底)6.0	1/8	石英大・中普、長石中少、赤色粒子中微	内外：5YR7/6橙	回転ナデ	(口)ナデ(底)回転糸切り	
176	SB01	I区	SP25	土師 小皿	(口)7.0 (高)1.2 (底)5.8	8/8	石英大・中多、長石大少	内外：10YR8/3浅黄橙	(口)回転ナデ(底)回転糸切り後ナデ	(口)回転ナデ(底)回転糸切り	板目状圧痕
177	SB01	I区	SP25	土師 小皿	(口)7.1 (高)1.2 (底)5.0	3/8	石英大・中少、長石中少、赤色粒子大・中微	内外：2.5YR6/8橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)糸切り後ナデ	
178	SB01	I区	SP10	土師 小皿	(口)7.6 (高)1.1 (底)6.9	3/8	石英大・中普、長石大～小普	内外：10YR6/3にぶい黄橙・10YR6/2灰黄褐	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)糸切り後ナデ	
179	SB01	I区	SP10	土師 小皿	(口)8.2 (高)1.4 (底)7.2	口縁部3/8	金雲母中・小微、石英大・中少、長石大～小普	内：5YR6/6橙・10YR6/4にぶい黄橙 外：5YR6/6橙	(口)回転ナデ(底)回転ナデ後ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ハラ切り後ナデ	
180	SB02	I区	SP35	土師 杯	(口)11.7	口縁部小片	石英中・小普、長石大・中少	内外：10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ハラ切り	
181	SB01	I区	SP11	土師 杯	(口)11.9 (高)2.0 (底)7.4	1/8	石英大・中多、長石大・中少	内外：10YR8/4浅黄橙	回転ナデ	(口)マメツ(底)ハラ切り	
182	SB01	I区	SP10	土師 杯	(口)11.0 (高)2.7 (底)7.2	小片	石英大～小多、長石中・小微、赤色粒子中微	内外：5YR7/6橙	回転ナデ	回転ナデ	
183	SB01	I区	SP18	土師 杯	(口)12.0	2/8	石英大・中多、長石大・中少	内：7.5YR8/6浅黄橙・10YR8/3浅黄橙 外：7.5YR8/6浅黄橙・5YR7/6橙・10YR8/3浅黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	
184	SB01	I区	SP09	土師 杯	(口)11.8 (高)2.9 (底)9.4	1/8	石英大～小多、長石中・小少、赤色粒子大微	内外：10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ハラ切り	
185	SB01	I区	SP25	土師 杯	(口)11.7 (高)2.7 (底)9.5	1/8	石英大・中普、長石中少	内外：10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ハラ切り	板目状圧痕

遺物番号	報告区	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
186 SB01	I区	SP11	土師 杯	(口)10.8 (高)3.5 (底)8.2	7/8	石英大・中普、長石大・中少、赤色粒子大微	内：10YR7/2(2)にぶい、薄橙・10YR5/2灰黄褐 外：10YR7/3(3)にぶい黄橙・10YR6/3(3)にぶい黄橙	(口)回転ナデ(底)回転ナデ後仕上ゲナデ	(口)回転ナデ(底)へラケズリ、へラ切リ	板目状圧痕	
187 SB01	I区	SP06	土師 杯	(口)10.8 (高)3.5 (底)8.4	1/8	石英大・中普、長石大・中少、赤色粒子中微	内外：7.5YR7/6橙	(口)回転ナデ(底)回転ナデ後仕上ゲナデ	(口)回転ナデ、へラ削リ(底)へラ切リ	板目状圧痕	
188 SB01	I区	SP18	土師 杯	(底)6.4	底部1/8	石英、長石大・中少、赤色粒子大微	内外：5YR6/6橙	回転ナデ	回転ナデ(底)へラ切リ		
189 SB01	I区	SP07	須恵 高杯	(口)11.9	4/8	石英大少、長石大・中少	内：2.5YR8/5淡黄 外：2.5YR8/2灰白・2.5Y4/1黄灰	回転ナデ	回転ナデ(底)回転ナデ後仕上ゲナデ		
190 SB01	I区	SP12	土師 杯	(底)10.0	小片	石英大・中少、長石大・中少	内外：10YR6/3(3)にぶい黄橙	(口)回転ナデ(底)回転ナデ後仕上ゲナデ	(口)回転ナデ(底)回転ナデ後仕上ゲナデ		
191 SB02	I区	SP36	縄文 深鉢		肩部2/8	石英、長石大・中多	内：10YR5/1褐灰 外：10YR6/3(3)にぶい、黄橙	条痕文	条痕文	外面瓜型文	
192 SB02	I区	SP33	土師 小皿	(口)8.3	口縁部1/8	石英大・中少、長石大微	内外：10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	回転ナデ		
193 SB02	I区	SP33	土師 杯	(口)12.6	口縁部小片	金雲母小微、石英中少、長石小少、赤色粒子大微	内：10YR8/3浅黄橙・10YR3/1黒褐 外：10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	回転ナデ		
194 SB02	I区	SP29	土師 杯	(口)14.8	口縁部1/8	石英大・中多、長石大・中少	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ	回転ナデ		
195 SB02	I区	SP39	土師 杯	(口)10.9	口縁部小片	石英大・中多、長石中少	内外：10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	回転ナデ		
196 SB02	I区	SP29	土師 杯	(底)6.6	1/8	石英大・中少、長石大・中微	内：10YR8/4浅黄橙 外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ナデ後仕上ゲナデ	板目状圧痕	
197 SB02	I区	SP29	土師 杯	(底)6.9	2/8	石英、長石大・中少、赤色粒子中微	内：10YR7/6明黄褐 外：10YR7/3(3)にぶい黄橙・10YR4/2灰黄褐	(口)回転ナデ(底)回転ナデ後仕上ゲナデ	オサエ後ハケ		
198 SB02	I区	SP36	土師 甕		体部小片	石英大・中少、長石大・中多	内：10YR8/2灰白・10YR6/2灰黄褐 外：10YR7/3(3)にぶい黄橙・10YR4/2灰黄褐	オサエ後ハケ	オサエ後ハケ		
199 SB02	I区	SP29	土師 鉢		口縁部小片	金雲母中微、石英中・小普、長石大・中少	内：10YR4/1褐灰・10YR7/4(4)にぶい黄橙 外：10YR3/7黒褐	(口)ヨコナデ(体)ナデ	(口)ヨコナデ(体)ナデ		
200 SB02	I区	SP36	土師 土釜		支脚部小片	金雲母中微、石英、長石大・中少、赤色粒子大微	内：2.5YR7/8橙 外：5YR5/4(4)にぶい赤褐・5YR5/6明赤褐	ハケ	へラケズリ後ナデ、ナデ		
201 SB02	I区	SP36	土師 土釜		支脚部5/8	石英大・中少、長石大・中普	内：7.5YR4/1褐灰 外：7.5YR7/2明褐灰	ハケ、ナデ	へラケズリ、ナデ、板ナデ		
第1低地帯											
202 第1低地帯	I区	II③・II④・II④	弥生 甕		口縁部小片	石英、長石大・中多	内：7.5YR6/6橙 外：7.5YR3/1黒褐・7.5YR6/6橙	マメツ	(口)ヨコナデ(体)ナデ	櫛状沈線文5条残存	
203 第1低地帯	II区	II③・II④	弥生 甕		体部小片	金雲母中微、石英、長石大・中少	内：2.5YR6/2灰黄 外：10YR4/1褐灰	ナデ	ナデ	櫛状沈線文10条	
204 第1低地帯	II区	II③・II④	弥生 壺	(口)16.9	口縁部1/8	石英大・中少、長石大・中少、赤色粒子中少	内外：7.5YR6/4(4)にぶい橙・5Y5/1灰	ナデ、板ナデ後ヨコナデ	ヨコナデ		
205 第1低地帯	II区	II③・II④	弥生 壺	(口)21.8	口縁部1/8	石英、長石大・中少、赤色粒子中微	内：7.5YR8/4薄黄橙・10YR8/3淡黄橙 外：7.5YR6/4浅黄橙・7.5YR5/6明褐	ヨコナデ	刻目、ハケ後ナデ		
206 第1低地帯	II区	II③・II④	弥生 壺	(底)8.0	体部4/8	石英、長石大・中普、赤色粒子大微	内：10YR7/3(3)にぶい黄橙 外：10YR7/4(4)にぶい黄橙・10YR5/1褐灰	ナデ	(体)ナデ、へラミガキ(底)ナデ		
207 第1低地帯	II区	II③・II④	弥生 壺	(底)4.0	底部5/8	金雲母中微、石英大・中多、長石大・中少	内外：10YR8/4浅黄橙・10YR4/1褐灰・10YR7/4(4)にぶい黄橙	板ナデ後ナデ	ナデ		
208 第1低地帯	II区	II③・II④	弥生 壺	(底)4.9	底部7/8	石英大・中少、長石中多	内：10YR4/1褐灰 外：2.5YR7/6橙・2.5Y8/1灰白	ハケ	(体)ナデ、オサエ(底)ナデ	底部外面筋状の圧痕	
209 第1低地帯	I区	II③・II④	弥生 甕	(口)17.1	口縁部小片	石英大・中少、長石大・中普	内外：7.5YR5/4(4)にぶい褐	ヨコナデ	(口)ヨコナデ(体)板ナデ		
210 第1低地帯	II区	II③・II④	弥生 甕	(口)19.4	口縁部1/8	石英大・中少、長石大・中多、赤色粒子大微	内：2.5YR7/6橙・5YR7/6橙 外：2.5YR7/6橙・5YR6/1褐灰	ヨコナデ	(口)ヨコナデ(体)ナデ		
211 第1低地帯	II区	II③・II④	弥生 甕	(口)21.2	口縁部1/8	石英大・中普、長石中多	内外：10YR6/4(4)にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)ハケ		
212 第1低地帯	II区	II③・II④	弥生 甕	(口)21.3	口縁部1/8	石英大・中多、長石中・中少、赤色粒子大微	内：10YR3/1黒褐・10YR6/2灰黄褐 外：10YR3/1黒褐・10YR8/2灰白	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、オサエ後ナデ、板ナデ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、ナデ		
213 第1低地帯	I区	II③・II④	弥生 甕	(底)7.2	底部2/8	石英、長石大・中少	内：2.5Y7/2灰黄・7.5YR5/6明褐 外：2.5Y6/1黄灰・10YR6/4(4)にぶい黄橙	(体)へラミガキ、オサエ	マメツ		

遺物番号	報告遺構名	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
214	第1低地帯	II区	II③・II④層	弥生 甕	(底)5.2	底部4/8	石英大~小多、長石大・中少、赤色粒子大・中微	内外：10YR8/4浅黄橙	ナデ	(体)タタキ後ナデ(底)ナデ	
215	第1低地帯	I区	II③・II④層	弥生 高杯	(口)25.4	口縁部1/8	石英・長石大・中多	内：7.5YR6/4にぶい橙・7.5YR5/4にぶい橙 外：7.5YR6/4にぶい橙	(口)ヨコナデ、ナデ(体)ナデ	(口)ナデ、剥離(体)剥離、ナデ	
216	第1低地帯	II区	II③・II④層	弥生 鉢	(底)4.1	底部3/8	石英大・中多、長石大・中少	内外：10YR8/3浅黄橙	板ナデ後ナデ	(体)ナデ(底)ナデ	黒班
217	第1低地帯	II区	II③・II④層	弥生 紡錘	(長)4.4 (幅)4.2 (厚)0.5	8/8	石英大・中少、長石中・小少	内：7.5YR1.7/1黒・10YR7/6明黄褐・10YR6/2灰黄褐 外：7.5YR1.7/1黒	ナデ	ハラミガキ	
218	包含層	II区	II③層	弥生 壺	(口)17.5	上半部6/8	金雲母中微、石英・長石大~小多	内：2.5Y7/3浅黄・10YR5/2灰黄褐・2.5Y7/3浅黄・10YR8/3浅黄橙	(口)ヨコナデ(頸)ヨコナデ、オサエ(体)オサエ、ナデ	(口)刻目、ヨコナデ、(頸)ハラミガキ(体)ハラミガキ、ヨコナデ	口縁内面に穿孔4対7個残存、頸部外面基部押圧を加えた突帯文
219	包含層	II区	II③層	弥生 壺	(口)11.3	頸部2/8	金雲母大微、石英大・中少、長石大少	内：5YR6/6橙・5YR6/4にぶい橙 外：5YR6/6橙・2.5YR6/4にぶい橙	(口)ヨコナデ(頸)オサエ	ヨコナデ	
220	包含層	II区	II③層	弥生 壺	(底)5.6	5/8	石英・長石大・中少	内：10YR3/1黒褐 外：5YR7/8橙・10YR3/1黒褐	(体)マメツ、ハケ後オサエ、ナデ(底)ナデ	(体)マメツ、ハラミガキ(底)ナデ	
221	包含層	II区	II③層	弥生 高杯		脚部3/8	角閃石中微、石英大~小多、長石中・小少、赤色粒子大・中微	内外：5YR7/6橙・7.5YR8/3浅黄橙	杯部(底)ナデ	ナデ、ハラミガキ、ヨコナデ	穿孔4孔残存
235	包含層	I区		縄文 深鉢		口縁部1/8	石英大・中普、長石大・小普	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：7.5YR6/6橙・7.5YR3/1黒褐	ナデ	(口)ナデ(体)条痕文	刻目突帯文
236	包含層	I区		弥生 壺	(口)21.2	口頸部1/8	石英大~小少、長石大・中少	内：10YR4/1褐灰・10YR7/2にぶい黄橙・10YR7/4にぶい黄橙 外：10YR7/1灰白・10YR8/2灰白	(口)ヨコナデ(頸)ナデ、オサエ	ヨコナデ	
237	包含層	I区		弥生 甕	(口)11.9	口縁部1/8	石英大・中普、長石大~小少	内外：10YR6/6明黄褐・10YR4/4褐	(口)ヨコナデ(体)ハラケズリ	ヨコナデ	
238	包含層	I区		弥生 壺	(底)2.4	底部8/8	石英大・中多、長石大・中少	内：10YR8/3浅黄橙 外：10YR8/3浅黄橙・7.5YR8/4浅黄橙	(体)底)マメツ	(体)ハケ(底)ナデ	
239	包含層	I区		弥生 壺	(底)4.9	底部7/8	金雲母中・小微、石英大・中普、長石中・小普、赤色粒子大・中微	内：10YR6/6褐灰・10YR2/1黒 外：10YR8/4浅黄橙・7.5YR4/4褐	(体)ナデ(底)オサエ	(体)ハケ(底)ナデ	外面赤色顔料 黒班
240	包含層	I区		弥生 壺	(底)5.3	底部8/8	金雲母中微、石英大・中普、長石大~小少、赤色粒子大・中微	内：10YR6/8にぶい黄橙・10YR5/3にぶい橙 外：7.5YR7/4にぶい黄橙・2.5YR6/6橙	(体)ハラケズリ(底)オサエ	(体)板ナデ(底)ナデ	
241	包含層	I区		弥生 甕	(底)4.1	底部8/8	石英大・中少、長石大少	内：10YR8/2灰白 外：7.5YR7/6橙・7.5YR8/3浅黄橙	ハケ・ナデ	ナデ	
242	包含層	I区		弥生 甕	(底)4.5	底部7/8	金雲母中微、石英・長石大・中普	内：5YR7/6橙 外：10R6/6赤橙	(体)ハケ(底)オサエ	(体)ハラケズリ(底)ナデ	
243	包含層	I区		弥生 甕	(底)5.0	底部8/8	金雲母大・中微、石英大~小少、長石大・中微	内：2.5Y8/2灰白 外：2.5Y8/7灰白	(体)オサエ後ハラケズリ(底)オサエ	(体)ハケ(底)ナデ	
244	包含層	II区		弥生 甕	(底)3.9	底部8/8	金雲母大微、石英大・中少、長石大・中微	内外：10YR7/3にぶい黄橙	(体)ハケ、ナデ(底)ナデ	(体)タタキ(底)ナデ	
245	包含層	I区		弥生 甕	(底)3.9	底部8/8	金雲母中微、石英・長石大・中多	内：10YR8/8黄橙・7.5YR4/3褐 外：10YR7/2にぶい黄橙・7.5YR4/3褐	(体)ハケ、ハラケズリ(底)オサエ	タタキ後ナデ	
246	包含層	II区		弥生 高杯	(口)29.7	杯部1/8	石英・長石大~小少	内外：10YR8/4浅黄橙	(口)ヨコナデ(体)ハケ	ヨコナデ	内面赤色顔料
247	包含層	I区		弥生 高杯		口縁部小片	石英中・小少、長石中・中普、角閃石大微、赤色粒子大普	内外：5YR5/6明赤褐	ヨコナデ	ヨコナデ	下川津B類
248	包含層	I区		弥生 高杯		脚部6/8	石英・長石大・中普	内外：2.5YR6/8橙	杯部(底)ナデ	ナデ	穿孔1孔残存
249	包含層	II区		弥生 高杯	(底)16.0	脚部2/8	石英大・中少、長石大・中微	内外：10YR8/4浅黄橙	杯部(底)ナデ	ナデ	
250	包含層	I区		弥生 鉢	(口)19.6	口縁部小片	金雲母・石英大・中少、長石大・中微	内：2.5YR6/8橙 外：2.5YR6/6橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)ハケ	
251	包含層	I区		土師 小皿	(口)6.8 (高)1.1 (底)6.0	底部7/8	石英・長石大・中少、赤色粒子大少	内外：10YR8/3浅黄橙	(口)回転ナデ(底)回転ナデ後仕上ゲナデ	(口)回転ナデ(底)回転ハラ切り	板目状圧痕
252	包含層	I区		土師 杯	(口)10.9 (高)2.7 (底)9.0	1/8	石英大~小多、長石大~小少	内外：5YR7/4にぶい橙・5YR4/1褐灰	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ハラケズリ後ナデ	

遺物番号	報告遺構名	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
253	包含層 I 区			土師 瓶		把手8/8	石英大・中多、長石大～小多、赤色粒子大微	内：10YR8/4浅黄橙 外：10YR6/6明黄褐	オサエ後ナデ	ナデ	
254	包含層 I 区			土師 甕		小片	石英大・中少、長石大・中普	内：7.5YR7/4にぶい橙 外：7.5YR7/4にぶい橙	オサエ	オサエ後ナデ、ハケ、オサエ、板ナデ	
255	包含層 I 区			磁器 碗	(高台)4.8 (高台高)0.5	底部3/8	精緻	内：5Y7/2灰白・5Y6/2灰オリーブ 外：5Y7/1灰白	(底)回転ナデ後施釉、砂目削り出し	(底)ハラケズリ、回転ナデ、高台	
257	SH07	Ⅲ区	炉	弥生 高杯	(口)30.5	杯部3/8	石英大～小少、長石大～小普、赤色粒子大少	内外：10YR7/4にぶい黄橙	ナデ	(口)ナデ(底)ハケ・マメツ	
258	SH07	Ⅲ区		土師 小皿	(口)8.1 (高)1.8 (底)5.9	3/8	石英大～小少、長石小微、赤色粒子大・小微	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ナデ	外面赤色顔料
259	SH07	Ⅲ区		土師 小皿	(口)8.6 (高)1.2 (底)7.0	3/8	石英大・中少、長石中・小微	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ハラ切り	板目状圧痕
260	SH07	Ⅲ区		土師 小皿	(口)8.1 (高)1.1 (底)6.8	5/8	石英中微、長石中少、赤色粒子大・中普	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ハラ切り、ナデ	
263	SB09	V区	SP113	弥生 甕		上半部小片	石英・長石大～小少	内外：10YR8/2灰白・10YR6/2灰黄褐	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、オサエ後ハケ	(口)ヨコナデ(体)ナデ	
264	SB11	VI区	SP122	弥生 壺	(口)11.6	口縁部2/8	石英大～小少、長石大～小微	内外：10YR4/1褐灰・10YR7/2にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(頸)オサエ(体)ヨコナデ	(口)ヨコナデ(頸)ハケ(体)ヨコナデ	頸部基部外面押圧による突帯文
265	SB11	VI区	SP122	弥生 壺	(底)8.2	底部3/8	石英大・中少、長石大・中微	内：2.5Y7/3浅黄・10YR7/2にぶい黄橙 外：10YR7/2にぶい黄橙・10YR7/1灰白	(口)ヨコナデ(頸)オサエ(体)ヨコナデ	(口)ヨコナデ(頸)ハケ(体)ヨコナデ	
266	SB14	VI区	SP141	弥生 甕	(口)30.8	上半部1/8	石英・長石大・中多、赤色粒子大・中少	内外：10YR7/2にぶい黄橙・10YR5/2灰黄褐	(口)ヨコナデ(体)ナデ	(口)ヨコナデ(体)ハケ・マメツ	
267	SB15	VI区	SP152	弥生 甕	(口)23.0(推定)	口縁部1/8	石英・長石大～小少	内外：10YR7/3にぶい黄橙・2.5Y8/2灰白	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)マメツ	
268	SP96	IV区		弥生 壺	(底)4.7	底部7/8	石英大・中少、長石大・中微	内：2.5YR6/8橙 外：10YR7/4にぶい黄橙・2.5YR6/8橙	ナデ	(体)オサエ後ナデ(底)ナデ	黒斑
270	SP139	VI区		弥生 高杯	(口)12.8	脚部2/8	石英大・中微、長石大・中多	内：2.5Y3/1黒褐・5YR3/2暗赤褐	マメツ	マメツ	穿孔孔1組残存
271	SP175	Ⅶ区		弥生 甕	(口)18.4	口縁部1/8	石英・長石中少、赤色粒子大微	内外：10YR7/2にぶい黄橙・5YR7/6橙	(口)ヨコナデ(体)ナデ	(口)ヨコナデ(体)ハケ	
272	SK24	Ⅲ区		弥生 甕	(口)19.4(推定)	上半部1/8	石英大～小普、長石大～小少、赤色粒子大微	内外：2.5YR7/6橙・7.5YR3/1褐灰	(口)ヨコナデ、オサエ(体)オサエ、ナデ	(口)ヨコナデ、オサエ、ハケ(体)ナデ	
273	SK31	Ⅲ区		紡錘車	(長)3.6 (幅)3.6 (厚)0.6	8/8	金雲母大少、石英大・中普、長石大・中少、赤色粒子大微	内外：7.5YR7/2明褐灰 外：7.5YR7/3にぶい橙	ナデ	ナデ	穿孔孔1孔
274	SD18	Ⅲ区		弥生 甕	(口)13.4(推定)	口頸部2/8	石英・長石大・中普	内外：7.5YR7/4にぶい橙・10YR8/2灰白	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ナデ(体)タタキ後ハケ、タタキ後ナデ	黒斑
275	SD18	Ⅲ区		弥生 蓋	(底)11.4	脚部2/8	石英大・中少、長石大・中微	内外：7.5YR7/3にぶい橙	マメツ	オサエ後ナデ、ヨコナデ	外面赤色顔料
276	SB20	Ⅲ区	SP191 SP195	土師 ぶいこの羽口		小片	石英大・中微、長石大・中少、赤色粒子大微	内：10YR7/6明黄褐 外：2.5Y7/2灰黄	紋リ裏、ナデ	オサエ、ナデ	
277	SB21	Ⅲ区	SP197	瓦器 碗	(口)14.6 (高)5.5 (高台高)0.8	口縁・底部2/8	長石中・小微	内外：7.5Y4/1灰・10YR7/1灰白	マメツ	(口)マメツ、オサエ(体)オサエ(高)マメツ	
278	SP121	VI区		黒色A 碗	(高台)6.8 (高台高)0.8	底部6/8	石英大～小少、長石大・中少	内：10YR8/2灰白・10YR8/3浅黄橙 外：5YR5/8明赤褐・2.5YR5/6明赤褐	回転ナデ	(体)回転ナデ(底)ナデ(高)回転ナデ、ヨコナデ	
279	SP204	Ⅲ区		土師 小皿	(口)9.0 (高)1.1 (底)7.8	3/8	石英中少、長石中微、赤色粒子大・中少	内外：2.5Y8/1灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)マメツ	
280	SP204	Ⅲ区		土師 小皿	(口)9.0	2/8	長石大・中少、赤色粒子大少	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)マメツ	
281	SP204	Ⅲ区		黒色A 碗	(高台)7.2 (高台高)0.7	底部1/8	石英・長石大～小少	内：N2/黒 外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(体)高回転ナデ(底)ナデ、高台貼付	
282	SP204	Ⅲ区		土師 銅	(口)35.4	1/8	金雲母大～小微、石英大～小少、長石大～小多	内：10YR7/2にぶい黄橙・10YR7/1灰白 外：10YR8/1灰白・5YR7/6橙	ナデ、ハケ	ナデ	
283	SP205	Ⅲ区		黒色B 碗		口縁部小片	石英・長石中・小微	内外：5Y4/1灰	ヨコナデ、ハラミガキ	ヨコナデ、ハラミガキ	
284	SP205	Ⅲ区		黒色A 碗	(高台)6.6 (高台高)0.6	底部2/8	石英大・中微、長石大～小少	内：5Y3/1オリーブ黒・10YR8/3浅黄橙 外：10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	(体)高回転ナデ(底)ナデ、高台貼付	

遺物番号	報告遺物名	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
285	SP206	Ⅲ区	土師 小皿	(口)9.0	口縁部1/8	石莖木~小徹、長石小徹、赤色粒子大・中少	内外：10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
286	SP206	Ⅲ区	土師 小皿	(口)8.5 (高)1.6 (底)6.5	7/8	金雲母大徹、石莖、長石大徹、赤色粒子大・中徹	内外：10YR8/3浅黄橙	(口)回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り後ナデ	板目状圧痕	
287	SP206	Ⅲ区	黒色A 椀	(口)15.0	口縁部1/8	石莖中徹、長石大~小徹	内：2.5Y7/3浅黄 外：2.5Y7/2灰黄	(口)回転ナデ(体)ヘラミガキ、剥離	(口)回転ナデ(体)ヘラミガキ	(口)回転ナデ(体)ヘラミガキ	西村
288	SP206	Ⅲ区	瓦器 椀	(口)15.7	口縁部2/8	長石中~小少	内外：N4/灰	(口)ヨコナデ、ヘラミガキ	(口)ヨコナデ、ヘラミガキ(体)オサエ後ヘラミガキ	(口)ヨコナデ(底)オサエ	
289	SP207	Ⅲ区	瓦器 小皿	(口)9.2 (高)2.8	底部1/8	長石大~小徹	内外：N5/灰	(口)ヨコナデ、ヘラミガキ(底)ヘラミガキ	(口)ヨコナデ(底)オサエ	(口)ヨコナデ(底)ヘラ切り後ナデ	
290	SP208	Ⅲ区	土師 小皿	(口)7.2 (高)1.0 (底)4.6	口縁部1/8	石莖大・中少、長石大~小少	内外：10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
291	SP208	Ⅲ区	黒色A 椀	(口)13.4	口縁部2/8	長石中~小徹	内：N3暗灰 外：10YR8/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
292	SP208	Ⅲ区	瓦器 椀	(口)16.2	口縁部2/8	石莖、長石中徹	内：2.5Y7/2灰黄、10YR7/4にぶい黄橙 外：2.5Y7/2灰黄	マメツ	(口)マメツ(体)オサエ	(口)マメツ(体)オサエ	
293	SP210	Ⅲ区	土師 小皿	(口)7.4 (底)4.7	3/8	石莖、長石中~小徹	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
294	SP210	Ⅲ区	土師 小皿	(口)8.0 (高)1.3 (底)5.8	4/8	石莖大~小徹、長石大~小多	内外：10YR8/3浅黄橙・2.5YR4/6赤褐	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
295	SP210	Ⅲ区	土師 小皿	(口)8.0 (高)1.1	3/8	石莖、長石中~小少	内：5YR7/4にぶい橙・10YR8/3浅黄橙 外：10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
296	SP210	Ⅲ区	土師 小皿	(口)8.6 (高)1.3 (底)7.0	3/8	石莖大~小少、長石中~小少、赤色粒子大~小少	内外：10YR7/3にぶい黄橙・7.5YR5/6明褐	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
297	SP210	Ⅲ区	土師 小皿	(口)8.5 (高)1.1 (底)7.5	1/8	石莖大~小徹、長石中少	内外：10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
298	SP210	Ⅲ区	土師 小皿	(口)8.6 (高)1.0 (底)7.4	7/8	石莖大~小少、長石小徹、赤色粒子大~小少	内外：10YR8/2灰白・10YR7/6明黄褐	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
299	SP210	Ⅲ区	土師 小皿	(口)9.4 (高)1.0 (底)7.9	2/8	石莖中少、長石小少	内外：10YR7/3にぶい黄橙	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
300	SP210	Ⅲ区	土師 杯	(口)16.9 (高)3.5 (底)11.1	3/8	石莖大~小多、長石大~小多	内外：10YR7/3にぶい黄橙・5YR6/6	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
301	SP210	Ⅲ区	黒色A 椀	(口)13.7 (高)5.1 (高台)6.1	4/8	長石大~小少	内：2.5Y7/1灰白・N1.5/黒 外：2.5Y7/2灰黄	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
302	SP210	Ⅲ区	瓦器 椀	(口)14.3	口縁部2/8	長石中~小少	内外：2.5Y7/1灰白・N5/灰	(口)ヨコナデ、ヘラミガキ(体)ヘラミガキ	(口)ヨコナデ、ヘラミガキ(体)オサエ後ヘラミガキ	(口)ヨコナデ、ヘラミガキ(体)オサエ後ヘラミガキ	
303	SE01	Ⅳ区 上層	須恵 高杯		脚部小片	石莖、長石中徹	内外：10YR8/1灰白	杯部(底)回転ナデ	脚部ナデ	回転ナデ	
304	SE01	Ⅳ区 上層	土師 小皿	(底)6.6	底部2/8	石莖、長石大・中少	内外：7.5YR8/2灰白	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
305	SE01	Ⅳ区 上層	土師 杯	(底)7.2	底部2/8	石莖、長石大~小少、赤色粒子大徹	内：10YR8/2灰白 外：10YR8/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
306	SE01	Ⅳ区 上層	土師 椀		口縁部1/8	石莖大・中少、長石大徹	内：7.5YR8/3浅黄橙 外：10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
307	SE01	Ⅳ区 上層	土師 椀		口縁部1/8	石莖大・中少、長石小徹、赤色粒子大徹	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
308	SE01	Ⅳ区 上層	土師 土釜		口縁部小片	石莖大~小少、長石中~小少	内外：5YR7/6橙	ヨコナデ、ハナ	ヨコナデ、オサエ後ハナ	ヨコナデ、オサエ後ハナ	
309	SE01	Ⅳ区 上層	土師 土釜		口縁部小片	金雲母大徹、石莖大~小多、長石大~小少、赤色粒子大徹	内：7.5YR7/4にぶい橙 外：7.5YR7/6橙	ハタ	ヨコナデ、オサエ	ヨコナデ、オサエ	
310	SE01	Ⅳ区 上層	土師 鍋		口縁部1/8	石莖大~小多、長石大~小少	内：5YR7/6橙 外：2.5YR6/8橙	(口)ナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ、ナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ、ナデ(体)オサエ後ナデ	
315	SD22	Ⅲ区	土師 杯		小片	石莖中少、長石中~小徹、赤色粒子大・中少	内外：10YR8/3浅黄橙・10YR6/2灰黄	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
316	SD23	Ⅲ区	須恵 杯	(高台)10.0 (高台高)0.4	底部2/8	長石大徹	内外：N7/灰白	(体)回転ナデ	(体)回転ナデ	(体)回転ナデ	
317	SD43	Ⅲ区	弥生 甕	(口)15.0	口縁部小片	石莖中~小少、長石大~小徹	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：10YR7/3にぶい黄橙・5YR7/6橙	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ、オサエ	
318	SD43	Ⅲ区	土師 小皿	(口)8.1 (高)1.2 (底)6.4	2/8	石莖中徹、長石小少	内外：10YR7/3にぶい黄橙・5YR7/6	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
319	SD43	Ⅲ区	土師 小皿	(口)8.0 (高)0.9 (底)6.6	1/8	金雲母小徹、石莖、長石大~小少	内外：10YR7/2にぶい黄橙・7.5YR7/6にぶい橙	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	

報告 番号	調査 区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
320	SD43		黑色B 椀	(高台)6.0 (高台高)0.8	底部1/8	石英大・小微、長石小微	内外：5Y2/1黒	回転ナデ	回転ナデ	
321	SD44		土師 小皿	(口)7.0 (高)1.2 (底)6.0	2/8	石英中・小微、長石小微、赤色粒子中・小少	内外：10YR8/3浅黄橙・10YR5/6黄褐 内：10YR7/2にぶい黄橙・10YR7/4にぶい黄橙 外：10YR7/2にぶい黄橙	回転ナデ 回転ナデ、ナデ、高台貼付	回転ナデ(底)回転ヘラ切り 後ナデ	
322	SD44		土師 椀	(高台)5.8 (高台高)0.6	底部2/8	石英中微、長石中少、赤色粒子中微	内：N7灰白・N6灰 外：5YR7/6橙・N7灰白	回転ナデ、ナデ、高台貼付	回転ナデ、ナデ、高台貼付	
323	SD44		黑色A 椀	(高台)6.2 (高台高)0.8	底部6/8	長石大～小多	内：2.5Y2/1黒 外：2.5Y8/1灰白・2.5Y2/1黒	回転ナデ	回転ナデ(底)ナデ(底)ヘラ 回転ナデ	(口)(体)回転ナデ(底)ナデ(高) 回転ナデ
324	SD44		黑色A 椀	(口)15.2 (高)6.8 (高台)7.8 (高台高)0.7	底部4/8	石英中・小多、長石中・小少	内外：N1.5/黒	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ(底)回転ヘラ切り
325	SD44		黑色B 椀	(高台)5.6 (高台高)0.5	底部2/8	石英大～小少	内外：10YR8/2灰白・5YR7/6橙・7.5YR6/4にぶい黄橙 外：10YR8/2灰白・7.5YR6/4にぶい黄橙	回転ナデ	回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
326	SX10		土師 杯	(口)12.3 (高)2.6 (底)7.6	8/8	石英大・中微、長石大・中少、赤色粒子大・中微	内外：10YR8/3浅黄橙・5YR7/6橙	回転ナデ	回転ナデ、マメツ	
327	SX10		土師 杯	(口)13.1 (高)2.5 (底)8.0	口縁部小片	長石小少		剥離		
328	SX10		土師 杯	(口)12.0 (高)3.1 (底)6.4	7/8	石英・長石大～小普、赤色粒子大微	内外：7.5YR5/6明褐・2.5YR6/6橙	剥離		
329	SX10		土師 杯	(口)12.8	口縁部2/8	石英大・中微、長石中微、赤色粒子大・中少	内外：10YR7/3にぶい黄橙・2.5YR6/6橙	剥離		
330	SX10		土師 杯	(底)7.6	底部3/8	石英大～小少、長石小微、赤色粒子大～小少	内外：7.5YR7/1明褐灰	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り 後ナデ	
331	SX11		土師 杯	(口)11.4 (高)3.5 (底)6.4	7/8	石英大・中微、長石大・中少	内外：10YR7/2にぶい黄橙・5YR6/6橙	回転ナデ	回転ナデ(底)回転ヘラ切り	板目状狂痕
332	SX10		土師 杯	(口)12.8 (高)3.6 (底)7.0	7/8	石英大・中微、長石大・中少	内：5YR7/6橙・2.5YR6/6橙 外：5YR7/6橙	(口)回転ナデ(底)剥離	回転ナデ	板目状狂痕
333	SX10		土師 杯	(口)12.6 (高)3.6 (底)6.5	8/8	石英大・中少、長石大～小少	内：10YR8/3浅黄橙 外：10YR7/3にぶい黄橙・5YR6/6橙	回転ナデ	回転ナデ	板目状狂痕
334	SX10		土師 杯	(口)12.0 (高)2.8 (底)6.2	7/8	長石大・中多、赤色粒子大・中少	内外：7.5YR8/4浅黄橙・2.5YR7/6橙	回転ナデ	回転ナデ	
335	SX10		土師 椀	(口)16.0 (高)5.0 (高台)8.4 (高台高)1.4	4/8	長石大～小微、赤色粒子大・中少	内外：5YR6/6橙・2.5YR6/6橙	回転ナデ	回転ナデ	
336	SX10		土師 杯	(口)16.4	口縁部3/8	金雲母・長石中・小微、赤色粒子大少	内：7.5YR6/6橙 外：5YR6/6橙	回転ナデ	回転ナデ	
337	SX10		土師 杯	(高台)7.1 (高台高)0.8	底部2/8	石英中・小微、長石大～小微	内外：5YR7/3にぶい黄橙・5YR6/6橙	回転ナデ	(底)回転ヘラ切り(高)回転ナデ	
338	SX10		土師 杯	(高台)9.1 (高台高)1.5	7/8	長石中・小少、赤色粒子大・中少	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：10YR7/3にぶい黄橙・5YR7/6橙	(底)ヨコナデ、ナデ	(底)ヘラ切り後ナデ(高)ヨコナ デ	
339	SX10		黑色A 椀	(高台)6.8 (高台高)0.9	底部8/8	金雲母中微、長石小少、赤色粒子中少	内：N2/黒 外：7.5YR7/6橙・5YR7/6橙	回転ナデ	回転ナデ	
340	SX10		黑色A 椀	(高台)7.8 (高台高)0.8	底部4/8	金雲母大・中微、石英大・中多、長石大・中少	内：N3暗灰 外：10YR8/2灰白	(底)回転ナデ後ヘラミミガキ 後ナデ	(底)回転ナデ、ヘラ切り後ナデ (高)回転ナデ	
341	SX10		土師 土釜	(口)16.1	3/8	石英・長石大～小普	内：7.5YR6/6橙・10YR6/4にぶい黄橙 外：2.5YR6/6橙・10YR6/4にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ、ナ デ	(口)ヨコナデ(体)オサエ、ナ デ	
342	SX10		須恵 杯蓋	(口)13.8	口縁部1/8	長石中・小少	内：N6灰 外：N7灰白・N6灰	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナ デ	回転方向逆時計廻か
343	SX10		須恵 甕	(口)30.1	口縁部小片	長石大・中少	内：N6灰 外：N4灰	回転ナデ	回転ナデ、格子タタキ	
347	SD33		弥生 甕	(底)7.8	底部3/8	石英・長石大・中多	内：10YR6/4にぶい黄橙 外：5YR6/8橙・7.5YR5/8明褐	剥離	剥離	
348	SD33		弥生 壺	(底)7.2	底部4/8	金雲母大微、石英大・中少、長石中・小微	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：7.5YR6/4にぶい黄橙	剥離	剥離	
第2低地帯										
350	第2低地帯	III区	弥生 壺	(底)3.9	底部3/8	石英・長石大～小少	内：10YR7/4にぶい黄橙 外：5YR7/6橙・10YR7/2にぶい黄橙	ナデ、オサエ	(体)ナデ、オサエ(底)ナ デ	
351	第2低地帯	III区	弥生 甕		底部8/8	石英大・中少、長石大～小少、赤色粒子大・中微	内外：10YR8/2灰白	オサエ	タタキ	底部穿孔19孔

遺物番号	遺物名	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
352	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ①層	甌		把手小片	石英・長石大・中少、赤色粒子大微	内外：10YR7/4にぶい黄橙・5YR6/6 内：N5/灰 外：N4/灰	ハケ	ハケ・ヨコナデ	
353	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ①層	須恵 杯蓋		口縁部小片	石英大・中普、長石大・中多	内外：N5/灰	回転ナデ	(口)回転ナデ(天井部)回転ヘラ切り後ナデ	回転方向時計廻
354	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ①層	須恵 壺	(高台)12.4 (高台高)0.7	底部2/8	石英大・中少、長石大・中多	内外：10YR7/3にぶい黄橙・外：10YR7/3にぶい黄橙・10YR6/3にぶい黄橙 内外：10YR6/2灰黄橙	回転ナデ	(体)回転ナデ 回転ヘラケズリ(底)回転ヘラ切り後ナデ(高)回転ナデ、高台貼付	
355	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 壺	(口)29.4	口縁部1/8	石英・長石大・中普	内：10YR7/3にぶい黄橙・外：10YR7/3にぶい黄橙・10YR6/3にぶい黄橙 内外：10YR6/2灰黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	凹線文4条 竹管文 外面赤色顔料 体部内面粉圧痕
356	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 甕		4/8	石英・長石大～小普	内外：10YR6/3にぶい黄橙・2.5YR6/6にぶい黄	ヘラケズリ	タタキ	底部穿孔1孔
357	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 甌		底部3/8	石英大～小少、長石大～小多	内：7.5YR6/3にぶい黄橙 外：10YR6/3にぶい黄橙	板ナデ	板ナデ、オサエ後ナデ	黒班 底部穿孔1孔
358	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 甌	(口)26.9	杯部小片	金雲母中微、角閃石・石英・長石中・小少	内外：7.5YR5/4にぶい褐	杯部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ後ナデ	杯部(口)ヨコナデ(底)ヘラミガキ 脚部ナデ	下川津B類
359	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 高杯		脚部小片	金雲母中微、角閃石・石英・長石中・小少	内外：7.5YR5/4にぶい褐	杯部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ後ナデ	杯部(口)ヨコナデ(底)ヘラミガキ 脚部ナデ	下川津B類
360	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 高杯	(口)26.5	上半部1/8	石英大・中多、長石大～小多、赤色粒子大・中微	内外：10YR7/3にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)板ナデ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)タタキ	黒班
361	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 鉢	(口)11.5	1/8	石英中少、長石中微	内外：2.5YR8/2灰白	回転ナデ	回転ナデ	口縁端部内外面疎付着
362	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	土師 杯	(口)13.1	口縁部2/8	石英・長石中微	内：10YR7/3にぶい黄橙・外：10YR7/3にぶい黄橙・7.5YR5/3にぶい褐	(口)ヨコナデ(体)板ナデ	(口)ヨコナデ(体)ナデ、ハケ	
363	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 甕	(口)15.3	口縁部小片	石英・長石大・中少、赤色粒子大微	内外：10YR8/2灰白	(口)ヨコナデ(体)ナデ	(口)ヨコナデ(体)タタキ後ナデ	
364	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 甕	(口)14.3	上半部3/8	石英・長石大～小多	内：10YR7/3にぶい黄橙・5YR4/4にぶい赤褐 外：10YR7/3にぶい黄橙・5YR4/4にぶい赤褐・5YR3/2暗赤褐	(口)ヨコナデ、ナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、タタキ	黒班
365	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 甕	(口)18.1	口縁部1/8	金雲母中・小少、角閃石中・小微、石英・長石中・小少、赤色粒子大・中微	内外：7.5YR5/4にぶい褐	(口)ヨコナデ(体)ナデ、ハケ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)ナデ、ハケ	下川津B類
366	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 甕	(口)22.2	口縁部2/8	石英大～小少、長石大～小多	内外：2.5Y6/3にぶい黄	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、ハケ	
367	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 甕	(口)13.6	口縁部2/8	石英・長石大・中微	内外：10YR7/4にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)ナデ	ヨコナデ	
368	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 甕	(底)6.1	底部2/8	角閃石中・小微、石英大・中微、長石大～小少	内：5YR6/6微 外：2.5YR6/6微・7.5YR4/1褐灰	ヘラケズリ	ナデ	下川津B類
369	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 甕	(底)7.2	底部3/8	石英・長石大・中少	内外：10YR8/2灰白 外：10YR7/2にぶい黄橙・5YR7/6橙	(体)ナデ、剥離(底)オサエ	(体)ヘラミガキ後ナデ、オサエ後ナデ、マメツ	黒班
370	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 甕	(底)9.4	底部7/8	石英・長石大・中多	内外：5YR7/6橙・2.5Y7/2灰黄	(体)板ナデ後オサエ(底)オサエ	(体)ナデ(底)ヘラケズリ、ナデ	黒班
371	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 甕	(底)9.7	下半部2/8	石英・長石大～小多	内：10YR8/2灰白 外：10YR7/3にぶい黄橙・10YR6/2灰黄褐	ナデ、剥離	(体)ヘラミガキ(底)剥離	
372	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 甕		底部5/8	石英・長石大・中多	内外：10YR7/3にぶい黄橙	マメツ	マメツ	底部穿孔1孔
373	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 甕	(底)8.7	底部3/8	石英大～小少、長石大～小普	内外：10YR8/2灰白・2.5YR7/6橙 外：10YR8/2灰白	ヘラミガキ	(体)ナデ、板ナデ(底)ナデ	
374	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 甕	(底)8.6	底部8/8	石英大・中多、長石大・中少	内外：10YR8/2灰白	ナデ	(体)ナデ、オサエ(底)マメツ	
375	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 甕		肩部小片	石英大・中少、長石大・中微、赤色粒子大微	内：2.5YR6/6橙 外：10YR7/2にぶい黄橙	ナデ	ナデ	楠瀬沈線文10条
376	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 高杯		杯部2/8	石英大微、長石大・中多	内：10YR8/4黄褐 外：7.5YR8/6黄橙・10YR8/4黄橙	マメツ	マメツ	
377	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	弥生 高杯		脚部3/8	金雲母中微、石英小少、長石中・小少	内外：7.5YR6/4にぶい黄	ナデ、ハケ後ナデ	ハケ後ヘラミガキ	穿孔孔残存

遺物番号	報告遺構名	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
380	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	高杯 弥生 鉢	(底)18.2	脚部1/8	金雲母小礫、石英大・中少、長石大～小少、赤色粒子中微	内外：7.5YR6/4にぶい橙・2.5YR6/8 内：5Y6/1灰 外：7.5YR8/6浅黄橙	ハラズケリ	ナデ、ヨコナデ	凹織文2条 穿孔1孔 残存
381	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 鉢	(口)23.2	口縁部小片	石英中少、長石中・小少	内外：5PB6/1青灰	(口)ヨコナデ(体)板ナデ	回転ナデ	(口)ヨコナデ(体)ナデ
382	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	須恵 壺	(高台)8.4	底部3/8	長石大・中少	内外：2.5YR6/8橙 外：2.5YR7/8橙・10YR8/2灰白	ハラミガキ	ヨコナデ、ハラミガキ	凹織文2条(凸部に刻目) 内外赤色顔料
384	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 壺	(口)18.6	口頸部2/8	石英・長石大・中少	内外：7.5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ	凹織文4条 下川津B類
385	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 壺	(口)19.9	口縁部小片	金雲母・角閃石小礫、長石大・中少	内外：2.5YR6/6橙	(口)ヨコナデ(頸)ハケ	(口)ヨコナデ(頸)ハケ	内外赤色顔料
386	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 壺	(口)20.3	口頸部1/8	石英大～小少、長石大～小少	内外：5YR2/6橙	ヨコナデ、ハケ後ナデ	ヨコナデ、ハケ後ナデ	外面赤色顔料
387	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 壺	(口)23.4	口頸部6/8	石英・長石大～小多、赤色粒子大微	内外：7.5YR6/3にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	内面赤色顔料
388	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 壺	(口)27.5	口頸部2/8	石英・長石大～小少	内外：7.5YR7/4にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	内面赤色顔料
389	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 壺	(口)26.2	口縁部2/8	石英大・中少、長石中少	内外：10YR7/3にぶい黄橙 外：7.5YR7/4にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケ	内面赤色顔料
390	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 壺	(口)14.2	口頸部4/8	石英大～小多、長石大～小少	内外：5YR6/6橙・10YR7/3にぶい黄橙 外：7.5YR7/4にぶい黄橙	(口)ヨコナデ、ナデ(体)オサエ	(口)ヨコナデ、ナデ(頸)ハケ	(口)ヨコナデ(頸)ハケ
391	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 壺	(口)15.7	口縁部2/8	石英大～小少、長石中少	内外：10YR6/3にぶい黄橙・7.5YR7/4にぶい黄橙 外：7.5YR7/4にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(頸)ハケ	(口)ヨコナデ(頸)ハケ	凹織文7条
392	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 壺	(口)25.2	口頸部6/8	金雲母大微、角閃石大・中微、石英大・中少、長石大・中多、赤色粒子大・中微	内外：2.5YR5/6明赤褐・10YR6/1褐灰 外：2.5YR5/6明赤褐	(口)ヨコナデ、オサエ後ナデ、ヨコナデ	(口)ヨコナデ、ナデ、ヨコナデ	凹織文7条
393	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 壺	(口)22.8	口縁部4/8	石英・長石大～小多、赤色粒子大・中少	内外：5YR8/4淡橙・10YR8/3浅黄橙 外：2.5YR7/6橙・10YR8/3浅黄橙	(口)ヨコナデ、ハケ	(口)ヨコナデ(体)ハケ、ヨコナデ	頸部竹管文
394	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 壺	(口)14.1	頸部6/8	金雲母中・小少、石英・長石大～小多、赤色粒子大微	内外：10YR6/3にぶい黄橙	(口)頸)ナデ(体)オサエ	ハケ後ナデ	
395	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 壺	(口)14.1	上半部1/8	金雲母中・小少、石英大・中少、赤色粒子中微	内外：10YR6/3にぶい黄橙 外：7.5YR6/3にぶい黄橙・10YR7/3にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、ハケ	
396	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 壺	(口)15.9	口縁部小片	金雲母大・中少、角閃石大・中微、石英・長石中少	内外：7.5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ	
397	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 壺	(口)19.4	口縁部7/8	石英・長石大～小少、赤色粒子大・中微	内外：7.5YR7/4にぶい橙 外：7.5YR8/2灰白	ナデ	ナデ、ハケ、ナデ	頸部内面工具痕
398	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 甕	(口)20.6	口縁部小片	石英大微、長石中微	内外：10YR6/2灰黄褐 外：2.5YR8/2灰白	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部外面凹織文2条
399	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 甕	(口)16.0	口縁部1/8	金雲母小礫、石英大・中少、長石中・小少、赤色粒子中微	内外：10YR8/1灰白 外：10YR8/3浅黄橙	(口)ヨコナデ(体)ナデ	(口)ヨコナデ	外面ハケ 工具による刺突文
400	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 甕	(口)15.9	口縁部1/8	石英大・中少、長石大～小少	内外：2.5YR6/8橙 外：2.5YR6/8橙・10YR7/3にぶい黄橙	(口)ヨコナデ、ハケ後ナデ(体)板ナデ後ナデ	(口)ヨコナデ、ハケ後ナデ(体)タタキ	黒班
401	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 甕	(口)15.6	口縁部3/8	石英・長石大～小少、赤色粒子大・中微	内外：7.5YR7/4にぶい橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、タタキ後ナデ	
402	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 甕	(口)16.0	3/8	石英大少、長石中少	内外：10YR7/1灰白・2.5YR7/8橙	(口)ヨコナデ(体)ハケ後オサエ	(口)ヨコナデ(体)ハケ後オサエ	
403	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 甕	(口)18.0	上半部1/8	石英大・中少、長石中・小少、赤色粒子大微	内外：7.5YR7/3にぶい橙 外：7.5YR7/3にぶい橙・7.5YR4/2灰褐	(口)ヨコナデ、ハケ後オサエ	(口)ヨコナデ(体)ハケ、タタキ	
404	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 甕	(口)17.5	1/8	石英大・中少、長石中・小少	内外：7.5YR6/4にぶい橙	(口)ハケ(体)ハケ後オサエ、ハケ	(口)ヨコナデ、ハケ、(体)タタキ、タタキ後ナデ、ハケ	
405	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 甕	(口)17.5	2/8	石英・長石大～小少	内外：7.5YR7/4にぶい橙・7.5YR5/2灰褐 外：7.5YR6/3にぶい黄橙	オサエ、ハケ、ハラケズリ	タタキ後ハケ	黒班
406	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	弥生 甕	(底)3.4	底部8/8	石英中・小微、長石大～小少、赤色粒子中微	内外：10YR7/3にぶい黄橙 外：2.5YR6/6橙・10YR7/3にぶい黄橙	ナデ	(体)タタキ(底)ナデ	黒班

遺物番号	報告地	調査区	出土状況	器種	質量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
407	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	(底)2.5	底部8/8	金雲母小・中・少、赤石大・中・少、赤石大・中・少、赤石大・中・少	内：7.5YR6/3にぶい橙 外：10YR6/2灰黄褐	(体)ナデ、ハケ(底)ナデ	(体)ナデ、タタキ(底)ナデ	黒班
408	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	(口)12.1 (高)15.7 (底)1.0	7/8	石大・中・少、長石大・中・少	内：2.5YR5/6明赤褐 外：5YR6/6橙・2.5YR6/6橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ハケ 後オサエ(底)オサエ	(口)ヨコナデ(体)ハケ後ナデ	外面穿孔孔 黒班
409	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	(口)13.9	口縁部1/8	石大・中・少、長石大・中・少	内外：5YR5/4にぶい赤褐	(口)ヨコナデ(体)ハケ後オサエ	(口)ヨコナデ(体)タタキ後ナデ	
410	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	(口)11.2	口縁部1/8	金雲母中・小・中、角閃石中・大・中・少、赤石大・中・少	内外：7.5YR6/4にぶい橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ、ハケ後ナデ(体)ハケ後ナデ	
411	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	(口)13.6	口縁部1/8	石大・中・少	内：10YR4/1褐灰 外：5YR5/6明赤褐	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ、ハケ(体)ハケ	
412	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	(口)11.5 (底)1.6	4/8	金雲母中・小・中、赤石大・中・少	内外：10YR7/3にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)ナデ、ハケ後ナデ	
413	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	(底)3.1	3/8	石大・中・少、長石大・中・少	内：7.5YR6/3にぶい褐 外：10YR6/2灰黄褐	オサエ後ナデ	(体)ハケ(底)ナデ	黒班
414	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	(口)13.9	口縁部2/8	金雲母中・少、角閃石中・大・中・少、赤石大・中・少	内外：7.5YR5/4にぶい褐	(口)ヨコナデ(体)オサエ	(口)ヨコナデ、ハケ(体)ハケ	下川津B類
415	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	(口)16.0	4/8	石大・中・少、長石大・中・少	内外：7.5YR7/3にぶい橙	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、オサエ後ナデ、オサエ後ハケ	(口)ヨコナデ(体)タタキ後ハケ	
416	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	(口)12.2	2/8	石大・中・少、長石大・中・少	内外：7.5YR7/4にぶい橙	(口)ハケ(体)オサエ後ハケ	(口)ハケ(体)タタキ後ハケ	
417	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	(口)13.1	上半部2/8	石大・中・少、赤石大・中・少、赤石大・中・少	内外：7.5YR7/4にぶい橙	(口)ナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ナデ(体)タタキ後ハケ	
418	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	5/8	5/8	金雲母中・少、角閃石大・中・少、赤石大・中・少	内外：7.5YR6/4にぶい橙・7.5YR7/3にぶい橙	(口)ナデ(体)ヨコナデ、オサエ後ナデ、オサエ後ハケ	(口)ヨコナデ(体)タタキ後ハケ、ハラケズリ後ナデ	
419	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	底部8/8	底部8/8	石大・中・多、長石大・中・少	内：7.5YR6/4にぶい橙 外：2.5YR6/6橙	板ナデ、オサエ後ナデ	ハラケズリ	底部穿孔孔
420	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	底部4/6	底部4/6	石大・中・多、長石大・中・少	内外：5YR6/4にぶい橙	剥離	ハラケズリ	底部穿孔孔 黒班
421	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	底部6/8	底部6/8	石大・中・少、赤石大・中・少、赤石大・中・少	内外：5YR7/6橙・7.5YR7/4にぶい橙	ナデ	(体)タタキ(底)ナデ	底部穿孔孔 黒班
422	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 高杯	脚部2/8	脚部2/8	石大・中・少、赤石大・中・少、赤石大・中・少	内外：10YR8/2灰白	杯部(底)ナデ 脚部ナデ	ナデ	穿孔孔残存
423	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 高杯	脚部小片	脚部小片	石大・中・少、赤石大・中・少、赤石大・中・少	内外：10YR8/3浅黄橙・2.5YR7/4淡赤橙	杯部(底)ナデ 脚部破り痕、ナデ	ナデ	
424	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 鉢	(口)16.4 (高)8.6	底部3/8	石大・中・少、赤石大・中・少、赤石大・中・少	内：2.5YR6/6橙 外：5YR7/4にぶい橙・5YR7/6橙	(口)ナデ(体)オサエ後ナデ、板ナデ	(口)ナデ、タタキ後ナデ(体)タタキ後ナデ、ハラケズリ後オサエ	黒班
425	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 鉢	(口)17.3 (高)7.5	4/8	石大・中・少、長石大・中・少、赤石大・中・少	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：10YR7/2にぶい黄橙・5YR7/6橙	(口)ナデ(体)オサエ後ナデ(体)ハケ	(口)ナデ(体)ナデ、ハラケズリ後ハケ後ナデ	黒班
426	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 鉢	(口)18.4 (高)8.3	3/8	石大・中・少、長石大・中・少	内外：10YR7/3にぶい黄橙・7.5YR7/4にぶい橙	(口)ナデ、オサエ後ナデ(体)ハケ	(口)ナデ、オサエ後ナデ(体)ハケ、ナデ	内外面赤色顔料 黒班
427	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 鉢	(口)22.9	1/8	石大・中・少	内外：10YR7/3にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)板ナデ、ヨコナデ	(口)ヨコナデ(体)ナデ、オサエ、オサエ後ナデ	
428	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 鉢	8/8	8/8	石大・中・少、赤石大・中・少、赤石大・中・少	内：2.5YR6/8橙 外：2.5YR6/6橙・10YR7/3にぶい黄橙	(体)ハケ(底)ナデ	オサエ後ナデ	黒班
429	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 鉢	(底)2.6	8/8	石大・中・少、赤石大・中・少、赤石大・中・少	内：5YR6/6橙・10YR7/2にぶい黄橙 外：5YR6/6橙・10YR7/2にぶい黄橙	(体)板ナデ(底)オサエ	(体)破り痕、ナデ(底)ナデ	黒班
430	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 蓋	(口)14.0 (高)6.7	1/8	石大・中・少	内外：10YR7/3にぶい黄橙・10YR4/1褐灰	(天井部)板ナデ(底)ナデ	(口)ナデ、タタキ後ナデ、オサエ	
433	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	(底)5.7	底部5/8	石大・中・多、長石大・中・少、赤石大・中・少	内：2.5YR8/1灰白・N6/灰 外：7.5YR8/6浅黄橙	剥離、オサエ	(体)ナデ(底)ナデ	黒班
434	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	(底)6.6	底部3/8	金雲母大・中・少、赤石大・中・少、赤石大・中・少	内：10YR4/2灰黄褐 外：10YR5/3にぶい黄橙	(体)オサエ後ハラミガキ(底)ナデ	(体)ハラミガキ(底)ナデ	
435	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	弥生 甕	(底)8.6	底部2/8	石大・中・多、長石大・中・少	内：10YR8/3浅黄橙 外：10YR8/1灰白・10YR8/3浅黄橙	(体)剥離(底)ナデ	(体)ナデ(底)剥離	

遺物番号	報告名	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
436	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩・Ⅰ⑩層	弥生 甕	(底)7.9	底部3/8	石英大・中少・長石大・中多・赤色粒子大微	内：10YR7/3にぶい黄橙・10YR4/1褐灰 外：5YR6/8橙・10YR4/1褐灰	ナデ	(体)ハケ(底)ナデ	
437	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩・Ⅰ⑩層	弥生 壺		底部小片	金雲母大微・石英大～小多・長石・赤色粒子大～小少	内：10YR7/3にぶい黄橙・2.5Y4/1黄灰 外：2.5Y4/1黄灰	ナデ	(体)ハケ(底)板ナデ	
438	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩・Ⅰ⑩層	弥生 高杯	(口)25.2	杯部1/8	石英・長石大～小普、赤色粒子大微	内：10YR7/4にぶい黄橙 外：10YR7/3にぶい黄橙	(口)ヨコナデ	(口)ヨコナデ、ナデ、ヨコナデ	
439	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 壺	(口)13.5	口頸部2/8	石英大・中普、長石・赤色粒子大微	内外：7.5YR6/4にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(頸)ナデ	(口)ヨコナデ、ハケ(頸)ハケ	
440	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 壺	(口)12.1	口頸部1/8	石英・長石大～小少、赤色粒子大・中微	内外：5YR7/6橙・10YR8/2灰白	(口)ヨコナデ、ハケ(頸)ハケ、ヘラケズリ後ナデ	(口)ヨコナデ、ハケ(頸)ハケ	外面凹線文2条
441	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 壺	(口)14.7	口頸部2/8	石英大・中少、赤色粒子大・中微	内外：5YR6/6橙・7.5YR8/3浅黄橙	(口)ヨコナデ(頸)ハケ、ナデ	(口)ヨコナデ、オサエ後ナデ(頸)ハケ	内外面赤色顔料 外面凹線文1条
442	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 壺	(口)16.0	口頸部3/8	石英・長石大・中普	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：5YR6/6橙	(頸)ヨコナデ、オサエ(体)オサエ	(頸)ハケ(体)タタキ後ハケ	外面赤色顔料 黒斑
443	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 壺	(口)18.9	口頸部2/8	金雲母大・中微、角閃石・石英中・小微、長石大・中少、赤色粒子大微	内：2.5YR5/6明赤褐・10YR8/2灰白・10YR7/1灰白 外：5YR6/6橙	(口)ヨコナデ 板ナデ(頸)板ナデ、オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ(頸)マメツ	口縁部内面赤色顔料 付着
444	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 壺	(口)18.4	口頸部2/8	石英・長石大・中少	内外：7.5YR6/4にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(頸)ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	下川津B類
445	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 壺	(口)17.6	口頸部1/8	石英・長石大・中少	内外：5YR7/6橙・10YR8/3浅黄橙	(口)ヨコナデハケ(頸)ハケ、ナデ	(口)ヨコナデ、ヨコナデ後オサエ(頸)ハケ後オサエ	
446	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 壺	(口)15.5	口頸部2/8	石英大・中少、長石大・中少	内外：5YR6/6橙	(口)ヨコナデ(頸)ヨコナデ、オサエ	(口)ヨコナデ、ヘラミガキ(頸)ヘラミガキ	外面凹線文2条
447	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 壺	(口)28.0	口頸部小片	石英大・中少、長石大・中少	内外：10YR7/3にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(頸)(体)オサエ	(口)ヨコナデ(頸)ヨコナデ後ハケ(体)ハケ	
448	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 壺	(口)11.9	口頸部1/8	石英大・中少、長石中・小少	内：10YR3/1黒褐 外：7.5YR7/4にぶい黄橙・10YR7/3にぶい黄橙	ヘラケズリ後ナデ、ヨコナデ	ハケ、ヨコナデ	
449	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 壺	(口)11.9	口頸部2/8	石英大・中少、長石中・小少	内外：5YR6/6橙・2.5Y8/2灰白	(頸)ヨコナデ(体)オサエ、ハケ	(頸)ナデ、ハケ(体)ハケ後ナデ	外面一部歯文
450	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 壺	(口)11.9	口頸部2/8	石英・長石大～小少、赤色粒子小微	内：5YR6/6橙・10YR8/3浅黄橙 外：5YR6/6橙	(口)ヨコナデ(頸)ヨコナデ、オサエ	(口)ハケ後オサエ(頸)ハケ、ヨコナデ	
451	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 壺	(口)11.9	口頸部1/8	石英大・中少、長石中・小少	内外：5YR6/6橙・2.5Y8/2灰白	(頸)板ナデ(体)オサエ後ヨコナデ、オサエ後ハケ	ヘラミガキ	頸部基部外面刺突文 黒斑
452	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 壺	(口)11.9	口頸部1/8	石英・長石大～小少、赤色粒子小微	内：10YR7/3にぶい黄橙・5YR6/6橙 外：5YR7/6橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	外面赤色顔料
453	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 壺	(口)11.9	小片	角閃石中・小微、石英・長石大・中少	内外：5YR7/6橙	オサエ、ヘラケズリ	ハケ	外面線刻
454	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 壺	(口)17.2	小片	角閃石中・小微、石英・長石大・中少	内：5YR7/6橙 外：5YR7/6橙・2.5Y8/2灰白	ヘラケズリ	ハケ	外面線刻
455	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 甕	(口)15.2	口縁部1/8	石英大・中普、長石中少	内外：10YR8/3浅黄橙	ヨコナデ、オサエ	ヨコナデ、オサエ	口縁部沈線1条
456	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 甕	(口)16.9	口縁部2/8	石英大・中少、長石中少	内外：7.5YR7/3にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)板ナデ	(口)ヨコナデ(体)タタキ後ナデ	
457	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 甕	(口)15.8	口縁部1/8	石英・長石大～小少	内外：7.5YR7/4にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、オサエ後ハケ	(口)ヨコナデ、オサエ後ハケ(体)オサエ後タタキ	
458	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 甕	(口)22.5	口縁部小片	石英中微、長石大・中少、赤色粒子大微	内外：7.5YR7/4にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)板ナデ	(口)ヨコナデ(体)タタキ	
459	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 甕	(口)26.2	口縁部小片	石英大・中少、長石中・小少	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：10YR6/3にぶい黄橙	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	
460	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 甕	(口)11.5	上半部小片	石英・長石大・中少	内外：5YR5/6明赤褐	(口)ヨコナデ(体)ナデ	(口)ヨコナデ(体)ナデ	
461	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 甕	(口)11.4	口縁部1/8	石英・長石大・中少、赤色粒子中微	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：7.5YR7/4にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ、ヘラケズリ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)タタキ後板ナデ	
462	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 甕	(口)14.2 (高)18.1	上半部3/8	石英大・中微、長石大・中多	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：7.5YR7/3にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)ハケ	(口)ナデ(体)ハケ	
463	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑩層	弥生 甕	(口)14.2 (高)18.1	6/8	石英・長石大・中普	内：10YR7/2にぶい黄橙・2.5YR5/4にぶい赤褐 外：10YR7/2にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)ハケ(底)オサエ	(口)ヨコナデ、ハケ(体)タタキ後ナデ	黒斑

遺物番号	報告 遺構名	調査 区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
464	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 甕	(口)10.9	口縁部1/8	石英中微・長石中・小微・赤色粒子中・小	内：10YR7/3にぶい黄橙・外：2.5YR7/4淡赤橙・10YR7/2にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)ナデ	(口)ヨコナデ(体)ハケ後ナデ	
465	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 甕	(口)11.8	口縁部1/8	石英・長石大～小少・赤色	内外：10YR7/2にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)ハケケズリ後オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)ハケ	下川津B類
466	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 甕	(口)16.1	上半部1/8	金雲母中・小少・角閃石大・中微・石英中・小微・長石大～小少・赤色粒子中微	内外：7.5YR5/4にぶい褐	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ・オサエ後ナデ	ヨコナデ	外面沈線1条
467	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 甕	(口)16.0	上半部1/8	石英大・中普・長石大・中少	内外：5YR6/6橙・5YR2/1黒褐	(口)ヨコナデ(体)ハケケズリ	(口)ヨコナデ・オサエ後ヨコナデ(体)オサエ後ヨコナデ・ハケ	外面沈線1条
468	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 壺	(底)2.5	底部5/8	石英・長石大・中少・赤色粒子中微	内外：2.5YR8/2灰白	ナデ	(体)板ナデ後ナデ(底)ナデ	黒班
469	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 壺	(底)3.9	底部5/8	石英大～小多・長石大～小少	内：5Y3/1オリ・ブ黒 外：10YR6/2灰黄褐	(体)板ナデ後ナデ(底)オサエ	(体)板ナデ後ナデ(底)ナデ	黒班
470	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 壺	(底)8.8	底部2/8	石英大・中少・長石中少	内：10YR8/2灰白 外：2.5YR6/8橙・10YR8/2灰白	(体)ハケ・ナデ(底)ナデ・オサエ	(体)ハケ・オサエ(底)ナデ	
471	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 甕	(底)5.5	口縁部小片	石英大・小多・長石大・中少・赤色粒子大	内：7.5YR5/2灰褐・外：7.5YR5/2灰褐・7.5YR7/3にぶい黄橙・2.5YR7/6橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ・オサエ(体)オサエ後ナデ	
472	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 甕	(底)5.6	底部5/8	石英・長石大～小少	内：10YR7/3にぶい黄橙・2.5YR6/6橙 外：10YR7/4にぶい黄橙	(体)ナデ(底)オサエ	(体)ハケ・ナデ(底)ナデ	黒班
473	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 甕	(底)5.6	底部5/8	金雲母大微・石英大～小少・長石中少	内外：10YR7/3にぶい黄橙	ナデ	(体)板ナデ(底)ナデ	黒班
474	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 甕	(底)7.0	底部4/8	石英大・小多・長石大～小少・赤色粒子大・中微	内：N3暗灰・外：7.5YR4/1褐灰・7.5YR7/4にぶい黄橙	(体)ハケ・ナデ(底)ハケケズリ後ナデ	(体)ハケ・ナデ(底)ハケケズリ後ナデ	
475	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 甕	(底)3.6	底部6/8	石英・長石大・中少	内外：10YR7/3にぶい黄橙	板ナデ後ナデ・オサエ	ナデ・オサエ	黒班
476	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 甕	(底)3.6	底部6/8	石英大・中少・長石中少	内外：10YR8/3浅黄橙	板ナデ	ナデ	黒班
477	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 甕	(底)4.6	底部8/8	石英大・中普・長石大・中少	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：10YR7/2にぶい黄橙	ナデ後ハラミガキ	(体)ハラミガキ(底)ハラケズリ	黒班
478	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 甕	(底)5.8	底部1/8	金雲母中・小微・石英・長石大～小少・赤色粒子大・中微	内：7.5YR6/4にぶい黄橙 外：7.5YR5/4にぶい黄橙	オサエ後ハケ	オサエ後ハラミガキ	黒班
479	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 甕	(口)21.0	底部1/8	石英・長石大～小少	内：5YR6/3にぶい黄橙 外：7.5YR6/4にぶい黄橙	ナデ・オサエ	オサエ後ナデ・板ナデ後ナデ	底部穿孔孔 黒班
480	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 高杯	(口)19.8	口縁部1/8	金雲母・角閃石中微・石英中・小微・長石中・小少・赤色粒子大・中微	内外：7.5YR5/4にぶい褐	ヨコナデ	(口)ヨコナデ(底)ハラケズリ	下川津B類
481	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 高杯	(口)19.8	口縁部1/8	石英・長石大～小少・赤色粒子大・中少	内外：10YR7/3にぶい黄橙	(口)板ナデ後ハラミガキ・剥離(底)剥離	(口)ハラミガキ(底)ハケ・ハラミガキ	
482	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 高杯	(口)29.6	口縁部小片	石英・長石大～小少・赤色粒子中・小微	内外：2.5YR6/6橙	(口)ヨコナデ(底)ナデ	(口)ヨコナデ(底)ハケ	
483	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 高杯		口縁部1/8	金雲母大微・角閃石中・小微・石英大・中微・長石大～小少・赤色粒子大微	内外：5YR5/6明赤褐	ハケ後ハラミガキ	ハラケズリ後ハラミガキ	下川津B類
484	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 高杯	(底)16.7	4/8	金雲母中微・角閃石大微・石英大・中少・長石大～小少・赤色粒子大微	内外：7.5YR5/6明褐	杯部(底)ハラミガキ 脚部ハラケズリ	杯部(底)ハラミガキ 脚部ハラミガキ	下川津B類
485	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 高杯		脚部2/8	石英大・中少・長石中微・赤色粒子大微	内外：10YR8/3浅黄橙	ナデ	ハラミガキ・ヨコナデ	穿孔孔残存
486	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 高杯		脚部2/8	角閃石大・中少・長石中・小少	内外：7.5YR5/4にぶい褐	杯部(底)ナデ 脚部ナデ	ナデ	穿孔孔残存
487	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 鉢	(口)19.6	口縁部1/8	石英・長石大～小少	内外：10YR7/3にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)板ナデ	(口)ヨコナデ(体)ハケ	口縁部外面沈線1条
488	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 鉢	(口)19.4	上半部1/8	石英大～小少・長石中・小少・赤色粒子小微	内外：5YR6/6橙・10YR8/3浅黄橙	(口)ヨコナデ(体)ナデ	(口)ヨコナデ・絞リ裏・ナデ	
489	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 鉢	(口)24.4	口縁部小片	石英大・中少・長石中・小少	内外：10YR7/4にぶい黄橙 外：10YR7/4にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデハケ	(口)ヨコナデ・ヨコナデ後オサエ(体)ヨコナデ後オサエ・ハケ	

遺物番号	報告書 遺物番号	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
490	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 鉢	(口)28.1	口縁部3/8	石英大・中少、長石中微	内：10YR4/1褐灰・5YR6/6橙 外：10YR4/1褐灰	(口)ヨコナデ、ヘラミガキ(体)ハケ ラミガキ後ハケ	(口)ヨコナデ(体)ハケ	
491	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 ミニチュア鉢	(口)6.7 (高)3.8 2.1	2/8	石英大～小少、長石大～小少	内外：10YR7/3にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ (底)板ナデ後ナデ、オサエ(脚)オサエ	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ ミガキ(底)ナデ	黒班
492	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 製塩土器	(底)4.3	底部5/8	石英大～小微、長石中少	内：7.5YR4/1褐灰 外：7.5YR6/4にぶい橙	(底)板ナデ後ナデ、オサエ(脚)オサエ	(口)ヨコナデ(脚)オサエ	
493	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑤層	弥生 付台鉢	(底)5.2	底部3/8	石英・長石大・中普	内：2.5Y4/1黄灰 外：5YR7/4にぶい橙	(底)オサエ(脚)オサエ	オサエ、ナデ	
494	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 壺	(口)18.2	口頸部2/8	石英中・小微、長石大・中少	内外：5YR7/8橙・5YR8/3淡橙	(口)ヨコナデ、ハケ(頸)ハケ、オサエ後ハケ、ナデ	(口)ヨコナデ、ハケ(頸)ハケ	口縁端部内面波状文
495	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 壺	(口)14.0	口頸部3/8	石英・長石大・中少、赤色粒子大微	内外：10YR5/3にぶい黄褐	(口)ヨコナデ(頸)ハケ(体)ハケ 後ヨコナデ、ハケ	(口)ヨコナデ(頸)ハケ(体)ハケ 後ヨコナデ、ハケ	頸部基部に押圧による突帯文
496	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 壺	(口)14.5	口頸部1/8	石英中・小少、長石大・中少	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：7.5YR7/4にぶい橙	(口)ヨコナデ(頸)ナデ(体)オサエ	(口)ヨコナデ(頸)ナデ(体)ハケ	
497	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 壺	(口)17.0	口縁部2/8	金葉母、角閃石中少、石英中・小少、長石大・中少	内外：7.5YR5/4にぶい褐	ヨコナデ	ヨコナデ	頸部外面沈線3条 下川津B類
498	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 壺	(口)17.6	口縁部2/8	金葉母中・小微、角閃石大微、石英中・小少	内外：7.5YR5/4にぶい褐	(口)頸)ナデ	(口)ヨコナデ	凹線文3条 下川津B類
499	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 壺	(口)11.8	口縁部小片	角閃石小微、石英大・中少、長石大～小少	内：10YR6/4にぶい黄橙 外：7.5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ	凹線文1条
500	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 壺	(口)13.2	口頸部1/8	石英大～小普、長石中・小少、赤色粒子中微	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：10YR7/4にぶい黄橙	ヨコナデ、ヘラケズリ後ナデ	ヨコナデ	内面赤色顔料
501	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 壺	(口)17.3	口縁部小片	石英大・中少、長石中・小少	内外：10YR6/3にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	凹線文2条
502	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 壺	(口)16.8	口縁部1/8	石英大～小微、長石大～小少	内：2.5Y7/2灰黄 外：7.5YR7/4にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ	
503	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 壺	(口)8.0 (高)15.5 (底)4.7	口縁部小片	石英大～小普、長石大～小少、赤色粒子中微	内：7.5YR5/3にぶい褐 外：7.5YR5/3にぶい褐・2.5YR6/6橙	ヨコナデ、オサエ後ナデ	ナデ	口縁部外面斜線文
504	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 壺	(口)8.0 (高)15.5 (底)4.7	口縁部1/8	石英・長石大～小少、赤色粒子大微	内：10YR8/2灰白 外：7.5YR7/6橙	ヨコナデ	ヨコナデ	凹線文2条
505	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 壺	(口)8.0 (高)15.5 (底)4.7	7/8	石英・長石大～小少	内：10YR7/3にぶい黄橙・10YR8/3浅黄橙・10YR4/1褐灰 外：10YR7/3にぶい黄橙・10YR4/1褐灰	(口)頸)ヨコナデ、オサエ後ナデ (体)オサエ後ハケ(底)オサエ	(口)ヨコナデ(頸)オサエ後ハケ (体)オサエ後ハケ(底)ナデ	
506	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 甕	(口)14.3	口縁部2/8	石英・長石大・中少、赤色粒子大	内外：5YR7/4橙・10YR7/1灰白	(口)ヨコナデ(体)ヘラケズリ後ナデ	ヨコナデ	口縁端部外面沈線1条
507	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 甕	(口)15.6	口縁部2/8	石英・長石大～小少	内：7.5YR6/4にぶい橙 外：7.5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ	
508	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 甕	(口)13.8	口縁部2/8	石英大・中少、長石中少	内外：10YR6/4にぶい黄橙・2.5YR6/6橙	ヨコナデ	ヨコナデ	
509	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 甕	(口)10.0	口縁部1/8	石英・長石大・中少	内：10YR7/3にぶい黄橙・2.5Y5/1黄灰 外：7.5YR6/4にぶい橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ	ヨコナデ	
510	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 甕	(口)26.5	小片	角閃石中微、石英・長石大～小少、赤色粒子大・中少	内：5YR5/6明赤褐 外：2.5YR6/8橙・10YR6/2灰黄褐	(口)ヨコナデ、ナデ(体)オサエ後ナデ	ヨコナデ、ナデ	
511	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 壺	(底)6.3	底部3/8	石英大・中少、長石中・小少	内：10YR7/2にぶい黄橙 外：2.5Y7/1灰白	(体)ヘラケズリ(底)オサエ	(体)ヘラケズリ(底)ヘラケズリ 後ハケ	
512	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 甕	(底)4.2	底部3/8	石英大・中少、長石中微	内外：5YR6/6橙・7.5YR4/1褐灰	オサエ後ナデ	(体)タタキ後ナデ(底)ナデ	
513	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 壺	(底)7.7	底部4/8	石英大・中多、長石大・中少、赤色粒子大微	内：10YR8/2灰白 外：5YR7/6橙・10YR8/3浅黄橙	(体)ハケ、オサエ後ナデ(底)オサエ後ナデ	(体)ハケ後ナデ(底)ナデ	
514	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 甕	(底)3.9	底部3/8	石英・長石大・中微	内外：10YR8/3浅黄橙	ハケ	(体)ナデ、オサエ(底)ナデ	木葉圧痕、黒班
515	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 甕	(底)6.4	底部3/8	石英・長石大～小少、赤色粒子中・小微	内：7.5YR7/4にぶい橙 外：2.5YR6/6橙	(体)板ナデ(底)ナデ	(体)ヘラミガキ(底)ナデ	口縁部一部施文 黒班
516	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 甕	(底)7.5	底部5/8	石英大・中多、長石大・中普	内：10YR5/2灰黄褐・10YR2/1黒 外：5YR4/1褐灰・5YR7/4にぶい橙	(体)板ナデ、オサエ(底)オサエ	(体)ヘラミガキ後ナデ、ヨコナデ(底)ナデ	

遺物番号	報告書名	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
517	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 高杯	(口)15.4	口縁部2/8	石英・長石中微	内：5YR6/6橙 外：7.5YR7/3にぶい黄橙・5YR6/6橙	(口)ヨコナデ(底)ナデ	(口)ヨコナデ(底)ナデ	
518	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 高杯	(口)24.0	杯口縁部2/8	石英・長石大・中少	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：10YR6/4にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	(口)ヨコナデ(体)ハラケズリ後ナデ	
519	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 高杯		脚部5/8	石英大～小、赤色粒子大微	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：2.5Y6/8橙	ナデ	ハラミガキ	
520	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 鉢	(口)29.0	口縁部2/8	石英大・中、長石大・中少	内：2.5YR6/8橙・2.5YR7/3にぶい黄橙 外：2.5Y6/8橙	(口)ヨコナデ、オサエ後ハケ	(口)ヨコナデ、ハケ(体)ハケ	内外面赤色顔料
521	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	弥生 鉢	(口)12.6	口縁部小片	石英・長石大～小少	内外：10YR6/3にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、紋リ痕	口縁部内面初圧痕
522	第2低地帯	Ⅲ区		弥生 壺	(口)16.8	口頸部1/8	石英大・中少、長石中・小少	内外：10YR8/3浅黄橙	(口)ヨコナデ(頸)オサエ	(口)ヨコナデ(頸)ハケ	黒斑
523	第2低地帯	Ⅲ区		弥生 壺	(口)14.3	口頸部3/8	石英大・中多、長石大・中微、赤色粒子中微	内外：2.5YR7/6橙・7.5YR8/2灰白	(口)ハラミガキ(頸)オサエ後板ナデ	(口)ヨコナデ(頸)ハラミガキ	
524	第2低地帯	Ⅲ区		弥生 壺	(口)27.0	口頸部2/8	石英・長石大～小少	内外：7.5YR6/4にぶい黄橙	(口)頸)ナデ(体)オサエ	(口)ナデ、ハケ(体)ハケ	
525	第2低地帯	Ⅲ区		弥生 壺	(口)32.8	口縁部小片	金雲母中・小少、石英小微、長石大～小少、赤色粒子中・小少	内：5YR6/8橙 外：7.5YR6/6橙	マメツ	マメツ	
526	第2低地帯	Ⅲ区		弥生 壺	(高台)7.8	口縁部小片	金雲母中微、長石大・中少、赤色粒子中微	内：5YR6/8橙 外：7.5YR6/6橙	ヨコナデ、オサエ、ヨコナデ	ヨコナデ	
527	第2低地帯	Ⅲ区		須恵 杯		底部2/8	石英小微、長石中・小少	内外：N5/灰	回転ナデ	回転ナデ、高台貼付	
528	第2低地帯	Ⅲ区		須恵 壺		把手部小片	石英・長石中微	内外：5Y7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ 把手部ハラケズリ後ナデ	
第3低地帯											
541	流路04	Ⅳ区	下層	縄文 深鉢		口縁部小片	石英・長石大～小多、赤色粒子大微	内：2.5Y2/1黒 外：10YR5/3にぶい黄褐	条痕文	条痕文	刻目突帯文
542	流路04	Ⅳ区	下層	弥生 甕	(口)24.2	体部小片	石英大・中多、長石中微	内：2.5Y7/2灰黄・2.5Y7/1灰白 外：10YR8/2灰白	ナデ	ナデ	外面輪描沈線文7条残存
543	流路04	Ⅳ区	下層	弥生 甕	(口)23.8	上半部2/8	石英大～小普、長石大・中少	内：10YR6/3にぶい黄橙・10YR5/2灰黄褐 外：10YR4/2灰黄褐	(口)ヨコナデ、ナデ	(口)ヨコナデ、オサエ(体)ナデ、オサエ後ナデ	体部外面輪描沈線文8条、刺突文
544	流路04	Ⅳ区	下層	弥生 壺	(口)17.9	口縁部2/8	石英中微、長石中・小少	内外：10YR8/2灰白・10YR7/2にぶい黄橙	ハケ、ヨコナデ	剥離、ヨコナデ	口縁端部内面輪描列点文
545	流路04	Ⅳ区	下層	弥生 壺	(口)15.6	体部1/8	金雲母中・小微、角四石大～小少、長石大～小少	内外：2.5Y6/3にぶい黄橙	(口)ヨコナデ、ハラミガキ(頸)オサエ	ヨコナデ、ナデ	頸部凹線文4条斜線文
546	流路04	Ⅳ区	下層	弥生 壺	(口)17.2	上半部2/8	石英大・中少、長石中・小少	内外：10YR2/8灰白・10YR7/2にぶい黄橙	(頸)ハラミガキ(体)ハラケ後ハラミガキ	(頸)ハラミガキ(体)ハラケ後ハラミガキ	
547	流路04	Ⅳ区	下層	弥生 壺	(口)14.5	体部5/8	石英中・小少、長石大～小多	内：10YR8/2灰白・2.5YR7/6橙 外：10YR8/2灰白	(口)ヨコナデ、オサエ(体)オサエ	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、ハラミガキ	
548	流路04	Ⅳ区	下層	弥生 長頸	(口)18.2	体部2/8	石英大～小少、長石大～小多	内：7.5Y2/1黒 外：5YR7/6橙・2.5Y8/2灰白	オサエ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	
549	流路04	Ⅳ区	下層	弥生 甕	(口)17.9	上半部2/8	石英・長石大～小多	黄橙 外：10YR7/4にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)ハラケズリ	(口)ヨコナデ(体)ハラミガキ、タキ	
550	流路04	Ⅳ区	下層	弥生 甕	(口)18.2	上半部1/8	角四石大～小多、石英中・小少、長石大～小少	内外：10YR6/6明黄褐・10YR7/3にぶい黄橙 外：10YR7/4にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、オサエ	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、ハケ、剥離	下川津B類
551	流路04	Ⅳ区	下層	弥生 甕	(口)17.9	口縁部2/8	石英大～小微、長石中・小微	内外：10YR5/2灰黄褐・2.5Y7/3浅黄	(口)ヨコナデ(体)ハラケズリ	(口)ヨコナデ(体)ハケ	凹線文2条
552	流路04	Ⅳ区	下層	弥生 甕	(底)9.2	口縁部2/8	石英・長石中・小少	内：10YR6/2灰黄褐 外：2.5Y7/2灰黄	(口)ヨコナデ、ハケ(体)ハラケズリ後ナデ、ハラケズリ	(口)ヨコナデ(体)ハケ	口縁部外面凹線文2条
553	流路04	Ⅳ区	下層	弥生 甕	(底)7.6	下半部3/8	金雲母中微、角四石大・中少、石英大～小少、長石大・中少	内：2.5Y5/3黄褐 外：7.5YR5/4にぶい黄橙・10YR7/4にぶい黄橙	オサエ、ナデ	ハケ、ハラミガキ	下川津B類
554	流路04	Ⅳ区	下層	弥生 甕		底部2/8	石英・長石大～小多	内：2.5Y7/2灰黄 外：2.5Y7/2灰黄	ナデ	マメツ	
555	流路04	Ⅳ区	下層	弥生 甕		底部4/8	石英・長石大・中少	内：7.5YR7/4にぶい黄橙・10YR8/4浅黄 外：10YR8/4浅黄橙	ナデ	ナデ	

報告番号	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
556	流路04	Ⅳ区 下層	弥生 甕	(底)10.1	底部8/8	石英・長石大・中多	内外：10YR8/3淺黄橙	ナデ	(体)タタキ後ナデ(底)ナデ、マメツ	
557	流路04	Ⅳ区 下層	弥生 壺	(底)4.4	底部8/8	石英大・中少、長石大～小多、赤色粗子大	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：10YR7/3にぶい黄橙・5YR7/6橙	(体)底)ハケ	(体)ナデ、オサエ(底)ナデ	
558	流路04	Ⅳ区 下層	弥生 甕	(底)6.6	底部7/8	石英・中多、長石中少	内外：10YR7/3にぶい黄橙	ナデ	(体)ハケ、オサエ(底)ナデ	
559	流路04	Ⅳ区 下層	弥生 甕	(底)6.2	底部8/8	石英大・中多、長石中少	内外：10YR7/3にぶい黄橙	ナデ	(体)版ナデ(底)ナデ	
560	流路04	Ⅳ区 下層	弥生 甕	(底)6.4	下半部3/8	金雲母小・中、角四石中・小少、石英大・中、長石中・小少	内外：2.5Y5/3黄褐・10YR7/3にぶい黄橙	(体)ハケズリ後ナデ(底)ナデ	(体)板ナデ、オサエ後ナデ(底)ナデ	下川津B類
561	流路04	Ⅳ区 下層	弥生 高杯	(口)28.0	上半部5/8	金雲母中少、角四石大～小少、石英大・中少、長石大・中少	内外：10YR6/2灰黄褐	杯部(口)ヨコナデ(底)ヘラミガキ 脚部ナデ	杯部(口)ヨコナデ(底)ヘラミガキ 脚部ナデ	穿孔3孔残存 下川津B類
562	流路04	Ⅳ区 下層	弥生 高杯	(底)16.1	脚部1/8	角四石大～小多、石英中・小少、長石大～小少	内外：10YR5/4にぶい黄褐	ヘラケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	下川津B類
563	流路04	Ⅳ区 下層	弥生 高杯	(底)14.8	杯部1/8	石英中・小少、長石大～小少	内外：7.5YR5/4にぶい黄褐	ヘラケズリ後ナデ	ハケ、ヨコナデ	穿孔1孔残存
564	流路04	Ⅳ区 下層	弥生 高杯	(口)25.3	口縁部1/8	角四石中・小普、石英・長石中・小微	内：10YR6/2灰黄褐・10R5/6赤 外：10YR6/2灰黄褐	(口)ヨコナデ(底)ヘラミガキ	(口)ヨコナデ(底)ヘラミガキ	内面赤色顔料 下川津B類
565	流路04	Ⅳ区 下層	弥生 高杯	(口)15.3	杯部小片	石英大・中少、長石大～小少	内外：10YR7/3にぶい黄橙・10YR7/6明黄褐	マメツ	(口)ヨコナデ(底)マメツ	
566	流路04	Ⅳ区 下層	弥生 高杯	(口)16.2	杯部1/8	角四石中少、長石大～小少、赤色粗子大・中微	内外：10YR6/3にぶい黄橙・10YR4/3明黄褐	(口)ヨコナデ、マメツ(底)マメツ	(口)ヨコナデ、マメツ(底)マメツ	下川津B類
567	流路04	Ⅳ区 下層	弥生 高杯		脚部8/8	石英大・中少、長石中・小少	内外：2.5Y8/2灰白	杯部(底)ナデ 脚部絞り痕、ナデ	ヨコナデ	外面沈線4条、沈線3条、沈線3条
568	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 壺	(口)17.1	口頸部4/8	石英・長石大・中少	内：2.5Y6/3にぶい黄 外：10YR6/2灰黄褐	(口)ヨコナデ(頸)オサエ後ヨコナデ	(口)ヨコナデ、オサエ後ヨコナデ(頸)ハケ後ヘラミガキ(体)ヘラミガキ	
569	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 壺	(口)20.0	口頸部6/8	石英・長石大～小多	内外：10YR7/3にぶい黄橙	(口)ハケ(頸)ハケ後ナデ、ナデ(体)ナデ	(口)ナデ、オサエ後ハケ(頸)ハケ	口縁部外面沈線1条 頸部外面沈線沈線文4条
570	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 壺	(口)17.6	口縁部2/8	石英・長石大～小多	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：10YR6/3淺黄橙	剥離	(口)剥離(頸)ヨコナデ	口縁部外面竹管文
571	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 壺		口縁部2/8	金雲母小・中、角四石中・小少、石英中・小少、長石大～小少	内：10YR5/4にぶい黄褐 外：10YR6/3にぶい黄橙	オサエ	ヨコナデ、ハケ	頸部外面沈線3条、斜線文
572	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 壺	(底)6.8	底部8/8	石英大・中少、長石大・中多	内外：7.5YR8/3淺黄橙・2.5Y4/1黄灰	(体)ナデ(底)オサエ、マメツ	(体)ハケ、マメツ、オサエ(底)マメツ	
573	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 壺	(口)23.6	口頸部1/8	石英・長石大～小少	内：5YR7/6橙 外：10YR8/4淺黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部外面凹線文4条、頸部外面凹線文4条残存
574	流路04	Ⅳ区 上層	短頸 弥生 壺	(口)10.4	口頸部5/8	石英大～小多、長石大～小少	内：10YR2/1黒 外：10R5/8赤・7.5YR5/4にぶい褐	(口)ヨコナデ(体)ハラケズリ	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、剥離	肩部穿孔2対4孔残存 体部赤色顔料
575	流路04	Ⅳ区 上層	無頸 弥生 壺		体部2/8	石英大・中少、長石大～小多	内外：10YR7/3にぶい黄橙	ナデ	ナデ、ヘラミガキ	
576	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 甕		体部小片	石英・長石大・中多	内：N2/黒 外：2.5Y6/2灰黄	オサエ	ナデ	肩部外面細線沈線文8条、刺突文
577	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 甕	(口)17.7	口頸部小片	石英大・中多、長石大・中少	内外：10R5/6赤	(口)ヨコナデ、ナデ	(口)ヨコナデ、オサエ(体)オサエ、ナデ	
578	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 甕	(底)7.0	底部8/8	石英・長石大・中多	内：10YR6/3にぶい黄橙 外：10YR6/3にぶい黄橙・7.5YR7/4にぶい橙	ナデ	(体)ヘラミガキ、ナデ、ハケ後ナデ(底)ナデ	黒班
579	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 甕	(口)13.1	下半部2/8	金雲母中少、角四石・長石中・小少	内：10YR5/4にぶい黄褐 外：7.5YR6/4にぶい橙	(口)ヨコナデ(体)ナデ	(口)ヨコナデ(体)ハケ	凹線文2条 下川津B類
580	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 甕		下半部小片	角四石中・小少、石英中・小少、長石中・小少	内外：10YR5/4にぶい黄褐	(口)ヨコナデ(体)ナデ	ヨコナデ	下川津B類
581	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 甕	(口)14.8	口縁部2/8	石英・長石大・中少	内：10YR6/6明黄褐 外：10YR6/6明黄褐・2.5YR7/6橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	
582	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 甕	(口)15.1	上半部2/8	石英大・中多、長石中多	内外：7.5YR5/3にぶい褐・7.5YR3/2黒褐	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、ナデ	(口)ヨコナデ(体)ハケ	
583	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 甕	(口)19.6	上半部3/8	石英・長石大・中少	内外：5YR7/6橙・10YR7/3にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)ハラケズリ	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、ハケ	口縁部外面凹線文2条

報告番号	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
584	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 甕	(底)7.1	底部8/8	石英・長石大・中少	内：10YR8/3淺黄褐色 外：10YR7/3にぶい黄褐色	(体)ハケ、ナデ(底)ナデ		
585	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 壺	(底)12.4	底部3/8	石英大・中少、長石大・中多	内：5YR7/6褐色・7.5YR6/3にぶい褐色 外：2.5YR6/8褐色	メメツ		
586	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 壺	(底)7.1	底部8/8	石英大・中少、長石大少	内：10YR7/4にぶい黄褐色 外：10YR7/6明黄褐色・10YR8/1灰白	(体)ヨコナデ(底)ナデ		
587	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 甕	(底)6.7	底部6/8	石英大～小少、長石大～小多	内：2.5Y7/2灰黄 外：2.5Y7/1灰白	ナデ		
588	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 高杯	(口)15.8	7/8	石英大少、長石大～小少	内外：10YR7/2にぶい黄褐色	(体)ハケ、オサエ後ヨコナデ(底)ヨコナデ		
589	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 高杯		脚部1/8	長石大～小少	内外：5YR7/6褐色・2.5Y5/1黄灰	杯部(口)ヨコナデ(底)ナデ		
590	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 高杯		杯部3/8	角閃石中・小普、石英中・小少、長石大～小少	内：7.5YR6/4にぶい黄褐色 外：7.5YR6/6褐色	杯部(口)ヨコナデ(底)ナデ		
591	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 高杯		脚部7/8	石英大～小少、長石大～小多、赤色粒子大・中少	内外：10YR7/6明黄褐色 外：10YR8/1灰白・10YR7/6明黄褐色	杯部(底)オサエ 脚部ナデ		
592	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 高杯		脚部4/8	石英大～小少、長石大～小多、赤色粒子大	内外：10YR7/2にぶい黄褐色	杯部(底)ナデ 脚部オサエ後縁リ痕		
593	流路04	Ⅳ区 上層	弥生 ミネコ 7高杯	(口)7.3 (底)8.1 (底)6.8	6/8	石英・長石中少	内外：2.5Y7/2灰黄	脚部ハラミガキ		穿孔2孔残存
594	流路04	Ⅳ区 上層	土師 小皿	(口)7.6 (底)5.4 (高)1.5	5/8	石英中・小微、長石小微	内外：10YR8/2灰白・5YR8/3淡褐色	回転ナデ		
595	流路04	Ⅳ区 上層	土師 小皿	(口)8.6 (底)6.8 (高)1.4	4/8	石英・長石大～小少	内外：10YR8/4淺黄褐色	回転ナデ		
596	流路04	Ⅳ区 上層	土師 小皿	(口)8.4 (底)6.4 (高)1.3	6/8	石英・長石大～小少	内外：10YR8/3淺黄褐色	回転ナデ		
597	流路04	Ⅳ区 上層	土師 小皿	(口)8.4 (底)7.4 (高)1.0	2/8	石英中・小微、長石大～小少	内外：10YR7/3にぶい黄褐色	回転ナデ		
598	流路04	Ⅳ区 上層	瓦器 小皿	(口)8.2 (底)2.8 (高)1.9	口縁部2/8	長石中少	内外：N7/灰白	(口)ヨコナデ、ハラミガキ(底)ハラミガキ		
599	流路04	Ⅳ区 上層	土師 小皿	(口)7.6 (底)5.7 (高)2.4	7/8	石英中微、長石大～小少	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ		
600	流路04	Ⅳ区 上層	土師 台付 皿	(高台)6.8 (高台高)2.1	3/8	石英中・小微、長石大～小少	内外：2.5Y7/2灰黄	ナデ		
601	流路04	Ⅳ区 上層	黒色B型 小杯	(口)9.6	1/8	石英中・小少、長石大～小少	内外：5Y2/1黒	ハラミガキ		
602	流路04	Ⅳ区 上層	黒色B型 小杯	(口)6.8 (高)3.9 (高台)4.0 (高台高)0.6	4/8	石英・長石中少	内外：7.5Y2/1黒	ハラミガキ		
603	流路04	Ⅳ区 上層	黒色B型 小杯	(高台)3.7 (高台高)0.6	底部5/8	石英・長石小少	内外：5Y2/1黒	回転ナデ、ナデ		
604	流路04	Ⅳ区 上層	土師 椀	(高台)7.8 (高台高)0.6	1/8	石英・長石大～小少	内：7.5YR8/3淺黄褐色・7.5YR3/1黒褐色 外：7.5YR8/2灰白	回転ナデ		
605	流路04	Ⅳ区 上層	黒色A 椀	(高台)6.8 (高台高)0.5	3/8	石英中・小微、長石大・中少、赤色粒子中微	内：5Y2/1黒 外：2.5Y8/2灰白	ハラミガキ		
606	流路04	Ⅳ区 上層	黒色A 椀	(高台)7.6 (高台高)0.6	底部2/8	石英中・小少、長石小微	内：2.5Y2/1黒 外：2.5Y8/2灰白	ハラミガキ、剥離		
607	流路04	Ⅳ区 上層	黒色A 椀	(高台)7.2 (高台高)0.5	底部2/8	石英小少、長石小微	内：2.5Y3/1黒褐色 外：10YR8/2灰白	ハラミガキ、剥離		
608	流路04	Ⅳ区 上層	黒色B 椀	(口)14.8	口縁部2/8	石英中・小少、長石大～小微	内外：2.5Y2/1黒	回転ナデ		
609	流路04	Ⅳ区 上層	黒色B 椀	(口)15.9	口縁部1/8	石英中・小少、長石小少	内外：2.5Y2/1黒	回転ナデ		
610	流路04	Ⅳ区 上層	黒色B 椀	(口)15.8 (高)5.7 (高台)7.1 (高台高)0.6	底部4/8	石英小少、長石大～小少	内外：2.5Y2/1黒	ハラミガキ		
611	流路04	Ⅳ区 上層	瓦器 椀		口縁部小片	長石中微	内外：N6/灰	ヨコナデ、ハラミガキ		補葉
612	流路04	Ⅳ区 上層	瓦器 椀	(高台)5.1 (高台高)0.6	底部5/8	石英中・小少、長石中微	内：7.5Y2/1黒 外：7.5Y3/1オリーブ黒	メメツ		
613	流路04	Ⅳ区 上層	須恵 鉢		口縁部小片	長石中・小少	内外：N7/灰白	ヨコナデ		東播系
614	流路04	Ⅳ区 上層	須恵 鉢	(口)31.8	口縁部2/8	石英・長石大～小多	内外：2.5Y4/1黄灰・2.5Y2/1黒	(口)ヨコナデ(体)ナデ		十瓶

遺物番号	報告書番号	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
615	流路04	Ⅳ区	上層	黑色B付香炉?		6/8	金雲母中微、石英大・中少、長石中・小少	内外：2.5Y3/1黒褐	ナデ	ナデ 脚部ヘラケズリ	
648	流路05	Ⅳ区		土師 小皿	(口)7.6 (高)0.8 (底)6.2	8/8	石英・長石大～小少	内外：2.5Y7/3浅黄	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
649	流路05	Ⅳ区		土師 小皿	(口)7.4 (高)0.9 (底)6.3	4/8	石英・長石大～小微	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
650	流路05	Ⅳ区		土師 小皿	(口)7.8 (高)1.3 (底)5.4	2/8	石英大～小微	内外：2.5Y8/1灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
651	流路05	Ⅳ区		土師 小皿	(口)8.2 (高)1.0 (底)6.9	8/8	石英大・中少、長石大・中普、赤色粒子大微	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
652	流路05	Ⅳ区		土師 小皿	(口)8.0 (高)1.0 (底)6.4	8/8	石英・長石大～小少、赤色粒子大・中多	内外：7.5YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
653	流路05	Ⅳ区		土師 小皿	(口)7.9 (高)1.3 (底)6.0	5/8	石英大～小少、長石中・小少	内外：10YR8/1灰白・5YR7/3にぶい	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
654	流路05	Ⅳ区		土師 小皿	(口)8.4 (高)1.2 (底)7.2	8/8	石英・長石大～小少、赤色粒子中・小微	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
655	流路05	Ⅳ区		土師 杯	(口)14.0 (高)3.6 (底)10.3	5/8	石英・長石大・中少、赤色粒子大微	内：5YR6/2灰褐 外：5YR6/2灰褐・2.5YR7/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
656	流路05	Ⅳ区		土師 杯	(口)14.0 (高)3.2 (底)9.2	8/8	金雲母大・中少、石英大・中微、長石大・中多	内外：7.5YR7/4にぶい橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
657	流路05	Ⅳ区		土師 杯	(口)13.8 (高)3.1 (底)8.8	2/8	石英・長石大～小少、赤色粒子大・中微	内外：10YR8/1灰白・2.5YR7/8橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
658	流路05	Ⅳ区		土師 杯	(口)16.0		石英大・中微、長石大・中少	内外：7.5YR7/4にぶい橙	マメツ		
659	流路05	Ⅳ区		土師 碗	(口)14.3 (高)5.6 (高台)16.2	3/8	石英大～小少、長石小微、赤色粒子大～小少	内：2.5Y8/2灰白 外：2.5Y8/1灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
660	流路05	Ⅳ区		黑色A 碗	(口)15.5		石英・長石中・小少	(口)5Y2/1黒 外：2.5Y8/2灰白	(口)回転ナデ、ヘラミガキ ヘラミガキ	回転ナデ	
661	流路05	Ⅳ区		黑色A 碗	(高台)6.8 (高台高)0.8	底部3/8	石英大～小微、長石大～小少、赤色粒子大・中微	内：2.5Y2/1黒 外：10YR8/2灰白	ヘラミガキ	(体)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
662	流路05	Ⅳ区		黑色A 碗	(口)14.0 (高)5.2 (高台高)0.6 (高台)5.9	4/8	石英・長石大・中少、赤色粒子大・中微	内：2.5Y2/1黒 外：2.5Y8/1灰白	マメツ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
663	流路05	Ⅳ区		黑色A 碗	(口)14.8 (高)5.5 (高台)5.8 (高台高)0.4	6/8	石英大・中少、長石中・小少、赤色粒子大・中少	内：7.5Y2/1黒 外：7.5Y8/1灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
664	流路05	Ⅳ区		黑色A 碗	(高台)6.8 (高台高)0.7	底部3/8	石英中・小多、長石大～小少、赤色粒子大・中少	内：2.5Y2/1黒 外：10YR8/4浅黄橙・10YR8/6黄橙	ヘラミガキ	(体)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
665	流路05	Ⅳ区		黑色A 碗	(高台)6.4 (高台高)0.7	底部4/8	石英大・中少、長石中・小微、赤色粒子中微	内：N2/黒 外：10YR8/1灰白・2.5YR7/3淡赤橙	回転ナデ	(体)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
666	流路05	Ⅳ区		黑色B 碗	(口)16.0	2/8	石英大～小少、長石大～小普	内外：5Y4/1灰	(口)回転ナデ(体)ヘラミガキ	(口)回転ナデ、ヘラミガキ オサエ後ヘラミガキ	
667	流路05	Ⅳ区		瓦器 碗	(口)15.5 (高)5.9 (高台)6.1 (高台高)0.6	8/8	石英大・中少、長石中少	内：N6/灰 外：N5/灰・N8/灰白	(口)ヨコナデ、ヘラミガキ(体)ヘラミガキ	(口)ヨコナデ、ヘラミガキ(体)オサエ後ヘラミガキ(底)ヨコナデ	
668	流路05	Ⅳ区		瓦器 碗	(口)16.3 (高)4.5 (高台)5.1 (高台高)0.4	4/8	石英・長石中・小少	内外：N6/灰	(口)ヨコナデ、ヘラミガキ(体)ヘラミガキ	(口)ヨコナデ(高)ヨコナデ	
669	流路05	Ⅳ区		瓦器 碗	(口)15.8 (高)5.4 (高台)5.5 (高台高)0.6	6/8	石英・長石中・小少	内：N3/暗灰 外：N3/暗灰・N8/灰白	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ヘラミガキ	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ヘラミガキ(底)ヨコナデ	
670	流路05	Ⅳ区		瓦器 碗	(口)16.6	口縁部3/8	石英・長石小微	内外：N6/灰	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ	
671	流路05	Ⅳ区		瓦器 碗	(口)14.9	口縁部2/8	石英大・中少、長石大～小少	内外：N6/灰	剥離	(口)剥離(体)剥離、オサエ後ナデ	
672	流路05	Ⅳ区		白磁 碗	(口)15.6	口縁部小片	石英・長石小微	胎：5Y8/1灰白 釉：5Y7/2灰白	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	
673	流路05	Ⅳ区		白磁 碗		小片	長石小微	胎：N7/灰白 釉：5Y7/2灰白	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	
674	流路05	Ⅳ区		須恵 壺	(底)9.6	底部3/8	石英中・小少、長石中・小微	内外：N7/灰白	(体)回転ナデ(底)回転ナデ、ナデ	(体)回転ナデ、ヘラケズリ(底)ヘラ切り後ナデ	
675	流路05	Ⅳ区		須恵 甕	(底)18.1	底部1/8	石英中・小微、長石大・中少	内外：N7/灰白	(体)瓶ナデ(底)ナデ	(体)格子タタキ、ヘラケズリ(底)剥離、ナデ	十瓶、底部内外面自然細付着
676	流路05	Ⅳ区		須恵 鉢		口縁部小片	石英小少、長石大～小微、赤色粒子大微	内外：2.5Y7/1灰白・5YR8/2灰白 外：7.5Y2/1黒	マメツ	回転ナデ	十瓶

遺物番号	報告番号	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
677	流路05	Ⅷ区		須恵 鉢	(底)14.0	底部1/8	石英中・小少、長石中・小微	内：N5/底 外：N2/底 内外：N6/底・N8/灰白	(体)格子タタキ後ナデ (口)後ナデ(底)ナデ	(体)格子タタキ後ナデ、ヘラケズリ後ナデ(底)ナデ	十瓶
678	流路05	Ⅷ区		須恵 片口	(口)27.1 (高)11.6 (底)13.7	6/8	石英、長石大・中少	内：N6/底・N8/灰白 内外：N6/底・N8/灰白	(口)回転ナデ(体)回転ナデ、ナデ、ヘラケズリ(底)オサエ後ナデ	(口)回転ナデ、ナデ、ヘラケズリ後ナデ	十瓶
681	流路06	Ⅷ区	上層	土師 小皿	(口)7.0 (高)1.4 (底)5.4	2/8	石英、長石大～小少	内：10YR6/3にぶい黄橙・10YR8/2灰白 外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ママツ	
682	流路06	Ⅷ区	上層	土師 小皿	(口)7.6 (高)1.2 (底)6.3	3/8	石英、長石中・小少	内外：10YR8/2灰白・2.5YR6/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
683	流路06	Ⅷ区	上層	土師 小皿	(口)8.0 (高)0.9 (底)5.6	2/8	石英大・中微、長石小少、赤色粒子大・中微	内：10YR8/3淺黄橙・10YR8/2灰白 外：10YR6/1褐灰・2.5YR7/4淡赤橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
684	流路06	Ⅷ区	上層	土師 小皿	(口)8.1 (高)1.5 (底)5.1	7/8	石英、長石中・小少、赤色粒子大・中少	内：10YR7/1褐灰・7.5YR7/1明褐灰 外：7.5YR5/1褐灰・7.5YR8/1灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	被目状圧痕
685	流路06	Ⅷ区	下層	土師 小皿	(口)7.7 (高)1.1 (底)6.3	3/8	石英大・中少、長石中・小少	内：10YR8/3淺黄橙 外：10YR8/2灰白 灰白・10YR7/3にぶい黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
686	流路06	Ⅷ区	上層	土師 小皿	(口)7.7 (高)0.7 (底)6.0	2/8	石英大・中少、長石中・小少、赤色粒子大・中少	内：10YR8/3淺黄橙 外：10YR7/4にぶい黄橙 外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	口縁部外面初圧痕
687	流路06	Ⅷ区	上層	土師 小皿	(口)8.2 (高)1.2 (底)5.7	2/8	石英大・中少、長石大・中少	内外：10YR8/2灰白・10YR8/3淺黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
688	流路06	Ⅷ区	上層	土師 小皿	(口)8.2 (高)1.2 (底)5.0	2/8	石英、長石大・中少	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
689	流路06	Ⅷ区	上層	土師 小皿	(口)9.5 (高)1.3 (底)7.8	3/8	石英中・小少、長石大・中少、赤色粒子中微	内外：2.5Y8/1灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
690	流路06	Ⅷ区	上層	土師 小皿	(口)8.4 (高)1.4 (底)6.8	2/8	長石小微	内：7.5YR8/3淺黄橙 外：5YR8/3淡橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ヘラケズリ、回転ヘラケズリ後ナデ	
691	流路06	Ⅷ区	下層	土師 小皿	(口)7.6 (高)1.0 (底)5.2	4/8	石英大・中微	内外：2.5Y8/1灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
692	流路06	Ⅷ区	下層	土師 小皿	(口)7.2 (高)0.9 (底)6.0	2/8	石英大・中微、長石中・小少	内：2.5YR7/4淡赤橙・10YR7/4にぶい黄橙 外：2.5YR7/6橙・5YR8/4淡橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
693	流路06	Ⅷ区	下層	土師 台付小皿	(口)7.6 (高)1.4 (高台)3.8(推定) (高台)0.7(推定)	1/8	石英中・小微、長石大～小微	内外：10YR8/1灰白	回転ナデ	回転ナデ、高台貼付	
694	流路06	Ⅷ区	上層	土師 台付小皿	(口)7.7 (高)2.2 (高台)4.1 (高台)1.0	3/8	石英、長石大～小少	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ	回転ナデ	
695	流路06	Ⅷ区	上層	土師 碗	(高台)6.0 (高台)0.7	底部3/8	石英、長石大～小多	内外：2.5YR7/4淡赤橙・7.5YR8/1灰白	ママツ	回転ナデ、高台貼付	
696	流路06	Ⅷ区	上層	黑色A 碗	(口)17.0	1/8	石英大～小微、長石大～小少	内：7.5Y2/1黒 外：10YR8/2灰白	回転ナデ	回転ナデ	
697	流路06	Ⅷ区	上層	黑色A 碗	(高台)6.2 (高台)0.7	底部7/8	石英、長石大～小少	内：2.5Y3/1黒褐・2.5Y2/1黒 外：2.5Y8/1灰白	ヘラミガキ	(口)ヨコナデ(底)オサエ後ナデ	
698	流路06	Ⅷ区	上層	黑色A 碗	(高台)6.0 (高台)0.7	底部2/8	石英中・小少、長石大～小少	内：2.5Y8/1灰白・2.5Y6/1黄灰 外：2.5Y8/1灰白	ヘラミガキ、剥離	(体)ナデ(底)回転ヘラ切り(高)回転ナデ、高台貼付	
699	流路06	Ⅷ区	下層	黑色A 碗	(高台)5.7 (高台)0.6	底部2/8	石英大～小微、長石大～小少	内：N2/黒 外：10YR8/2灰白	回転ナデ後ヘラミガキ	回転ナデ、ナデ	
700	流路06	Ⅷ区	上層	黑色B 碗	(高台)7.4 (高台)0.9	口縁部2/8	石英小少、長石小微	内外：N1.5/黒	回転ナデ	回転ナデ	
701	流路06	Ⅷ区	上層	黑色B 碗	(口)14.7	口縁部2/8	石英小少、長石大・小少	内外：2.5Y2/1黒	ヘラミガキ	(体)ヘラミガキ(底)ヘラ切り(高)回転ナデ	
702	流路06	Ⅷ区	上層	瓦器 碗	(口)16.0	口縁部2/8	石英、長石大微	内外：N4/底	ママツ、オサエ	ママツ、オサエ	
703	流路06	Ⅷ区	上層	瓦器 碗	(口)15.8	口縁部1/8	長石大・中少	内外：N8/底白・N4/底	ヨコナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ、オサエ	
704	流路06	Ⅷ区	上層	瓦器 碗	(口)16.6	口縁部1/8	長石中・小微	内外：N8/底白・N4/底	ヨコナデ、ヘラミガキ、ナデ	ヨコナデ、オサエ後ナデ	
705	流路06	Ⅷ区	下層	瓦器 碗	(高台)5.1 (高台)0.5	口縁部1/8	石英大・小微、長石小微	内外：N6/底	(口)ヨコナデ、ナデ(体)ナデ後ヘラミガキ	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ	
706	流路06	Ⅷ区	下層	瓦器 碗	(高台)5.1 (高台)0.5	底部6/8	長石中・小微	内外：N4/底	ナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ナデ	
707	流路06	Ⅷ区	上層	須恵 甕	(高台)3.8 (高台)1.0	底部1/8	石英中少、長石大・小少	内外：N7/底白	オサエ後板ナデ	格子タタキ、回転ナデ	十瓶
708	流路06	Ⅷ区	上層	須恵 甕	(高台)3.8 (高台)1.0	1/8	石英中・小少、長石大・中微	内：N7/底白 外：5Y6/1灰	板ナデ	格子タタキ	十瓶
709	流路06	Ⅷ区	上層	須恵 片口	(口)8.0 (高)1.4 (底)5.3	口縁部小片	石英中・小少、長石中・小多	内外：N5/底	回転ナデ	回転ナデ、格子タタキ	十瓶
712	流路07	Ⅷ区	上層	土師 小皿	(口)8.0 (高)1.4 (底)5.3	3/8	石英中・小微、長石大～小少、赤色粒子大・中微	内：2.5YR7/4淡赤橙・10YR7/3にぶい黄橙 外：2.5YR6/6橙・10YR7/3にぶい黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	

遺物番号	報告区	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
713	流路07	Ⅱ区	上層	土師 小皿	(口)8.2 (高)1.2 (底)5.9	3/8	石英大・中少、長石中微、赤色粒子大・中少	内：2.5YR7/6黄橙 外：7.5YR8/4浅黄橙	マメツ	(口)マメツ回転ナデ(底)回転ヘラ切リ後ナデ	
714	流路07	Ⅱ区	上層	土師 小皿	(口)8.4 (高)1.0 (底)7.1	6/8	石英大微、長石中微	内外：2.5Y8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切リ	
715	流路07	Ⅱ区	上層	土師 小皿	(口)9.0 (高)1.1 (底)6.0	3/8	石英大・中微、長石中微、赤色粒子大・中少	内：10YR8/3浅黄橙 外：10YR8/2灰白・10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切リ	
716	流路07	Ⅱ区	下層	土師 小皿	(口)8.4 (高)1.2 (底)6.2	2/8	長石中・小少	内外：10YR6/1褐灰・10YR5/1褐灰	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)マメツ	
717	流路07	Ⅱ区	下層	土師 小皿	(口)8.6 (高)1.2 (底)6.6	3/8	石英大・中少、長石中・小少、赤色粒子大・中微	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ、オサエ(底)回転ヘラ切リ	板目状正痕
718	流路07	Ⅱ区	上層	瓦器 小皿	(口)8.6	1/8	石英小微、長石中微	内：2.5Y7/1灰白 外：7.5Y8/1灰白	(口)ヨコナデ(底)オサエ後ナデ ラミガキ	(口)ヨコナデ(底)オサエ後ナデ	
719	流路07	Ⅱ区	上層	瓦器 小皿	(口)8.9	1/8	石英中・小少、長石大・小	内：5Y8/1灰白 外：N3/膨灰	(口)ヨコナデ(底)ナデ	(口)ヨコナデ(底)オサエ後ナデ	
720	流路07	Ⅱ区	上層	瓦器 小皿	(口)9.2	3/8	石英大・中微、長石中微	内外：N6/灰・N5/灰	ヨコナデ後ヘラミガキ	(口)ヨコナデ(底)オサエ	
721	流路07	Ⅱ区	下層	瓦器 小皿	(口)8.8 (高)2.0	2/8	長石小少	内外：N7/灰白	回転ナデ	(口)ヨコナデ(底)オサエ	
722	流路07	Ⅱ区	下層	土師 台付小皿	(口)8.0 (高)2.2 (高台)5.4 (高台高)0.9	2/8	金雲母大微、角閃石・石英中・小微、長石中・小少、赤色粒子大少	内外：7.5YR6/6橙	回転ナデ	回転ナデ、高台貼付	
723	流路07	Ⅱ区	上層	土師 椀	(高台)6.1 (高台高)0.8	底部2/8	石英大・中微、長石中微	内外：10YR8/2灰白・5YR7/8橙	回転ナデ	(体)高)回転ナデ(底)ナデ、高台貼付	
724	流路08	Ⅱ区	上層	黒色B 椀	(口)15.1	口縁部1/8	石英・長石小少	内外：7.5Y2/1黒	回転ナデ	ヘラミガキ、マメツ	
725	流路07	Ⅱ区	上層	黒色B 椀	(口)18.0	口縁部小片	石英・長石中・小少	内外：2.5Y2/1黒	回転ナデ、ヘラミガキ	回転ナデ、ヘラミガキ	
726	流路07	Ⅱ区	上層	瓦器 椀	(口)15.7 (高)15.6 (高台)5.9 (高台高)0.6	2/8	長石小微	内外：5Y7/1灰白	(口)ヨコナデ、ヘラミガキ(体) (底)オサエ後ヘラミガキ(高)ヨコナデ	(口)ヨコナデ、ヘラミガキ(体) (底)オサエ後ヘラミガキ(高)ヨコナデ	
727	流路07	Ⅱ区	上層	瓦器 椀	(高台)5.6 (高台高)0.6	底部2/8	石英中・小少、長石小少	内外：N4/灰	ヘラミガキ	(底)ヘラミガキ、ナデ(高)ヨコナデ、高台貼付	
728	流路07	Ⅱ区	上層	瓦器 椀		口縁部小片	長石中微	内外：N4/灰	ヨコナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラミガキ	
729	流路07	Ⅱ区	下層	瓦器 椀		口縁部小片	石英小少、長石大・小少	内：2.5Y8/1灰白 外：N4/灰	マメツ	(口)マメツ、オサエ、ヘラミガキ	
730	流路07	Ⅱ区	下層	瓦器 椀	(口)16.3	体部小片	石英・長石小少	内外：N4/灰	(口)ヨコナデ、ヘラミガキ後ナデ (体)オサエ後ヘラミガキ	(口)ヨコナデ、ヘラミガキ後ナデ (体)オサエ後ヘラミガキ	
731	流路07	Ⅱ区	上層	瓦器 椀	(口)18.2	口縁部小片	石英中・小微、長石中・小少、赤色粒子中・小微	内：5Y7/1灰白・N7/灰白 外：10YR7/1灰白・10YR4/1褐灰	(口)ヨコナデ(体)ナデ後ヘラミガキ	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ヘラミガキ、オサエ	
732	流路07	Ⅱ区	上層	瓦器 椀	(高台)5.1 (高台高)0.5	底部2/8	長石中・小微	内外：2.5Y8/2灰白	ナデ	(体)底)ナデ(高)ヨコナデ、高台貼付	
733	流路07	Ⅱ区	上層	瓦器 椀	(高台)6.0 (高台高)0.5	底部2/8	金雲母・石英小微、長石中・小微	内：5Y8/1灰白 外：N8/灰白	ナデ	ヨコナデ、ナデ	
734	流路07	Ⅱ区	下層	瓦質 椀		小片	石英中・小微、長石大・小少	内外：N8/灰白・N3/暗灰	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
735	流路07	Ⅱ区	上層	須恵 壺	(高台)9.3(推定) (高台高)0.8	底部1/8	石英・長石中少	内：N7/灰白 外：N5/灰	回転ナデ	回転ナデ	
736	流路07	Ⅱ区	上層	須恵 甕		体部1/8	石英中少、長石中・小少	内：N6/灰 外：N4/灰	ナデ	タタキ	十瓶
737	流路07	Ⅱ区	上層	須恵 甕		体部小片	石英中・小少、長石大・中少	内：5Y7/1灰白 外：N6/灰	板ナデ	タタキ	十瓶
738	流路07	Ⅱ区	下層	土師 甕		口縁部小片	石英・長石大・小多	内：5YR7/6橙・10YR7/3にふい黄橙 外：10Y7/4にふい黄橙・10YR6/2灰黄褐	ヨコナデ、オサエ後ナデ	ヨコナデ、ハケ	
739	流路07	Ⅱ区	下層	土師 甕		口縁部小片	石英大・小少、長石大・小少	内：5YR6/6橙・5YR4/3にふい赤褐 外：2.5Y3/1黒褐	ヨコナデ、板ナデ後オサエ	ヨコナデ、オサエ、ハケ	
740	流路08	Ⅱ区		弥生 壺	(底)11.0	底部2/8	石英大・中多、長石大・小多	内：10YR4/2灰黄褐 外：10YR8/2灰白	剥離、ナデ、マメツ	(体)ナデ、マメツ(底)マメツ	
741	流路08	Ⅱ区		須恵 甕	(口)28.5	口縁部小片	長石小微	内：N7/灰 外：N6/灰	回転ナデ	回転ナデ	
742	流路08	Ⅱ区		土師 小皿	(口)7.8 (高)1.0 (底)5.7	3/8	長石大・中微	内外：10YR8/1灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ヘラ切リ後ナデ	
743	流路08	Ⅱ区		土師 小皿	(口)8.0 (高)1.5 (底)7.0	2/8	長石中・小微、赤色粒子大・中微	内外：2.5Y8/1灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切リ	

遺物番号	報告番号	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
744	流路08	Ⅷ区		土師 小皿	(口)8.0 (高)11.3 (底)5.4	2/8	石英・長石中・少	内：10YR8/4浅黄橙 外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ハラ切り後ナデ	
745	流路08	Ⅷ区		土師 小皿	(口)8.8 (高)11.1 (底)5.9	3/8	石英大・中微・長石中微	内外：7.5YR8/3浅黄橙・2.5YR7/6橙・5YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ハラ切り	
746	流路08	Ⅷ区		土師 小皿	(口)8.8 (高)10.9 (底)7.3	3/8	石英大・中微・長石大・中少	内外：10YR7/3にぶい黄橙 外：10YR7/3にぶい黄橙・10YR4/6褐	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ハラ切り後ナデ	
747	流路08	Ⅷ区		土師 小皿	(口)8.8 (高)11.2 (底)5.9	3/8	石英・長石大・中微	内外：10YR7/3にぶい黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ハラ切り後ナデ	
748	流路08	Ⅷ区		瓦器 小皿	(口)9.1 (高)11.3 (底)7.2	2/8	石英大・中少・長石大・小微・赤色粒子中微	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ハラ切り後ナデ	
749	流路08	Ⅷ区		瓦器 小皿	(口)9.7 (高)11.6 (底)7.1	口縁部1/8	石英中・小微・長石小微	内：N5/灰 外：N7/灰白	ヨコナデ、ナデ	(口)ヨコナデ(底)オサエ後ナデ	
750	流路08	Ⅷ区		瓦器 小皿	(口)10.0 (高)11.6 (底)6.2	口縁部2/8	長石中微	内外：N4/灰	(口)ヨコナデ後ハラミガキナデ後ハラミガキ	(口)ヨコナデ(底)オサエ後ナデ	
751	流路08	Ⅷ区		黑色B 台付小皿	(口)9.4	口縁部2/8	石英大・小微・長石中少	内外：7.5YR1.7/1黒	回転ナデ	回転ナデ	外面沈線3条
752	流路08	Ⅷ区		土師 台付皿	(口)14.1 (高)4.8 (高台)6.7 (高台高)2.9	7/8	石英・長石大・中少・赤色粒子大・小微	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ハラ切り後ナデ	
753	流路08	Ⅷ区		黑色A 椀	(口)13.9	口縁部1/8	石英大・中微・長石大・赤色粒子大微	内：10YR8/1灰白・N6/灰 外：10YR8/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	
754	流路08	Ⅷ区		黑色A 椀	(口)14.4	1/8	石英中・小少・長石大・小少	内：N3/暗灰 外：2.5Y8/1灰白	(口)回転ナデ、ハラミガキ(体)剥離	回転ナデ	
755	流路08	Ⅷ区		黑色A 椀	(口)14.8	口縁部1/8	金雲母中微・石英中・小微・長石大・小微	内：2.5Y2/1黒 外：2.5Y8/2灰白	回転ナデ	回転ナデ	
756	流路08	Ⅷ区		黑色A 椀	(高台)7.6 (高台高)0.5	底部3/8	金雲母中微・長石大微	内：N3/暗灰 外：2.5Y8/1灰白	ハラミガキ	回転ナデ	
757	流路08	Ⅷ区		黑色A 椀	(高台)6.1 (高台高)0.6	底部2/8	石英大微・長石小少	内：10YR2/1黒 外：10YR8/2灰白	ハラミガキ	(体)(高)回転ナデ(底)ハラ切り後ナデ、高台貼付	
758	流路08	Ⅷ区		黑色A 椀	(高台)6.4 (高台高)0.9	底部3/8	石英中・小微・長石大・小少・赤色粒子中・小微	内：2.5Y2/1黒 外：2.5Y8/2灰白	ハラミガキ、マメツ	回転ナデ	
759	流路08	Ⅷ区		黑色A 椀	(高台)6.6 (高台高)0.7	底部3/8	石英大・中少・長石小少・赤色粒子中・小微	内：10YR7/4にぶい黄橙・N4/灰 外：2.5Y8/1灰白・10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	回転ナデ	
760	流路08	Ⅷ区		黑色A 椀	(高台)7.4 (高台高)0.7	底部3/8	角閃石大微・石英大・少・長石中・小少	内：10YR7/2にぶい黄橙 外：2.5Y2/1黒 外：2.5Y8/1灰白	回転ナデ	オサエ後ナデ、回転ナデ、ナデ	
761	流路08	Ⅷ区		黑色A 椀	(高台)7.0 (高台高)0.5	底部3/8	石英大・小微	内：2.5Y2/1黒 外：2.5Y8/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	
762	流路08	Ⅷ区		黑色A 椀	(口)14.7	底部2/8	石英大・中少・長石・赤色粒子小微	内：N3/暗灰 外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(体)オサエナデ(底)(高)回転ナデ、高台貼付	
763	流路08	Ⅷ区		黑色B 椀	(口)15.8	口縁部1/8	石英・長石小少	内外：2.5Y2/1黒褐	回転ナデ、ハラミガキ	回転ナデ、ハラミガキ	
764	流路08	Ⅷ区		黑色B 椀	(口)15.6	口縁部2/8	石英中・小少・長石中微	内外：5Y2/1黒	回転ナデ、ハラミガキ	回転ナデ、ハラミガキ	
765	流路08	Ⅷ区		黑色B 椀	(口)16.0	口縁部2/8	石英中・小少・長石中微	内外：5Y2/1黒	回転ナデ、ハラミガキ	回転ナデ、ハラミガキ	
766	流路08	Ⅷ区		黑色B 椀	(口)16.0	底部1/8	金雲母小微・長石大・小少	内外：2.5Y3/1黒褐	回転ナデ	回転ナデ、ナデ	
767	流路08	Ⅷ区		山茶 椀		1/8	長石大・中微	内外：2.5Y7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	
768	流路08	Ⅷ区		瓦器 椀		口縁部小片	石英中・小微・長石小微	内外：N8/灰白	マメツ、ハラミガキ、マメツ	マメツ、オサエ	口縁部内面沈線1条 補葉
769	流路08	Ⅷ区		瓦器 椀		口縁部3/8	石英中・小少・長石中・小微	内外：N6/灰	(口)ヨコナデ、ハラミガキ(体)ハラミガキ	(口)ヨコナデ、ハラミガキ(体)ハラミガキ後オサエ	補葉
770	流路08	Ⅷ区		瓦器 椀	(口)16.4	口縁部小片	石英・長石小微	内：N4/灰 外：N5/灰	ヨコナデ、ハラミガキ	ヨコナデ、オサエ後ナデ	
771	流路08	Ⅷ区		瓦器 椀	(口)17.4	口縁部3/8	石英中・小少・長石中・小微	内外：N6/灰	(口)ヨコナデ、ハラミガキ(体)ハラミガキ	(口)ヨコナデ、ハラミガキ(体)ハラミガキ後オサエ	補葉
772	流路08	Ⅷ区		瓦器 椀		口縁部1/8	長石中・小微	内外：2.5Y7/1灰白	(口)ヨコナデ(体)ナデ後ハラミガキ	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ハラミガキ	
773	流路08	Ⅷ区		瓦器 椀		小片	長石小少	内：N5/灰 外：N4/灰	ハラミガキ	ナデ、オサエ	補葉
774	流路08	Ⅷ区		瓦器 椀	(口)14.8	口縁部3/8	長石中少	内：5Y7/1灰白 外：5Y7/1灰白・5Y8/1灰白	マメツ	(口)マメツ(体)オサエ	
775	流路08	Ⅷ区		瓦器 椀	(口)15.1	口縁部1/8	石英小微・長石中・小少	内外：N5/灰	(口)ヨコナデ、ハラミガキ	(口)ヨコナデ、ハラミガキ	
776	流路08	Ⅷ区		瓦器 椀	(口)16.0	口縁部1/8	石英中・小微・長石中・小少	内外：N4/灰	(口)ヨコナデ(体)ハラミガキ	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ハラミガキ	

遺物番号	報告遺構名	調査区	出土状況	器種	法量	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
777	777 流路08	Ⅲ区	(口)17.1 (高台)5.7 (高台高)0.6	瓦器 椀	1/8	石英・長石大～小 微、赤色 粒子小	内外：N6/灰	(口)ヨコナデ(体)ナ デ後ヘラミ ガキ(底)ナデ(高)ヨ コナデ	(口)ヨコナデ(体)オ サエ後ヘラ ミガキ(高)ヨコナ デ		
778	778 流路08	Ⅲ区	(高台)5.4 (高台高)0.6	瓦器 椀	底部3/8	石英大・小 微、長石大～小	内外：N5/灰	ハラミガキ	ハラミガキ		
779	779 流路08	Ⅲ区	(高台)5.1 (高台高)0.6	瓦器 椀	口縁部2/8	石英中・小 微、長石中少	内外：N5/灰	ハラミガキ	ヨコナデ、ナ デ		
780	780 流路08	Ⅲ区	(高台)5.1 (高台高)0.6	瓦器 椀	口縁部2/8	長石少	内外：N3/暗灰	ハラミガキ	ヨコナデ、ナ デ		楠葉か
781	781 流路08	Ⅲ区	(高台)6.6 (高台高)0.5	瓦器 椀	口縁部2/8	長石少	内外：N3/暗灰	ハラミガキ	ヨコナデ、ナ デ		楠葉か
782	782 流路08	Ⅲ区		白磁 椀	小片	長石小 微	胎：N8/灰白 釉：白磁釉7.5Y7/1 灰白	回転ナデ後施 釉	回転ナデ後施 釉		
783	783 流路08	Ⅲ区	(口)17.2	白磁 椀	1/8	長石小 微	胎：7.5Y7/1灰白 釉：白磁釉2.5Y7/2 灰黄	回転ナデ後施 釉	回転ナデ後施 釉		
784	784 流路08	Ⅲ区	(高台)6.4 (高台高)0.4	白磁 椀	小片	長石小 微	胎：N8/灰白 釉：白磁釉7.5Y7/1 灰白	回転ナデ後施 釉	回転ナデ後施 釉、高台部量付露 胎		
785	785 流路08	Ⅲ区	(口)24.0	須恵 壺	口縁部3/8	石英・長石中・小 少	内外：N6/灰	回転ナデ	回転ナデ、格 子タタキ後ナ デ、回		十瓶
786	786 流路08	Ⅲ区		須恵 甕	体部小片	石英大少、長石中・小 少	内：2.5Y2/1黒・10YR6/4に ぶい黄橙 外：2.5Y2/1黒	板ナデ、ナ デ	格子タタキ		亀山か
787	787 流路08	Ⅲ区	(口)37.2(推定)	土師 甕	体部1/8	金象母中・小 微、石英大 少、長石大 少、赤色 粒子中・小 微	内：10YR5/2灰黄 外：10YR4/1 褐灰	(口)ヨコナ デ(体)オサ エ	(口)ヨコナ デ(体)格 子タタキ		
788	788 流路08	Ⅲ区		須恵 鉢	口縁部小片	石英中・小 少、長石中・小 少	内外：N4/灰	回転ナデ	回転ナデ、格 子タタキ		十瓶
789	789 流路08	Ⅲ区	(口)34.8	須恵 片口	口縁部小片	石英大・中 少、長石中・小 少	内外：N5/灰	回転ナデ、ナ デ	回転ナ デ		十瓶

第14表 寺田・産宮遺跡出土瓦観察表

遺物番号	報告遺構名	調査区	出土状況	器種	胎土	色調	凹面調整	凸面調整	備考
363	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	瓦	石英・長石大・中 普	凹：10YR7/3にぶい黄橙 凸：2.5YR6/6橙	ナデ	タタキ	
383	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ④層	瓦	石英大・中少、長石大～小 普	凹：7.5YR8/1灰白・5YR7/6橙 凸：5Y7/1灰白・7.5YR7/6橙	布目	ナデ	
431	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	瓦	石英大・中少、長石大～小 少、赤色 粒子大・中 少	凹：5Y5/1灰 凸：2.5Y8/1灰白・2.5Y7/1 灰白	布目、ハケ	ナデ	
432	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	瓦	金象母・石英中 微、長石大 少	凹凸：2.5Y7/1灰白・5YR7/4に ぶい橙	マメツ	マメツ	
529	第2低地帯	Ⅲ区		須恵質瓦	石英大～小 少、長石大～小 普	凹凸：5Y6/1灰	布目	ナデ、マメツ	
616	第3低地帯流路04	Ⅳ区		須恵質瓦	石英・長石中・小 少	凹凸：N6/灰	布目	ナデ	
710	第3低地帯流路06	Ⅳ区		須恵質平瓦	石英・長石大～小 普	凹：N6/灰 凸：5Y8/1灰白	布目	タタキ	
711	第3低地帯流路06	Ⅳ区		須恵質瓦	石英大～小 少、長石中・小 普、赤色 粒子大～小 少	凹：N6/灰 凸：N7/灰白	布目	板ナデ	
790	第3低地帯流路08	Ⅳ区		須恵質丸瓦	石英大・中 普、長石大・中 多	凹凸：2.5Y4/1黄灰	布目	ナデ	
791	第3低地帯流路08	Ⅳ区		須恵質軒丸瓦	石英大～小 少、長石大～小 普	凹：5Y6/1灰 凸：N6/灰	布目	板ナデ、ナ デ	

第15表 寺田・産宮通遺跡出土木製品観察表

遺物番号	報告遺構名	調査区	出土状況	種類	木取り	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	備考
312	SE01	Ⅳ区		木札	板目材	6.9	3.9	0.4		
313	SE01	Ⅳ区		桃核		1.9	2.7	1.5		重量 2.12 g
314	SE01	Ⅳ区		桃核		1.8	2.7	1.5		重量 2.17 g
530	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	鍛未製品	柁目材	24.1	17.1	5.2		樹皮が残っている
531	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	鍛未製品	板目材	35.0	21.2	4.9		樹皮が散漫に残っている
532	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	鍛	柁目材	13.8	7.9	3.7		舟形隆起片
533	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	板材	柁目材	23.0	11.6	1.4		
534	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②～④層	板材	柁目材	16.0	5.2	3.2		
617	流路04	Ⅷ区	下層	不明	柁目材	40.7	16.2	1.5		
618	流路04	Ⅷ区	下層	不明	柁目材	25.1	12.6	2.5		
619	流路04	Ⅷ区	下層	不明	柁目材	6.7	8.3	1.3		
620	流路04	Ⅷ区	木製品集積遺構02	鍛未製品	柁目材	30.3	21.5	4.3		
621	流路04	Ⅷ区	木製品集積遺構02	鍛未製品	柁目材	34.8	21.7	4.7		
622	流路04	Ⅷ区	木製品集積遺構02	匙	芯持ち材	29.0	9.1	2.5		芯が通っている
623	流路04	Ⅷ区	木製品集積遺構02	匙	芯持ち材	35.2	6.5	1.9		芯が通っている
624	流路04	Ⅷ区	木製品集積遺構02	匙	芯持ち材	32.6	9.0	3.6		芯が通っている
625	流路04	Ⅷ区	下層	杵?	芯持ち材	31.0	7.9	7.2		
626	流路05	Ⅷ区		杭	芯持ち材	24.8	6.8	5.6		
627	流路05	Ⅷ区		杭	芯持ち材	52.5	5.3	4.8		樹皮が散漫に残っている
628	流路05	Ⅷ区		杭	芯持ち材	55.5	4.5	2.7		
629	流路04	Ⅷ区	下層	板状木製品	柁目材	37.7	11.0	3.8		
630	流路04	Ⅷ区	下層	板状木製品	柁目材	50.5	6.9	3.3		一部炭化
631	流路04	Ⅷ区	下層	板状木製品	板目材	62.4	8.0	1.3		
632	流路04	Ⅷ区	下層	板状木製品	柁目材	29.7	5.7	1.2		
633	流路04	Ⅷ区	下層	板状木製品	柁目材	148.0	10.2	4.5		ミカン割材

第16表 寺田・産宮通遺跡出土石器観察表

遺物番号	報告遺構名	調査区	出土状況	器種	石材	幅(mm)	長さ(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	残存度	備考
17	SH02	I区		石錐	サヌカイト	33.0	12.0	4.0	1.82		
18	SH02	I区		楔形石器	サヌカイト	42.0	28.5	13.0	16.99		
19	SH02	I区		石包丁 鈎用楔形石器	サヌカイト	34.0	18.5	7.5	4.97		
20	SH02	I区		楔形石器の素材	ハリ質安山岩	28.0	25.5	10.5	7.22		
21	SH02	I区	SP67	削器	サヌカイト	58.5	30.0	7.0	10.71		
22	SH02	I区		削器	サヌカイト	28.0	43.5	6.0	8.77		
34	SH03	II区		石包丁	サヌカイト	51.5	32.0	6.0	12.33	1/2	
83	SH06	II区		石鏃	サヌカイト	24.0	13.0	4.0	1.18		
87	SP66	I区		楔形石器	サヌカイト	36.5	23.5	6.0	6.55		
108	SX01	I区		石鏃	サヌカイト	19.5	13.5	2.5	0.50		
125	SB03	II区	SP52	槍先形石器	サヌカイト	20.0	26.5	7.0	4.28		
126	SB03	I区	SP50	石小刀	サヌカイト	30.5	21.0	8.0	4.56		
167	SD02	I区		石包丁	サヌカイト	43.5	49.5	8.0	21.12		
222	包含層	II区	II⑬層	石鏃	サヌカイト	38.5	14.5	3.5	1.58		
223	第1低地帯	I区	II③・④層	石鏃	サヌカイト	34.0	14.5	4.5	2.44		
224	第1低地帯	I区	II③・④層	石鏃	サヌカイト	22.5	16.5	3.5	1.80		
225	第1低地帯	II区	II③・④層	楔形石器	サヌカイト	35.0	21.5	8.5	6.26		
226	第1低地帯	I区	II③・④層	楔形石器	サヌカイト	29.0	25.5	10.5	7.63		
227	第1低地帯	I区	II③・④層	楔形石器削片	サヌカイト	26.5	14.0	8.5	2.83		
228	第1低地帯	I区	II③・④層	楔形石器削片	サヌカイト	37.0	11.0	7.0	2.71		
229	包含層	II区	II⑬層	縦長状の削片	サヌカイト	56.5	22.0	7.5	9.69		
230	第1低地帯	I区	II③・④層	調整削片	サヌカイト	29.0	24.5	9.0	6.29		
231	包含層	I区		削器	サヌカイト	42.0	43.5	10.0	20.48		
232	第1低地帯	I区	II③・④層	石核	サヌカイト	25.0	20.5	13.0	5.65		
233	第1低地帯	II区	II③・④層	柱状片刃石斧	結晶片石	151.5	35.5	19.0	228.46		
234	第1低地帯	I区		石製紡錘車未製品	流紋岩	63.0	59.0	11.5	64.48		
269	SP96	IV区		砥石	安山岩	205.0	96.0	41.0	1046.39		
311	SE01	IV区	下層	凹石	安山岩	75.5	80.0	29.0	216.13		
344	SE02	IV区		石鏃	サヌカイト	20.0	12.0	2.5	0.78		
345	SE02	IV区		楔形石器	サヌカイト	45.0	49.0	16.0	49.91		
346	SE02	IV区		大型蛤刃石斧	凝灰岩	52.0	47.5	32.0	68.98		
349	SX06	IV区		楔形石器の削片	サヌカイト	30.0	12.0	6.0	2.34		
535	第2低地帯	III区	II⑤層	石鏃	サヌカイト	17.5	13.5	1.5	0.39		
536	第2低地帯	III区	II⑥層	大型蛤刃石斧	安山岩	93.5	66.5	57.0	439.46		
537	第2低地帯	III区	II⑦層	磨石	半深成岩	66.5	50.5	46.0	217.24		
538	第2低地帯	III区	II④層	敲き石	砂岩	140.0	108.5	41.0	855.72		
539	第2低地帯	III区	II④・⑩層	砥石	砂岩	177.5	120.5	9.0	3258.00		
634	第3低地帯 流路04	VII区	上層	石鏃	サヌカイト	34.0	12.0	2.5	1.35		
635	包含層	VII区		石鏃	サヌカイト	23.5	18.0	4.5	1.01		

遺物番号	報告遺構名	調査区	出土状況	器種	石材	幅(mm)	長さ(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	残存度	備考
636	包含層	Ⅶ区		石鏃	サヌカイト	26.0	19.0	5.5	2.24		
637	第3低地帯流路04	Ⅷ区	上層	削器	サヌカイト	36.5	44.5	9.0	13.60		
638	包含層	V区		削器	サヌカイト	77.0	33.0	11.0	24.42		
639	第3低地帯流路04	Ⅷ区	下層	石錐	サヌカイト	31.5	65.0	6.0	14.83		
640	第3低地帯流路04	Ⅷ区	上層	楔形石器	サヌカイト	28.0	26.0	6.0	4.57		
641	第3低地帯流路04	Ⅷ区	上層	楔形石器の素材	サヌカイト	29.5	24.0	4.5	4.65		
642	第3低地帯流路04	Ⅷ区	上層	打製石斧	安山岩	84.0	63.5	13.0	98.14		
643	包含層	Ⅳ区		石包丁未製品	結晶片石	46.5	59.0	6.5	32.57		
644	第3低地帯流路04	Ⅷ区		石製紡錘車未製品	流紋岩	54.5	53.0	11.0	40.27		
645	第3低地帯流路04	Ⅷ区		敲き石	半深成岩	101.5	79.5	4.0	488.29		
646	第3低地帯流路04	Ⅷ区		敲き石	閃緑岩	141.0	42.0	22.0	236.24		
647	包含層	V区		敲き石	安山岩	63.0	28.0	18.5	56.37		
679	第3低地帯流路05	Ⅷ区		削器	サヌカイト	59.0	39.5	7.5	21.87		

県道高松長尾大内線道路改良事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

南天枝遺跡

2003.3

香 川 県 教 育 委 員 会
(財)香川県埋蔵文化財調査センター

第 I 章 調査の経緯と経過

第 1 節 調査に至る経緯

主要地方道高松長尾大内線（県道10号線）は、高松市から木田郡三木町、旧大川郡長尾町・寒川町・大川町を経て大内町で国道11号に合流する全長28kmの東讃地域の主要幹線道路である。しかし、近年の産業・経済の発展ならびに沿線における住宅地開発の急速な進展に伴い、交通量の増加は著しく、各所で交通渋滞が頻繁に起こるようになった。このため、土木部道路建設課（当時は道路課）は、本路線のバイパス（約22km）を現道の南約500mに建設する事になり、昭和48年度より寒川工区、昭和54年度より高松工区等より順次工事を開始した。

香川県教育委員会と土木部道路建設課は、路線上の埋蔵文化財の取り扱いについて、各工区単位で同路線のバイパス計画に関する事前協議を継続して行い、路線周辺に多数の遺跡が所在していることから、工事を実施する際には、十分な保護処置が必要であることの合意がなされ、昭和51年の布勢遺跡の調査を始点として、平成4年の長尾町尾崎西遺跡、平成6年の高松市十川東・平田遺跡、平成8・9年の三木町尾端遺跡等の諸遺跡の調査を実施した。

三木工区の西端の吉田川から高松市までの区間では平成6年度に至り用地買収が進んできたことから、同年11月に試掘調査を実施する事になった。その結果、対象地の東半部の微高地上から7～8世紀のピット群及び溝等を確認し、保護措置が必要と判断され『南天枝遺跡』と呼称する事になった。保護措置の必要な範囲は約3,800㎡を測る。なお、本調査は香川県土木部から依頼を受け、平成8年に香川県教育委員会が調査主体となり（財）香川県埋蔵文化財調査センターを調査担当者として調査を実施した。

第 2 節 調査の経過

調査期間は平成8年4月1日から平成8年11月31日までの8ヶ月間で実施した。調査対象面積は3,800㎡を測る。調査に先だって、対象地の調査区を東端より西端へ向けてⅠ～Ⅲ区に区分し、残土の仮置き場等の作業ヤードの問題より、東端のⅠ区－西端のⅢ区－中央のⅡ区の順で調査を進めた。なお、調査は機械掘削・人力掘削等を土木業者に請け負わせる工事請負方式で実施し、遺構の測量は調査員による手描と航空測量を併用した。対象地は当初より複数遺構面を想定していたが、調査開始後広範囲に複数遺構面が広がっていることが明らかになり、延べ調査面積も5,000㎡を超えた。遺構の密度も当初予想よりはるかに高いものになった。なお、詳細な調査工程は第17表のとおりである。

第17表 調査工程表

調査区	面積 (㎡)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
Ⅰ区	1,488	■	■	■	■				■
Ⅱ区	947	■					■	■	■
Ⅲ区	1,365	■				■	■		■
合計	3,800								

■ 準備・片付
□ 調査

次に整理作業は、調査終了後5年を経た平成13年12月1日から開始し、平成14年3月31日に終了した。
平成8年度の発掘調査及び平成13年度の整理作業の体制は、以下のとおりである。

(平成8年度)

文化行政課	(財)香川県埋蔵文化財調査センター
総括 課 長 藤原章夫	総括 所 長 大森忠彦
課長補佐 高木一義	次 長 小野善範
課長補佐 北原和利	総務 参 事 別枝義昭
副 主 幹 渡部明夫	係 長 前田和也
総務 係 長 山崎 隆	主 査 西村厚二 (6.1 転出)
主 査 星加宏明	主 査 水ト照代
主 事 國方秀子 (6.1 転出)	主任主事 西川 大
主 事 打越和美	主 事 佐々木隆司 (6.1 転入)
埋蔵文化財 文化財専門員 木下晴一	調査 参 事 近藤和史
技 師 塩崎誠司	主任文化財専門員 廣瀬常雄
文化財専門員 植松邦浩	主任文化財専門員 大山真充
	係 長 藤好史郎
	文化財専門員 西村尋文
	文化財専門員 山下浩行
	調査技術員 松尾 歩
	調査補助員 溝口幸一

(平成13年度)

文化行政課	(財)香川県埋蔵文化財調査センター
総括 課 長 北原和利	総括 所 長 小原克己
課長補佐 小国史郎	次 長 川原裕章
副 主 幹 大山真充	総務 参 事 河野浩征
総務 副 主 幹 中村禎伸	副 主 幹 大西誠治
主 査 須崎陽子	係 長 多田敏弘
主 事 亀田幸一	主 査 山本和代
埋蔵文化財 係長 西岡達哉	主任主事 高木康晴
文化財専門員 古野徳久	調査 参 事 梅木正信
文化財専門員 宮崎哲治	主任文化財専門員 廣瀬常雄
	主任文化財専門員 真鍋昌宏
	文化財専門員 西村尋文

(整理作業参加者)

東條俊子、三谷和子、松尾優子、徳永貴美、田村里美、門脇範子、松崎千春、香川洋子、白川智子

(編集・校正作業参加者)

葛西 薫、溝渕さや香、角田三保

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

南天枝遺跡が所在する三木町は、香川県東部の木田郡の南に位置する。西は高松市、東は旧大川郡長尾町、北は立石山山系を挟んで牟礼町及び旧大川郡志度町、南は塩江町と徳島県との県境に接する。三木町は、南北を山塊に囲まれ、中央は高松市から続く平野部が広がる。南方の阿讃山脈からはこの平野部に向かって多くの低丘陵が北に細長く延びる。この低丘陵間を吉田川・新川・春日川等の小河川が北流し、高松市域で瀬戸内海に注ぐ。なお、吉田川は高松市東辺の高松市前田町周辺で新川に合流する。南天枝遺跡は、高松市と三木町の境界より東へ延長800m、町道田中氷上線の北約20mの、木田郡三木町田中南天枝に所在する。



第118図 南天枝遺跡位置図

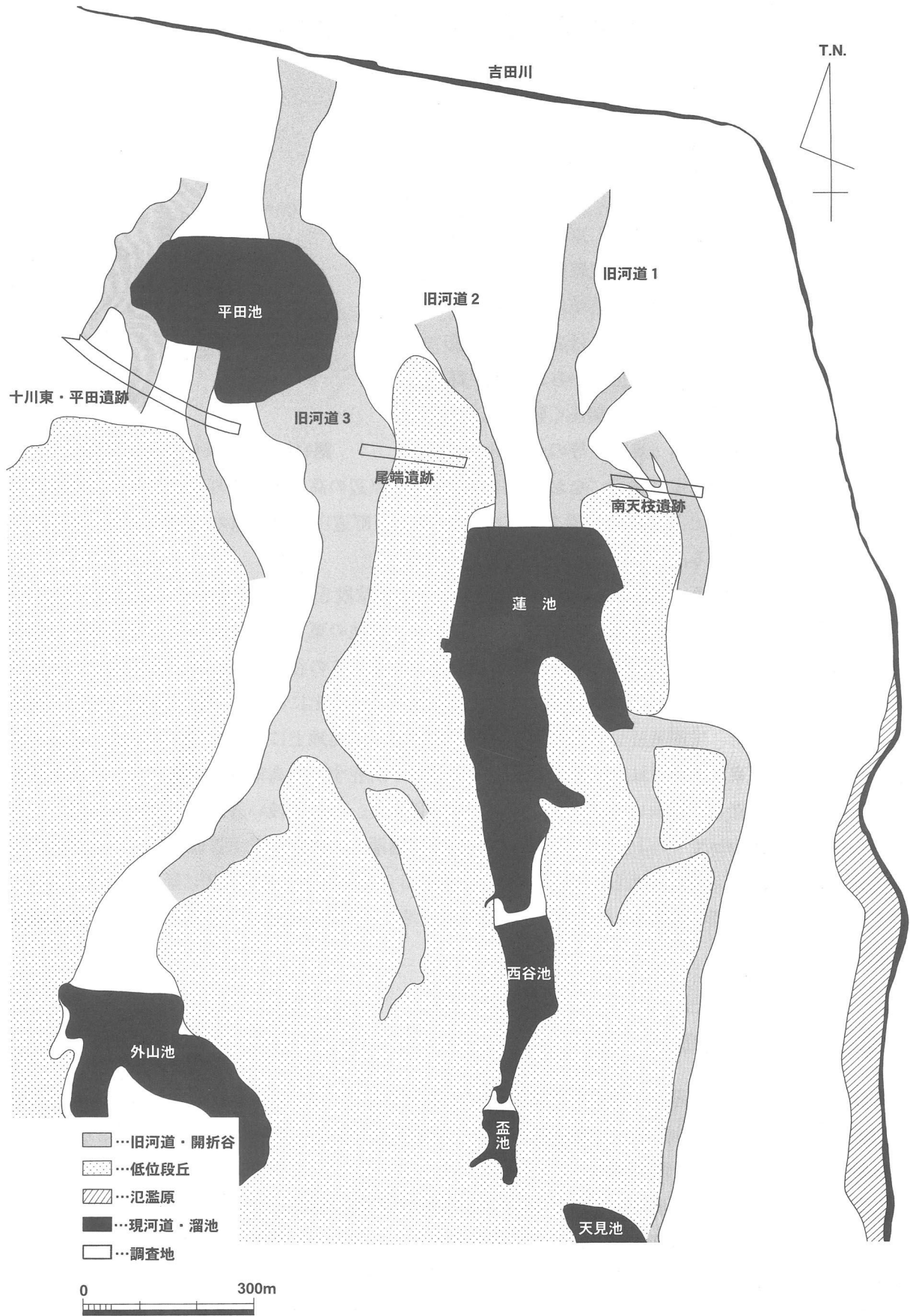
地形的には、遺跡の西に所在する蓮池の東岸を形成する低位段丘面先端の微高地上に位置する。また、遺跡の西側には、旧河道1が南北に延びる。旧河道1は、蓮池の東・西岸を構成する段丘間の谷筋の東縁辺部より、吉田川に向けて南北に延びている旧河道である。この谷筋の西の縁辺部には、小規模な旧河道2が南北に延びる。なお、蓮池の西岸に南北に派生する段丘上には、古墳時代後期末頃の集落跡である尾端遺跡、また、尾端遺跡より旧河道3を隔てた西方の微高地上には、弥生時代後期、鎌倉時代の集落跡である十川東・平田遺跡が所在する。南天枝遺跡が所在する微高地上の調査区は、現地表を観察する限り平坦で目立った特徴は見あたらないが、調査により、幅広で浅い谷が3条確認された。これらの浅谷は、北に向かって「ハ」の字状に開く浅い谷で、蓮池の東岸を形成する低位段丘の東縁辺部より調査地へ派生しているものと考えられる。その中で、浅谷3は調査区より北西方向に延びて、旧河道1と合流する。遺跡は浅谷間の微高地上に広がるが、浅谷の区域では谷の上面及び河床面上とで、複数の遺構面を確認した。

第2節 歴史的環境

本遺跡の所在する三木町は、弥生時代前期より古墳時代をへて古代～中世にいたるまで著名な遺跡が多数位置している。特に、近年の大規模開発に伴う発掘調査の成果により実態が明らかになりつつある。次に時代順に周辺の遺跡を概観する。

三木町内の旧石器時代の資料は皆無である。縄文時代も同様に皆無に近いが、隣接する高松市十川町の十川東・平田遺跡からは縄文草創期の有舌尖頭器が出土している。また、縄文時代の遺構かはっきりしないが、尾端遺跡、西浦谷遺跡から落とし穴状の遺構が数基検出している。

弥生時代になれば遺跡数も増えてくる。弥生時代前期では農学部遺跡、福万遺跡、鹿伏・中所遺跡等で前期の新段階の土器が多量に出土している。また、農学部遺跡では敷地の南半部に同時期の集落が展

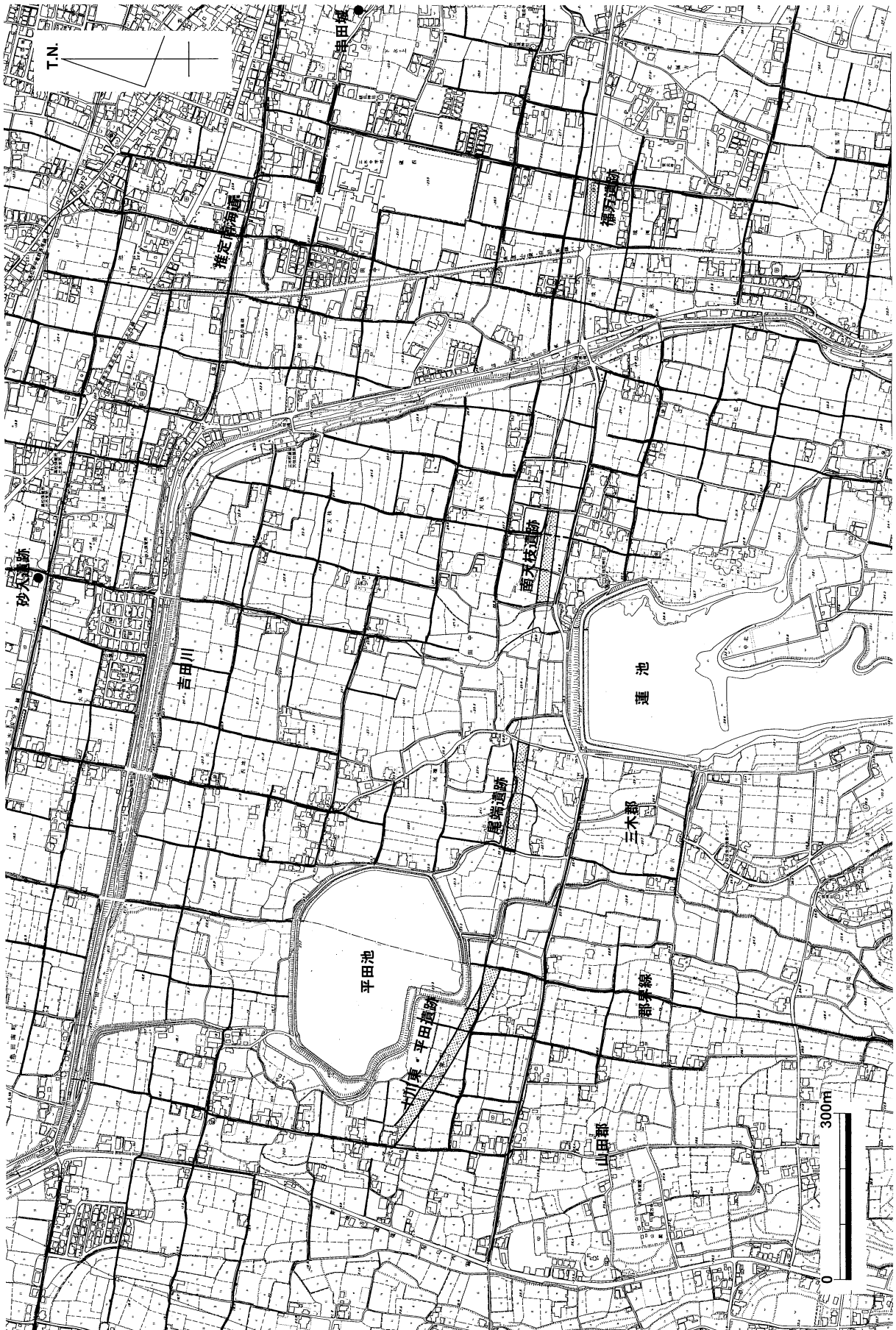


第119図 微地形分類図



- | | | |
|---------------|--------------|-------------------|
| 1. 南天枝遺跡 | 16. 白山1遺跡 | 31. 出之山南古墳 |
| 2. 前田城 | 17. 白山2遺跡 | 32. 四十塚古墳 |
| 3. 平尾1~3号墳 | 18. 白山3遺跡 | 33. 上田中城跡 |
| 4. 平尾小1~11号墳 | 19. 串田城 | 34. 雷塚古墳 |
| 5. 塚谷古墳 | 20. 農学部遺跡 | 35. 公淵池1号窯 |
| 6. 小谷窯跡 | 21. 砂入遺跡 | 36. 公淵池2号窯 |
| 7. 西浦谷遺跡 | 22. 西尾天神社古墳 | 37. 公淵池3号窯 |
| 8. 香蓮寺 | 23. 鯉宇神社経塚 | 38. 中坪城跡 |
| 9. 始覚寺跡 | 24. 西尾遺跡 | 39. 長楽寺跡 |
| 10. 権八原古墳群 | 25. 十川東・平田遺跡 | 40. 旧長楽寺跡 |
| 11. 池戸鍋淵遺跡 | 26. 尾端遺跡 | 41. 上高岡廃寺 |
| 12. 池戸八幡神社1号墳 | 27. 福万遺跡 | 42. 山大寺池西丘上古墳1~3号 |
| 13. 高岡城 | 28. 十河城跡 | 43. 西土居遺跡群 |
| 14. 鹿伏・中所遺跡 | 29. 鷺池南古墳 | 44. 西土居古墳群 |
| 15. 天神山古墳群 | 30. 出之山北塚 | |

第120図 遺跡分布図 (1/40,000)



第121図 南天枝遺跡周辺条里型地割復元図

開している可能性が指摘されている。弥生時代中期では、北方丘陵地域の西浦谷遺跡、白山2・3遺跡で中期後半の数棟の竪穴住居跡、平野部で鹿伏・中所遺跡の中期後半の数棟の竪穴住居跡などの集落跡が明らかになってきている。また、白山1遺跡では扁平紐式の銅鐸が出土しているのは著名である。なお、南方丘陵地域の西土居遺跡では同時期の多量の土器が出土している。弥生時代後期になると調査例も急増する。西浦谷遺跡、池戸鍋淵遺跡、砂入遺跡、西土居遺跡、鹿伏・中所遺跡等である。中でも鹿伏・中所遺跡は中期中葉～古墳時代前期までの竪穴住居跡が約70棟、掘立柱建物跡が約20棟程検出されており、当時の拠点的な集落跡と考えられる。弥生時代後期～終末の墳墓の調査例では、北部丘陵部に石蓋土坑の検出された西尾遺跡、配石土壙墓が確認された白山3遺、多くの土壙墓群からなる天神山古墳群、方形台状墓で土壙を主体部とする山大寺池西丘上1号墳等調査例は増加している。

古墳時代前期～中期前半の古墳の実態は不明瞭な点が多いが、唯一前期初頭に位置付けられる池戸八幡神社1号墳がある。古墳時代中期後半では権八原古墳群の古式の群集墳の調査例がある。古墳時代後期になると丘陵部に古墳群が各地築造される。主要な分布地域では、①白山一帯 ②鍛冶池一帯 ③諏訪山・カンカン山一帯 ④田中地区の蛇の角古墳群 ⑤田中の雷八幡神社一帯 ⑥朝倉の中谷古墳群 ⑦四十塚古墳群等に分かれるが未調査の古墳がほとんどで、その実態を明らかになるのはまだ先の話である。

古代の遺跡は白鳳期から奈良時代にかけて建立されたと考えられる始覚寺、香華寺、上高岡廃寺、長楽寺などの古代寺院がある。集落跡の調査も最近増加している。主なものでは本遺跡の調査例を含め、本遺跡に隣接する尾端遺跡などの7世紀頃の集落である。特に、本遺跡と尾端遺跡は長楽寺と同様に吉田川水系の遺跡であり今後その関係は注目される。また、北丘陵地域では7世紀を中心に操業した須恵器窯の小谷窯跡が最近調査されている。三木町の平野部は比較的条里型地割が明瞭に残っている地域である。本遺跡の西方では蓮池から延びる旧河道により条里の及んでいない地域もあるが、調査区の西端に南北方向と、調査区の南約20mの地点で東西方向の里境線が延びていて、本遺跡は里境線に隣接した遺跡といえる。そのため、条理型地割と集落の関係は、本遺跡を検討する上で重要な視点になってくる。

中世の三木町は守護の細川氏のもと、東讃の守護代に任じられた安富氏の領地となる。その後、三木町は長宗我部が讃岐に侵攻するまでの長期の間、安富氏の統治下におかれる。天正年間の長宗我部氏の侵攻にさいしては安富氏は、高松市十河城に拠点を置く十河氏を中心とした反長宗我部勢力に組する。そして、長宗我部の十河城攻めでは三木町は主戦場と化す。そのため、三木町周辺には当時の城館跡が多数存在する。主なものでは、高松市の十河城、前田城、神内城、由良山城、三谷城、三木町内では高岡城、平木城、大畠城、串田城等であるが、何れも調査例が乏しく内容は不明な点が多く、文献の中で語られているだけである。今後の調査例の増加に期待したい。また、城館同様に集落跡の調査例も少ない。本遺跡の中世集落、本遺跡に隣接する高松市十川東・平田遺跡の調査例が知られている程度であり今後の資料増加に期待がかかる場所である。

(参考文献)

三木町 1978 『三木町史』

三木町教育委員会 1998 「西浦谷遺跡」『三木町内遺跡発掘調査報告書』

三木町教育委員会 1999 「西土居遺跡群」『西土居工業団地用地造成に伴う埋蔵文化財調査概報』

香川県 1988 「第1巻通史編 原始・古代」『香川県史』四国新聞社

- 香川県 1988 「第2巻通史編 中世」『香川県史』四国新聞社
- 香川県教育委員会、(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1997 「南天枝遺跡・尾端遺跡」『平成8年度県道関係埋蔵文化財発掘調査概報』
- 香川県教育委員会、(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998 「尾端遺跡」『平成9年度県道関係埋蔵文化財発掘調査概報』

第Ⅲ章 調査の成果

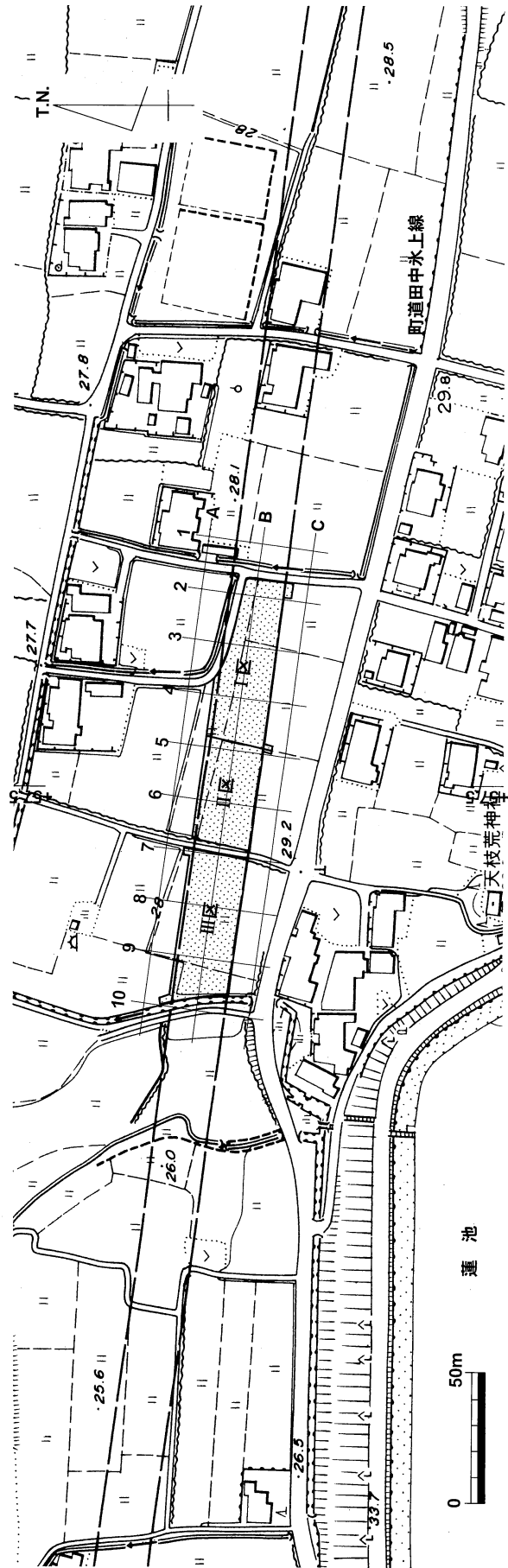
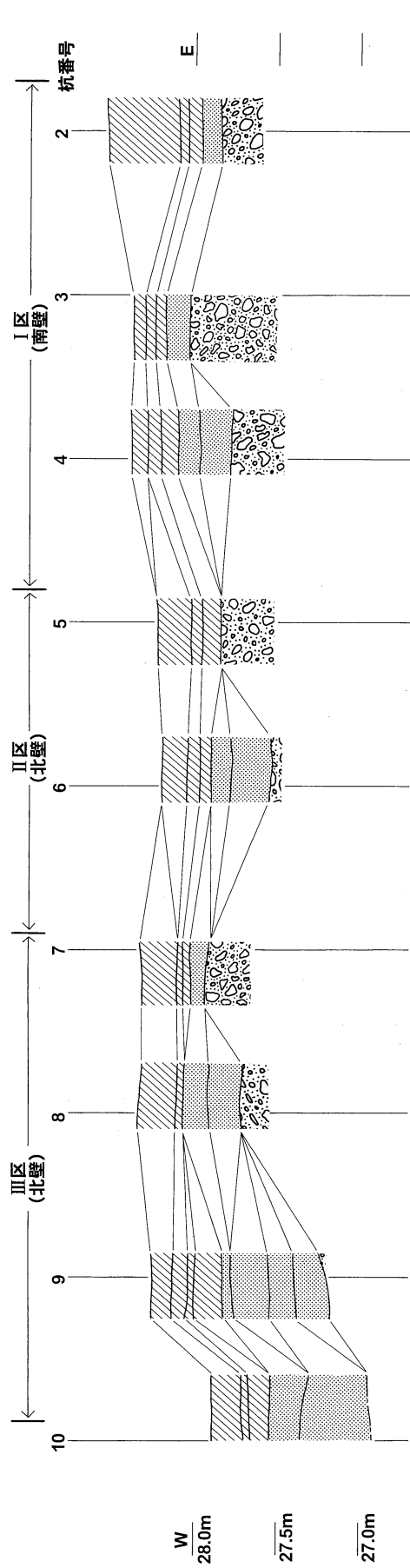
第1節 調査区

南天枝遺跡は、高松市と三木町の境界より東へ延長800m、町道田中氷上線の北約20mの木田郡三木町田中南天枝に所在する。調査区は東西に長く、幅約22m、延長170mを測る。その区間を西端より東端にかけて、Ⅰ区～Ⅲ区までの3区分して調査を実施した。Ⅰ区は東端部に位置し面積1,488㎡、Ⅱ区は中央の調査区で面積947㎡を測る。Ⅲ区は西端部に位置し面積1,365㎡を測る。また、調査着手後に計画が具体化した、周辺の水田に取り付く斜道部分については、本線部分より短く突出する形で調査区を設定し、調査を実施した。調査用のグリッドは、道路センターを基にグリッドを設定した。グリッドは20m方画で南北にアルファベット、東西に数字を付して、北東隅の杭名をグリッドの名称とした。

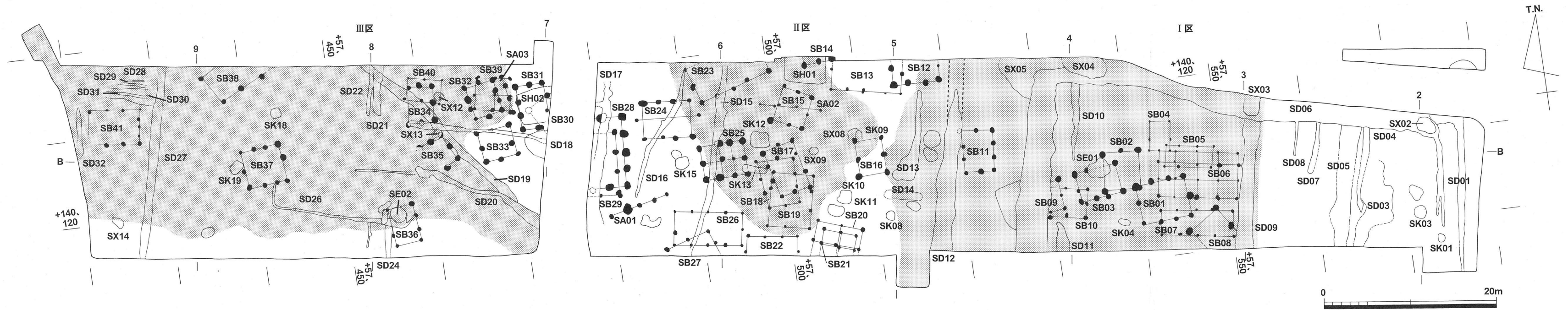
第2節 基本層位

遺跡が所在する微高地上は、現地表を観察する限り平坦で、目立った特徴は見あたらないが、大まかな傾向として、微高地西側に展開する、旧河道1の方向に向けて緩やかに傾斜する。微高地上には現地地形から分からない小規模な浅い谷状の地形が3地点で確認された。これら3つの浅谷は、北ないし北西方向に向かって「ハ」の字状に開き、同方向へ傾斜している。そして、結果的に微高地を3分している。西から東に向け浅谷1～3と呼称する事にする。先述したように、これらの浅谷は蓮池の東岸を形成する低位段丘の東縁辺部より調査地へ派生しているものと考えられる。その内、浅谷3は調査区より北西方向に延びて、旧河道1と合流する。

微高地の上面は削平を顕著に受けており、耕作土直下のTP27.8m程の高さで遺構面を検出した。微高地上からは ①古墳時代前期 ②古墳時代後期末～奈良時代初頭 ③鎌倉時代～室町時代前半 ④室町時代後半～江戸時代前半の集落を検出した。浅谷1～3では上層と下層とで2面の遺構面を確認した。上層では鎌倉～江戸時代前半の遺構、下層では主に古墳時代後期末～奈良時代初頭頃の遺構を検出した。浅谷の堆積層は、黒色・暗灰色系の粘土ないしシルト層より構成され、深さは地点により異なるが約0.3～0.7m程を測る。最終遺構面を構成するベース層は、浅谷1・2が砂層ないし砂質土で構成されているのを除けば、黄褐色の粘土ないしシルトによりなる。



第122図 調査区配置，基本層位柱状図



第123图 南天枝遺跡遺構概略図

第3節 遺構・遺物

1. 概要

前節で触れたように南天枝遺跡の所在する微高地には小規模な浅い谷状の地形が3地点で確認された。これら3つの浅谷は、北に向かって「ハ」の字状に開き、結果的に微高地を3分している。西から東に向け浅谷1～3と呼称する。微高地上からは①古墳時代前期 ②古墳時代後期末～奈良時代初頭 ③鎌倉時代～室町時代前半 ④室町時代後半～江戸時代前半の遺構を検出した。浅谷1～3では上層と下層とで2面の遺構面を確認した。上層では鎌倉時代～江戸時代前半の遺構、下層では古墳時代後期末～奈良時代初頭頃の遺構を検出した。なお、遺構の中で柱穴の占める割合はかなり高いものがある。特に浅谷1・2地域の遺構面上での柱穴の密度は蜂の巣状を呈し、これらの柱穴より整合性をもつ建物を抽出するには、現地作業から整理作業の段階まで試行錯誤を重ねた。その結果合計で41棟の建物を復元したが、まだ本来の数には至っていないものと考えられる。

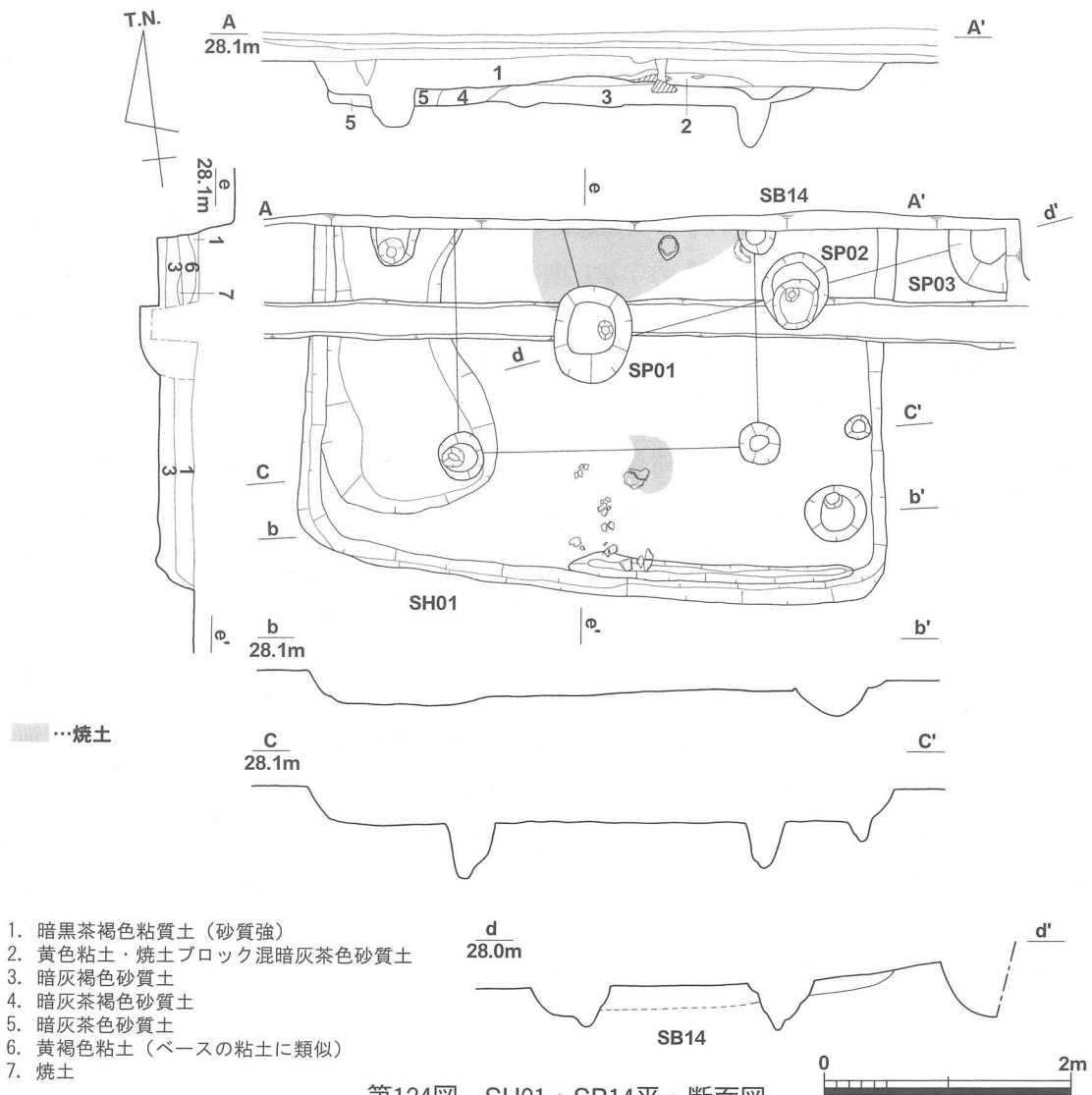
古墳時代前期の遺構は、少数ながら掘立柱建物・柱穴・溝等の諸遺構がⅠ・Ⅲ区で確認された。古墳時代後期末～奈良時代初頭の集落跡は主にⅠ区西半部～Ⅲ区東半部に展開している。集落を構成する主な遺構は竪穴住居跡・掘立柱建物・土坑・溝等であるが、主体を占めるのは掘立柱建物である。掘立柱建物は合計で20棟を検出した。鎌倉時代～室町時代前半の集落は主にⅠ区中央部、Ⅲ区に展開している。主な遺構は掘立柱建物・井戸・土坑・溝等である。掘立柱建物は合計で6棟を検出した。室町時代後半～江戸時代前半の集落は、ほぼ調査区全域で検出した。遺構・遺物とも最も多い時期である。主な遺構は掘立柱建物・井戸・土坑・溝・不整形遺構等である。掘立柱建物は合計で12棟を検出した。なお、Ⅰ区では、堀状の溝に区画された屋敷地を検出した。また、Ⅲ区東半部でも、区画溝で画された敷地に2棟の建物を配した小規模な屋敷地を検出した。

遺構に対して出土遺物の量は少ない。コンテナにして約45箱を数える程度である。主な遺物を時期的な点で分ければ、①弥生時代後期 ②古墳時代前期 ③古墳時代後期～奈良時代前半 ④平安時代⑤鎌倉時代～室町時代前半 ⑦室町時代後半～江戸時代前半等に分けられるが、弥生時代・平安時代のものは遺物だけであり、調査地周辺にこの時期の遺跡が展開する可能性が指摘できる。

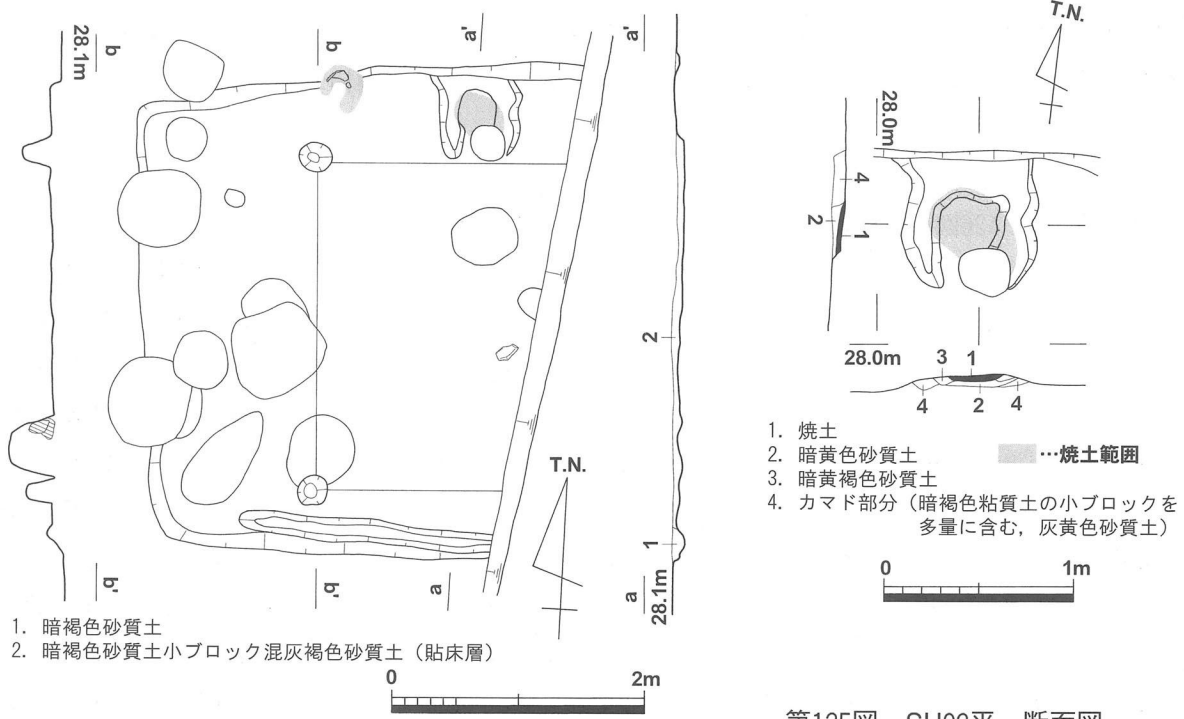
2. 竪穴住居跡

SH01 (第124・126図, 図版59・71)

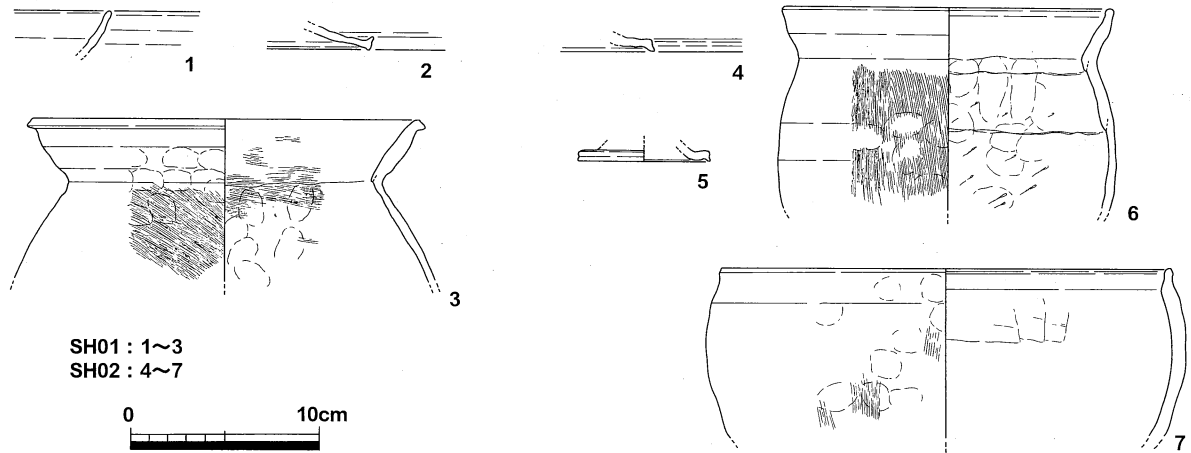
Ⅱ区中央の北壁際のA5区で検出した方形の竪穴住居跡である。住居跡の北辺は対象地より外れるため、全体の3/4を検出した。径約4.8m、深さ約0.4m、面積は推定で約21.4m²、主軸方位はN6°Eを測る。住居の床面は2面検出でき、2次期の建て替えが考えられる。下層の一次床面では、推定4支柱穴のうち3支柱穴を確認した。径約0.4m、深さ約0.4mを測る。また、南辺には幅の狭い壁溝が部分的に配されている。上層の二次床面では、推定4支柱穴のうち南辺と北辺で各1基計2支柱穴を確認した。径約0.3m、深さ約0.2mを測る。床面中央には炭・焼土が0.7m×1.6mの範囲で広がっていて、おそらく竈の残骸と考えられる。また、床面西辺部では長径2.2m×短径1.2m×深さ0.1mを測る浅い落ち込みを検出した。出土遺物としては、土師器壺・甕、須恵器杯・高杯・甕等が少量出土している(第126図1～3)。(1～3)は上位の1次床面より出土した遺物である。(1)は須恵器の杯口縁部(2)は須恵器高杯の脚部である。(3)は土師器の甕上半部である。体部は丸味をもち、口縁部は外上方に延



第124図 SH01・SB14平・断面図



第125図 SH02平・断面図



第126図 SH01・02出土遺物

び端部は平坦に肥厚する。体部外面は斜め方向のハケ、内面はオサエ及びハケを施している。出土遺物よりSH01は7世紀前半頃の時期が考えられる。

SH02 (第125・126図, 図版65・66)

Ⅲ区の東壁際のA7区で検出した方形の竪穴住居跡である。住居跡の東辺は対象地より外れるため、全体の1/2を検出した。長径約4.0m×短径約3.8m、深さ約0.1m、面積は推定で約27.5㎡、主軸方位はN2.5°Wを測る。北辺に残りの悪い造り付けの竈を備えている。主柱穴は推定4主柱穴のうち2主柱穴を確認した。径0.2m、深さ0.2mを測る。南辺には幅の狭い壁溝が部分的に配している。出土遺物としては、床面直上より土師器甕・鉢、須恵器杯・高杯・甕等が少量出土している(第126図4～7)。(4・5)は須恵器高杯の脚部片である。(6)は土師器甕の上半部である。体部は球体化し口縁部は外上方に延び端部は丸く収まる。体部外面は縦ハケ、内面は上半部オサエ、下半部ヘラケズリを施している。(7)は鉄鉢形の土師器の上半部である。出土遺物よりSH02はSH01同様7世紀前半頃の時期が考えられる。

3. 掘立柱建物跡

SB01 (第130図, 図版48)

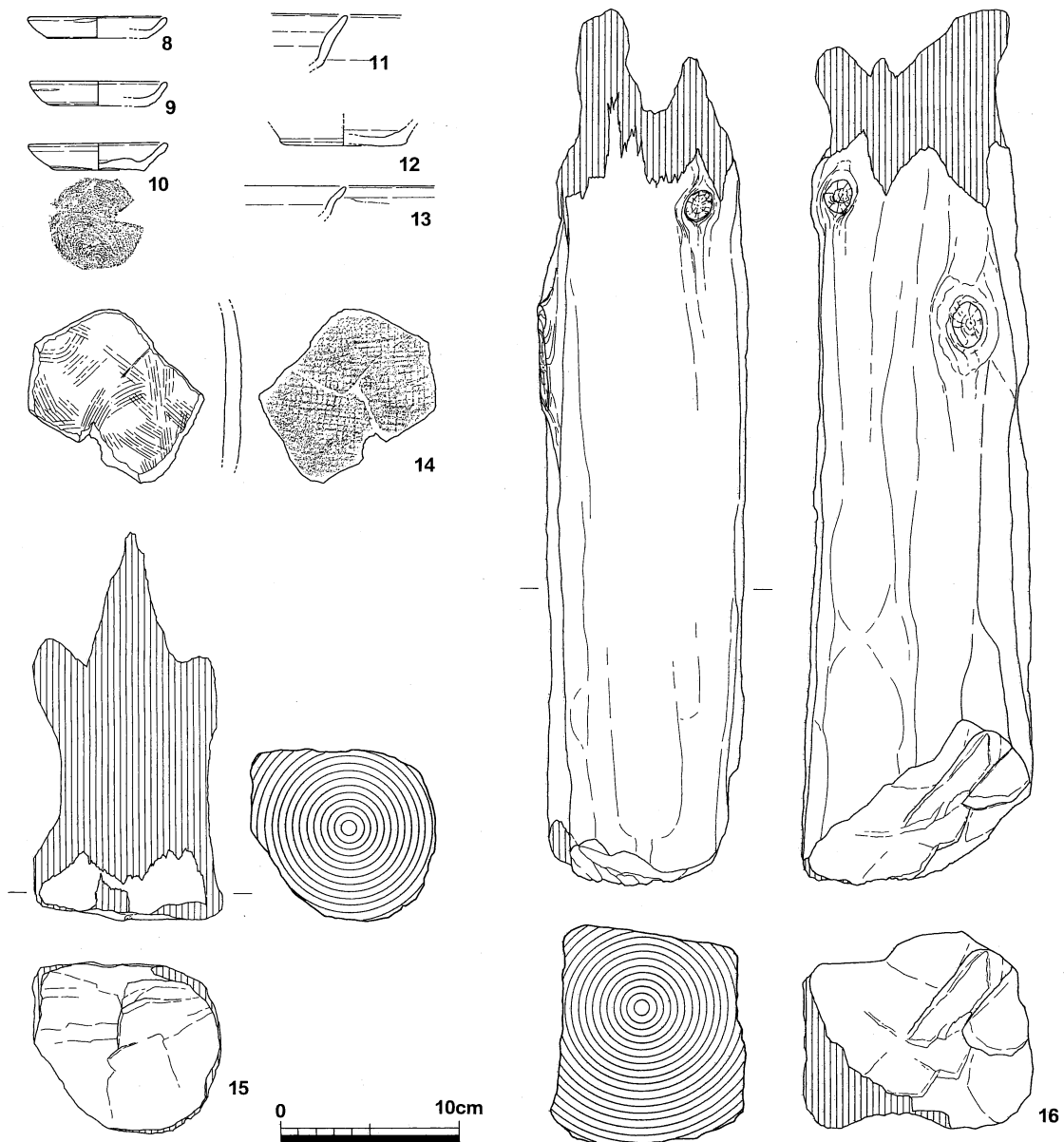
I区中央のB3区の下層遺構面上で検出した、東西棟の掘立柱建物である。隣接するSB02により北西隅の柱穴が切り込まれている。2間(4.5m)×3間(5.6m)、面積25.2㎡以上、主軸方位はN87°Eを測る。柱間は梁間2.0～2.5m、桁行1.9～2.0mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.4m～0.8m、深さ0.2～0.4mを測る。2柱穴で柱痕を確認した。出土遺物としては、土師器甕、須恵器杯、瓦器片等が少量出土していて、12世紀末～13世紀初頭頃の時期が考えられる。

SB02 (第130図, 図版50)

I区中央のB3区の下層遺構面上で検出した、南北棟の掘立柱建物である。隣接するSE01により、西側柱列が大きく切り込まれている。また、SB03の柱穴により南の棟持柱を切り込まれている。そのため、時期的な点ではSE01、SB03に先行する時期が考えられる。2間(4.0m)×1間(4.3m)、面積17.2㎡以上、主軸方位はN0°を測る。柱間は梁間3.3m、桁行1.3～1.9mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.5m～0.8m、深さ0.2～0.3mを測る。3柱穴で柱痕を確認した。出土遺物としては、土師器甕、須恵器甕片等が少量出土している。

SB03 (第131図, 図版50)

I区中央のB3区の下層遺構面上で検出した、東西棟の掘立柱建物である。隣接するSE01により、北側柱列が大きく切り込まれている。また、SB02の南の棟持柱を切り込んでいる。そのため、時期的な点ではSE01に先行し、SB02より後出する。2間(3.3m)×3間(4.9m)、面積16.2m²以上、主軸方位はN83°Eを測る。柱間は梁間1.4m~2.0m、桁行1.4m~1.9mを測る。柱穴堀形は不整円形を呈し、径0.5m~0.9m、深さ0.2m~0.4mを測る。2柱穴で柱痕を確認した。出土遺物としては、土師器杯・甕、須恵器甕片等が少量出土している。



第127図 掘立柱建物出土遺物(1)

SB04 (第131図, 図版48)

I区中央のA3区の上層遺構面上で検出した、南東隅でSB05と重複するが、柱穴が切り合わないため前後関係は検出時では確認できなかった。南北棟の掘立柱建物で、2間(2.5m)×2間(3.3m)以上、面積8.1㎡以上、主軸方位はN9°Eを測る。柱間は梁間1.2m~1.3m、桁行1.2m~2.1mを測る。柱穴堀形は円形を呈しかなり小型で、径0.2m、深さ0.1~0.4mを測る。

SB05 (第131図, 図版48)

I区中央のA・B3区の上層遺構面上で検出した、東西棟の掘立柱建物である。SB04・SB06と重複するが柱穴が切り合わないため前後関係は検出時では確認できなかった。1間(2.6m)×3間(5.0m)、面積12.8㎡以上、主軸方位はN80°Wを測る。柱間は梁間2.4m~2.5m、桁行1.4m~2.0mを測る。柱穴堀形は円形を呈しかなり小型で、径0.2m~0.4m、深さ0.1~0.2mを測る。

SB06 (第127・132図, 図版48・71・78)

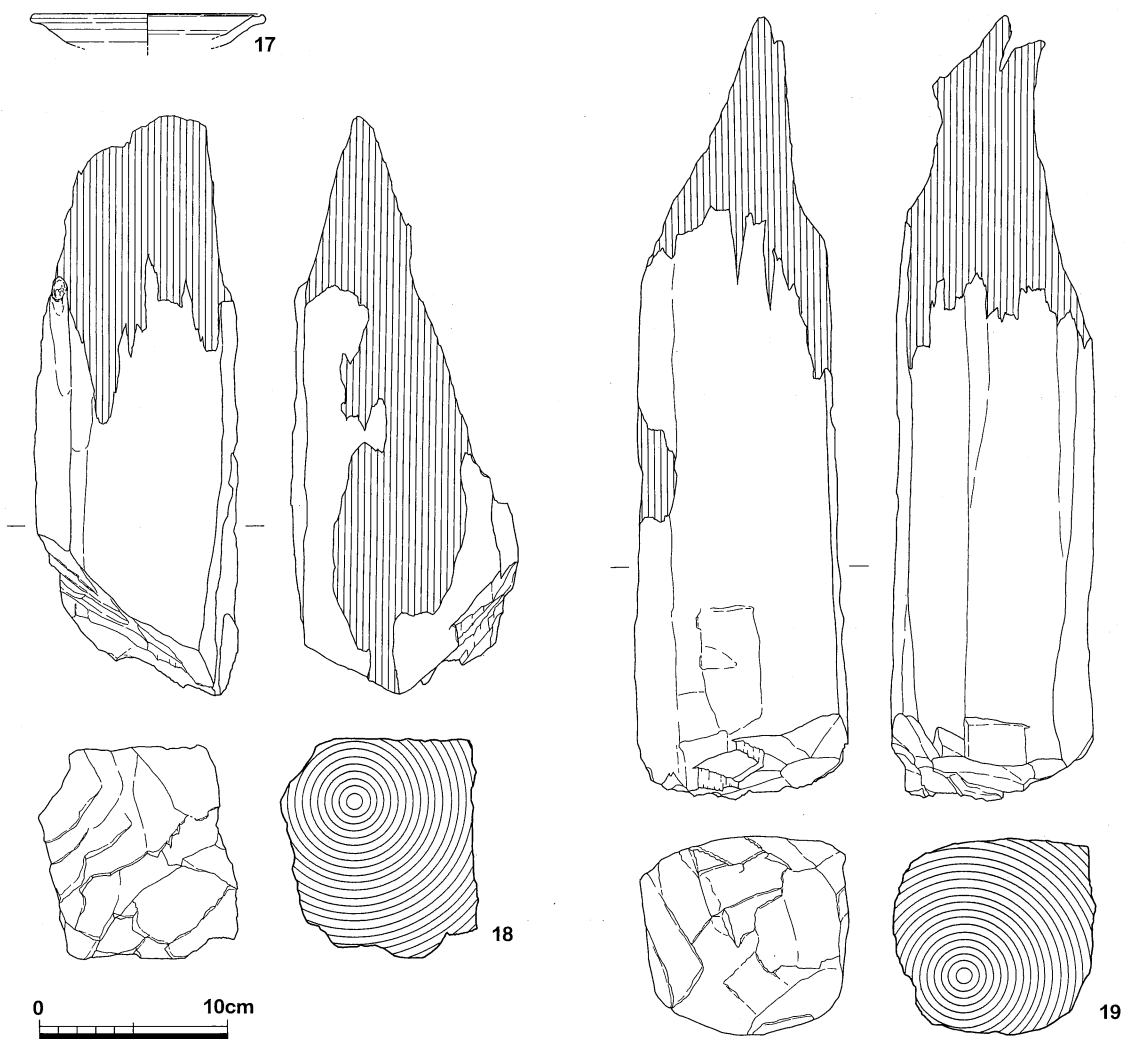
I区中央のB3区の上層遺構面上で検出した東西棟、北辺に庇を備えた大型の総柱の掘立柱建物である。2間(4.0m)×4間(9.3m)以上、面積37.2㎡以上、主軸方位はN80°Wを測る。柱間は梁間2.0m、桁行2.0m~2.5mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.2m~0.6m、深さ0.2m~0.8mを測る。2柱穴で柱痕の柱材を確認した。柱穴埋土は淡灰色系の砂質土である。庇は身舎の北辺より1.0m離れ4間分続く。出土遺物としては、土師器小皿・杯、須恵器甕、陶器片、柱材等が出土している(第127図8~16)。(8~10)は土師器の小皿である。(10)の底部には糸切り痕が顕著に残る。(11・12)は土師器の杯片である。(13)は青磁の皿口縁部である。横田・森田分類のI1b類にあたる。(14)は十瓶産の甕体部片である。(15)は柱穴から出土した柱材である。残りがかなり悪く、底部の外面の調整のみ観察できる。(16)は同じく柱穴から出土した柱材である。全体を角柱状に整形し、底部は斜め方向より切り離している。これらの出土遺物よりSB06は13世紀頃の時期が考えられる。

SB07 (第128・133図, 図版48・49)

I区中央のB3区の南壁際の上層遺構面上で検出した、東西棟の掘立柱建物である。隣接するSB08により柱穴が切り込まれている。2間(2.9m)×4間(8.3m)、面積24.1㎡以上、主軸方位はN81°Wを測る。柱間は梁間1.2m~1.5m、桁行1.8m~2.4mを測る。柱穴堀形は円形を呈しかなり小型で、径0.2m~0.4m、深さ0.2m~0.6mを測る。2柱穴で柱痕の柱材を確認した。出土遺物としては、土師器杯・椀・甕、須恵器杯・甕、唐津皿、柱材等が少量出土している(第128図17~19)。(17)は肥前系陶器の溝縁皿である。(18)は柱穴から出土した柱材である。角柱状に整形し底部は2方向より切り離している。(19)は同じく柱穴から出土した柱材である。断面隅丸形状に整形し、底部は多方向からの調整により切り離している。これらの出土遺物よりSB07は、SD06とほぼ同時期の17世紀頃の時期が考えられる。

SB08 (第129・133図, 図版49・71)

I区中央のB3区の南壁際の上層遺構面上で検出した、掘立柱建物である。南半部は対象地より外れるため、1/2程度を検出した。なお、この建物は北半部でSB07の柱穴を切り込んでいる。1間(2.6m)以上×1間(3.4m)以上、面積8.8㎡以上、主軸方位はN34°Wを測る。柱間は梁間2.6m、桁行3.4mを測る。柱穴堀形は円形を呈しかなり大型で、径0.4m~0.5m、深さ0.2mを測る。2柱穴で柱痕を確認した。柱穴埋土は2~3層に分かれる。出土遺物としては、土師器小皿・杯・土釜・鍋、十瓶産の甕、青磁椀等が少量出土している(第129図20~28)。(20・21)は土師器の小皿である。(22・23)は土師器の杯である。(22)の底部外面には静止糸切り痕を顕著に残す。(24)は7世紀初頭頃の須恵器の杯蓋で



第128図 掘立柱建物出土遺物（2）

混入品である。(25・26)は龍泉窯系の青磁碗の体部片である。(25)は横田・森田分類のI 5 a類(26)は横田・森田分類のI 5 b類にあたる。(26)外面には蓮弁文が認められる。(27)は13世紀中葉頃の十瓶産の小型の壺上半部である。体部外面に格子タタキ、口縁端部は平坦に仕上げている。(28)は土釜の脚部である。SB08は出土遺物では13世紀頃の時期が考えられるが、切り合いから見ればSB07より後出するため、17世紀以降の時期が考えられる。

SB09 (第134図)

I区の中央B3・4区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。西半部はSD06により切られているため、1/2程度を検出した。2間(3.4m)×2間(1.7m)以上、面積5.8m²以上、主軸方位はN81°Eを測る。柱間は梁間1.4m~2.0m、桁行1.7mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.3m~0.6m、深さ約0.2mを測る。

SB10 (第134図)

I区の中央B4区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。西半部はSD06により切られているため、1/2程度を検出した。2間(3.4m)×1間(2.5m)以上、面積8.6m²以上、主軸方位はN78°Wを測る。柱間は梁間1.5m~1.9m、桁行2.2m~2.5mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.3m~0.8m、深さ

約0.2mを測る。

SB11 (第135図, 図版50)

I区西端のA・B4区で検出した、南北棟の掘立柱建物である。この建物の西側柱列は、かなり内側に内傾しており、北の梁間に比べ南の梁間が狭い。2間(3.7m)×4間(6.1m)、面積22.6m²以上、主軸方位はN5°Eを測る。柱間は梁間1.8m、桁行1.5mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.4m~0.6m、深さ0.3m~0.4mを測る。柱穴埋土は2~3層に分かれる。

SB12 (第135図, 図版59)

I・II区との境界A4区で検出した、SB13と重複している東西棟の掘立柱建物である。北半部は調査地外に延びるため、約1/2を検出した。なお、SB13との前後関係は柱穴が切り合わないため検出時では確認できなかった。1間(2.0m)×2間(5.4m)、面積10.8m²以上、主軸方位はN90°Eを測る。柱間は梁間2.0m、桁行1.5m~2.0mを測る。柱穴堀形は隅丸方形ないし円形を呈し、径0.6m~1.0m、深さ0.2m~0.6mを測る。この建物からは遺物は出土しなかった。なお、この建物跡の北半部は、平成8年度に当調査区の北側を、三木町教育委員会が調査を実施した際に、連続する柱穴を確認している。

SB13 (第134図, 図版59)

II区中央の北端A4・5区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。北半部は調査地外に延びるため、約1/2を検出した。1間(2.3m)以上×4間(8.0m)、面積18.4m²以上、主軸方位はN78°Wを測る。柱間は梁間2.3m、桁行1.9m~2.5mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.2m~0.5m、深さ約0.4mを測る。出土遺物としては、土師器片等が少量出土している。なお、この建物の北半部は、平成8年度に当調査区の北側を三木町教育委員会が調査を実施した際に、連続する柱穴を確認している。

SB14 (第124図)

II区中央のA5区で検出した、SH01を切り込む南北棟の掘立柱建物である。1間(?m)以上×2間(3.3m)以上、主軸方位はN88°Eを測る。柱間は1.6m~1.8mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.5m~0.8m、深さ約0.3mを測る。なお、この建物跡の北半部は、平成8年度に当調査区の北側を三木町教育委員会が調査を実施した際に、連続する柱穴を確認している。

SB15 (第136図)

II区中央のA5区で検出した、南北棟の掘立柱建物である。2間(3.6m)×2間(4.1m)、面積14.8m²、主軸方位はN27°Eを測る。柱間は梁間1.5m~2.1m、桁行1.7m~2.2mを測る。柱穴堀形は円形ないし不整円形を呈し、大きさ的にはかなりバラツキがある。径約0.5m~0.9m、深さ約0.3mを測る。出土遺物としては、土師器・須恵器片等が数点出土している。

SB16 (第136図)

II区中央の東端A・B5区で検出した、南北棟の掘立柱建物である。1間(3.3m)×2間(4.1m)、面積13.5m²、主軸方位はN0°Wを測る。柱間は梁間3.3m、桁行2.0mを測る。柱穴堀形は不整円形を呈し、径0.5m~0.8m、深さ0.2m~0.7mを測る。出土遺物としては、土師器・須恵器片等が少量出土している。

SB17 (第137図, 図版60)

II区中央の北端A・B5区で検出した、SB18・19と重複する南北棟の掘立柱建物である。2間(3.5m)×3間(5.6m)、面積19.6m²以上、主軸方位はN15°Wを測る。柱間は梁間1.6m~1.9m、桁行1.5m~2.5mを測る。柱穴堀形は円形ないし不整円形を呈し、径0.2m~0.6m、深さ0.2m~0.5mを測る。出土遺物としては、土師器・須恵器片等が少量出土している。

SB18 (第129・137図, 図版60)

Ⅱ区の中央B5区で検出した、SB17・19と重複している南北棟の掘立柱建物である。この建物の西側柱列は、かなり内側に内傾しており、北の梁間に比べ南の梁間が狭い。SB17・19とは柱穴が切り合わない為その前後関係は検出時では確認できなかった。2間(4.4m)×3間(5.1m)、面積22.4m²以上、主軸方位はN0°Eを測る。柱間は梁間1.7m~2.7m、桁行1.6m~2.1mを測る。柱穴掘形は小型の円形を呈し、径0.2m~0.4m、深さ0.1m~0.2mを測る。出土遺物としては、土師器鍋、須恵器杯、磁器碗片等が少量出土している(第129図29・30)。(29)は肥前系の青磁碗の口縁部である。(30)は土師器の把手付鍋である。

SB19 (第129・138図, 図版60)

Ⅱ区の中央B5区で検出した、SB17・18と重複している南北棟の掘立柱建物である。SB17・18とは柱穴が切り合わないため、SB19との前後関係は検出時では確認できなかった。2間(4.8m)×3間(6.1m)、面積29.3m²以上、主軸方位はN12.5°Eを測る。柱間は梁間2.0m~2.8m、桁行1.6m~2.4mを測る。柱穴掘形は小型の円形を呈し、径約0.3m、深さ0.4m~0.6mを測る。出土遺物としては、土師器片、須恵器高杯・甕片等が少量出土している。(第129図31)は須恵器高杯の脚部である。

SB20 (第129・139図, 図版61)

Ⅱ区の東端B5区で検出した、SB21と重複している南北棟の総柱の掘立柱建物である。南半部は調査地外に延びるため、約1/2を検出した。SB21とはほぼ中央で重複するため、SB21とは建て替え関係にあるものと考えられる。なお、SB21との前後関係は柱穴が切り合わないため、検出時では確認できなかった。1間(2.5m)以上×2間(5.3m)、面積13.3m²以上、主軸方位はN20.5°Eを測る。柱間は梁間2.3m~2.5m、桁行2.5m~2.8mを測る。柱穴掘形は小型の円形を呈し、径約0.2m~0.4m、深さ約0.4mを測る。出土遺物としては、土師器杯片等が少量出土している。(第129図32)は土師器杯の口縁部片である。口縁は外上方へ外反し、端部を丸く仕上げている。

SB21 (第139図, 図版61)

Ⅱ区の東端B5区で検出した、SB20と重複している南北棟の総柱の掘立柱建物である。南半部は調査地外に延びるため、約1/2を検出した。SB20とはほぼ中央で重複するため、SB20とは建て替え関係にあるものと考えられる。なお、SB20との前後関係は柱穴が切り合わないため、検出時では確認できなかった。1間(1.6m)以上×2間(3.8m)、面積6.1m²以上、主軸方位はN20°Eを測る。柱間は梁間1.8m~2.0m、桁行1.6mを測る。柱穴掘形は小型の円形を呈し、径約0.4m、深さ約0.2mを測る。出土遺物としては、土師器・須恵器片等が少量出土している。

SB22 (第138図)

Ⅱ区中央の南端B5区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。南半部は調査地外に延びるため、約1/2を検出した。1間(1.8m)以上×3間(5.6m)、面積10.0m²以上、主軸方位はN81°Wを測る。柱間は梁間1.8m、桁行1.9mを測る。柱穴掘形は円形を呈し、径約0.2m~0.4m、深さ約0.6mを測る。出土遺物としては、土師器片、須恵器杯・甕片等が少量出土している。

SB23 (第139図, 図版61)

Ⅱ区中央の北端A5・6区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。北半部は調査地外に延びるため、約1/2を検出した。2間(4.2m)×4間(8.6m)、面積36.1m²以上、主軸方位はN71°Wを測る。柱間は梁間2.1m、桁行1.9~2.8mを測る。柱穴掘形は円形ないし不整円形を呈し、径0.6m~0.8m、深さ約0.4mを測る。出土遺物としては、土師器片等が少量出土している。なお、この建物跡は平成8年度

に当調査区の北側を、三木町教育委員会が調査を実施した際に、連続する柱穴を確認している。

SB24 (第129・140図)

Ⅱ区西端A 6区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。建物の主軸方向に棟持柱をもつ。1間(4.1m)×3間(5.6m)、面積23.0㎡、主軸方位はN85°Wを測る。柱間は梁間4.1m、桁行1.5~2.2mを測る。柱穴堀形は楕円ないし円形を呈し、径0.4m~1.0m、深さ約0.4mを測る。出土遺物としては、土師器甕、須恵器杯・壺片等が少量出土している(第129図33・34)。(33)は須恵器の杯口縁部片である。(34)は須恵器の提瓶ないし平瓶の口縁部である。少ない資料であるが、これらの出土遺物よりSB24は7世紀前半頃の時期が考えられる。

SB25 (第129・141図, 図版62)

Ⅱ区中央の北端A・B 5・6区で検出した、東西棟の総柱の掘立柱建物である。2間(4.0m)×3間(5.1m)、面積20.4㎡以上、主軸方位はN88°Wを測る。柱間は梁間2.0m、桁行1.5~2.4mを測る。柱穴堀形は円形ないし不整円形を呈し、径0.3m~1.0m、深さ0.3~0.6mを測る。出土遺物としては、土師器土釜、須恵器杯・高杯・甕等が少量出土している(第129図35・36)。(35)は須恵器杯蓋の口縁部で、内面にかえりを残す7世紀第二四半期頃の杯である。(36)は須恵器の甕口縁部である。なお、これらの資料は混入品で、中世の土釜などを見る限りSB25は16世紀頃の時期が考えられる。

SB26 (第129・140図, 図版62)

Ⅱ区の西半部B 6区で検出した、SB27と重複している東西棟の掘立柱建物である。SB27とは柱穴が切り合わないため、その前後関係は検出時では確認できなかった。2間(3.8m)×4間(7.8m)、面積29.4㎡以上、主軸方位はN80°Wを測る。柱間は梁間1.5m~2.0m、桁行1.8m~2.0mを測る。柱穴堀形は小型の円形を呈し、径約0.3m、深さ0.2m~0.6mを測る。出土遺物としては、土師器片・須恵器片・瓦器片・陶器片等が少量出土している(第129図37・38)。(37)は大谷焼きの陶器鉢(38)は天目茶碗の口縁部である。

SB27 (第141図, 図版62)

Ⅱ区の西半部B 6区で検出した、SB26と重複している東西棟の掘立柱建物である。SB26とは柱穴が切り合わないため、その前後関係は検出時では確認できなかった。1間(1.6m)以上×2間(5.2m)、面積8.3㎡以上、主軸方位はN73°Eを測る。柱間は梁間1.6m、桁行2.6mを測る。柱穴堀形は小型の円形を呈し、径0.4m、深さ0.2m~0.6mを測る。出土遺物としては、土師器片が少量出土している。

SB28 (第129・142図, 図版63)

Ⅱ区の西端A・B 6区で検出した、SB29と重複している南北棟の掘立柱建物である。西半部は調査地外に延びるため、約2/3を検出した。また、西半部ではSD03により大きく削り込まれているため、残りが悪い。切り合いよりSB29同様、SD17より先行することだけは確かである。2間(2.0m)以上×4間(8.0m)、面積32.0㎡以上、主軸方位はN4°Eを測る。柱間は梁間2.0m、桁行2.0mを測る。柱穴堀形は隅丸方形ないし不整円形を呈し、径0.6m~1.0m、深さ0.4m~0.8mを測る。出土遺物としては、土師器皿・甕、須恵器杯・甕等が少量出土している(第129図39~42)。(39~41)は7世紀第二四半期頃の須恵器の杯である。(42)は土師器甕の把手部である。少ない資料であるが、これらの出土遺物よりSB28は7世紀中葉頃の時期が考えられる。

SB29 (第129・142図, 図版63)

Ⅱ区の西端A・B 6区で検出した、南北棟の掘立柱建物である。西半部は調査地外に延びるため、約1/2を検出した。また、西半部ではSD17により大きく削り込まれているため残りが悪い。なお、こ

の建物はSB28と重複しているが、柱穴の切りあいが認められないため前後関係は確認できなかったが、SD17より先行することだけは確かである。1間(2.7m)以上×3間(7.4m)以上、面積20.0㎡以上、主軸方位はN4°Eを測る。柱間は梁間2.7m、桁行2.7mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.3m~0.6m、深さ0.2m~0.4mを測る。出土遺物としては、土師器甕、須恵器高杯・甕等が少量出土している。(第129図43)は須恵器の甕である。

SB30 (第129・143図, 図版66・67・71)

Ⅲ区北東端のA7区の東壁際で検出した掘立柱建物である。大部分が対象地より外れるため、約1/3を検出した。なお、この建物はSH02、SB31に切られている。1間(1.9m)以上×1間(2.5m)以上、面積4.7㎡、主軸方位はN80°Wを測る。柱間は梁間1.9m、桁行2.5mを測る。柱穴堀形は円形ないし隅丸方形を呈し、径0.4m~0.8m、深さ約0.2mを測る。出土遺物としては、土師器甕が少量出土している。なお、混入遺物として須恵器細片が1点出土している。(第129図44)はSP01から出土した、古墳時代前期頃の土師器の甕である。体部は長胴気味ながら球体化し、底部との境は鈍い稜を持つ。口縁部は外上方にラッパ状に開き端部平坦に仕上げている。外面は緻密なハケ、内面はオサエ後にヘラ削りを施している。時期的には「川入・大溝上層」頃の時期であろう。

SB31 (第129・143図, 図版66・67)

Ⅲ区北東端のA7区で検出した、南北棟の掘立柱建物である。この建物はSH02、SB30を切り込んでいる。2間(3.1m)×3間(5.1m)、面積15.8㎡、主軸方位はN3°Wを測る。柱間は梁間1.5~1.6m、桁行1.8mを測る。柱穴堀形は円形ないし隅丸方形を呈し、径0.6m~0.8m、深さ約0.3mを測る。出土遺物としては、土師器片、須恵器杯片等が少量ながら出土している(第129図45・46)。(45)は須恵器杯、(46)はサヌカイト製の凹基式の石鏃で混入品である。

SB32 (第129・143図, 図版67)

Ⅲ区北東端のA7区で検出した南北棟の掘立柱建物である。この建物はSB38と重複するが、層位的な点でSB38より先行する。2間(3.4m)×3間(3.8m)、面積は12.9㎡、主軸方位はN80°Eを測る。柱間は梁間1.7m、桁行1.3mを測る。柱穴堀形は円形ないし不整円形を呈し、径約0.4m~1.2m、深さ約0.2m~0.4mを測る。なお、この建物は南に隣接するSB33と配置・方向等で共通する点が多く、同一グループと考えられる。出土遺物としては、土師器高杯・甕、須恵器片等が少量ながら出土している(第129図47・48)。(47)は7世紀頃の土師器の杯片である。内面の細かいヘラ磨きが顕著に認められる。(48)は縄文土器の鉢片で混入品である。

SB33 (第129・144図, 図版67)

Ⅲ区北東端のA7区で検出した東西棟の掘立柱建物である。2間(3.3m)×2間(4.0m)、面積13.2㎡、主軸方位はN9°Wを測る。柱間は梁間1.4m~2.2m、桁行1.8m~2.2mを測る。柱穴堀形は不整円形を呈し、径約0.5m~0.8m、深さ約0.3mを測る。なお、この建物は北に隣接するSB32と配置・方向等で共通する点が多く、同一グループと考えられる。出土遺物としては(第129図49)の須恵器の甕の口縁部がある。

SB34 (第144図, 図版67)

Ⅲ区北東部のA7区で検出した南北棟の掘立柱建物である。2間(2.9m)×2間(4.2m)、面積12.1㎡、主軸方位はN30°Eを測る。柱間は梁間1.4m~1.6m、桁行2.0m~2.2mを測る。柱穴堀形は不整円形を呈し、径0.6m~0.8m、深さ約0.2mを測る。出土遺物は抽出できなかった。

SB35 (第144図)

Ⅲ区北東部のA・B7区で検出した掘立柱建物である。中央部に東西方向に攪乱坑が所在するため、約1/2検出した。2間(3.0m)×2間(3.3m)以上、面積9.9m²以上、主軸方位はN26°Wを測る。柱間は梁間1.5m、桁行1.7mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.6m~0.9m、深さ約0.4mを測る。出土遺物は須恵器片が微量出土した。

SB36 (第145図, 図版68)

Ⅲ区東半部のB7区で検出した、南北棟の掘立柱建物である。建物北半部はSE02により切り込まれている。1間(2.9m)×3間(4.3m)、面積12.5m²、主軸方位はN6°Wを測る。柱間は梁間2.9m、桁行1.3m~1.6mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.4m~0.5m、深さ約0.2mを測る。出土遺物としては、土師器片、須恵器杯片等が少量ながら出土している。

SB37 (第145図, 図版68)

Ⅲ区中央のA・B8区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。この建物の北側柱列はかなり内側に内傾しており、東の梁間に比べ西の梁間が狭い。2間(4.3m)×3間(4.5m)、面積19.3m²、主軸方位はN7°Wを測る。柱間は梁間1.7m~2.5m、桁行1.5mを測る。柱穴堀形は不整円形を呈し、径0.4m~0.8m、深さ約0.2mを測る。出土遺物としては、土師器片等が微量ながら出土している。

SB38 (第146図)

Ⅲ区中央のA8区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。調査区の関係で、約1/2のみ検出した。1間(3.1m)×2間(6.2m)以上、面積19.2m²以上、主軸方位はN70°Eを測る。柱間は梁間3.1m、桁行2.8m~3.4mを測る。柱穴堀形は大型で円形を呈し、径約0.7m、深さ約0.4mを測る。

SB39 (第146図, 図版69)

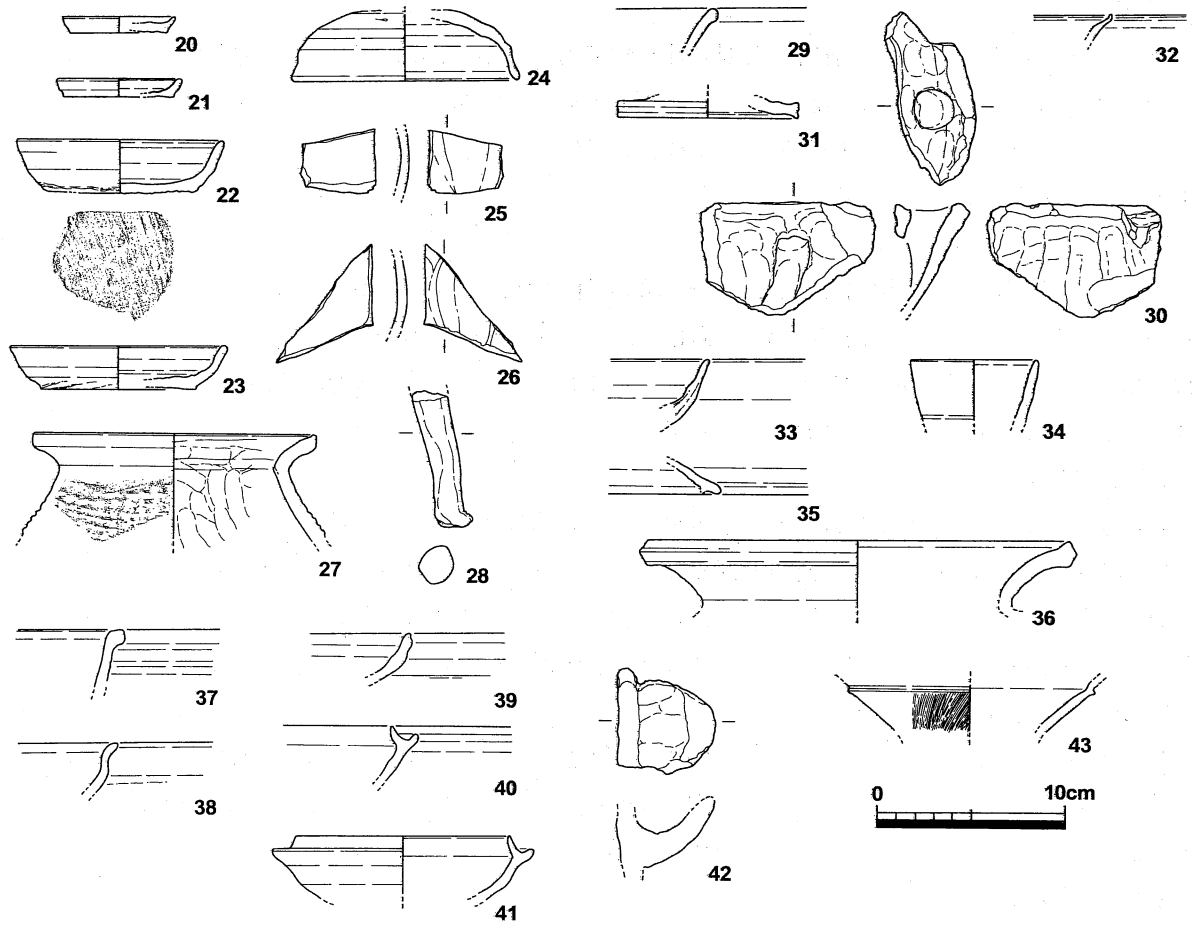
Ⅲ区の北東端A7区で検出した、SB32と重複する東西棟の総柱の掘立柱建物である。この建物とSB32と前後関係は層位的な点で、SB32が先行する。2間(4.0m)×2間(4.0m)、面積16.0m²、主軸方位はN11°Eを測る。柱間は梁間2.0m、桁行2.0mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.2m~0.5m、深さ0.2m~0.4mを測る。出土遺物としては、土師器甕、須恵器杯・甕、陶器片等が少量出土している。なお、この建物は隣接するSB40と共に、南北方向に直線状に伸びるSD21・22と東西方向に直線状に伸びるSD18により、周囲を画された範囲内に所在する。建物方向と溝の方向はほぼ同一であり、これらの遺構はほぼ同時期の屋敷地を構成する遺構群と考えられる。

SB40 (第129・147図, 図版69・80)

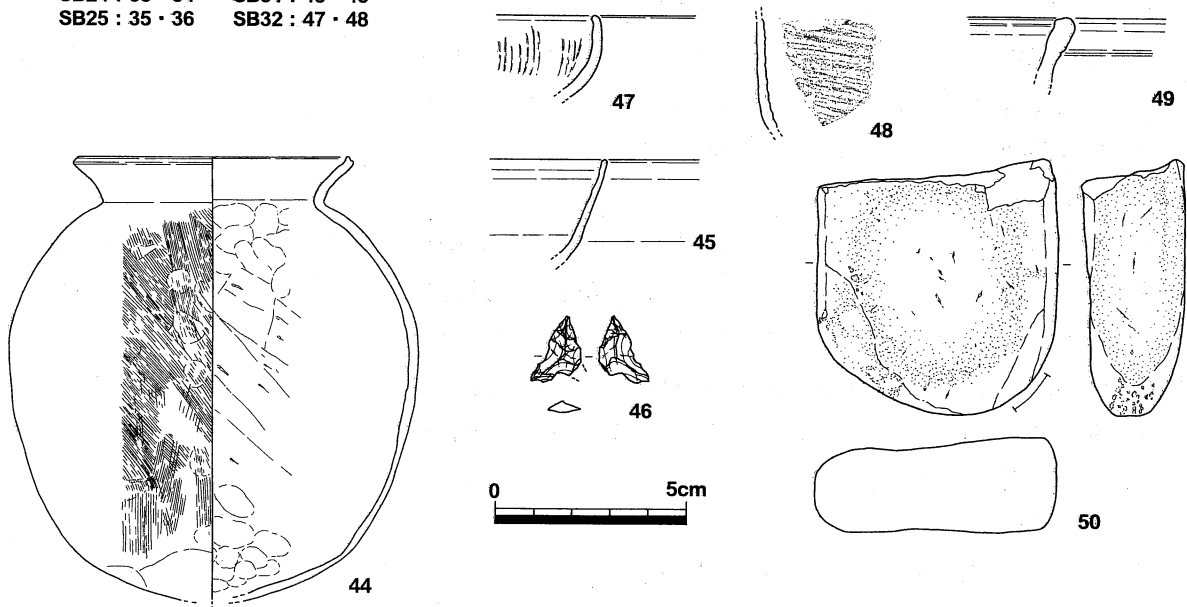
Ⅲ区の北東端A7区で検出した、SB34と重複する東西棟の掘立柱建物である。この建物とSB34と前後関係は層位的な点で、SB34が先行する。1間(2.6m)×2間(4.0m)、面積は10.4m²、主軸方位はN12°Eを測る。柱間は梁間2.6m、桁行2.0mを測る。柱穴堀形は小型の円形を呈し、径0.2m~0.4m、深さ約0.5mを測る。なお、この建物は隣接するSB39、SD18・21・22等伴に、ほぼ同時期の屋敷地を構成する遺構群と考えられる。出土遺物としては、土師器土釜、須恵器片等が少量出土している。(第129図50)は柱穴から出土した砥石である。

SB41 (第147図, 図版69)

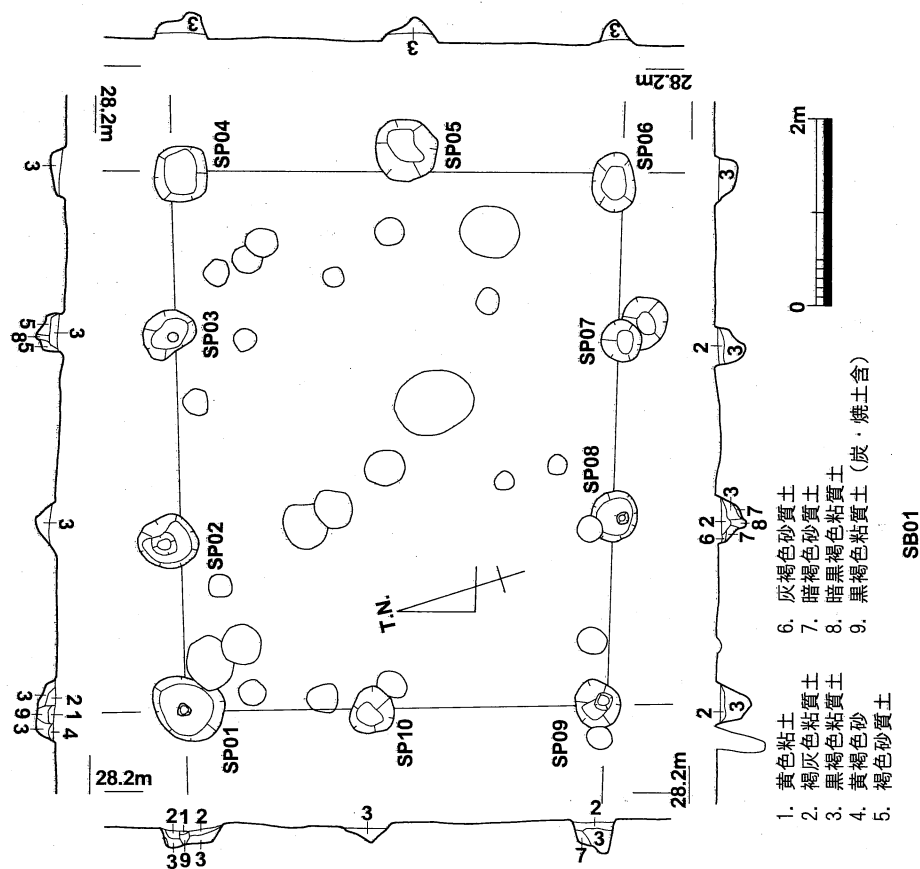
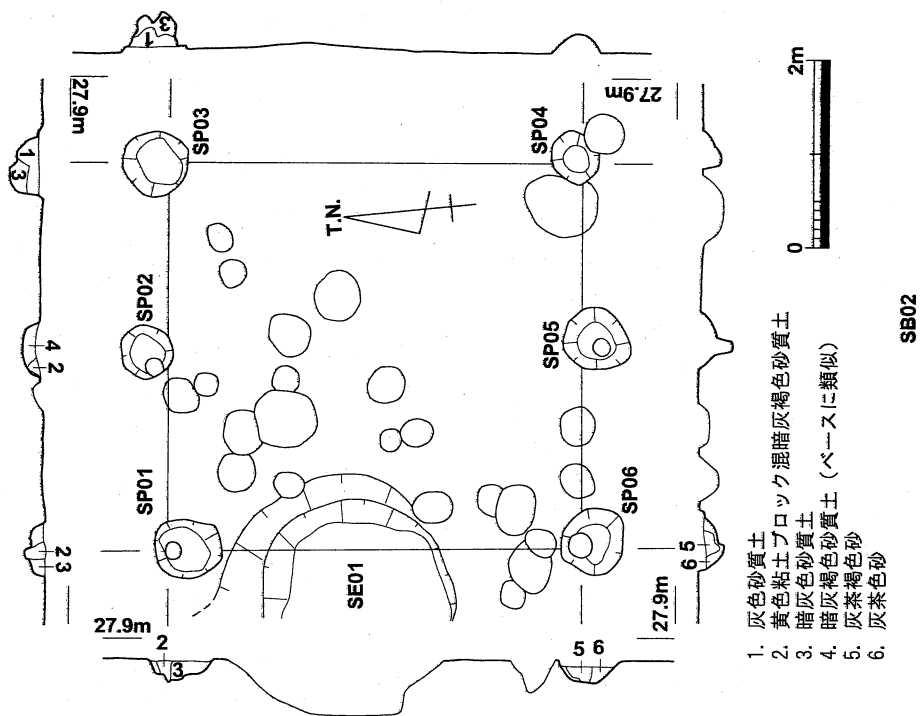
Ⅲ区西端A9区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。隣接するSD32はこの建物の雨落ち溝と考えられる。2間(4.0m)×3間(6.0m)、面積は24.0m²、主軸方位はN79°Wを測る。柱間は梁間2.0m、桁行2.0mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.2m~0.5m、深さ0.3m~0.8mを測る。出土遺物としては、土師器・須恵器片等が微量ながら出土している。



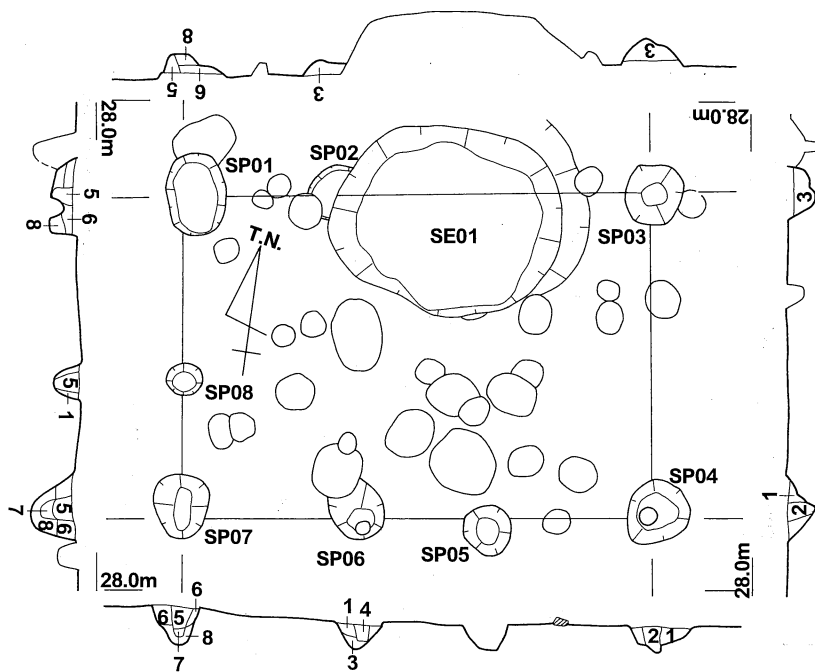
SB08 : 20~28 SB26 : 37・38 SB33 : 49
 SB18 : 29・30 SB28 : 39~42 SB40 : 50
 SB19 : 31 SB29 : 43
 SB20 : 32 SB30 : 44
 SB24 : 33・34 SB31 : 45・46
 SB25 : 35・36 SB32 : 47・48



第129図 掘立柱建物出土遺物(3)



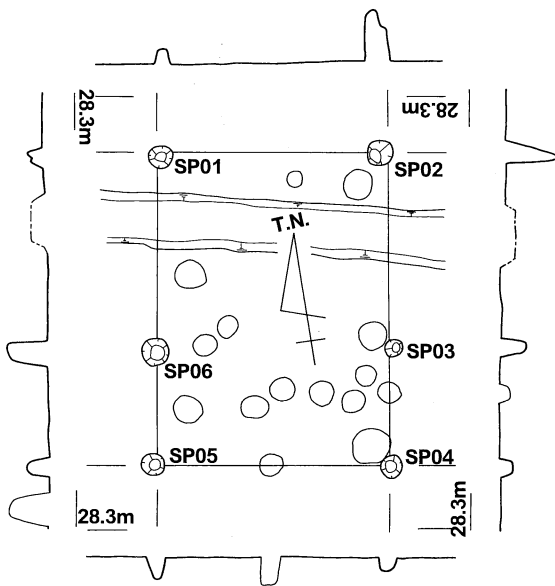
第130図 掘立柱建物平・断面図（1）



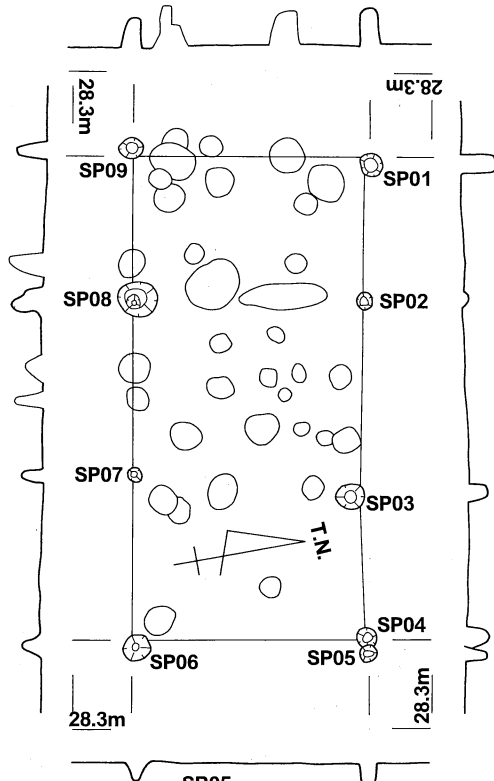
1. 灰褐色砂質土 (Mn多)
2. 黄色粘土ブロック混灰褐色砂質土 (Mn多)
3. 灰黄色砂
4. 灰色砂質土
5. 黒褐色砂質土
6. 黒褐色粘質土
7. 暗灰褐色砂質土
8. 淡黒褐色砂質土



SB03

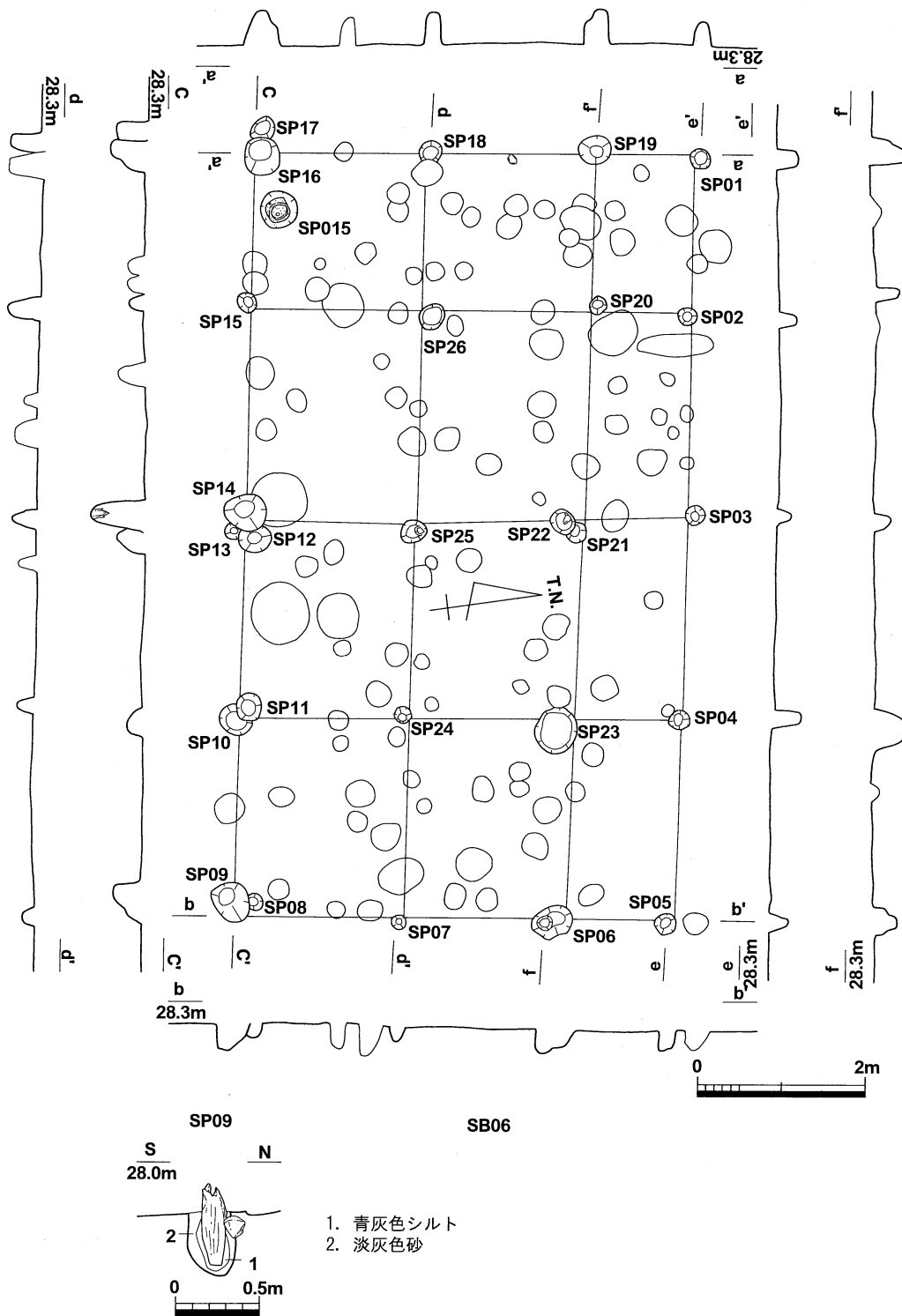


SB04

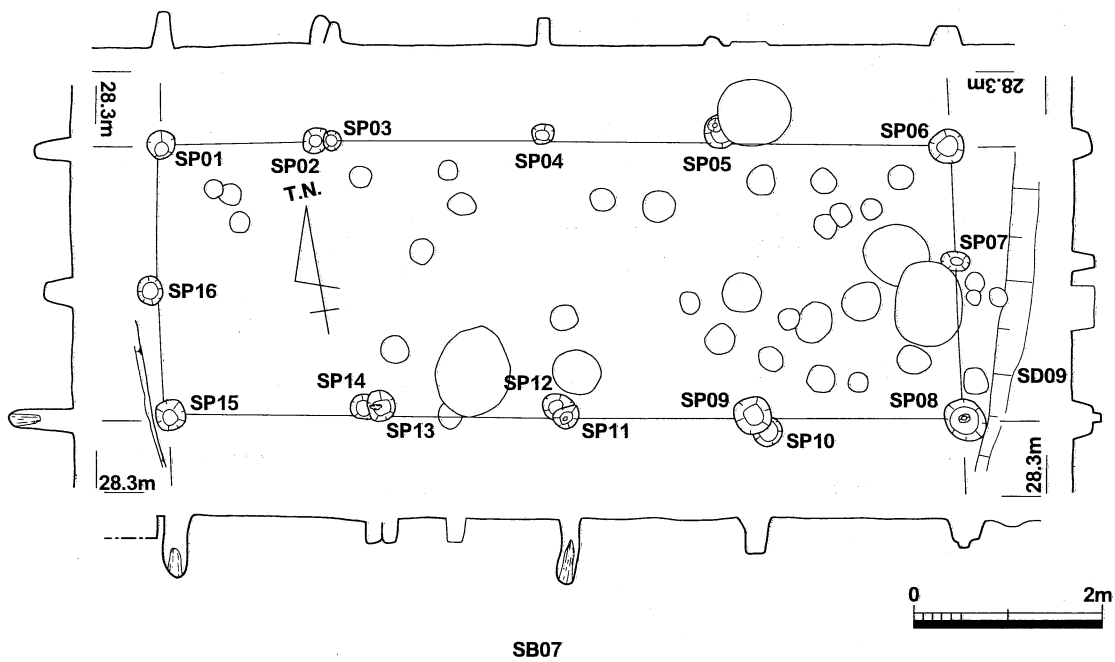
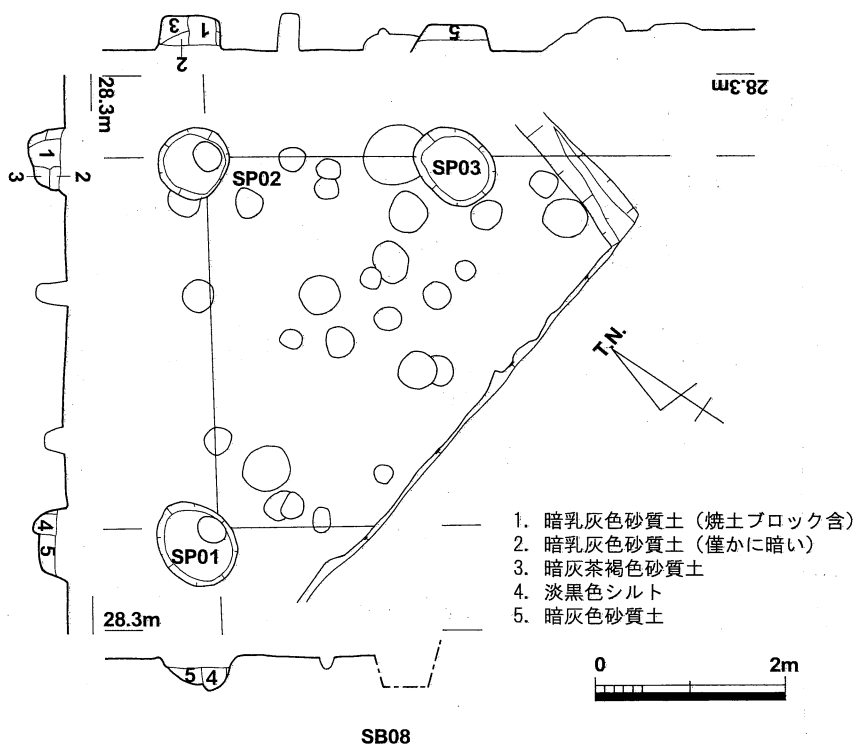


SB05

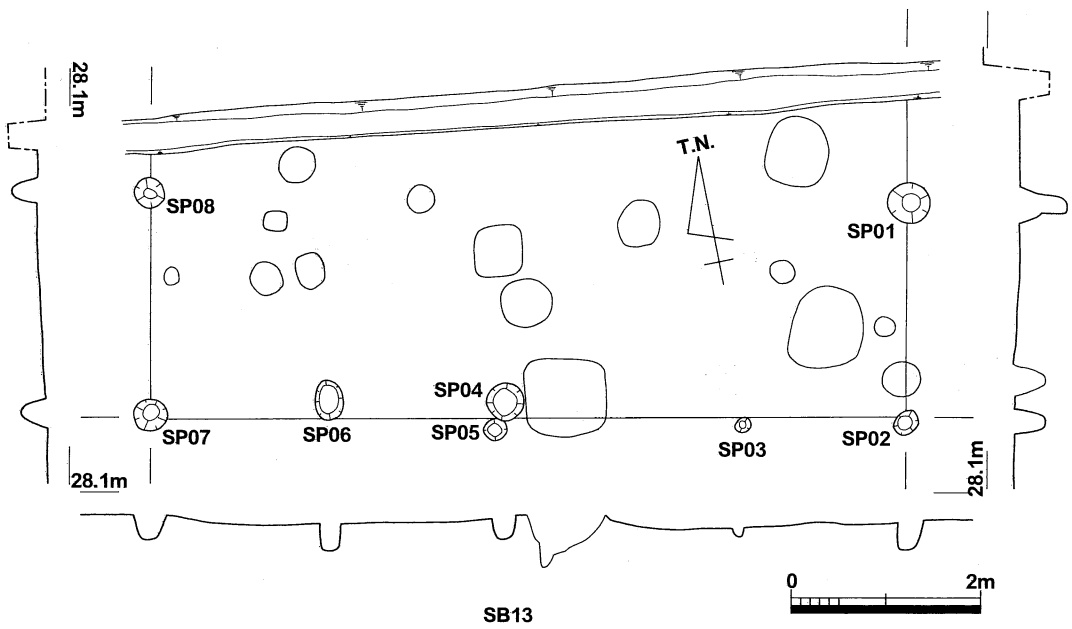
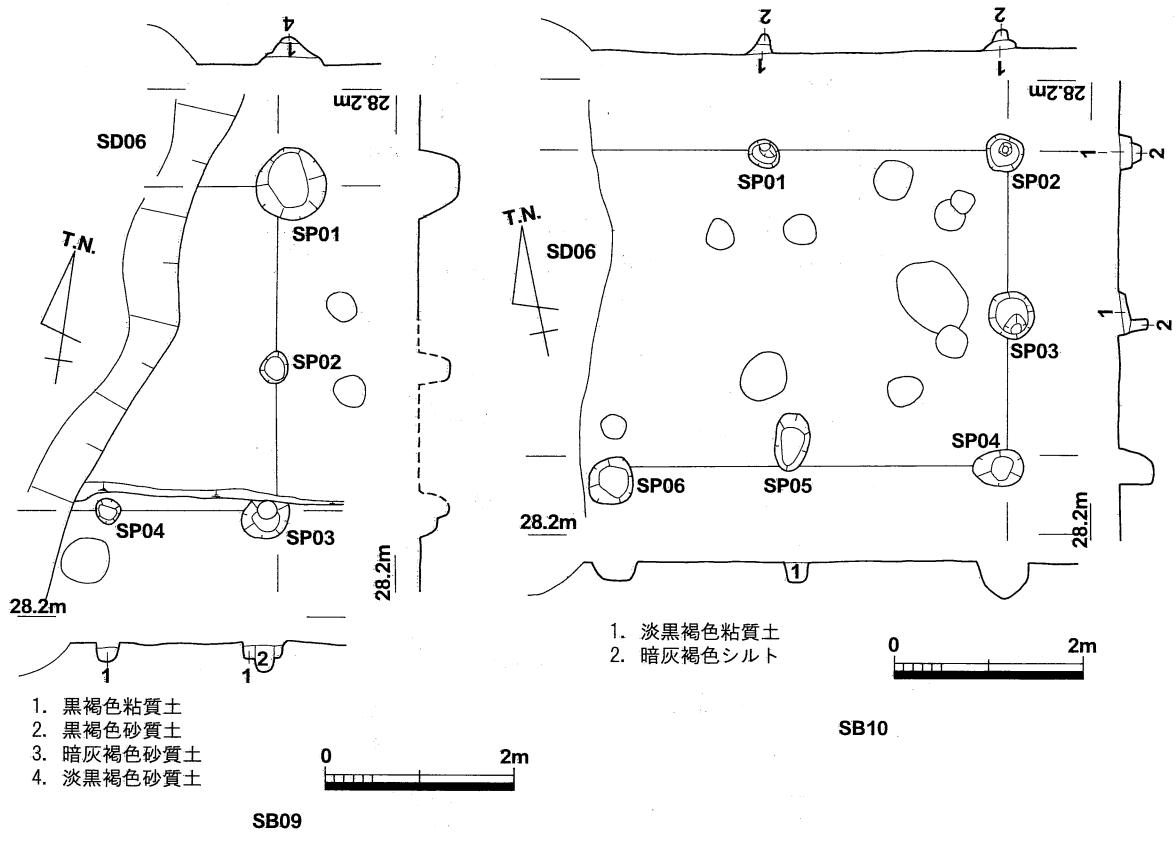
第131図 掘立柱建物平・断面図 (2)



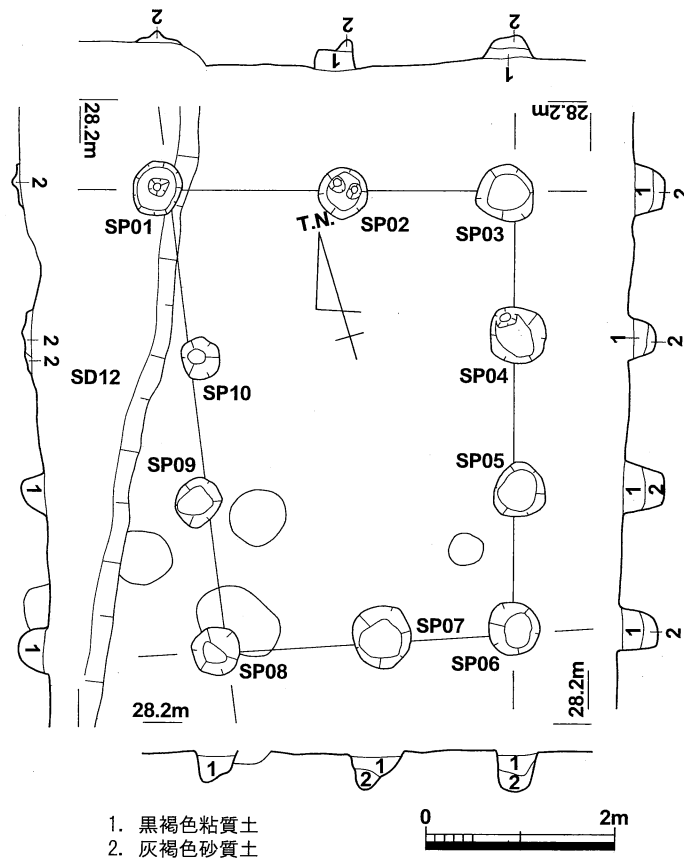
第132図 掘立柱建物平・断面図 (3)



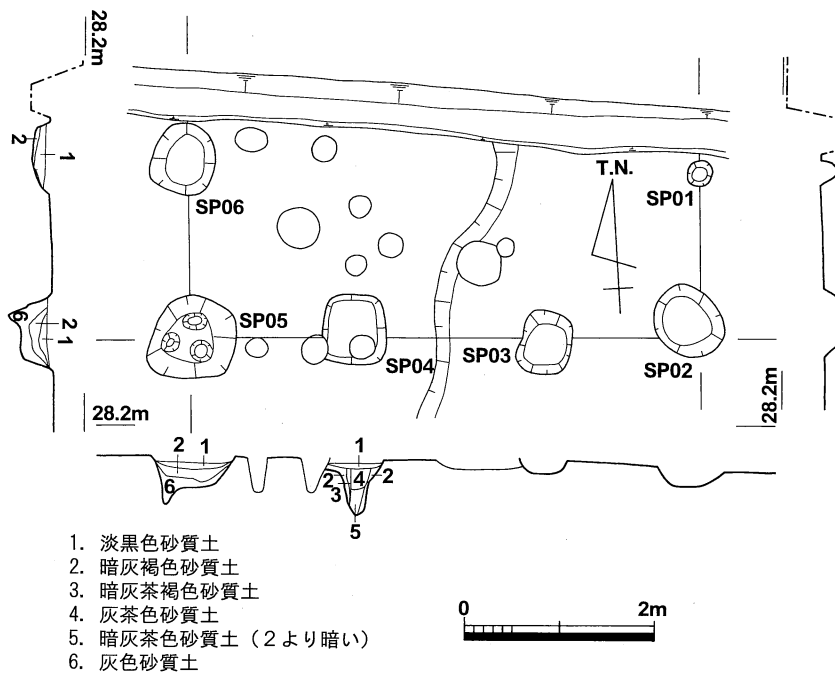
第133図 掘立柱建物平・断面図(4)



第134図 掘立柱建物平・断面図（5）

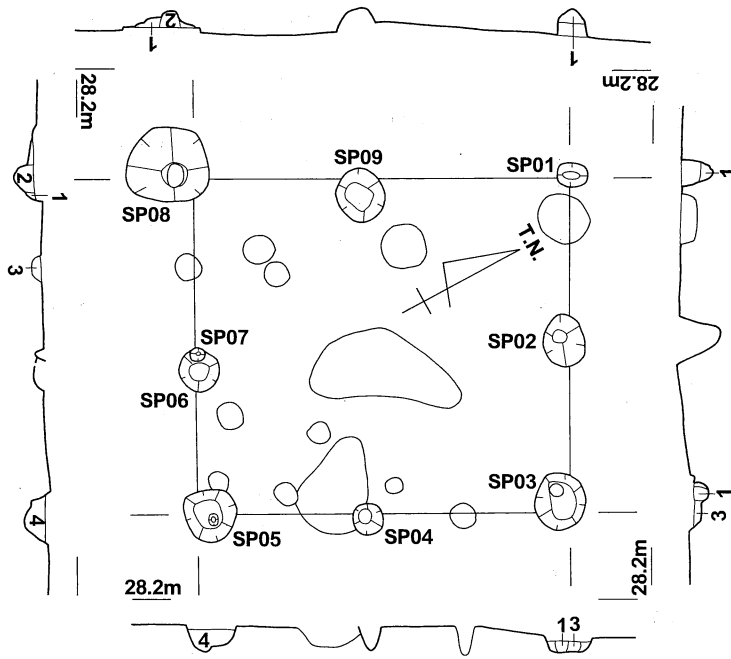


SB11



SB12

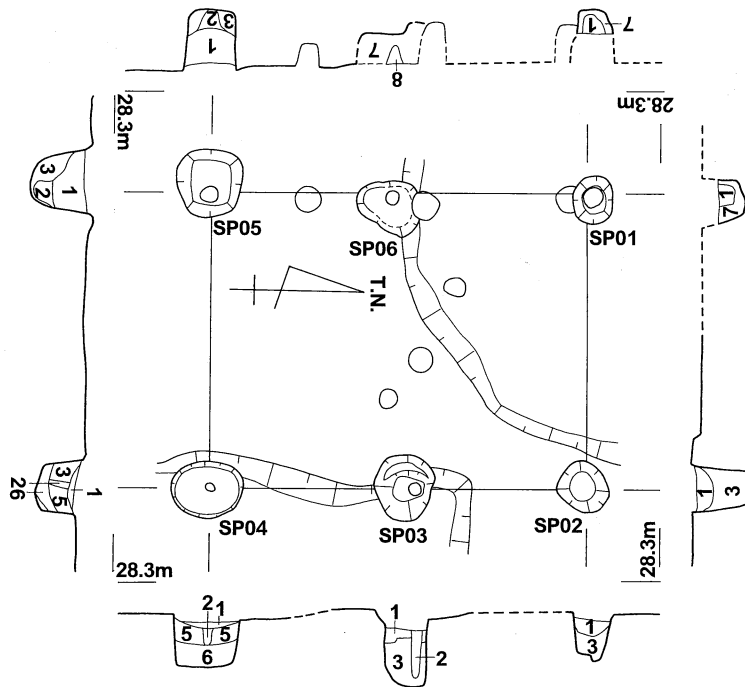
第135図 掘立柱建物平・断面図(6)



1. 淡灰褐色砂質土
2. 淡黒色・暗灰茶色砂質土混淡灰褐色砂質土
3. 灰茶色砂質土
4. 淡黒色砂質土混暗灰茶色砂質土



SB15

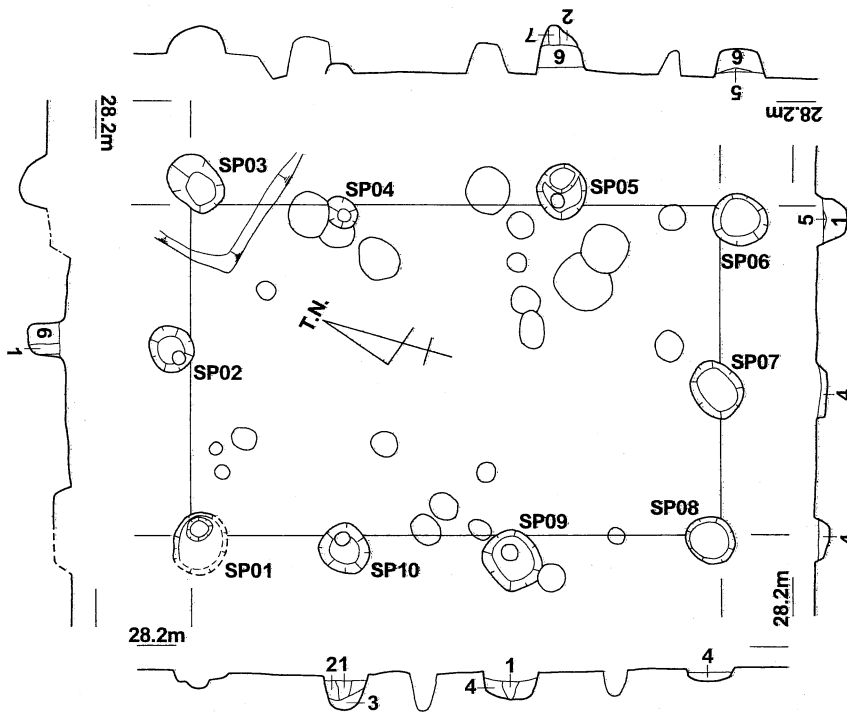
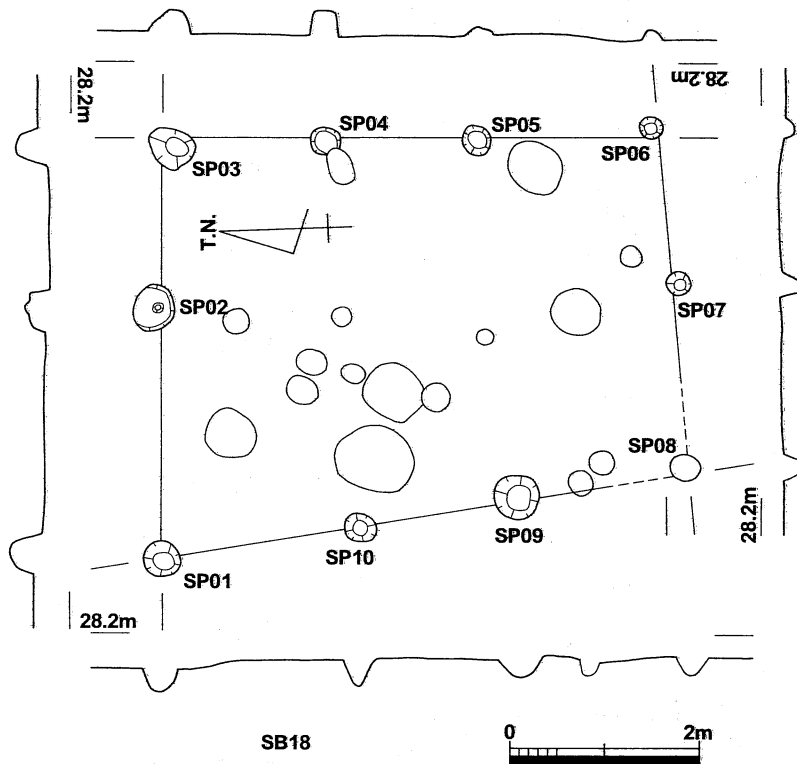


1. 淡黒褐色砂質土
2. 暗灰茶色砂質土
3. 灰茶色砂質土
4. 暗黄色シルト混淡黒色砂質土（ブロック多）
5. 暗灰茶色砂質土（粗砂多）
6. 淡黒色粗砂
7. 暗灰色砂質土
8. 暗灰茶色砂質土



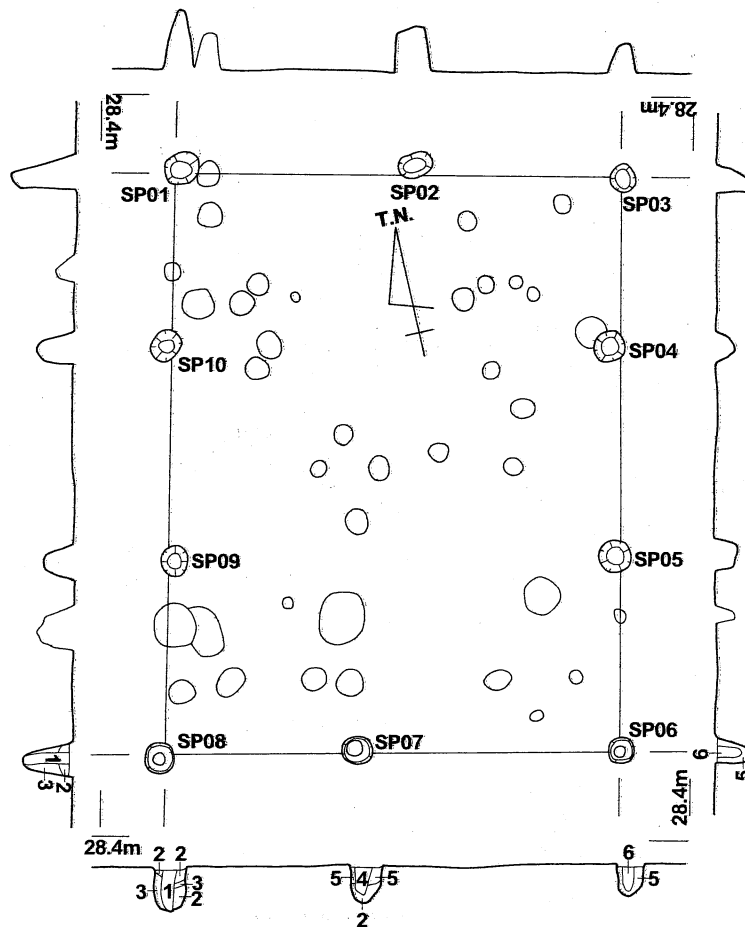
SB16

第136図 掘立柱建物平・断面図（7）



1. 暗灰褐色砂質土
2. 黄色粘土ブロック混暗灰褐色砂質土
3. 灰褐色砂
4. 暗灰褐色砂質土 (1より明るい)
5. 黄色粘土
6. 淡黒色砂質土混暗灰褐色砂質土
7. 淡黒色砂質土

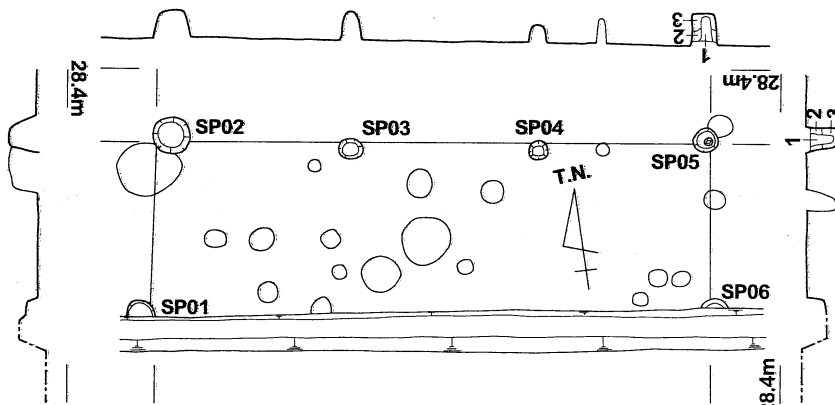
第137図 掘立柱建物平・断面図 (8)



1. 淡灰褐色砂質土 (黄色粘土小ブロック含)
2. 暗灰茶色砂質土
3. 2の小ブロック混淡灰色砂質土
4. 灰茶色砂質土 (黄色粘土小ブロック含)
5. 灰茶色砂質土 (4より明るい)
6. 灰茶色砂質土 (焼土・炭小ブロック含)



SB19

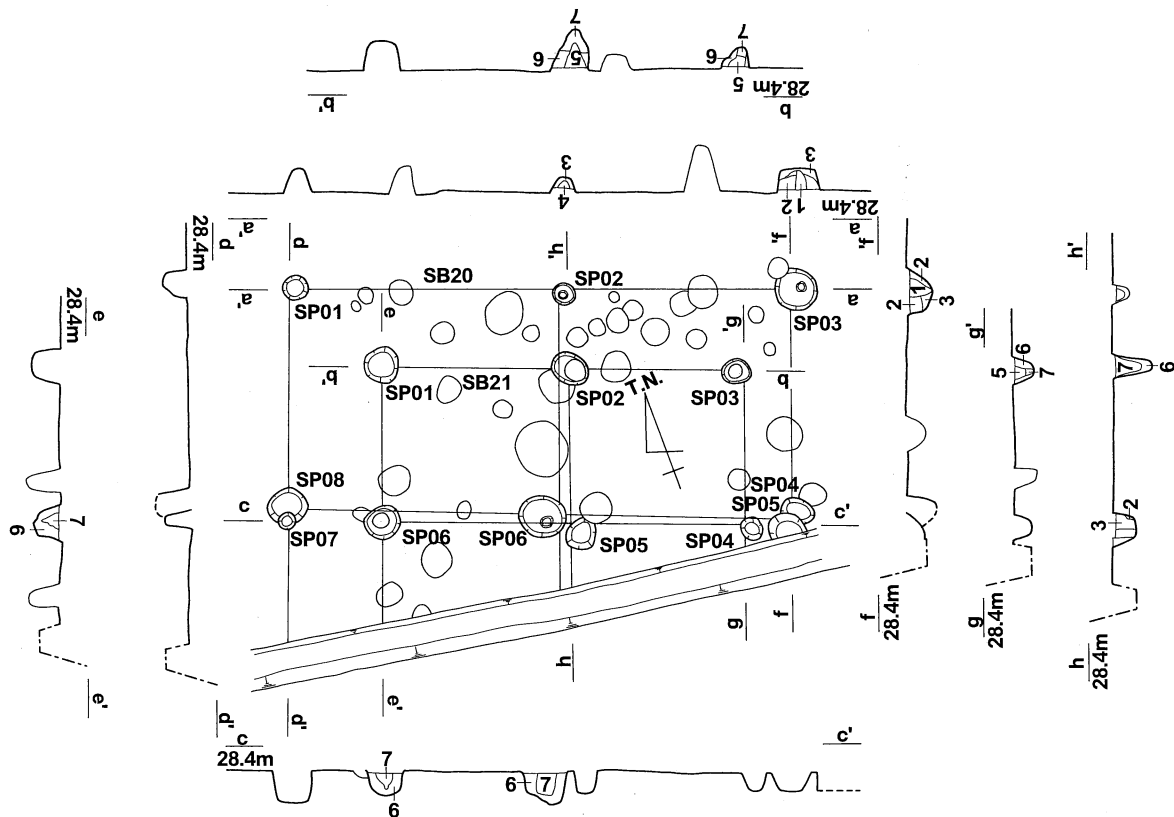


1. 暗灰褐色砂質土
2. 灰色砂質土
3. 暗灰色砂質土



SB22

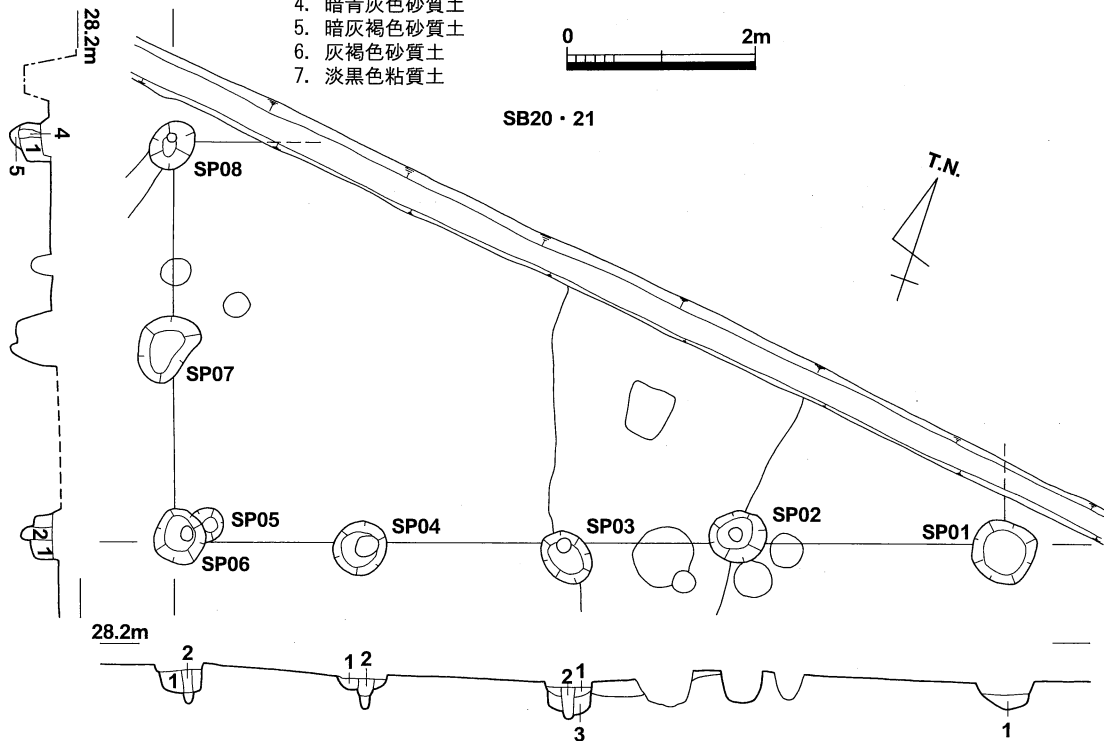
第138図 掘立柱建物平・断面図 (9)



1. 淡灰茶色砂質土
2. 灰茶色砂質土
3. 暗灰茶色砂質土
4. 暗青灰色砂質土
5. 暗灰褐色砂質土
6. 灰褐色砂質土
7. 淡黒色粘質土



SB20・21

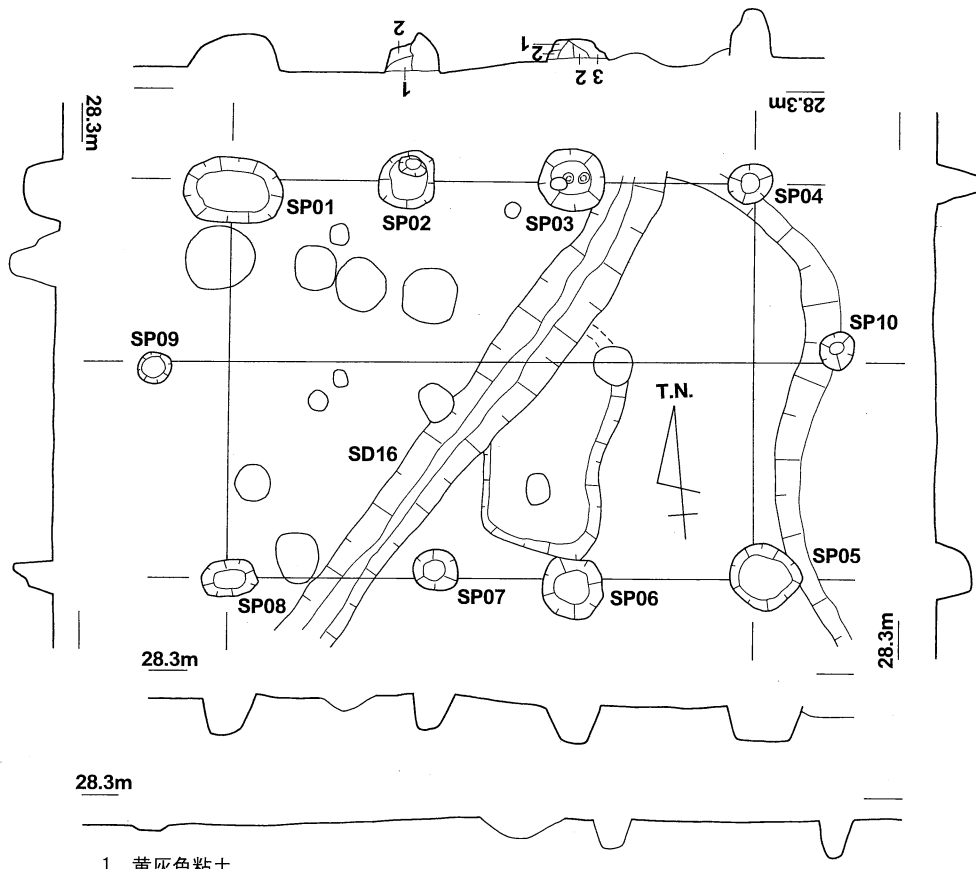


1. 淡黒褐色砂質土
2. 暗灰茶色砂質土
3. 暗灰茶色砂質土 (僅かに明るい)
4. 灰茶色砂質土
5. 暗灰褐色砂質土

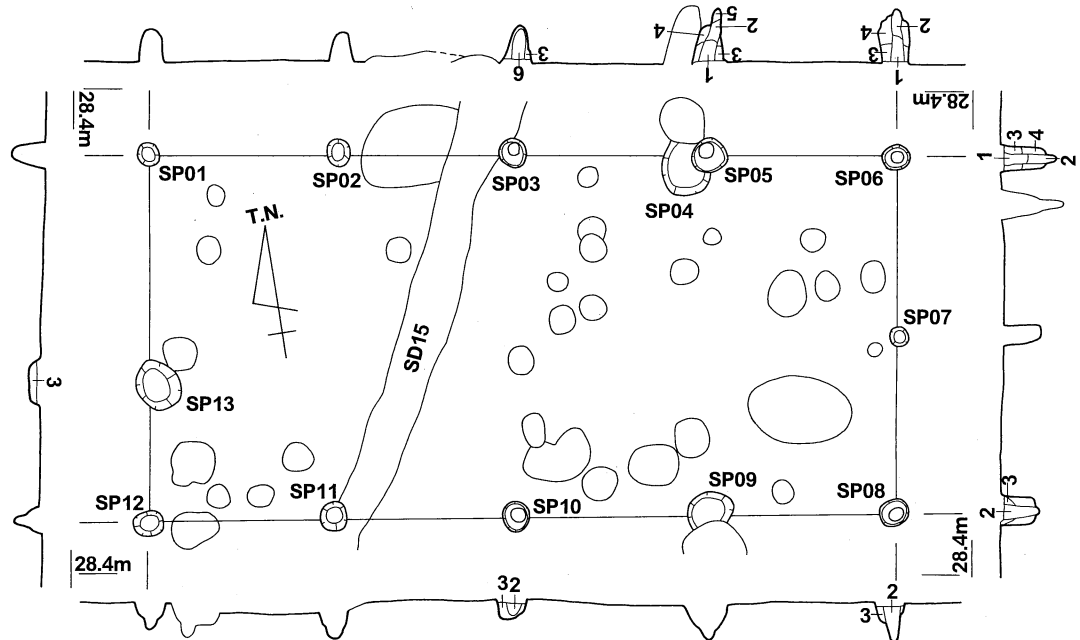
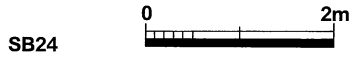


SB23

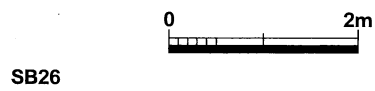
第139図 掘立柱建物平・断面図 (10)



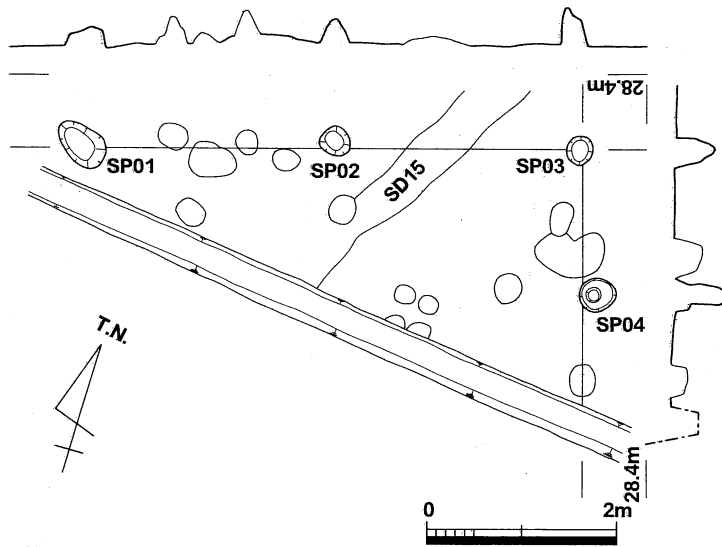
1. 黄灰色粘土
2. 黄灰色粘土混暗灰褐色砂質土
3. 暗灰褐色砂質土



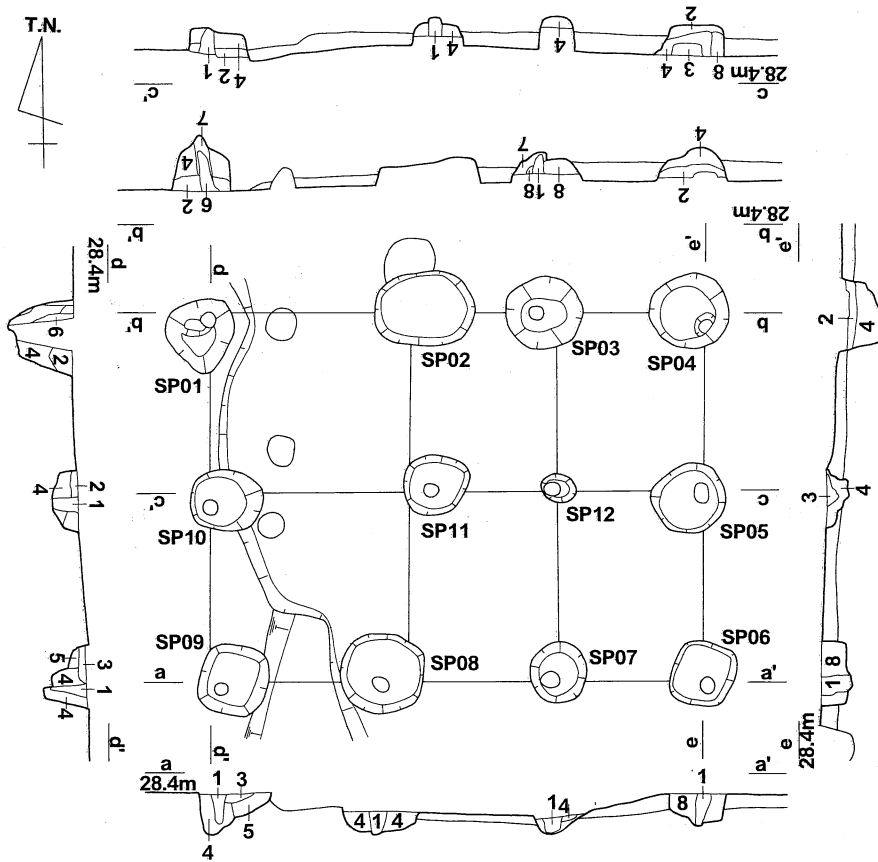
1. 黄色粘土小ブロック混淡灰褐色粘質土
2. 黄色粘土小ブロック混暗灰茶褐色粘質土
3. 暗灰褐色粘土小ブロック混淡灰色砂質土
4. 暗灰褐色粘土小ブロック混暗灰色砂質土
5. 暗灰褐色砂質土
6. 茶褐色粘土小ブロック混淡灰色砂質土



第140図 掘立柱建物平・断面図 (11)



SB27

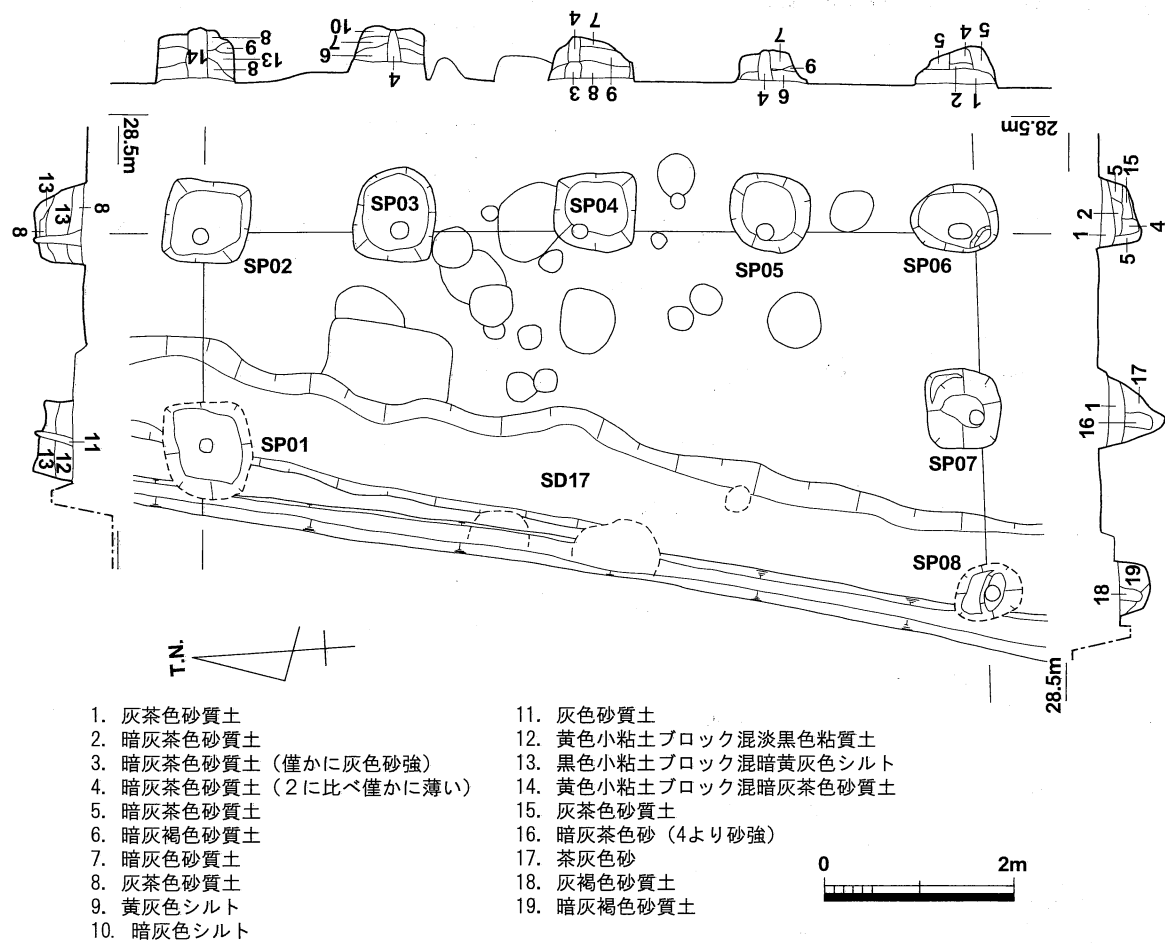
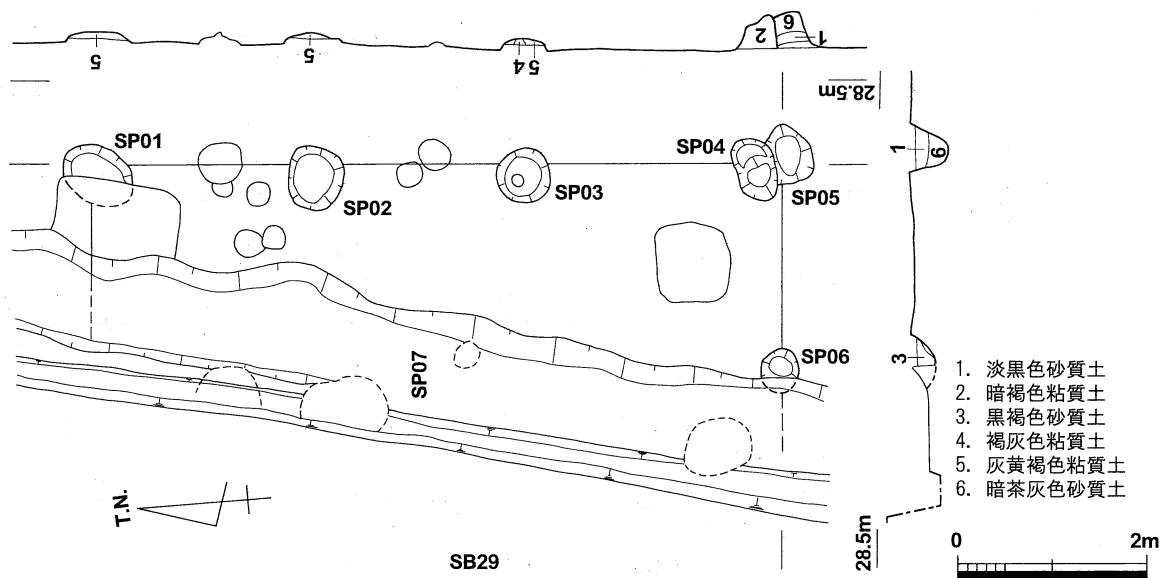


1. 黄灰色粘土・淡黒色粘土小ブロック混灰色シルト
2. 黄灰色粘土・淡黒色粘土小ブロック混暗灰色砂質土
3. 灰褐色砂質土
4. 淡黒色粘土小ブロック混暗灰色砂質土
5. 淡灰色砂質土
6. 黄灰色粘土(多) 灰茶色砂質土(少) ブロック構成層
7. 灰茶色砂質土
8. 黄灰色粘土小ブロック混暗灰茶褐色砂質土
9. 暗灰色砂質土

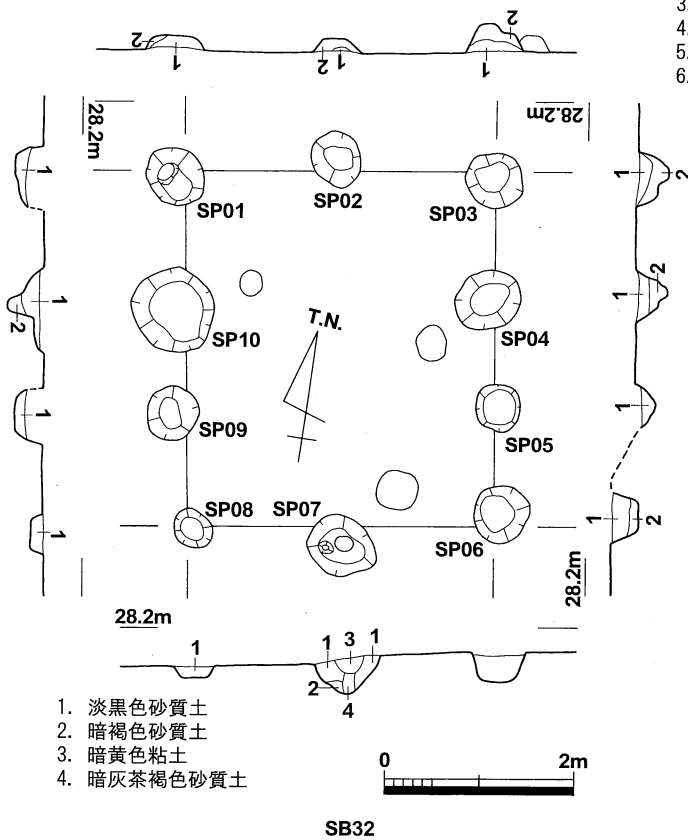
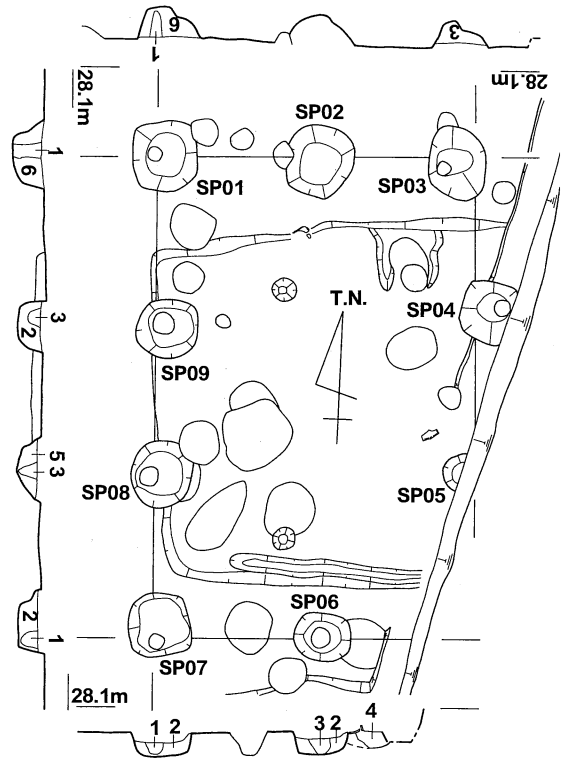
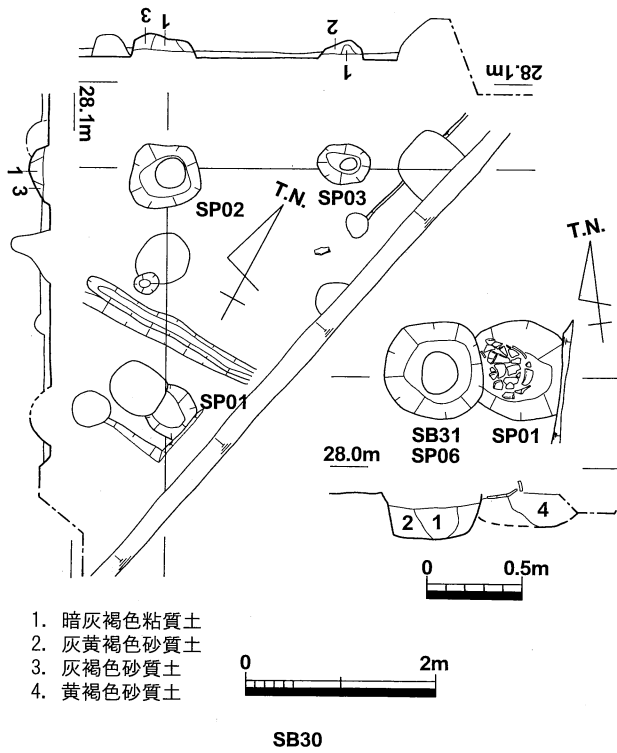


SB25

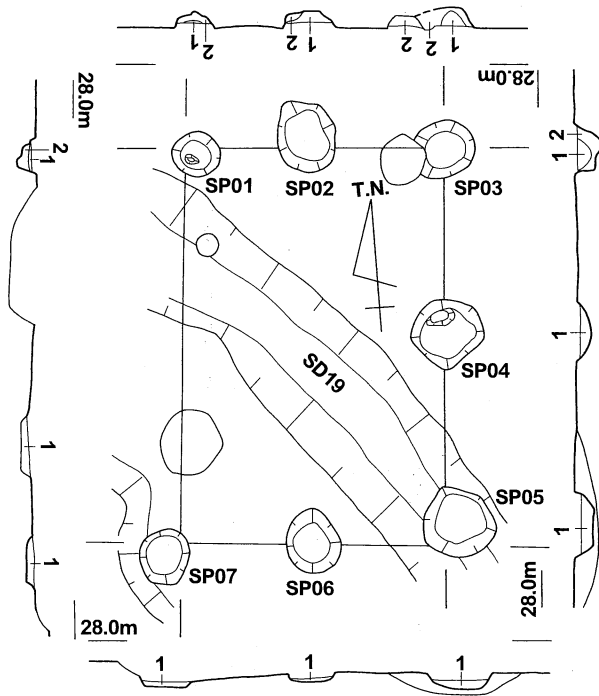
第141図 掘立柱建物平・断面図(12)



第142図 掘立柱建物平・断面図 (13)

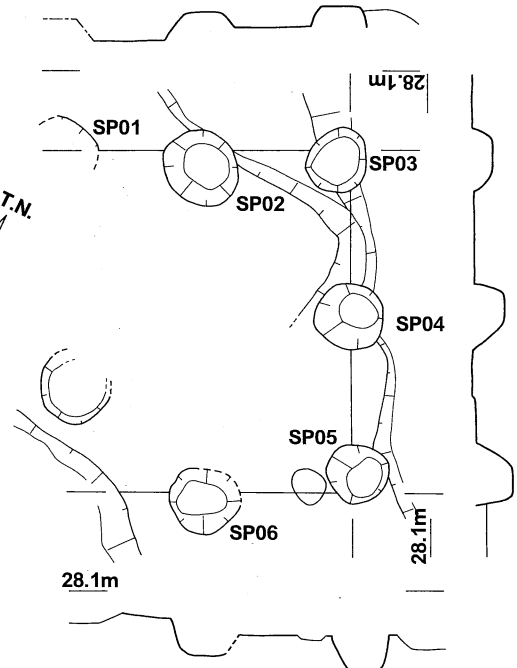


第143图 掘立柱建物平・断面图 (14)

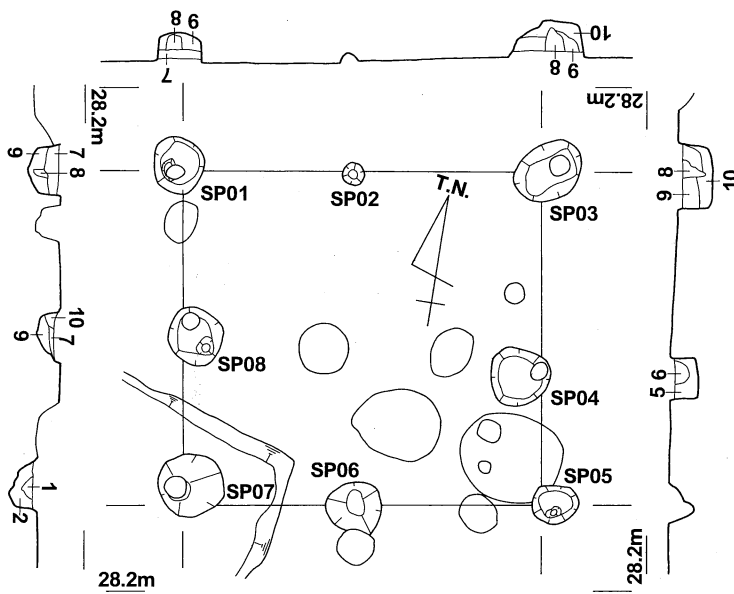


- 1. 淡黒色砂質土
- 2. 灰褐色砂質土

SB34



SB35

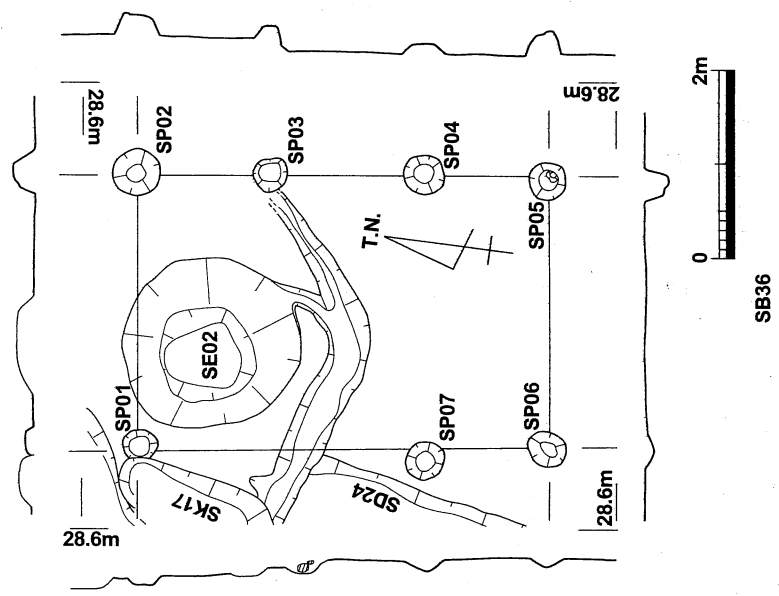
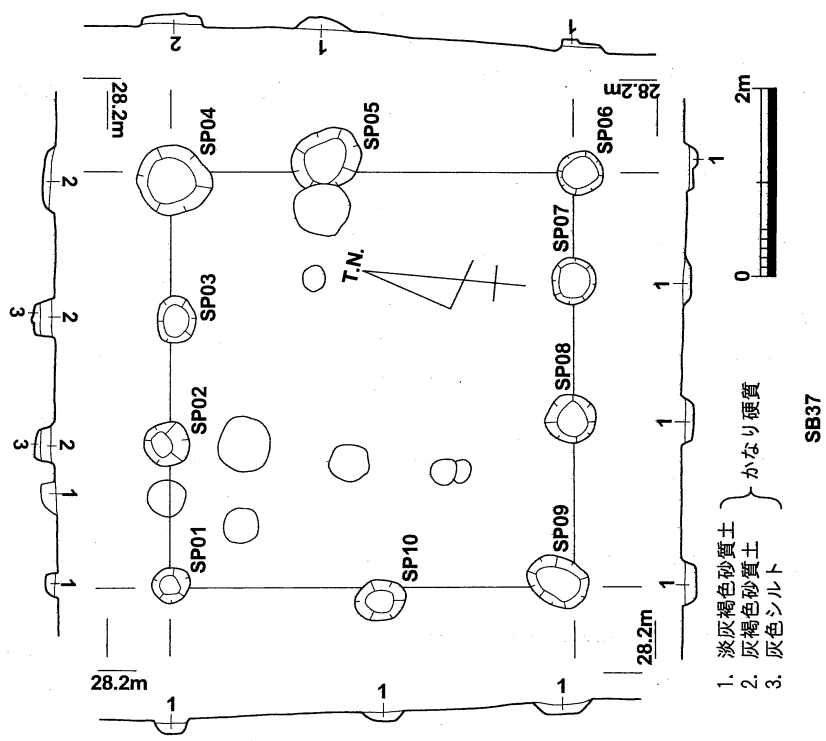


- 1. 暗褐色粘土混砂質土
- 2. 暗褐色砂質土
- 3. 暗黄色粘土
- 4. 灰色砂
- 5. 暗灰褐色砂質土
- 6. 焼土混暗灰褐色砂
- 7. 淡黒褐色砂質土
- 8. 暗灰色砂質土 (9より暗)
- 9. 暗灰色砂質土
- 10. 暗黄褐色砂質土

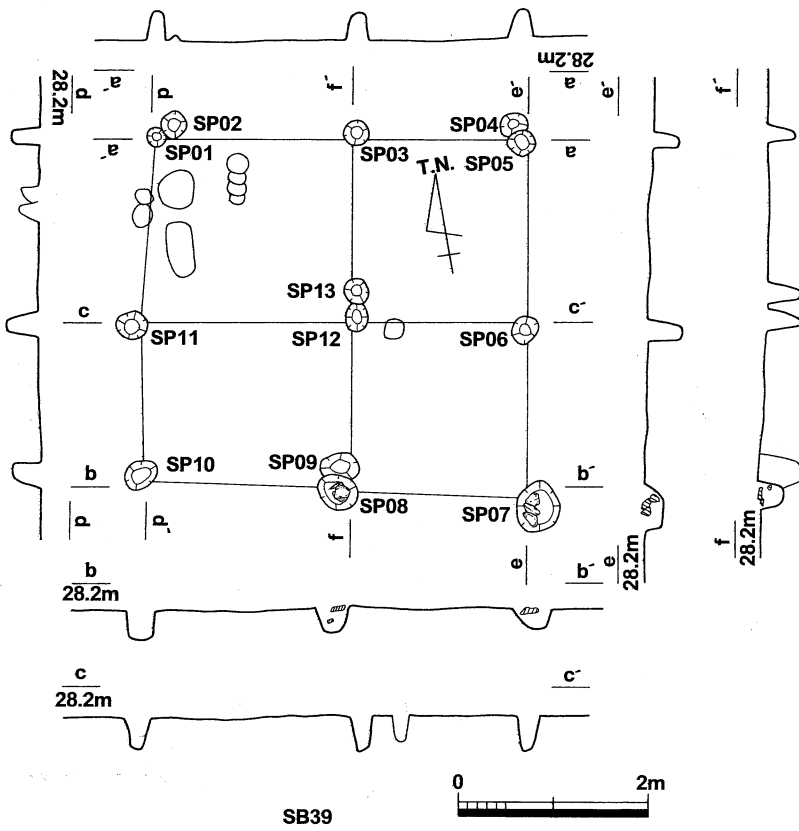
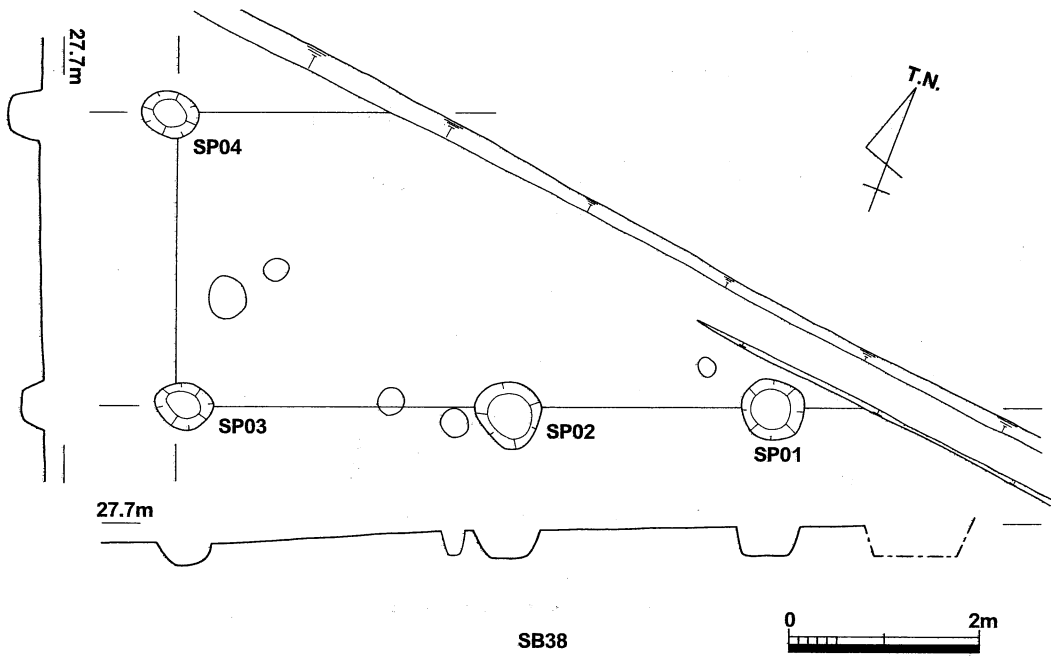
SB33



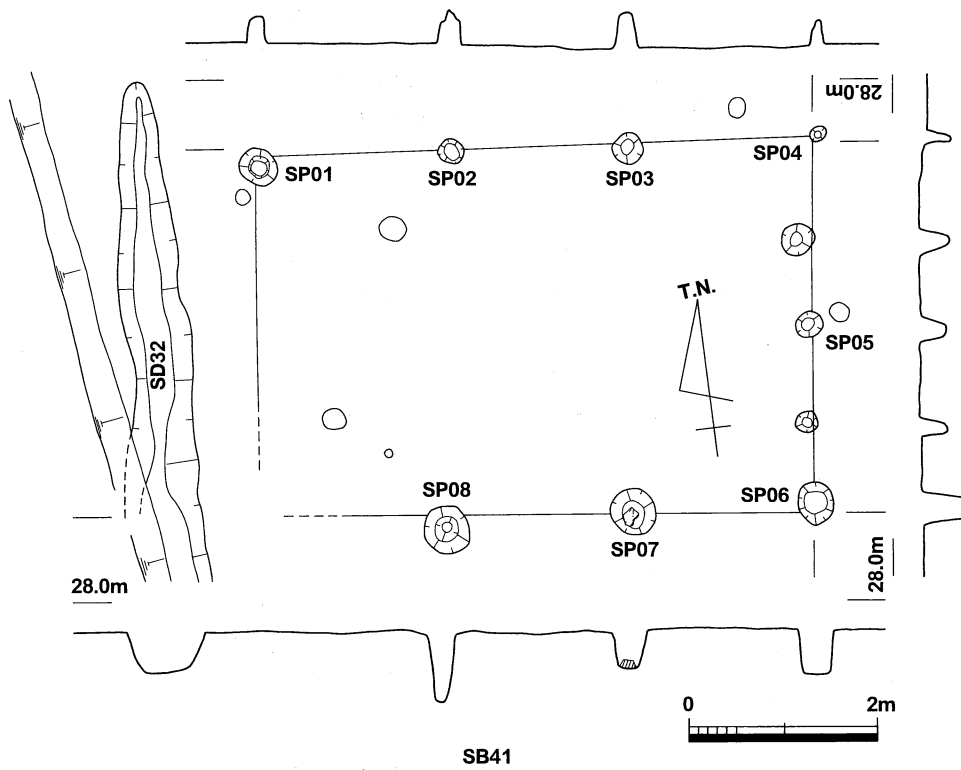
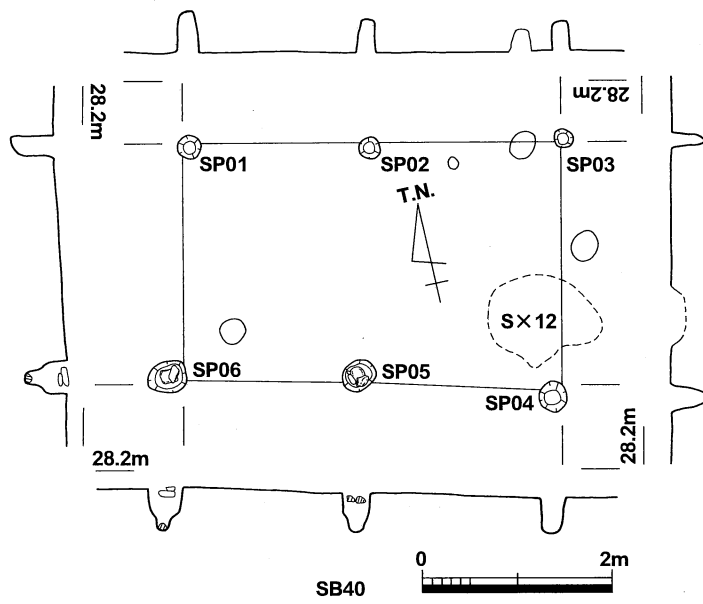
第144図 掘立柱建物平・断面図 (15)



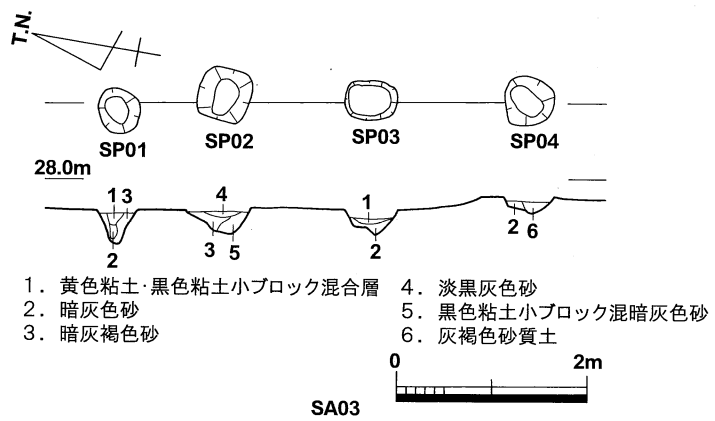
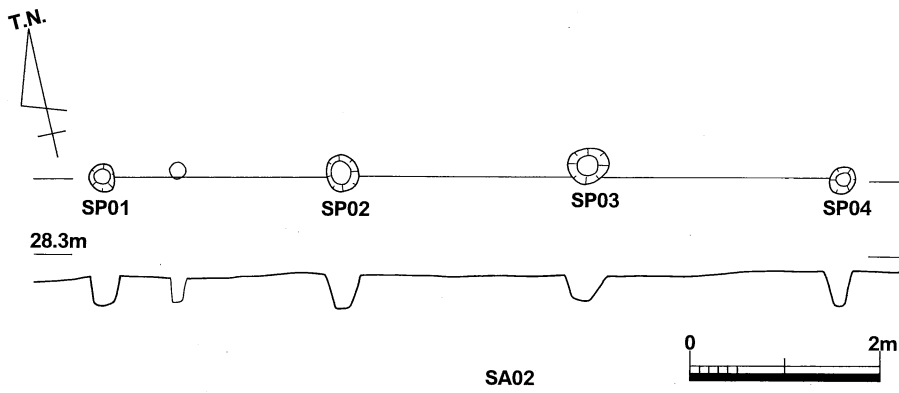
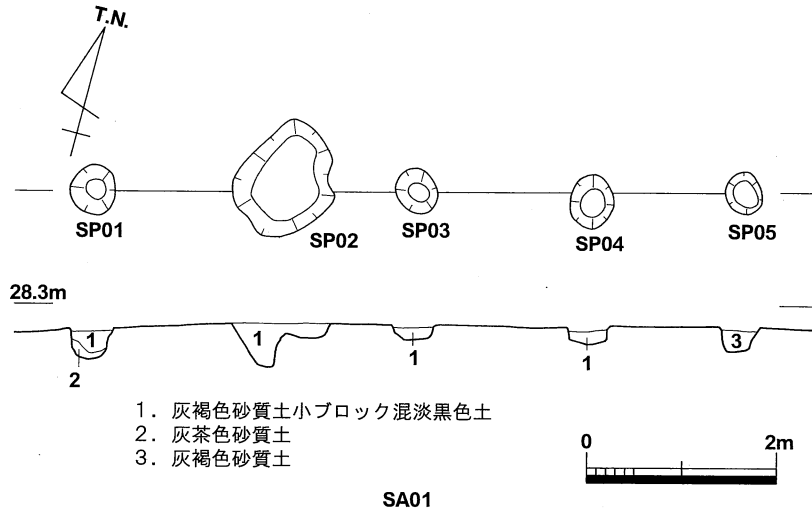
第145図 掘立柱建物平・断面図 (16)



第146図 掘立柱建物平・断面図 (17)



第147図 掘立柱建物平・断面図 (18)



第148図 柵列平・断面図

4. 柵列

SA01 (第148図)

Ⅱ区南西部のB 6区で検出した東西方向の柵列である。柵列は4間(7.0m)、主軸方位はN75° Eを測る。柱間は約1.8mを測る。柱穴は5基確認され、そのうちSP02は掘形がかなり不整形であり、抜き取りによるものと考えられる。柱穴掘形は円形ないし不整形円形を呈し、径0.4m~1.3m、深さ0.2m~0.4mを測る。遺物は出土しなかった。

SA02 (第148図)

Ⅱ区北半部中央のA 6区で検出した東西方向の柵列である。柵列は3間(8.0m)、主軸方位はN75° Wを測る。柱間は約2.5mを測る。柱穴は4基確認され、掘形は円形を呈し、径0.2m~0.4m、深さ約0.3mを測る。遺物は出土しなかった。

SA03 (第148図)

Ⅲ区北東端部のA 7区で検出した南北方向の柵列である。柵列は3間(4.6m)、主軸方位はN10° Wを測る。柱間は1.2m~1.8mを測る。柱穴は4基確認され、掘形は円形ないし隅丸方形を呈し、径約0.4m、深さ約0.3mを測る。遺物は出土しなかった。

5. 柱穴

検出した遺構の中で柱穴の占める割合はかなり高いものがある。特に浅谷1・2地域の遺構面上での柱穴の密度は高く、蜂の巣状を呈している。これらの柱穴より合計で41棟の建物跡を復元したが、まだ本来の数には至っていないものと考えられる。次に報告するのは、建物跡を構成する柱穴以外の柱穴の中で、比較的遺物が豊富に出土したものである。そのため、以下の柱穴は、未確認の建物跡を構成する柱穴を含んでいる可能性の高い柱穴である。

第18表 柱穴一覧表

調査区	グリッド	報告名	法量 (cm)		埋土	出土遺物	遺物番号	備考
			径	深さ				
I区	A2	SP001	22	30	A			
I区	A2	SP002	20	12	B	土師器、須恵器	51	
I区	B2	SP003	42	20	C	土師器、瓦器	52	
I区	A3	SP004	25	27	A	土師器	53	
I区	A3	SP005	21	24	A	土師器、須恵器	54	
I区	B3	SP006	40~55	18	B	土師器、須恵器	55	
I区	B3	SP007	27	22	D	瓦器	56	
I区	B3	SP008	65	23		土師器、瓦器、須恵器、磁器	57・58	
I区	B3	SP009	48~60	23	D	土師器、瓦器	59	
I区	B3	SP010	26	32	A	須恵器	60	
I区	B3	SP011	40~60	37	C	土師器	61	
I区	B3	SP012	29	19	D	土師器	62	
I区	B3	SP013	34	36	A	土師器	63~65	
I区	B3	SP014	7	9	D	土師器	66	
I区	B3	SP015	42	53		石臼、土師器、須恵器、磁器	89	
I区	B3	SP016	22	26	A	土師器、瓦器	67・68	
I区	B3	SP017	28	28	D	土師器	69	下層
I区	B3	SP018	26	12	G	弥生	70	下層

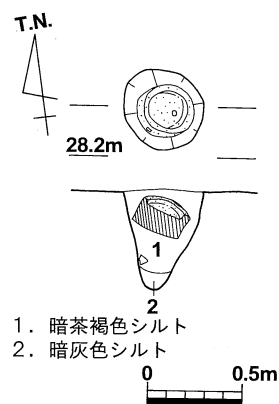
調査区	グリット	報告名	法量 (cm)		埋土	出土遺物	遺物番号	備考
			径	深さ				
I 区	B3	SP019	36	40	D	土師器、黒色A	71	
I 区	B3	SP020	27	20	G	銭	72	
I 区	B3	SP021	32	20	K	柱材、瓦器		下層
I 区	B3	SP022	25	46	J	土師器、須恵器	73	下層
I 区	B3	SP023	38	19	A	土師器	74	
I 区	B3	SP024	34	29	E	土師器、須恵器	75~77	
I 区	B3	SP025	32	14	H	土師器	78	下層
I 区	B3	SP026	40	38	F	土師器、須恵器	79	
I 区	B3	SP027	70~90	37	A	土師器、須恵器、瓦器	80	
I 区	A4	SP028	80	20	L	土師器、須恵器	81	下層
I 区	A4	SP029	70	22	L	土師器	82	下層
I 区	B4	SP030	18	7	H	土師器	83	下層
II 区	B5	SP031	20	17	M	土師器、瓦	85	
II 区	B5	SP032	25	30	M	土師器	86	
II 区	B5	SP033	40	30	D	土師器、その他(土釜)		
III 区	A7	SP034	32	39	N	石製品	90	
III 区	A7	SP035	38	28	D	土師器	91	下層
III 区	B7	SP036	65	27	P	土師器、黒色土器	92	下層
III 区	B7	SP037	23	13	D	土師器、須恵器	93	
III 区	B9	SP038	43	6	D	須恵器	94	
I 区	B3	SP039	15	10	D	土師器	84	下層

埋土 A 暗灰褐色砂質土
 B 灰茶色砂質土
 C 淡灰色砂質土
 D 淡黒色粘質土
 E 暗灰色砂
 F 暗茶灰色砂質土
 G 暗灰茶色粘質土
 H 暗茶褐色粘質土

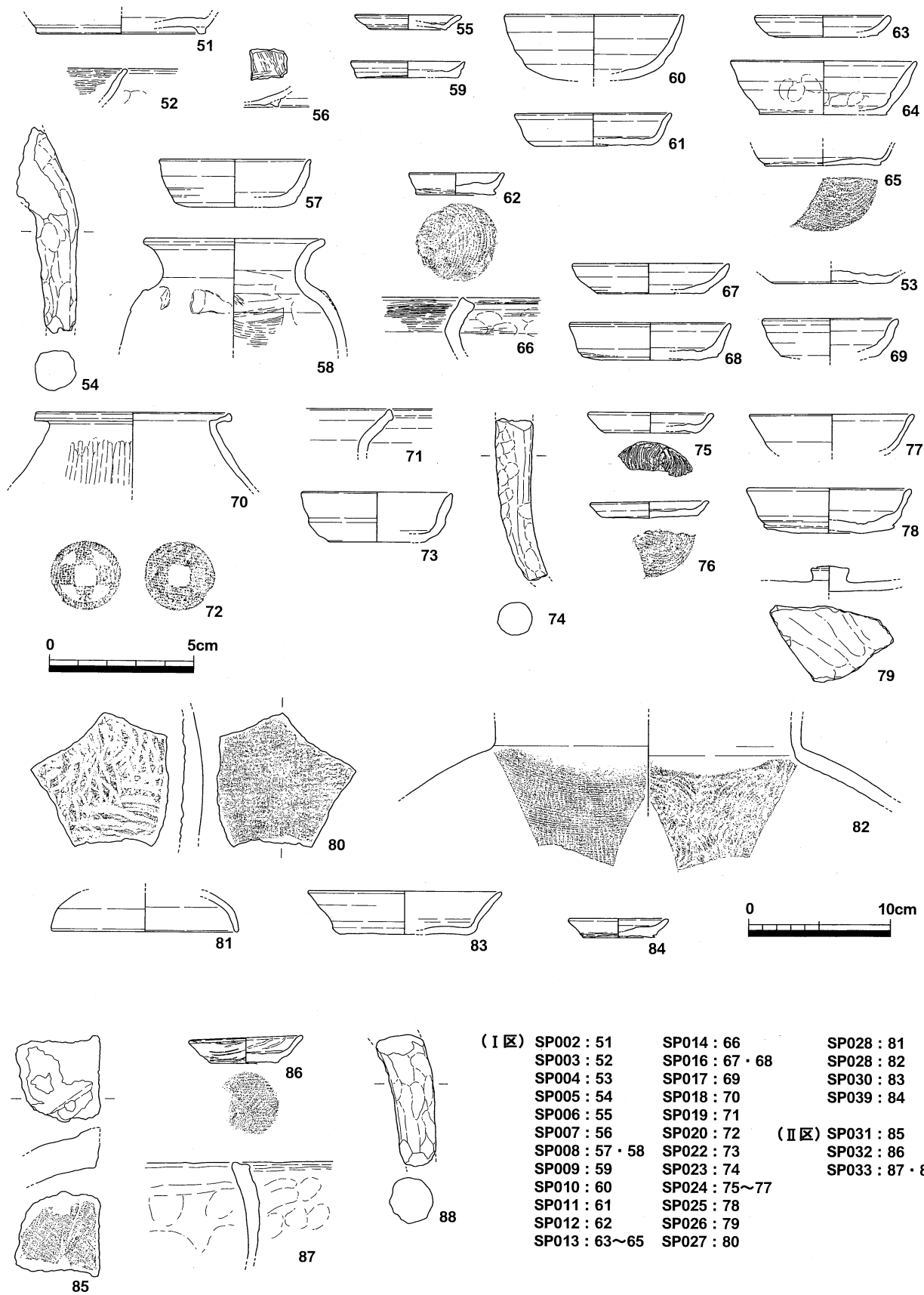
J 暗灰茶色砂質土
 K 暗灰色粘質土
 L 黄色粘土ブロック混淡黒褐色砂
 M 灰褐色砂質土
 N 灰茶褐色砂質土+黄色粘土
 P 黄色粘土ブロック混暗褐色砂質土
 (ベースになるII①層に類似)

上記 第18表の柱穴から出土した遺物は、第150・151図に図化した。

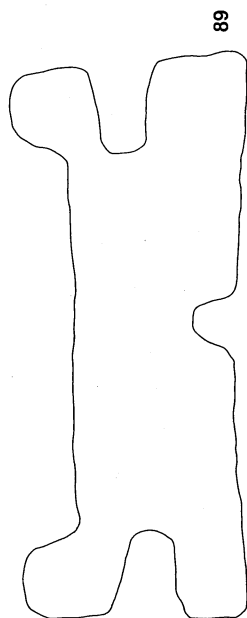
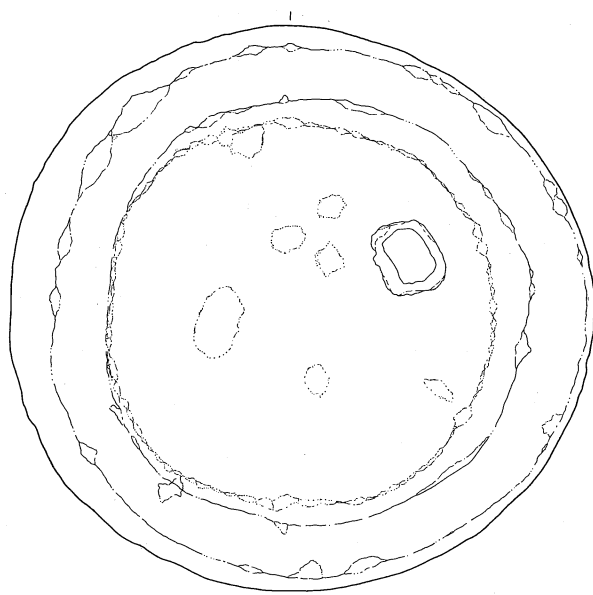
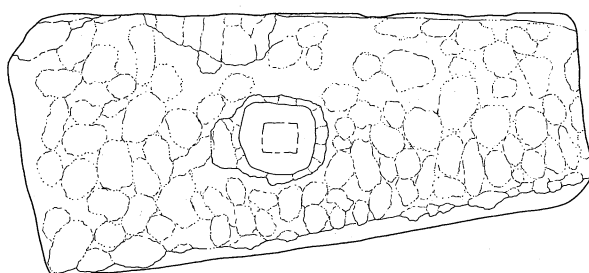
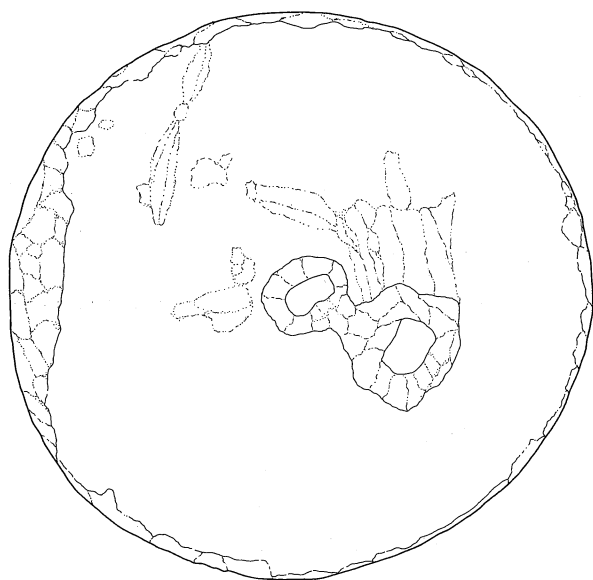
(51)はSP002出土の8世紀頃の須恵器杯底部 (52)はSP003出土の瓦器椀口縁部片で、形状より楠葉型の可能性が高い。(53)はSP004出土の土師器杯の底部 (54)はSP005出土の土釜の脚部 (55)はSP006出土の土師器小皿 (56)はSP007出土の瓦器椀の底部片、形状より13世紀頃の時期が考えられる。(57・58)はSP008出土の土師器杯、須恵器壺である。(58)は残り悪く不明瞭な点があるが、形状より三耳壺と考えられる。(59)はSP009出土の土師器小皿 (60)はSP010出土の須恵器杯 (61)はSP011出土の土師器杯 (62)はSP012出土の土師器小皿 (63~65)はSP013出土の土師器の小皿・杯である。(66)はSP014出土の土師器甕口縁部 (67・68)はSP016出土の土師器杯で、13世紀頃の時期が考えられる。(69)はSP017出土の土師器杯 (70)はSP018出土の弥生後期の甕上半部で、混入の可能性が高い。(71)はSP019出土の土師器甕の口縁部である。(72)はSP020出土の銭貨「皇業通宝」である。おそらく地鎮祭祀に伴う遺物と考えられる。(73)はSP020出土の土師器



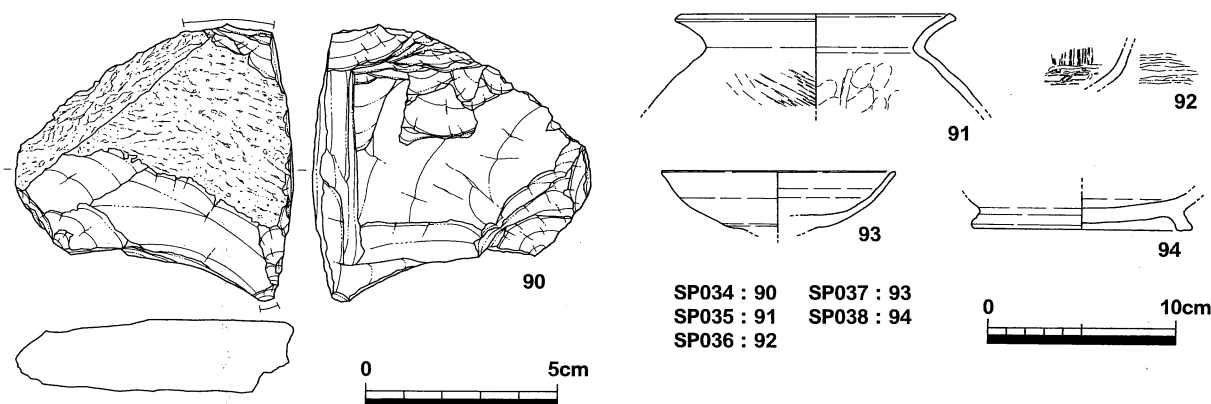
第149図 SP15平・断面図



第150图 柱穴出土遺物 (1)



第151図 柱穴出土遺物(2)



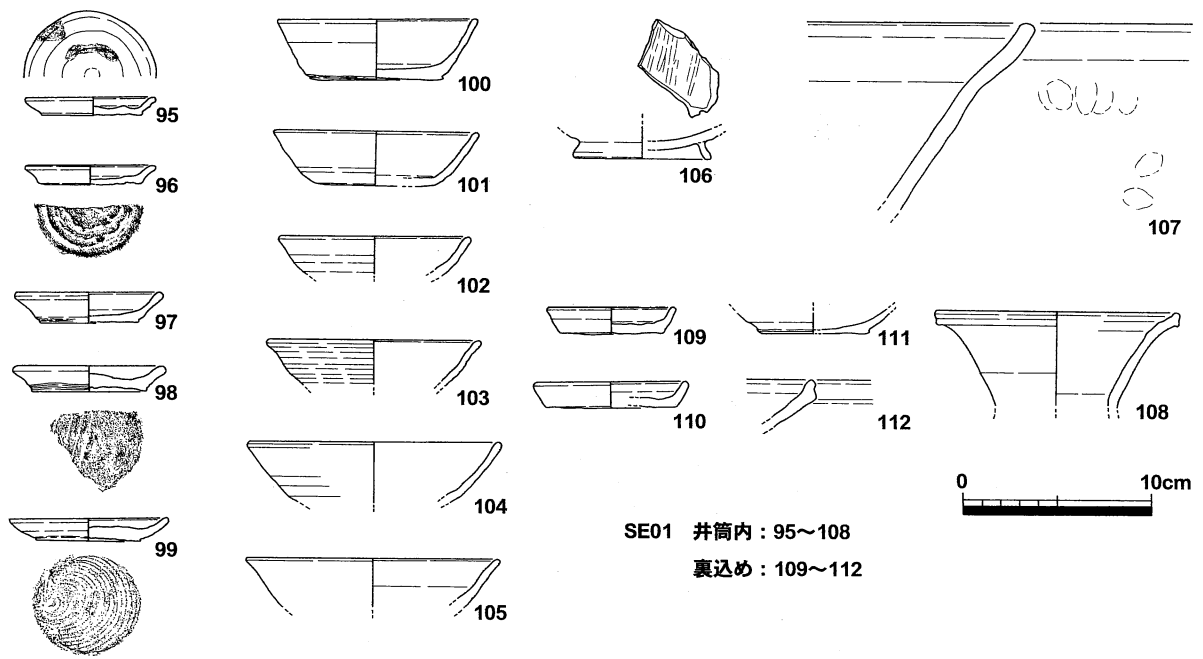
第152図 柱穴出土遺物（3）

杯（74）はSP023出土の土師器土釜の脚部片（75～77）はSP024出土の土師器小皿・杯（78）はSP025出土の土師器杯で、13世紀頃の時期が考えられる。（79）はSP026出土の8世紀頃の須恵器杯蓋であるが、内面に縦方向の摩滅痕が認められ、杯を硯に転用した可能性が高い。（80）はSP027出土の須恵器甕体部片（81）はSP028出土の7世紀前半頃須恵器杯蓋（82）はSP029出土の須恵器甕の肩部（83）はSP030出土の土師器杯（84）はSP039出土の土師器小皿（85）はSP031出土の須恵質の瓦片（86）はSP032出土の土師器小皿（87・88）はSP033出土の土師器土釜片である。（89）はSP015の上位で出土した石臼である。その出土状況より、柱を抜き取った後柱穴を塞ぐ用材としたものと考えられる。（90）はSP034出土の弥生時代頃の、サヌカイト製楔形石器の素材である。（91）はSP035出土の土師器甕上半部（92）はSP036出土の土師器杯片、内外面共にヘラミガキが顕著で、内面には渦巻き状の暗文が認められる。（93）はSP037出土の須恵器高杯（94）はSP038出土の7～8世紀頃の須恵器壺底部である。

6. 井戸

SE01（第153～155図，図版51・73・80）

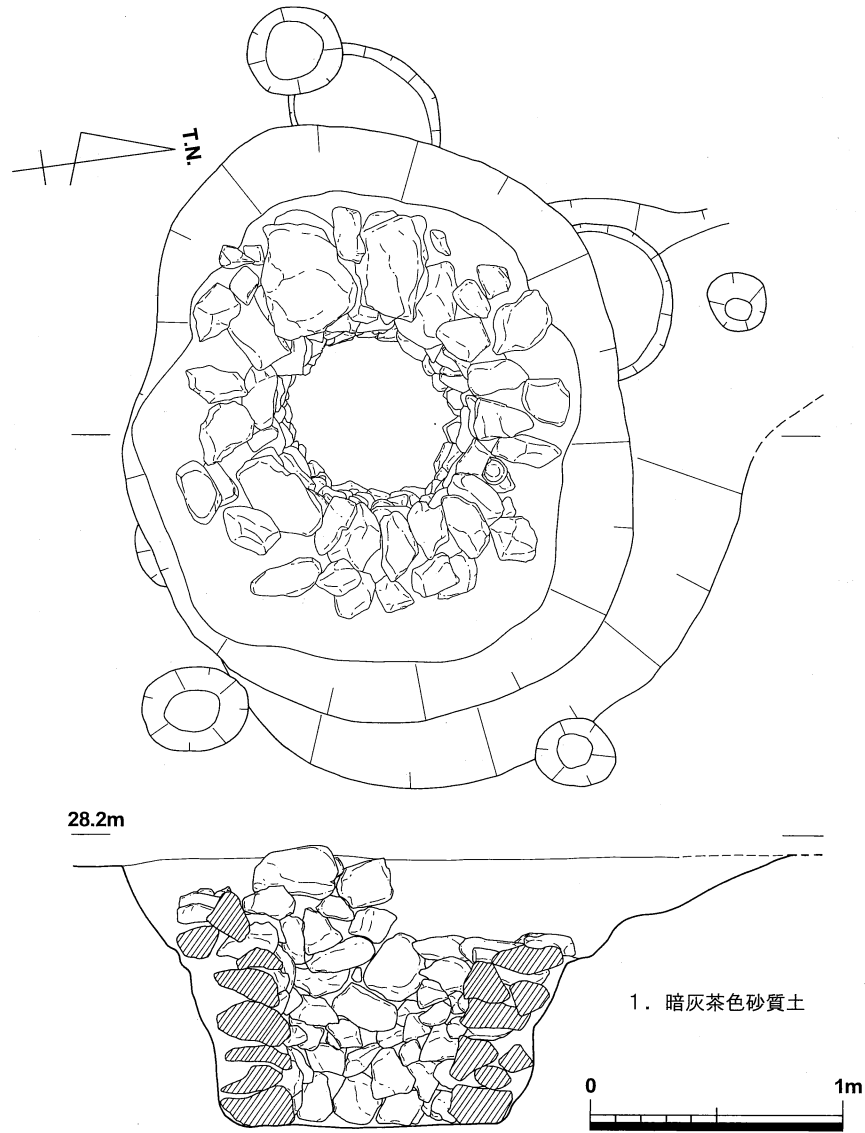
I区中央のB3区で検出した石組の井戸である。周囲にはSB02・03等が展開しているが、それらを切り込んでいる。平面は楕円形状を呈し、断面は上端がラッパ状に開く逆台形状を呈している。長径2.8m×短径2.5m、深さ2.1mを測る。石組みは安山岩・凝灰岩等の木口面を内側に向け、6～7段積みで円形に積み上げている。井筒の内径は1.2mを測る。埋土を大別すれば上・下層に分けられる。上層は暗茶褐色系の粘質土、下層は暗灰褐色系の粘質土である。出土遺物としては、土師器小皿・杯・鉢、黒色土器、瓦器、須恵器壺・鉢、砥石等がコンテナ2箱程出土している（第154図95～114）。（95～108）は井筒内より出土した土器である。（95～99）は土師器の小皿である。（95）には灯油の燃焼痕、（99）の底部外面には糸切り痕が顕著に残る。（100～105）は土師器の杯で、（104）は早鳥焼きの可能性が高い。（106）は黒色土器Aの椀底部である。（108）は須恵器の壺の口縁部である。（109～112）は裏込め内より出土した土器である。（109・110）は土師器の小皿、（111）は土師器の杯底部である。（112）は須恵器の鉢の口縁部で、形状より東播系の鉢と考えられる。（113・114）は砥石である。石組みの中から出土しており、古墳時代頃の砥石を転用した可能性が高い。これらの出土遺物よりSE01は、13世紀頃の時期が考えられる。



第153図 SE01出土遺物（1）



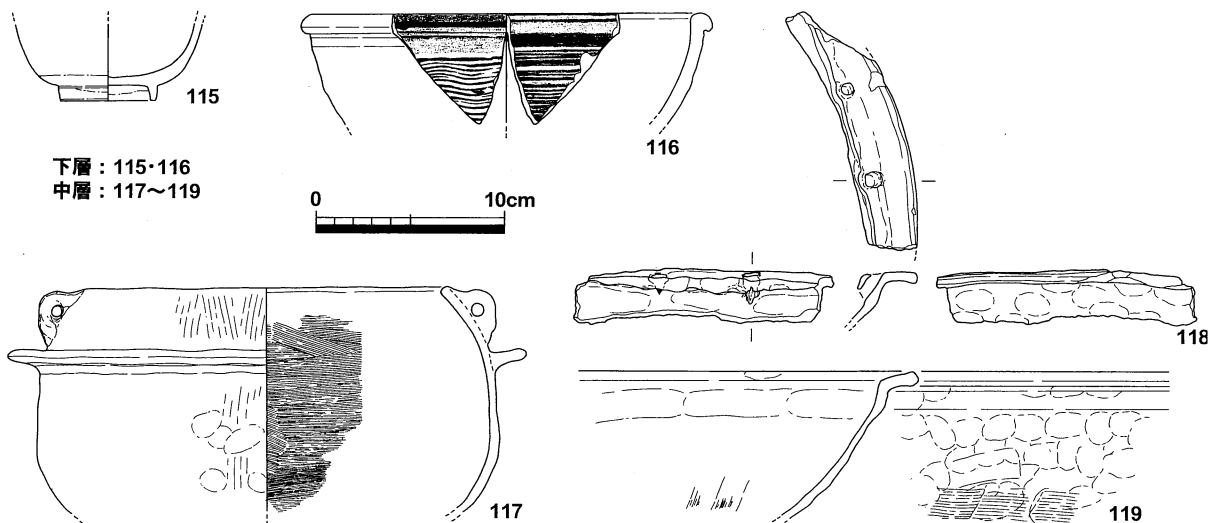
第154図 SE01出土遺物（2）



第155図 SE01平・断面図

SE02 (第156・157図, 図版68・73)

Ⅲ区の南半部B7区で検出した素堀の井戸である。隣接するSB36を切り込んでいる。平面は整円形状を呈し、断面は上位がラップ状に開いた逆台形状を呈している。なお、SE02の上端部では排水のためか、SD26と交わっている。径1.9m、深さ2.9mを測る。埋土は大別して上層は灰茶色系の粘土であり、下層は淡黒色・灰色の粘質土ないしヘドロ状の埋土である。出土遺物としては、土師器鍋、染付椀、金属製の鍋等が少量出土している(第156図115~119)。(115)は肥前系の呉器手椀、(116)は肥前系の刷毛目鉢、(117)は瓦質の土釜、(118・119)は瓦質の焙烙である。



第156図 SE02出土遺物

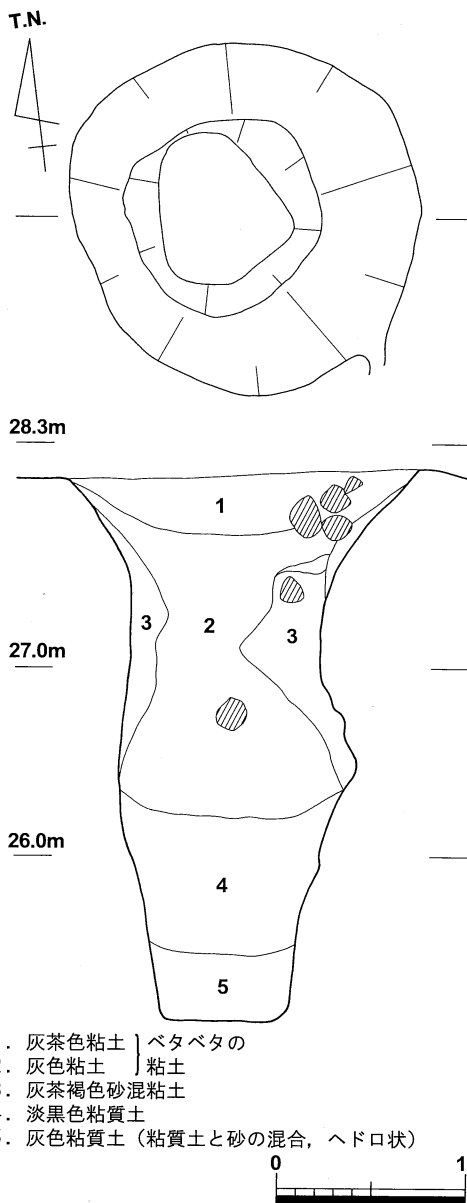
7. 土坑

SK01 (第158・160図, 図版52・73)

I 区の東端 B 1 区で検出した土坑である。平面は不整円形を呈し、断面は浅い逆台形状を呈する。長径2.0m×短径1.7m、深さ0.4mを測る。埋土は上下2層に分かれる。出土遺物としては、土師器杯、備前焼きの大甕約1/4个体分等が出土している。土坑の形状等から推定して、備前の大甕を据えるための土坑と考えられる。(第160図120)は備前焼の大甕である。口縁部及び底部を主体として約1/4程が残存していた。器高は推定で77cm程を測る。底部は平底で径32cmを測る。体部は長胴で上半部に最大径が位置する。口頸部は短く、口縁端部は丸く折り曲げられ玉縁状を呈する。外面はヘラ状工具、内面は板状工具により、丁寧に掻き取りながら表面の調整を行っている。この甕はその形状より備前焼IV期の前半頃(14世紀末～15世紀前半)にあたる土器と考えられる。

SK03 (第158図)

I 区の東端 B 2 区で検出した土坑である。平面は円形を呈し、断面は浅い逆台形状を呈する。径1.5m、深さ約0.2mを測る。埋土は2層に分かれる。出土遺物としては、土師器片、須恵器の杯等が少量出土している。



- 1. 灰茶色粘土 } ベタバタの
- 2. 灰色粘土 } 粘土
- 3. 灰茶褐色砂混粘土
- 4. 淡黒色粘質土
- 5. 灰色粘質土 (粘質土と砂の混合, ヘドロ状)

第157図 SE02平・断面図

SK04 (第158図)

I区の中央B3区で検出した土坑である。平面は長楕円形状を呈し、断面は浅いレンズ状を呈する。長径1.4m×短径0.7m、深さ約0.1mを測る。埋土は暗灰褐色粘質土を呈する。遺物は出土しなかった。

SK08 (第158図)

II区の中央B5区で検出した土坑である。平面は円形を呈し、断面は浅いU字状を呈する。長径1.1m×短径1.0m、深さ約0.4mを測る。埋土は上下2層に分かれる。遺物は出土しなかった。

SK09 (第169図, 図版63)

II区の東半部A5区で検出した土坑である。西半部でSX08を切り込み、南半部は攪乱により壊されているため、全体の約1/2を検出した。平面は長楕円形状を呈し、断面は浅いU字状を呈する。長径0.9m×短径0.6m、深さ約0.1mを測る。埋土は暗茶灰褐色砂質土を呈する。遺物は出土しなかった。

SK10 (第158・160図)

II区の中央B5区のSK11の北に隣接して検出した土坑である。平面は不整長方形形状を呈し、断面は逆台形状を呈する。長径1.7m×短径1.6m、深さ約0.7mを測る。埋土は3層に分かれる。出土遺物としては、土師器小皿、椀、瓦器椀、須恵器杯片等が少量出土している(第160図121~124)。(121)は土師器の小皿(122)は土師器の椀、(123・124)は和泉型の瓦器椀の上半部である。

SK11 (第158図)

II区の中央B5区のSK10の南に隣接して検出した土坑である。平面は長楕円形状を呈し、断面は浅い逆台形状を呈する。長径2.0m×短径0.8m、深さ約0.25mを測る。埋土は上下2層に分かれる。出土遺物としては、土師器土釜片、瓦器椀、須恵器片等が微量出土している。

SK12 (第158図)

II区の中央A5区で検出した土坑である。平面は隅丸方形形状を呈し、断面は浅い逆台形状を呈する。長径2.1m×短径1.8m、深さ約0.2mを測る。埋土は単層である。出土遺物としては、土師器片、須恵器杯、十瓶の甕片等が少量出土している。

SK13 (第159図, 図版64)

II区の中央A5区で検出した土坑である。平面は長楕円形状を呈し、断面は浅いU字状を呈する。長径2.8m×短径0.8m、深さ約0.2mを測る。埋土は上下2層に分かれる。出土遺物としては、土師器片、瓦器椀、須恵器片等が少量出土している。なお、SK13はその形状より墓の可能性はある。

SK15 (第159図)

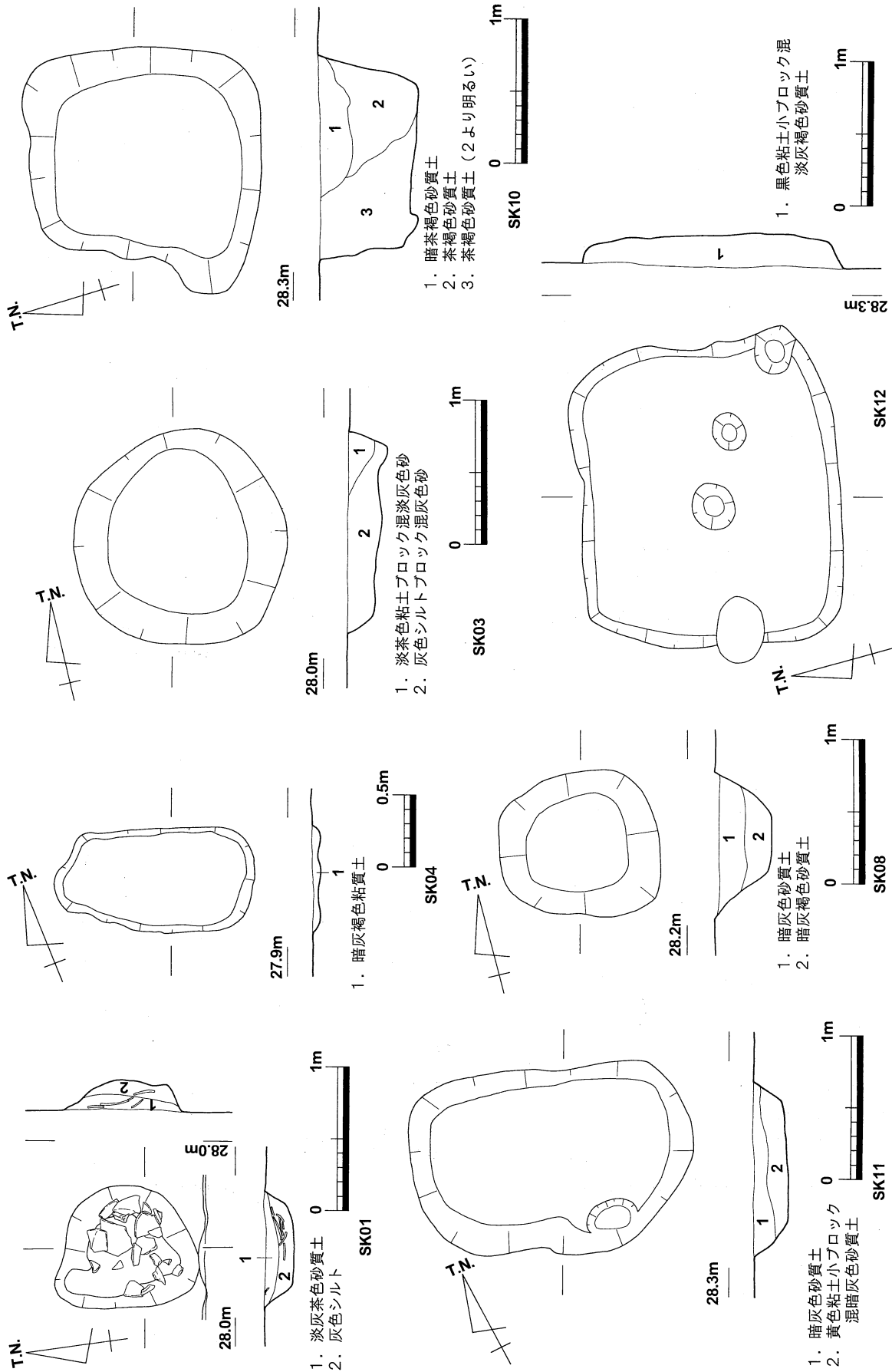
II区の西半部B6区で検出した土坑である。平面は不整円形状を呈し、断面は浅いU字状を呈するが、底部は一部凹凸がある。長径1.6m×短径1.4m、深さ約0.4mを測る。埋土は3層に分かれる。出土遺物としては、土師器片、須恵器杯片等が少量出土している。

SK18 (第159図)

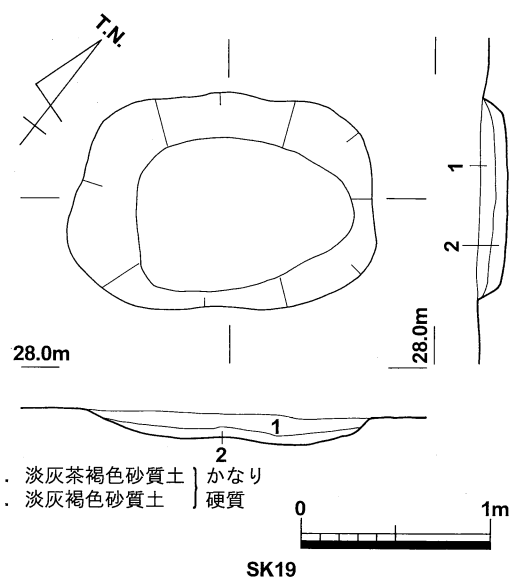
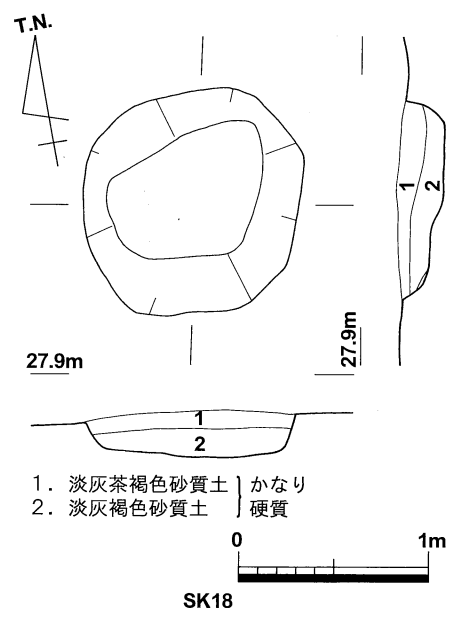
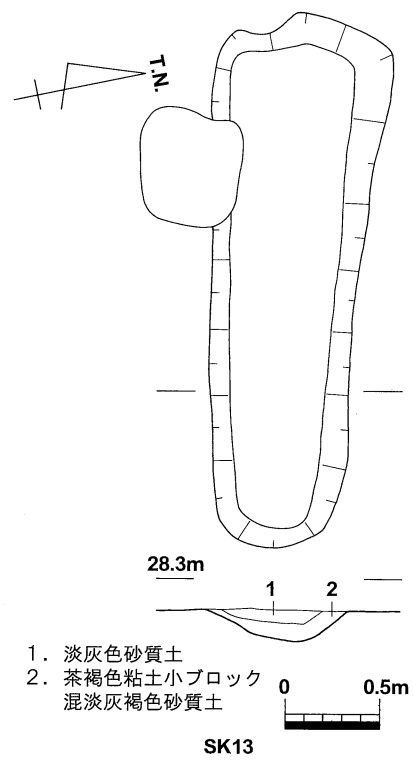
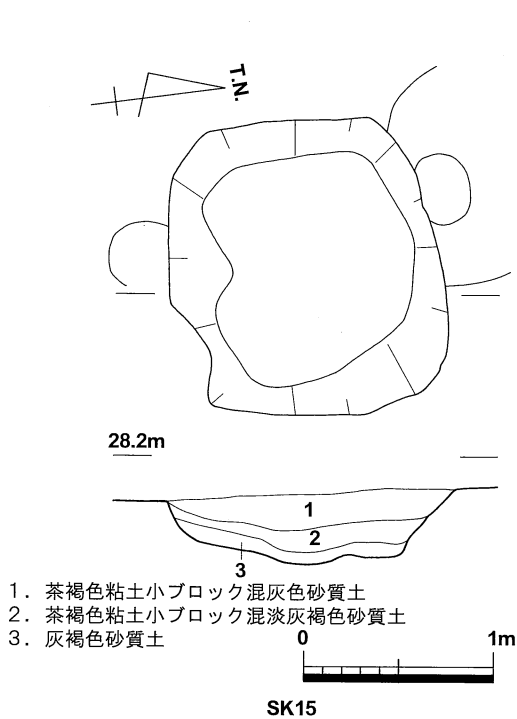
III区の中央A8区で検出した土坑である。平面は不整円形状を呈し、断面は浅いU字状を呈する。長径1.2m×短径1.1m、深さ約0.3mを測る。埋土は上下2層に分かれる。出土遺物としては、土師器片、須恵器片等が極少量出土している。

SK19 (第159図)

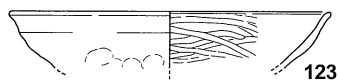
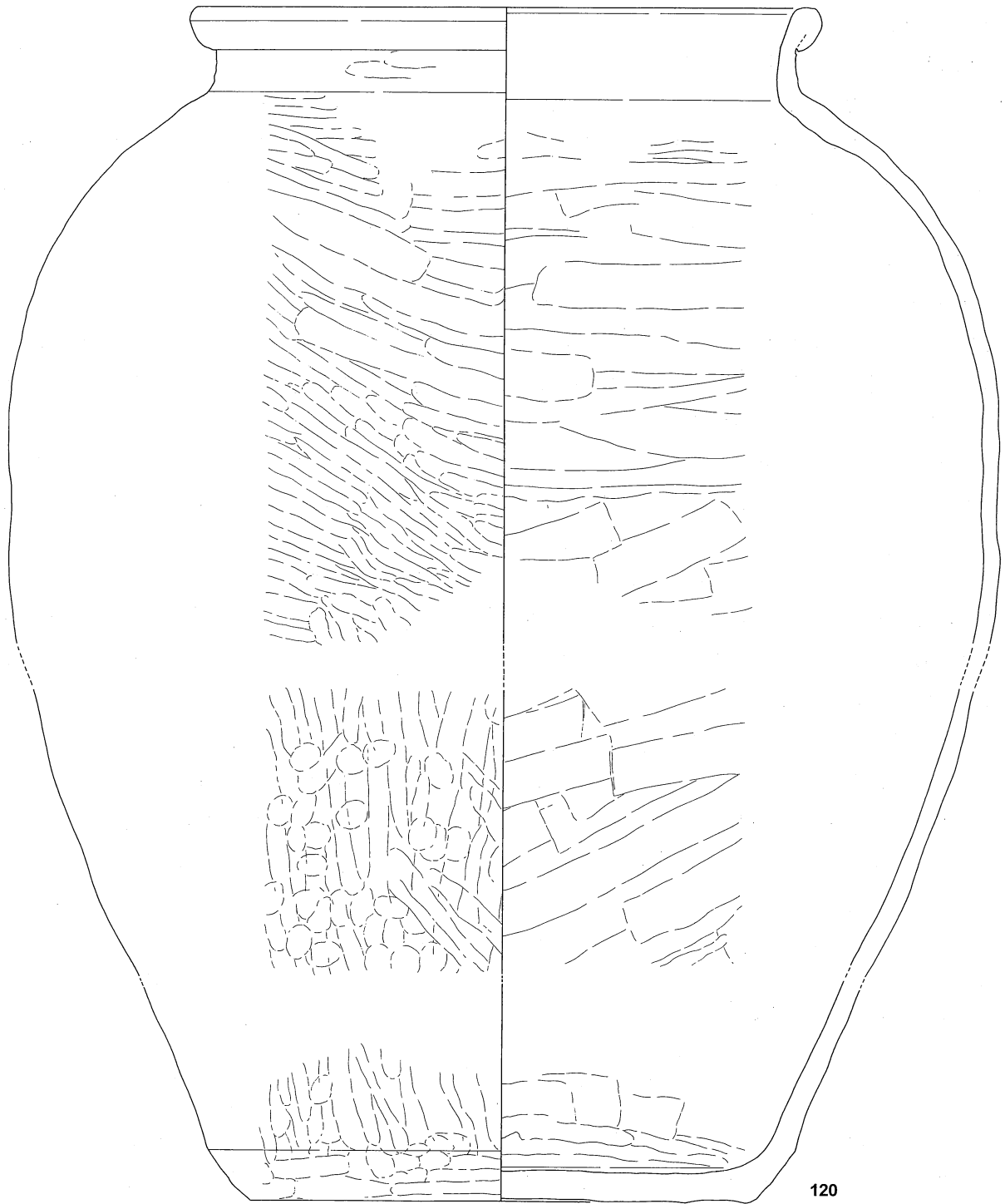
III区の中央B8区でSB37に隣接して検出した土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は浅いレンズ状を呈する。長径1.7m×短径1.2m、深さ約0.2mを測る。埋土は上下2層に分かれ、遺物は出土しなかった。



第158図 土坑平・断面図(1)



第159図 土坑平・断面図(2)



SK01:120
SK10:121~124



第160図 土坑出土遺物

8. 溝状遺構

SD01 (第161・164図, 図版53)

I区の東端部、A・B1区で検出した区画溝である。後述したようにSD01は本来SD06の東辺を区画していた、一時期古い段階のSD06の東辺溝と考えられる。断面は浅いU字状を呈し、検出長25.0m、検出幅1.1m、深さ0.3m、主軸方位はN8°Eを測る。埋土は上下2層に分かれる。出土遺物としては、土師器土釜、須恵器壺等が少量出土している。(第164図151)は土師器の土釜の底部片である。

SD04 (図版52)

I区の東半部、A・B2区で検出した南北溝である。北端部ではSD06により切られている。断面は浅いU字状を呈し、検出長9.5m、検出幅0.9m、深さ0.2mを測る。遺物は出土しなかった。なお、SD06周辺には、配置・規模等で類似したSD07・08等の小規模な南北溝が存在する。性格的に類似するものと考えたい。

SD05 (第161・165図, 図版52・74)

I区の東半部、A・B2区で検出した南北方向の溝である。北辺はSD06に切れ、東側にはSD04が隣接する。断面は浅いU字状を呈し、検出長13.5m、検出幅1.5~2.4m、深さ約0.4m、主軸方位はN15°Eを測る。埋土は上下2層に分かれる。出土遺物としては、土師器甕、須恵器杯・壺・甕等が少量出土している(第165図152~155)。(152・153)は須恵器杯、(154)は須恵器の有蓋の短頸壺(155)は須恵器の短頸壺(156)小型の須恵器甕の口縁部である。外面には線彫の記号が認められる。(157)は須恵器の鉄鉢である。体部は丸味をもち口縁端部は平坦に仕上げている。出土遺物よりSD05は7世紀中葉頃の時期が考えられる。

SD06 (第161・164図, 図版53・54・74・79)

I区のほぼ全域、A・B1~4区に所在する、屋敷地の外周を区画する堀状の溝である。溝は周辺の地割方向に主軸を揃え、北辺・東辺・西辺を区画する各々の溝からなる。北辺の溝は調査区の中に所在する現在の東西方向の里道に沿い、わずかに南に湾曲して東西方向に延びる。東辺の溝は南北方向に延び、A1区で北辺の東西溝と交わる。西辺の溝も南北方向に延び、A4区で北辺の東西溝と交わる。3辺の溝とも切り合いは認められず、全体の形状は南に空いた「コ」の字状の配置を呈している。そのため、方形に巡る区画溝のおおよそ北半分を検出した状態と考えられる。なお、東辺の溝の東に隣接して南北方向に延びるSD01は埋土・配置等SD06の東辺の溝にかなり類似している。切り合いよりSD01が先行するため、SD01は本来SD06の東辺を区画していた古い段階の東辺溝と考えられる。また、SD06の区画内に所在する、SD04・07~09等の南北溝は、区画内を更に小区画するための溝と考えられる。

北辺の東西溝は、検出長43.0m、幅約2.0m、深さ約0.5mを測る。なお、北辺溝の北肩部は調査区の関係で検出できなかった。東辺の南北溝は、検出長10.0m、幅約0.7m、深さ約0.1mを測る。西辺の南北溝は、検出長20.0m、幅2.5~3.6m、深さ約0.4mを測る。方位は南北溝でN13°Eを測る。断面形は地点により変化はするが、概ね幅広なU字状を呈する。埋土は地点により微妙に異なるが、概ね上層が灰茶褐色系の砂質土で、下層が灰色系のシルトないしは砂質土を呈している。なお、北辺溝と東辺・西辺溝との合流地点及び区画溝SD09との合流地点にはSX02~04等の不整形な落ち込みが溝の底を掘り込んでいる。これら3辺の溝に区画された約680m²範囲内には、溝とほぼ同一時期と考えられる柱穴を、数百基検出した。これらの中より整合性をもつ建物を抽出するにはかなりむずかしいが、数基の建物跡を抽出した。

SD06からの出土遺物としては、土師器小皿・杯・椀・播鉢・土鍋・土釜、瓦器椀、須恵器杯・壺・甕、唐津皿、肥前系染付け椀、備前甕等がコンテナ1箱出土した(第164図125~150)。(125)は同安窯

系の青磁の皿である。(126~127)は肥前系陶器の皿、(128)は肥前系陶器の溝縁皿である。3点とも内面に砂目積が認められる。(129~131)は土師器の杯(132~136)は須恵器の杯である。(132~133)は7世紀前半頃(135・136)は10世紀頃の遺物で混入品である。(137)は7世紀頃の土師器杯で混入品である。(138・139)は肥前系の染付けの椀である。(140)は瓦質の鍋の口縁部である。形状より亀山焼きの可能性がある。(141・142)は在地の土師器搗鉢である。(141)底部は平底で体部は外上方へ直線状に延び、口縁部付近で屈曲し口縁部に至る。口縁部は斜方向に平坦に仕上げ、端部は丸く納めている。内外面共に比較的調整は粗い。(143・144)は羽釜及び土釜の口縁部、(145~148)は土釜の脚部である。(149)は備前焼の甕口縁部で、口縁端部は丸く折り曲げられ玉縁状を呈する。(150)はサヌカイト製の槍先形石器の基部片である。稜線及び器面上には、装着によるものか使用痕が認められる。弥生時代の遺物と考えられ混入品である。SD06の所属時期を決めるには、混入品を多量に含んでいるため困難な点があるが、少なくとも17世紀中葉頃には埋没しているものと考えられる。

SD07

I区の東半部、A・B2区で検出した南北溝である。SD05の西に位置し、北端部ではSD06により切られている。断面は浅いU字状を呈し、検出長5.5m、検出幅0.6m、深さ0.2mを測る。出土遺物としては、須恵器杯、陶器の椀等が少量出土している。

SD08

I区の東半部、A・B2区で検出した南北溝である。SD07の西に位置し、北端部ではSD06と合流する。断面は浅いU字状を呈し、検出長4.0m、検出幅0.3m、深さ0.1mを測る。遺物は出土しなかった。

SD09 (第162・165図, 図版55)

I区の中央、A・B2・3区で検出した南北方向の区画溝である。先述したようにSD09は、SD06が区画する敷地内を、東西に更に分割する区画溝と考えられる。区画された西区画と東区画は柱穴の密度が異なり、西区画の密度がかなり高い。そのためSD09は居住域の東辺を画する溝と考えられる。断面は低部がかなり凹凸が認められる不整形な形状を呈し、検出長14.0m、検出幅1.8m、深さ0.2m、主軸方位はN12°Eを測る。埋土は灰褐色砂質土の単層である。出土遺物としては、土師小皿・杯・鍋、陶磁器片等が少量出土している(第165図158~160)。(158・159)は肥前系陶器の溝縁皿である。(160)は土師器土鍋の口縁部である。これらの出土遺物よりSD05は、17世紀中葉頃の時期が考えられる。

SD10 (第162図)

I区の西半部、A3区で検出した南北方向の溝である。SD06の西辺溝より東約2m隔て、西辺溝と向きを揃え南北方向に延びるが、削平によるものかA3区の南端部で途絶える。断面は浅い逆台形状を呈し、検出長8.5m、検出幅1.5m~2.4m、深さ約0.4m、主軸方位はN10°Eを測る。埋土は灰褐色砂質土の単層である。出土遺物としては、土師器、須恵器片等が少量出土している。

SD11 (第162図)

I区の西半部、B4区で検出した南北方向の幅広で短い溝である。断面は浅い逆台形状を呈し、検出長3.1m、検出幅約1.5m、深さ約0.1mを測る。埋土は灰褐色砂質土の単層である。遺物は出土しなかった。

SD12 (第162・165図, 図版55)

I区の西半部、A・B4区で検出した南北方向の幅広な溝である。SD06の西辺溝より西約8m隔て、西辺溝と向きを揃え南北方向に延びるが、削平によるものかA4区の北端部で途絶える。規模・配置等SD06の西辺溝に類似する事より、SD12は、SD01同様にSD06に先行する区画溝の可能性がある。断面

は浅いU字状を呈し、検出長13.5m、検出幅1.5m～2.4m、深さ約0.4m、主軸方位はN15° Eを測る。埋土は10層に細分される。出土遺物としては、土師器杯・椀・鉢、陶磁器片、キセル等が少量出土している（第165図161～164）。（161）（162）は肥前系の青磁椀の高台部である。（163）は備前の播鉢の口縁部である。

SD13

Ⅱ区の東端部、A・B4区で検出した、南北方向に短く延びる不整形な溝である。断面は浅い皿状を呈し、検出長11.0m、検出幅約0.8～2.8m、深さ約0.2mを測る。出土遺物としては、土師器土釜、須恵器甕片等が少量出土しており、16世紀頃の時期が考えられる。

SD14（第162図）

Ⅱ区の東端部、B4・5区で検出した、東西方向に短く延びる溝である。断面は不整形なU字状を呈し、検出長4.5m、検出幅約1.0m、深さ約0.3mを測る。埋土は上下で2層に分かれる。出土遺物としては、土師器甕片等が少量出土している。

SD15（第162・165図）

Ⅱ区の中央、A・B6区で検出した南北方向の細長い溝である。断面は地点により異なるが、おおまかに見て浅い逆台形状を呈する。検出長22.5m、検出幅約0.4m～1.0m、深さ約0.2m、主軸方位はN15.5° Eを測る。埋土は淡灰褐色砂質土の単層である。出土遺物としては、土師器鍋、須恵器杯、陶器皿等が少量出土している（第165図165～169）。（165）は肥前系陶器の溝縁皿（166）は須恵器杯の口縁部で混入品である。（167）（168）は土師器の土鍋片（169）は土師器甕の把手部で混入品である。これらの出土遺物よりSD15は、17世紀中葉頃の時期が考えられる。

SD16（第162図）

Ⅱ区の西半部、A・B6区で検出した北東方向に延びる細長い溝である。断面は地点により異なるが、おおまかに見て浅い不整形なU字状を呈する。検出長15.0m、検出幅約0.5m、深さ約0.1m～0.3mを測る。埋土は上下2層に分かれる。出土遺物としては、土師器・須恵器片が少量出土している。

SD17（第162・165図，図版64）

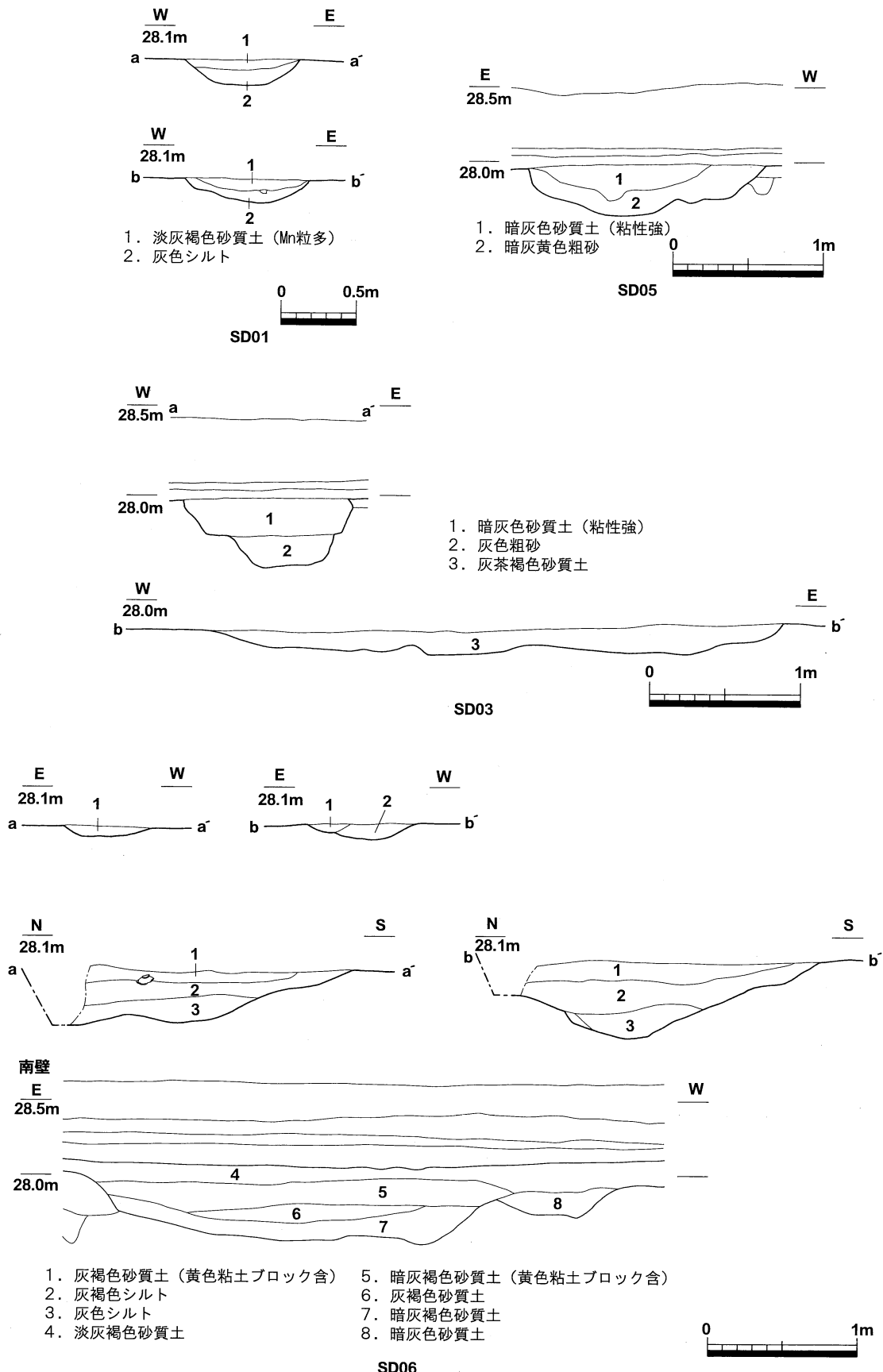
Ⅱ区の西端部、A・B6区で検出した、対象地内に残る南北の里道沿いに延びる溝である。調査区の関係で一部西肩部が未検出のところがある。SB28・29等の柱穴を切り込んでいる。また、この溝は、複数時期に分かれるものと考えられ、断面も不整形で、埋土も複雑に5層に分かれる。検出長15.5m、検出幅約1.0m、深さ約0.2mを測る。主軸方位はN14° Eを測る。出土遺物としては、土師器片、須恵器甕、陶器片等が少量出土している。（第165図170）は形状より堺産の備前焼播鉢の口縁部である。

SD18（第165図，図版69）

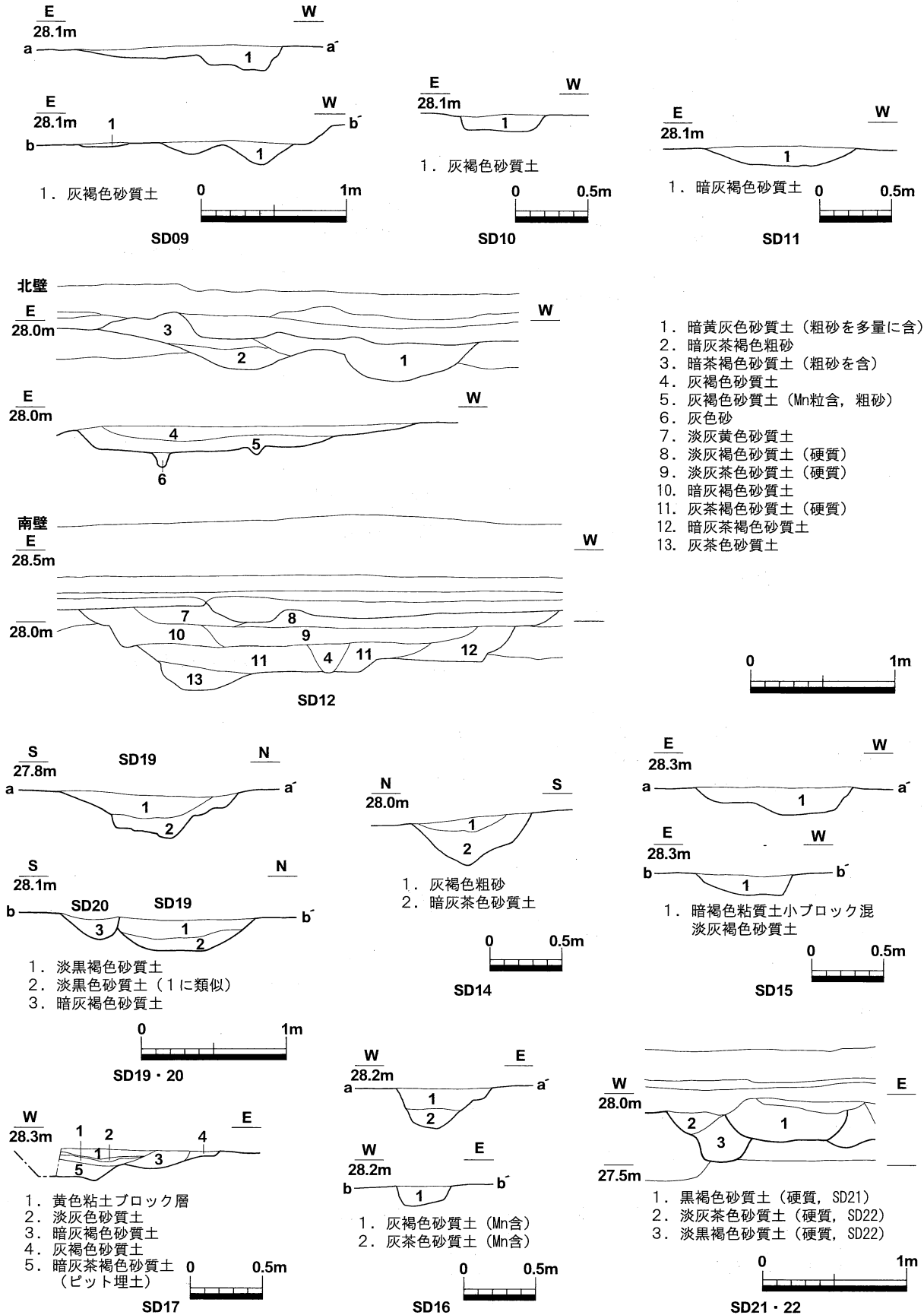
Ⅲ区の東半部、A7区で検出した、東西方向に延びる溝である。この溝の西約3.0mの地点には、SD18に直交する方向で南北溝のSD21・22が所在する。これらの溝に区画された空間には、溝方向に向きを揃えたSB39・40が所在する。そのため、これらの遺構はほぼ同時期の屋敷地を構成する遺構群と考えられる。断面は浅いU字状を呈し、検出長16.5m、検出幅約0.7m、深さ約0.2m、主軸方位はN76° Wを測る。出土遺物としては、土師器杯片が1点出土している。（第165図171）は7世紀頃の土師器の杯で、混入品である。

SD19・20（第162図）

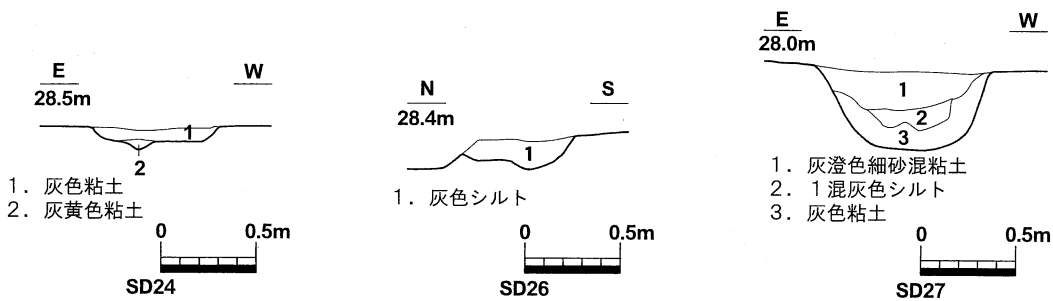
Ⅲ区の南東端部B7区よりA8区に向けて北西方向に向けて浅谷3が延びる。SD19・20はその谷底の最深部を北西方向に延びる。この2条の溝は微高地上の水を集積し、調査地西方の南北に延びる旧河



第161図 溝状遺構断面図 (1)



第162図 溝状遺構断面図 (2)



第163図 溝状遺構断面図（3）

道1に排水するための排水路と考えられる。二つの溝はB7区で切り合い「Y」字型に分離し北西方向に延びる。切り合い関係ではSD19が先行し、SD20が後出する。SD19の断面は不整形な逆台形状を呈し、検出長約23.0m、検出幅約1.0m、深さ約0.3mを測る。埋土は上下2層に分かれる。SD20の断面は浅いU字状を呈し、検出長約16.0m、検出幅0.5m～1.2m、深さ約0.2mを測る。埋土は単層である。なお、この二つの溝からは遺物は出土しなかった。

SD21・22（第162・165図，図版69）

Ⅲ区の東半部、A7・8区で検出した、南北方向に延びる溝である。両者は肩部で僅かに切りあい、その切り合いより、SD22が21より先行する。SD21・22は先述したように、SD18との関係で、SB39・40の建物群からなる屋敷地を画した区画溝と考えられる。SD21の断面は、浅いU字状を呈し、検出長5.5m、検出幅約0.8m、深さ約0.2m、主軸方位はN12°Eを測る。出土遺物としては、土師器片が2点出土している。SD22の断面は、浅いU字状を呈し、検出長5.5m、検出幅約0.8m、深さ約0.2m、主軸方位はN13°Eを測る。出土遺物としては、土師器甕片、須恵器高杯片等が少量出土している。（第165図172）はSD22から出土した土師器の甕片である。7世紀頃の甕で混入品と考えられる。

SD24（第163図，図版68）

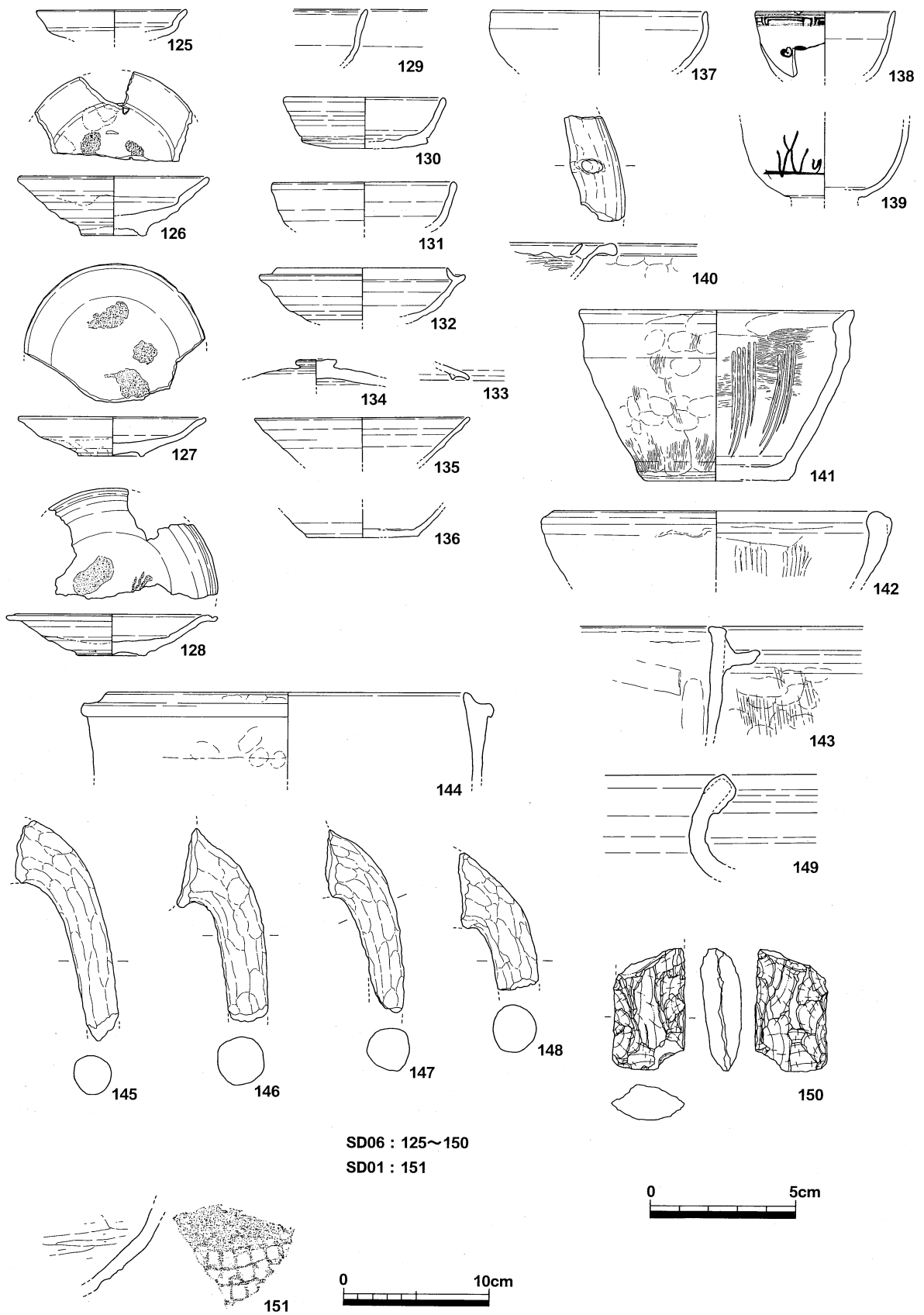
Ⅲ区の中央B7区で検出した、南北方向に延びる溝である。SE02に隣接し、北端ではSD26に切られている。断面は浅いU字状を呈し、検出長3.5m、検出幅約0.7m、深さ約0.2mを測る。出土遺物としては、土師器・須恵器片等が少量出土している。

SD26（第163・165図）

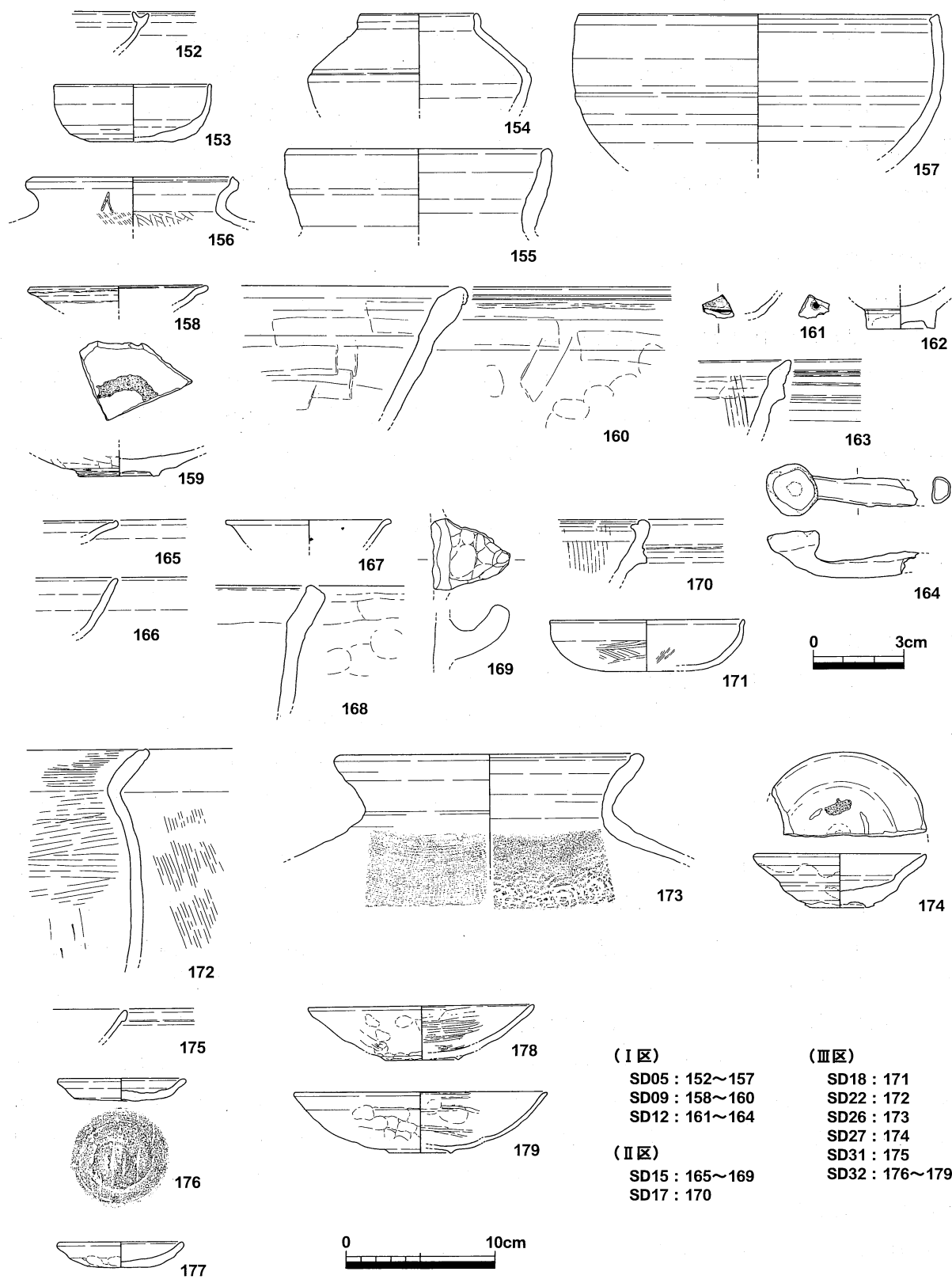
Ⅲ区の中央、A・B7・8区で検出した、東西方向に延びる溝である。東端ではSE02の上端部に繋がっているため、性格的にはSE02の排水路と考えられる。断面は浅いU字状を呈し、検出長16.5m、検出幅0.3m～0.7m、深さ約0.2m、主軸方位はN74°Wを測る。出土遺物としては、土師器鍋、須恵器杯・壺・甕等が少量出土している。（第165図173）は7世紀頃の須恵器甕の上半部で、混入品である。

SD27（第163・165図，図版74）

Ⅲ区の西半部A・B9区で検出した南北方向に延びる溝である。西側にはSB41、SD28～31等が隣接している。断面はU字状を呈し、検出長22.0m、検出幅約1.2m、深さ約0.4m、主軸方位はN14°Eを測る。埋土は3層に分層できる。なお、堆積状況を観察する限り最低1回の溝の改修が確認できる。出土遺物としては、土師器土釜、須恵器杯、陶器皿等が少量出土している。（第165図174）は肥前系陶器の皿である。出土遺物よりSD27は、17世紀前半頃の時期が考えられる。



第164図 溝状遺構出土遺物 (1)



第165图 溝状遺構出土遺物(2)

SD28～31 (第165図, 図版69)

Ⅲ区の西端部A 9区で検出した、東西方向に延びる4条の溝群である。南にSB41、東にSD27が隣接している。小規模な4条の溝が約0.3mの間をあけて平行に配されている。そのため、これらの溝は畑作に伴う畝溝群と考えられる。断面は浅いU字状を呈し、検出長7.5m～8.5m、検出幅約0.3m～0.5m、深さ約0.1mを測る。埋土は単層である。出土遺物としては、土師器片、須恵器杯・甕、磁器碗片等が少量出土している。(第165図175)はSD31より出土した、白磁の碗口縁部である。横田・森田分類のⅡ1類にあたる。

SD32 (第147・165図, 図版70・74)

Ⅲ区の西端部A 9区で検出した、東西方向に延びる溝である。約0.6m東にはSB41が隣接する。また、SB41の梁間方向とSD32の主軸が概ね同方向を向くことより、SD32はSB41の雨落ち溝と考えられる。断面は浅いU字状を呈し、検出長約5.5m、検出幅約0.5m、深さ約0.2m、主軸方位は4.5° Eを測る。埋土は2層に分かれる。出土遺物としては、土師器小皿・碗、瓦器碗、須恵器杯片等が少量出土している(第165図176～179)。(176)は土師器小皿、(177)は瓦器小皿である。(178・179)は和泉型の瓦器碗である。高台部は小さく断面三角状を呈する。体部の器高は低く口縁端部は丸く納めている。外面下半部にはオサエ痕が顕著で、内面にはヘラミガキが認められる。出土遺物よりSD32は、13世紀前半頃の時期が考えられる。

9. 不整形遺構

SX02 (第166図, 図版53・56)

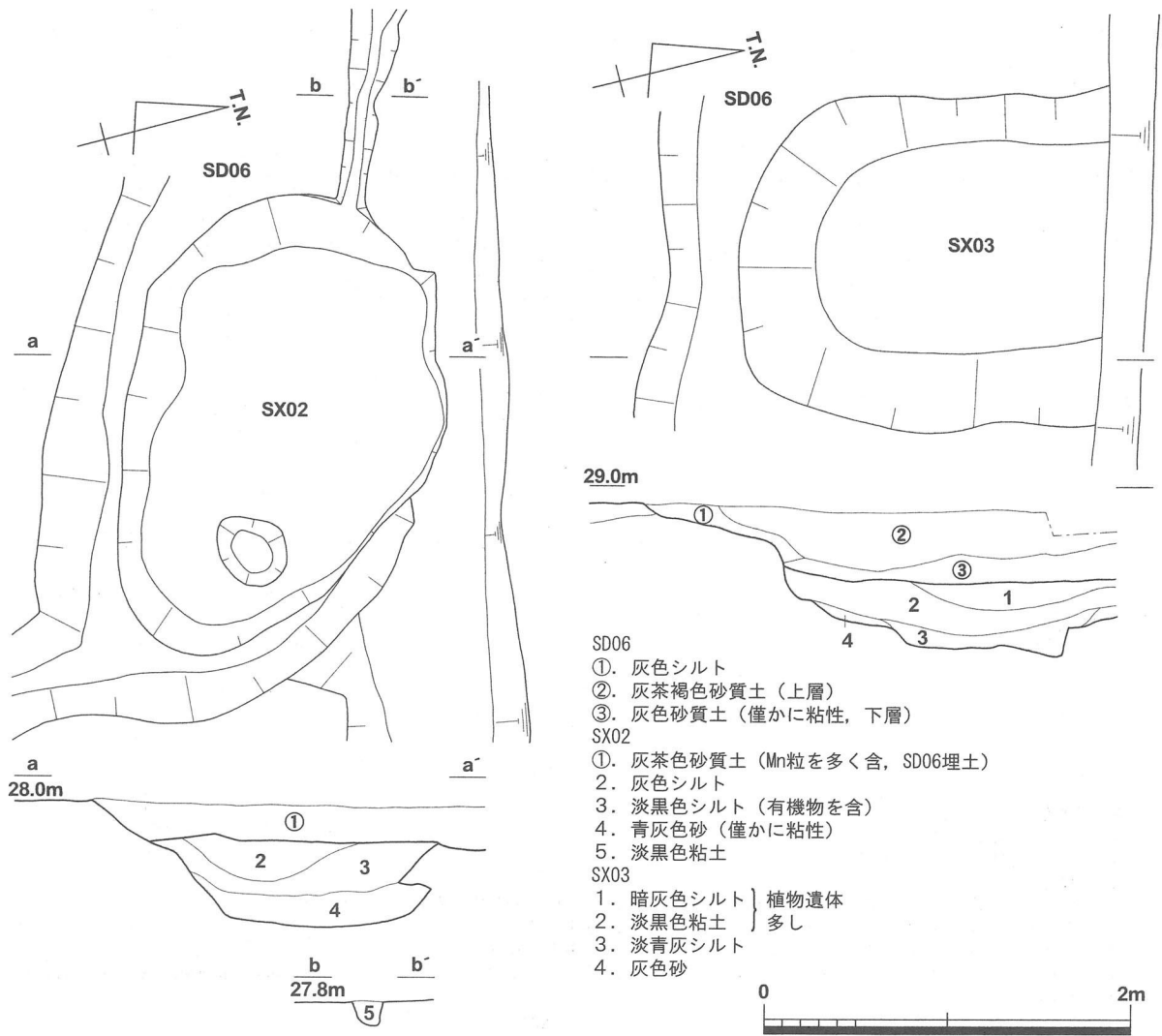
I区の東端A 1区SD06の北辺溝と東辺溝の合流地点の、SD06の底で検出した落ち込みである。この遺構はSX03同様に、2条の溝の合流地点に所在する事より、SD06東辺溝に関連した遺構と考えられる。平面は不整形楕円形状を呈し、断面は逆台形状を呈する。長径2.6m×短径1.7m、深さ約0.5mを測る。埋土は3層に分かれる。出土遺物としては、土師器片が少量出土している。

SX03 (第166・167図, 図版56・75)

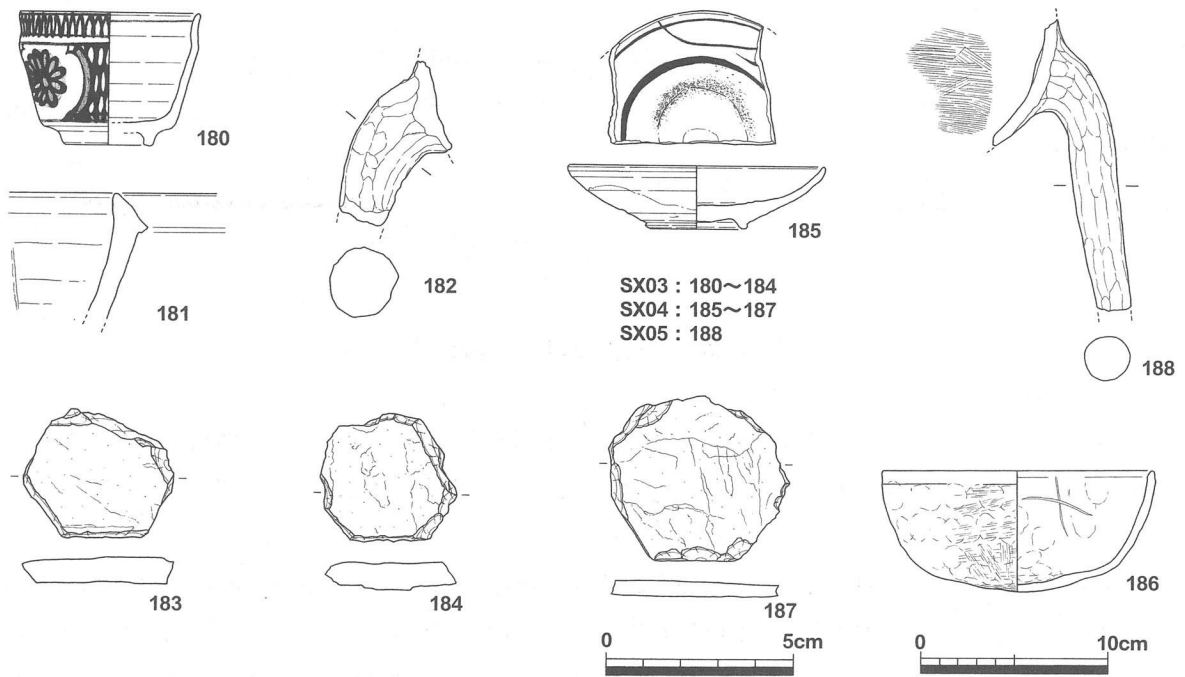
I区の中央A 2区SD06の底で検出した落ち込みである。北半部は対象地内に所在する里道の下に延びるため南半部のみ検出した。この遺構の南方0.5mには、SD06に区画された屋敷地内を東西に小区画する南北溝SD09が所在する。SX03は、南北溝SD09がSD06に合流する地点に位置していて、それらの状況とSX03の規模等よりSX03は、SD09に関連した遺構と考えられる。平面は楕円形状を呈し、断面は浅いU字状を呈する。長径2.0m以上×短径1.8m、深さ約0.4mを測る。埋土は6層に分かれる。出土遺物としては、土師器土釜、須恵器片、磁器碗、備前鉢等が少量出土している(第167図180～184)。(180)は肥前系の染付け碗、時期は17世紀中葉頃で、所謂初期伊万里碗にあたる。(181)は備前焼の播鉢片(182)は土釜の脚部である。(183・184)は石製紡錘車の未製品である。出土遺物よりSX03は、17世紀中葉頃の時期が考えられる。

SX04 (第167・168図, 図版57・75)

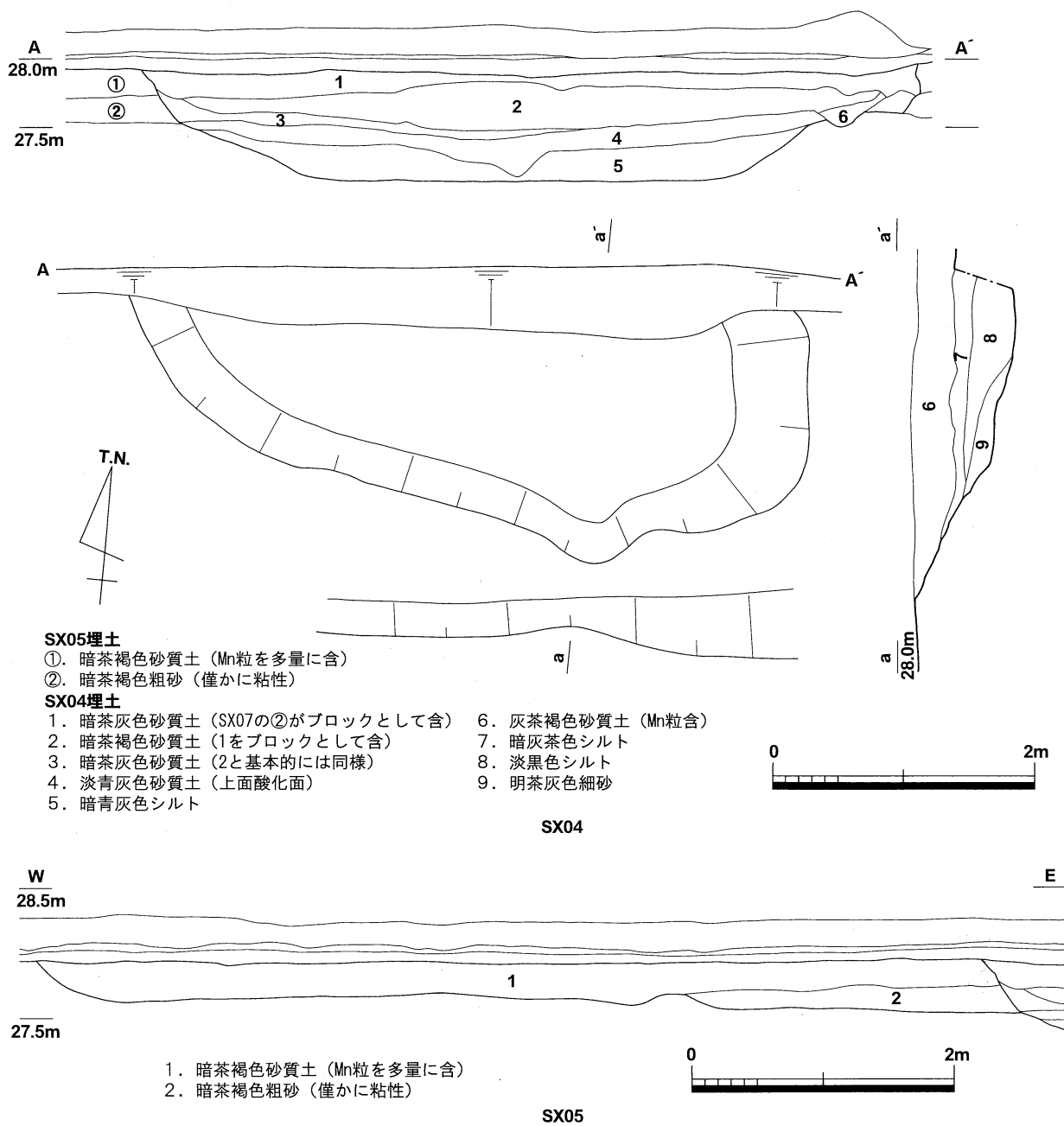
I区の中央A 3区でSD06、SX05を切り込む形で検出した大型の落ち込みである。北半部は対象地外に延びるため南半部のみ検出した。平面は楕円形状を呈し、断面は鈍い逆台形状を呈する。長径5.0m×短径1.8m以上、深さ約0.8mを測る。埋土は9層に分かれる。出土遺物としては、土師器土釜・播鉢、須恵器甕、陶器皿・甕等が少量出土している(第167図185～187)。(185)は肥前系陶器の皿で、所謂絵



第166図 不整形遺構平・断面図 (1)



第167図 SX03・04出土遺物



第168図 不整形遺構平・断面図 (2)

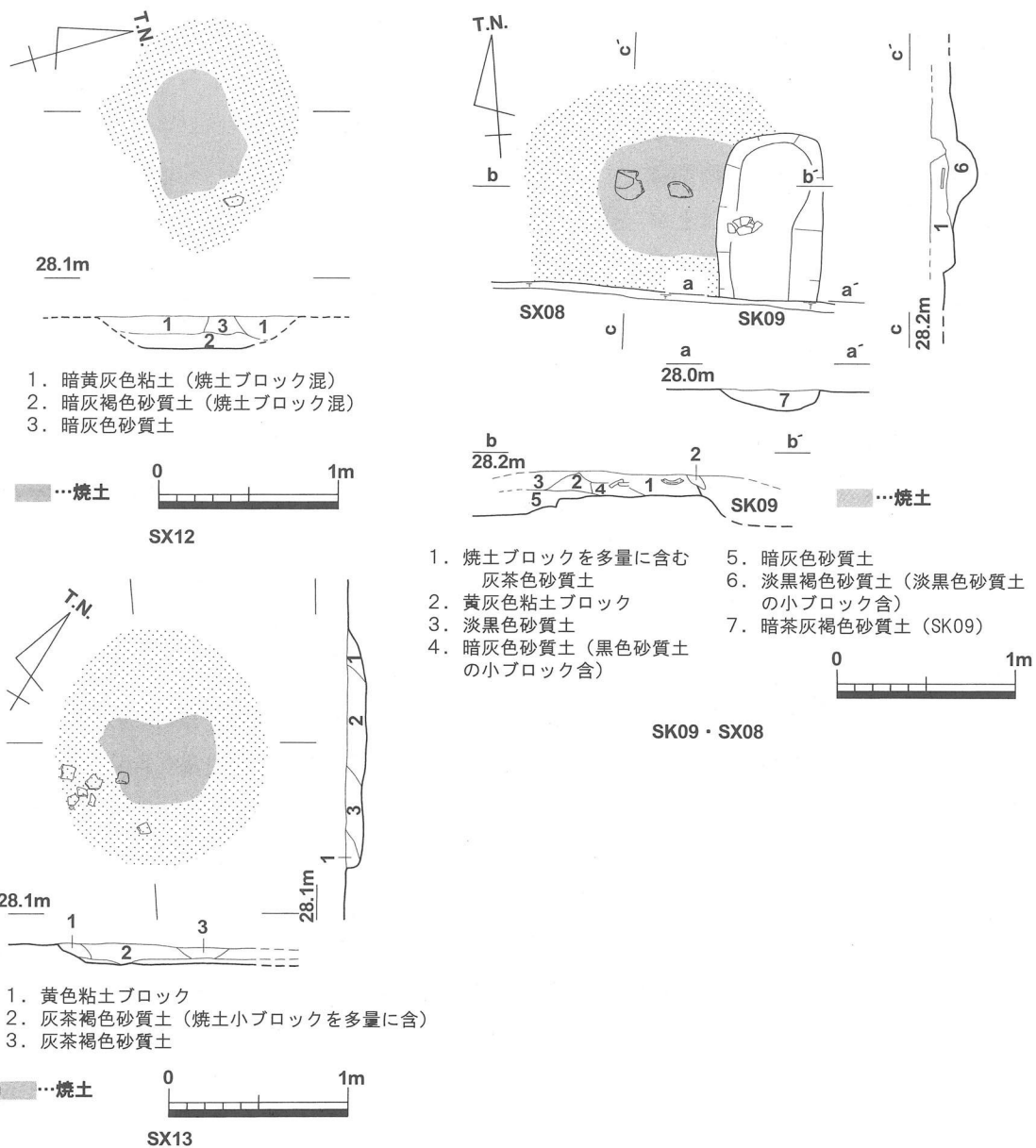
唐津の皿である。(186)は土師器椀で、内面に「×」の記号が施されている。状況より混入品と考えられる。(187)は石製紡錘車の未製品である。出土遺物よりSX04は、17世紀前半頃の時期が考えられる。

SX05 (第167・168図)

I区の西半部A4区でSD06、SX04に切られる形で検出した浅い落ち込みである。北半部は対象地外に延びるため南半部のみ検出した。SX07は北に向かい僅かに傾斜し、深さも増す。長径7.0m×短径5.5m以上、深さ約0.4mを測る。埋土は上下2層に分かれる。出土遺物としては、土師器土釜片が少量出土している。

SX08 (第169・170図, 図版63・75)

Ⅱ区の東半部A5区で検出した、焼土・炭化物等が広がる性格不明の遺構である。南半部は試掘トレンチにより切り込まれているため、約1/2を検出した。また、東端部はSK09により切り込まれている。平面は端部が不明瞭なため定かではないが、おそらく不整楕円形状を呈するものと考えられる。断面は不整形に凹凸がある。長径1.5m以上×短径1.2m以上、深さ約0.1mを測る。埋土は6層に分かれる。性格については不明な点が多いが、同種の遺構はⅡ区のSX09、Ⅲ区のSX12・13等2～3例みられ、状況より鍛冶に係わる遺構の可能性が考えられる。出土遺物としては、土師器甕、須恵器杯・甕片が少量出土している(第170図189・190)。(189)は7世紀第1四半期頃の須恵器杯身である。(190)は土師器の甕である。底部は丸味を持った平底で、体部は丸味を持ち口縁部は外上方へ直線気味に伸び、端部は



第169図 不整形遺構平・断面図(3)

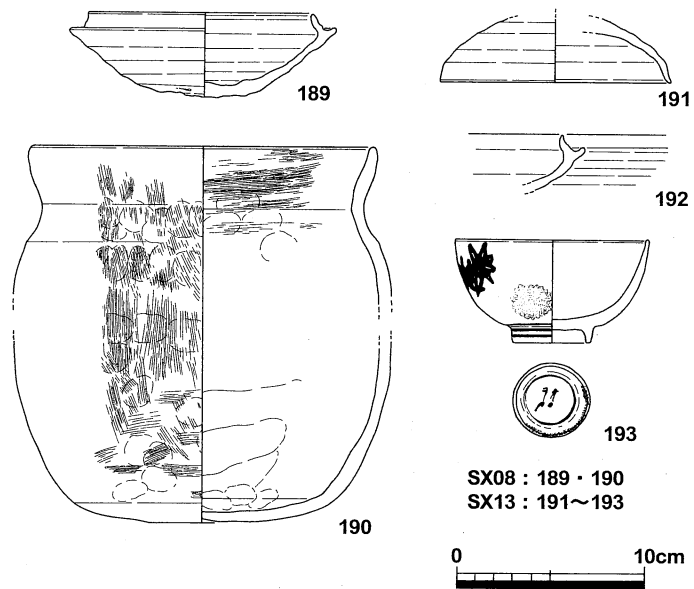
丸く収まる。内外面共に細かなハケ調整が顕著に認められる。出土遺物よりSX08は7世紀初頭頃の時期が考えられる。

SX12 (第147・169図)

Ⅲ区の東半部A7区で検出した、焼土・炭化物等が広がる性格不明の遺構である。なお、この遺構はⅡ区SX08に類似する。平面は端部が不明瞭なため定かではないが、おそらく不整楕円形状を呈するものと考えられる。断面は不整形な皿状を呈する。長径 1.2m以上×短径1.0m以上、深さ約0.2mを測る。埋土は3層に分かれる。なお、1・2層間には焼土塊が面的広がっている。出土遺物としては、土師器甕、須恵器甕片が少量出土している。

SX13 (第169・170図, 図版75)

Ⅲ区の東半部A7区で検出した、焼土・炭化物等が広がる性格不明の遺構である。なお、この遺構はⅡ区SX08に類似する。平面は端部が不明瞭なため定かではないが、おそらく不整円形状を呈するものと考えられる。断面は浅い皿状を呈する。長径1.3m以上×短径1.2m以上、深さ約0.1mを測る。埋土は3層に分かれる。出土遺物としては、土師器壺・甕、須恵器杯・壺片が少量出土している(第170図191~193)。(191・192)は7世紀前半頃の須恵器杯の蓋と身である。(193)は18世紀前半頃の肥前系の染付け椀で、高台部に「大明年製」の記載が認められる。なお、この土器は混入品である。出土遺物よりSX13は7世紀前半頃の時期が考えられる。



第170図 SX08・13出土遺物

なお、この土器は混入品である。出土遺物よりSX13は7世紀前半頃の時期が考えられる。

SX14

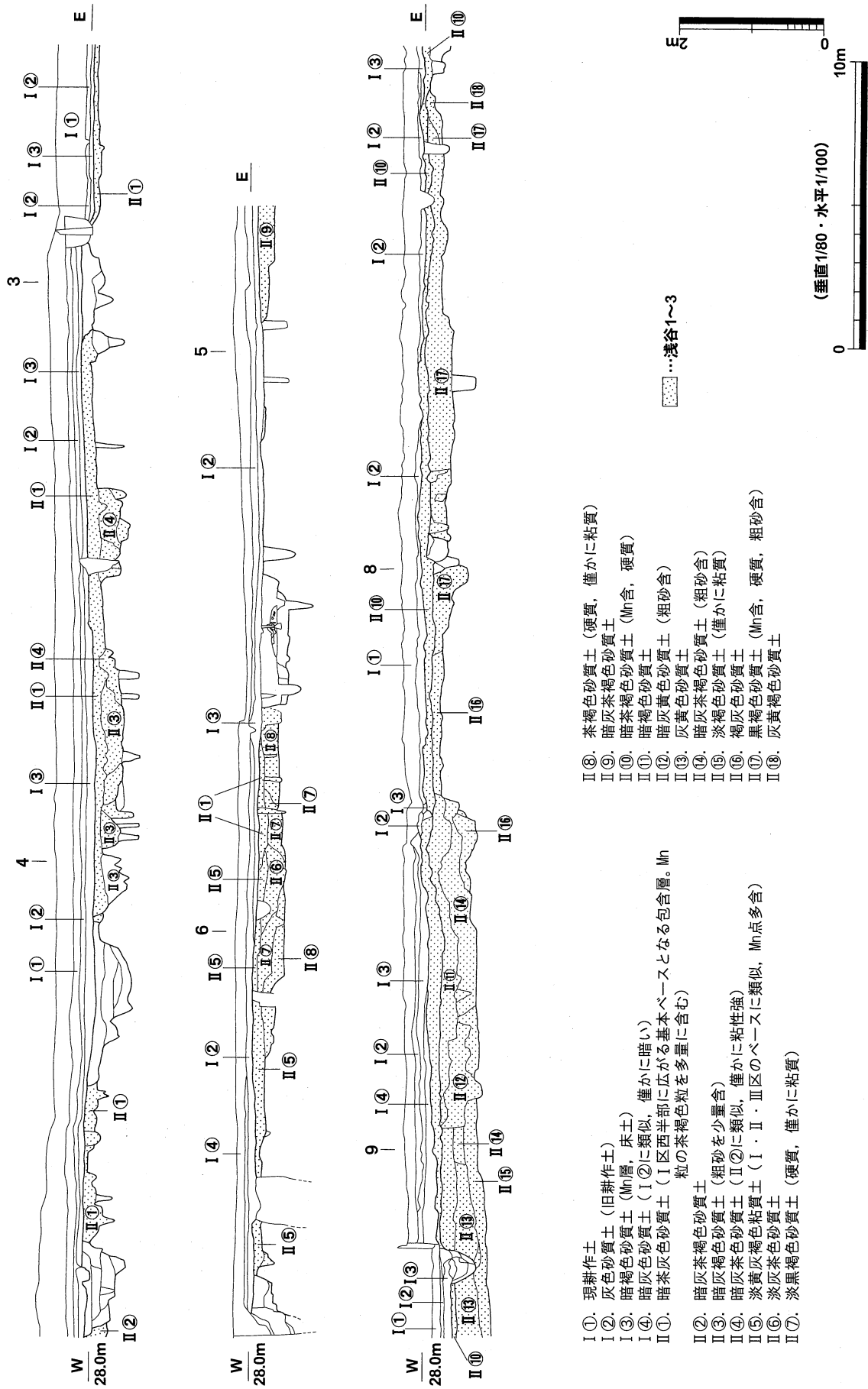
Ⅲ区の西端部B9区で検出した、不整形な落ち込みである。平面は不整楕円形状を呈するものと考えられる。断面は不整形な皿状を呈する。長径1.7m以上×短径1.0m以上、深さ約0.2mを測る。埋土は単層である。出土遺物としては、土師器片が少量出土している。

10. 浅谷

微高地には現地地形から分からない、小規模な浅い谷が3地点で確認された。これら3つの浅谷は、北ないし北西方向に向かって「ハ」の字状に開き、結果的に微高地を3区分している。西から東に向け浅谷1~3と呼称する。浅谷1~3では上・下2面の遺構面を確認した。上位の遺構面で鎌倉~江戸時代の遺構、下位の遺構面で古墳時代末頃の遺構を検出した。

浅谷1 (第171・172図, 図版76・77・79~81)

I区西半部よりⅡ区東端部に広がる浅谷である。北に向かい「ハ」の字状に開き、また、北に向かい緩く傾斜している。微高地から広がる遺構面は、浅谷1の区域では上位と下位で遺構面が2面に分かれ



第171図 浅谷1~3土層図

る。上位の遺構面は鎌倉～江戸時代の掘立柱建物跡と柱穴を主体にした遺構群が展開する。主要な遺構ではSB04～08、SE02、SD06・09・12等の遺構群である。下位の遺構面からは古墳時代末頃の掘立柱建物跡、柱穴等を確認した。主要な遺構ではSB01～03等の建物群である。堆積層は概ね5層に分かれるが、調査区を広範囲に覆う主体となる堆積層は、上位の遺構面を被服するⅡ⑱層と、上位の遺構面のベースとなるⅡ①層である。なお、Ⅱ⑱層は浅谷1の北半部に広がっており、第171図の図面上には記載できていない点を断っておく。堆積層中からの出土遺物はコンテナ4箱程出土し、そのうち3箱はⅡ⑱層の遺物が占める。出土遺物の中には、上位から掘り込む柱穴等の掘り残しの関係か、上位遺構面の時代性と整合が図れない遺物が含まれている。

(第172図194～215)はⅡ⑱層からは出土した遺物である。出土した遺物は12～13世紀頃の遺物が中心であるが、少量7世紀頃の遺物を含んでいる。(194～198)は土師器小皿、(199～207)は土師器杯である。(208)は西村産の瓦質椀、(209～211)は青磁椀で(209)は横田・森田分類のⅠ5b類(210・211)は横田・森田分類のⅠ5a類にあたる。(212)は土師器の火鉢の口縁部で、外面には印花文を施している。(213)は7世紀頃の須恵器高杯の脚部である。(214・215)は7世紀頃の土師器甕である。体部はやや長胴気味で、口縁部は外上方へ「ハ」の字状に開き端部は丸く納めている。

(第172図216～220)はⅡ①層から出土した遺物である。(216)は瓦質の焙烙で混入品であろう。(217)は須恵質の丸瓦片、(218)は砥石、(219)は凹基式のサヌカイト製の石鏃である。(220)は打製石斧の破損品に、二次加工を加えたサヌカイト製の調整有る剥片である。打製石斧の段階の使用痕と考えられる摩滅痕が、外面に顕著に認められる。(221)は凝灰岩製の石臼である。

浅谷2 (第171・173図, 図版79)

Ⅱ区東端部より西半部に広がる浅谷である。北に向かい「ハ」の字状に開き、また、北に向かい緩く傾斜している。浅谷に広がる遺構面の状況は浅谷1と同様で、上位の遺構面は鎌倉時代以降の掘立柱建物と柱穴を主体にした遺構群が展開する。主要な遺構ではSB13・18・19・22・26等の建物群である。下位の遺構面は古墳時代末頃の掘立柱建物跡、柱穴等が検出された。主要な遺構ではSB14・15・17・23等の建物群である。堆積層は概ね4層に分かれる。中心になるのは上位遺構面のベースとなるⅡ①層である。堆積層中からの出土遺物はコンテナ2箱出土している。

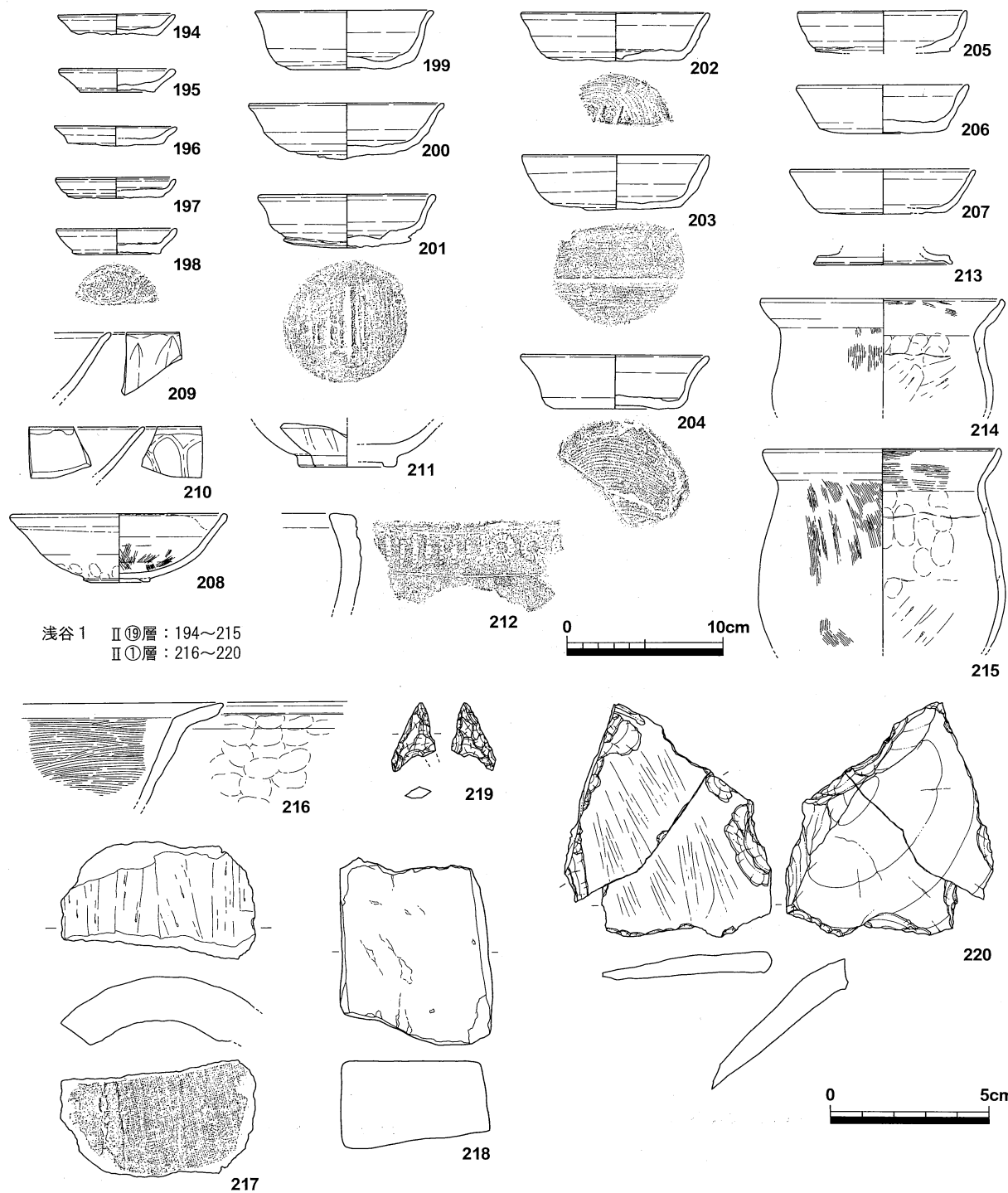
(第173図222～224)はⅡ①層中から出土した遺物である。(222・223)は7世紀前半頃の須恵器杯、(224)はサヌカイト製で、打面調整痕・剥片剥離痕等が認められ、横長剥片石核の可能性はある。

浅谷3 (第171・173図, 図版70・76・77・79)

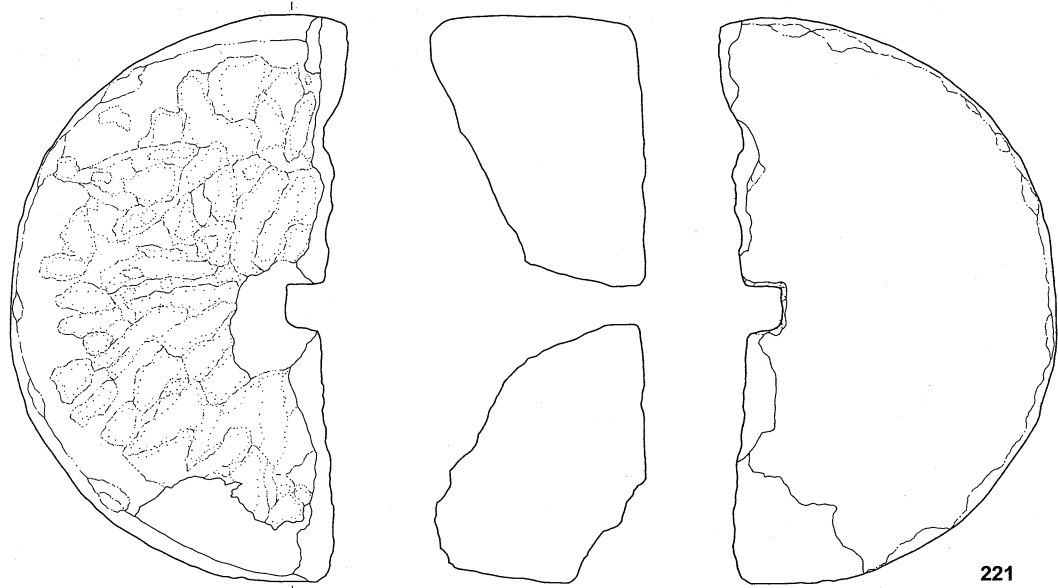
Ⅲ区東端部より北西方向の旧河道1の方向に向かい「ハ」の字状に開いて、緩く傾斜している浅谷である。浅谷に広がる遺構面の状況は浅谷1・2と同様で、上位の遺構面は鎌倉時代以降の掘立柱建物・柱穴・溝を主体にした遺構群が展開する。主要な遺構ではSB38・39・40・41、SD18・21・22等の遺構群である。下位の遺構面は古墳時代末頃の掘立柱建物跡、柱穴等が検出された。主要な遺構ではSH02・SB30～37等の建物群である。なお、下位の河床面上からは、谷の最深部を北西方向に延びるSD19・20等の2条の溝が検出された。この溝は微高地上の水を集積し、調査地西方の南北に延びる旧河道1に排水するための溝と考えられる。堆積層は概ね4層に分かれる。中心となる堆積層は上位の遺構面を被服するⅡ⑩層と、上位の遺構面のベースとなるⅡ⑰層である。堆積層中からはコンテナ4箱程の遺物が出土している。

(第173図225～234)はⅡ⑩層中から出土した遺物である。(225)は7世紀頃の須恵器杯(226)は須

恵器の無頸壺の上半部 (227) は須恵器甕の上半部、(228) は土師器小皿、(229) は瓦器小皿、(230) は土師器杯の底部 (231) は和泉型の瓦器椀上半部である。(232) は土師器の土釜の上半部である。外面に格子タタキを顕著に残している。(233) は土師器甕の把手部である。(234) は突基式のサヌカイト製の石鏃である。

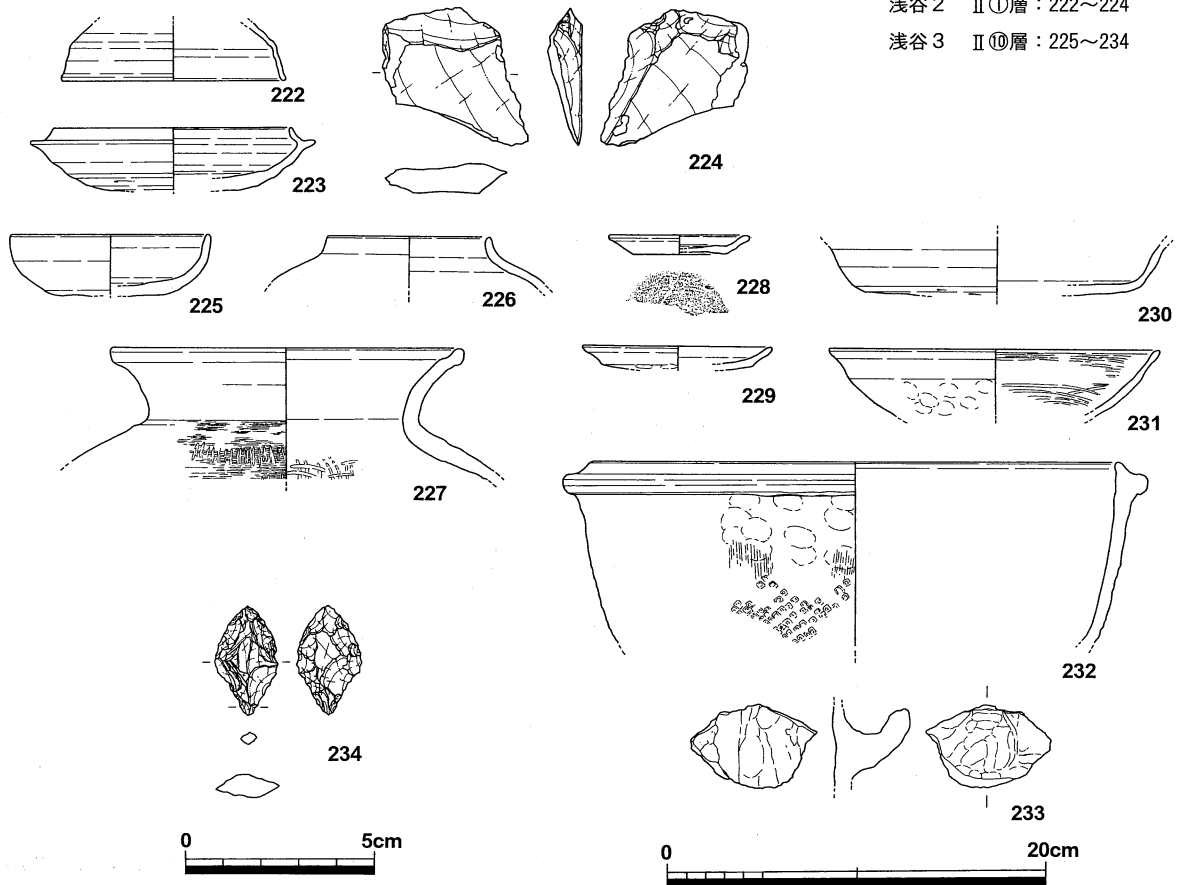


第172図 浅谷出土遺物 (1)

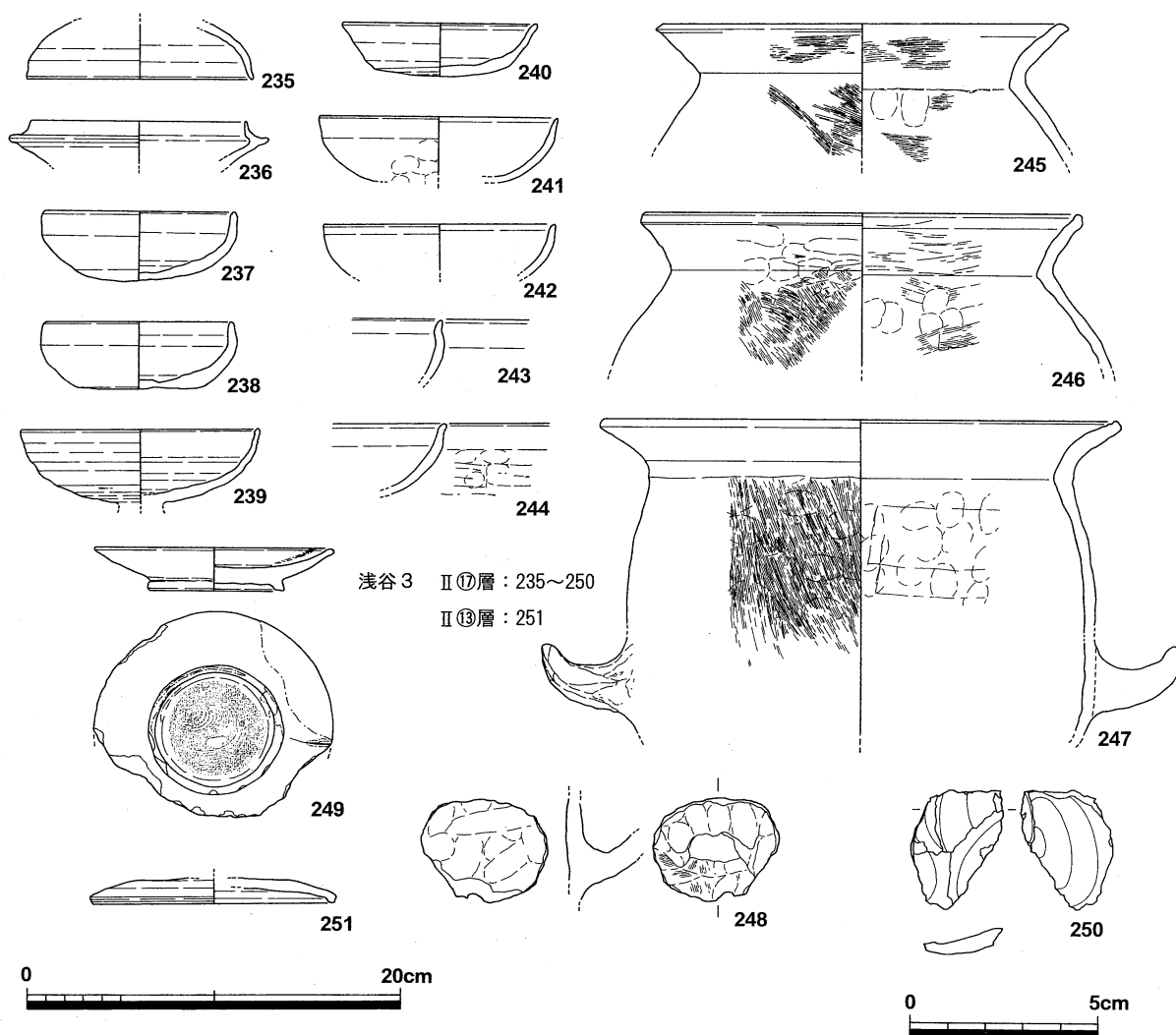


221

浅谷 1 II①層 : 221
 浅谷 2 II①層 : 222~224
 浅谷 3 II⑩層 : 225~234



第173図 浅谷出土遺物 (2)



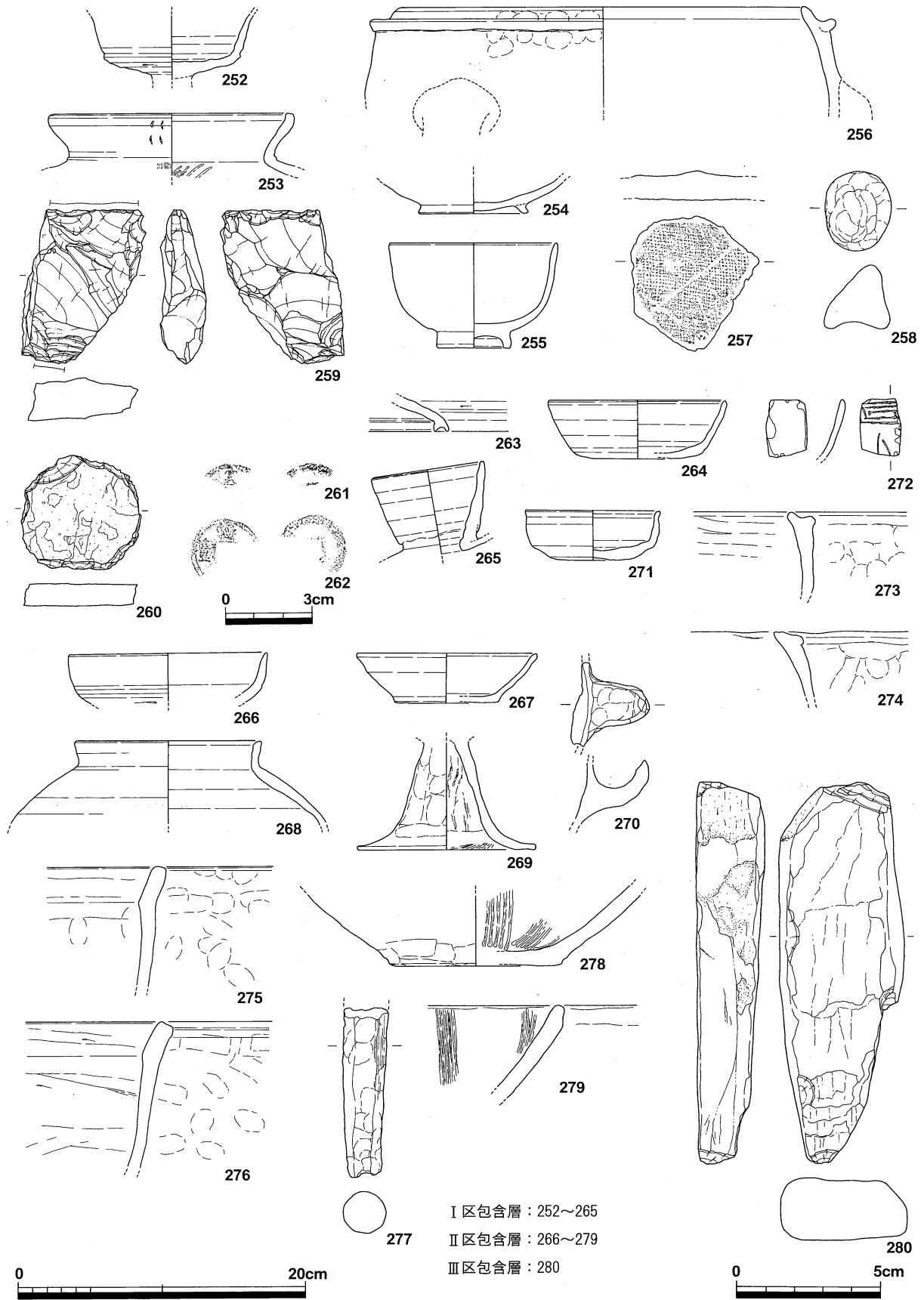
第174図 浅谷出土遺物（3）

（第174図235～250）はII⑰層中から出土した遺物である。（235～238）は7世紀前半頃の須恵器杯である。（239）は須恵器高杯の杯部、（241～244）は7世紀頃の土師器杯、（245～247）は土師器甕の上半部である。（247）の体部は長胴気味で下半部に把手がつく、口縁は外上方にラッパ状に開き端部は丸く収まる。外面は縦ハケ、内面は板ナデの痕跡を残す。（249）は10世紀頃の緑釉の皿である。高台は張付け高台で、底部は糸切りの痕跡が認められる。体部にはミガキが認められず、口縁部には亀裂があり、その亀裂を漆喰等で補修した痕跡が認められる。また、体部内面にはトチンの痕跡が認められる。（250）はサヌカイト製の剥片である。かなり風化が進んでいて、旧石器の可能性がある。（第174図251）はII⑬層中から出土した、7世紀末～8世紀初頭頃の須恵器杯蓋である。

11. その他包含層出土遺物

（第175図252～280）の遺物はその他の包含層及び、発掘途中の段階で出土した、出土地点が不明瞭な遺物等の資料である。

（252～265）はI区から出土した遺物である。その内（252～254・256～262）は現在の耕作土及び床土より出土した遺物で、他はその他の包含層より出土した遺物である。時期的な点で大多数の遺物が、



第175图 包含層出土遺物

下位の遺構面上の遺構群と符号する事より、下位の遺構からの巻きあげられた遺物が、主体を占める資料と考えられる。(252)は6世紀後半頃の須恵器高杯の杯部(253)は須恵器甕の口縁部(254)は12世紀頃の土師器椀底部(255)は肥前系の呉器手椀(256)は15世紀頃の土釜口縁部(257)は土師質の平瓦片(259)弥生時代頃のサヌカイト製の楔形石器である。裁断面には上下二方向からの加撃による剥離痕が顕著に残っている。(261・262)は銭貨「寛永通宝」(264)は土師器杯、(263・265)は7世紀の須恵器杯蓋及び平瓶の口縁部である。(266～280)はⅡ区から出土した遺物である。その内(266～270)は現在の耕作土及び床土より出土した遺物で、他はその他の包含層より出土した遺物である。時期的な点ではⅠ区と同様に、下位の遺構面上の遺構群と符号する遺物が主体を占めている。(266・268)は7世紀頃の須恵器高杯及び短頸壺(267)は10世紀頃の土師器杯(269)は土師器高杯の脚部(270)は土師器甕の把手(271)は(266)同様7世紀の須恵器杯(272)は青磁椀、(273・274・277)は15世紀頃の土釜口縁部及び脚部、(275・276)は土師器土鍋、(278・279)は在地産の土師器播鉢である。(280)はⅢ区の包含層中から出土した柱状片刃石斧である。

(参考文献)

- 平安学園考古学クラブ 1966『陶邑古窯址群Ⅰ』真陽社
奈良国立文化財研究所 1976『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ』
奈良国立文化財研究所 1978『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ』
柳瀬 1977「川入・上東」『都市計画道路に伴う埋蔵文化財発掘調査』岡山県教育委員会
横田堅次郎・森田 勉 1978「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集4』
真壁忠彦 1991「備前焼」『考古学ライブラリー60』ニューサイエンス社
片桐孝浩 1992「川津元結木遺跡」『中小河川大東川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』
中世土器研究会 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社

第Ⅳ章 香川県、南天枝遺跡における樹種同定

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2. 試料

試料は、南天枝遺跡において出土した柱材4点である。

3. 方法

カミソリを用いて、試料の新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、生物顕微鏡によって60～600倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4. 結果

結果は表19に示し、以下に同定の根拠となった特徴を記す。なお各断面の顕微鏡写真を示す。

ツガ *Tsuga sieboldii* Carr. マツ科

第176・177図

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞及び放射仮道管から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急である。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、スギ型でややヒノキ型の傾向を示し、1分野に2～4個存在する。放射仮道管が存在し、その壁には小型の有縁壁孔が存在する。わずかではあるが、樹脂細胞が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質より、ツガに同定される。ツガは福島県以南の本州、四国、九州に分布する。常緑高木で通常高さ20～25m、径50～80cmである。材は耐朽、保存性中庸で、建築、器具、土木、薪炭などに用いられる。

5. 所見

同定の結果、南天枝遺跡において出土した柱材はいずれもツガであった。ツガは、暖温帯から冷温帯にまたがる温帯の中間域のやや痩せた尾根上に生育する樹木である。柱材としてツガ材が選択的に用いられたと考えられる。

(参考文献)

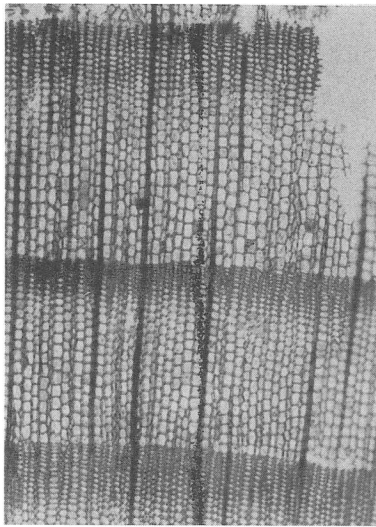
佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.49-100.

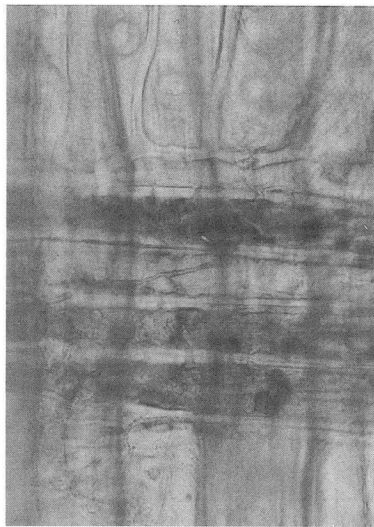
島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，296p.

第19表 南天枝遺跡における樹種同定結果

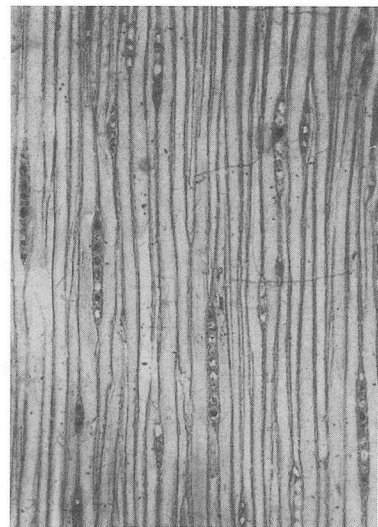
番号	調査区名	遺構名	器種		結果（和名／学名）
W 1	I a 区	SB06	柱材	ツガ	<i>Tsuga sieboldii</i> Carr.
W 2	I a 区	SB06	柱材	ツガ	<i>Tsuga sieboldii</i> Carr.
W 3	I a 区	SB07	柱材	ツガ	<i>Tsuga sieboldii</i> Carr.
W 4	I a 区	SB07	柱材	ツガ	<i>Tsuga sieboldii</i> Carr.



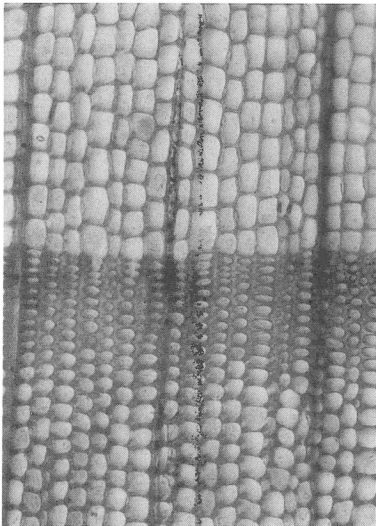
横断面 ————— : 0.5mm
1. W1 ツガ



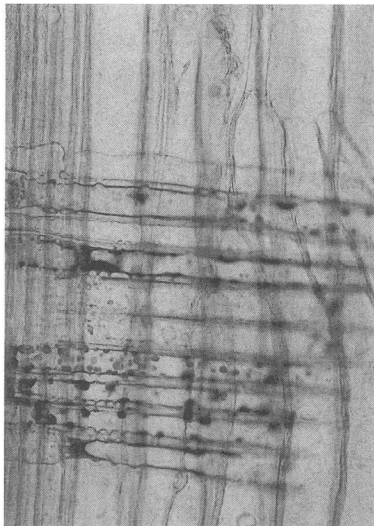
放射断面 ————— : 0.05mm



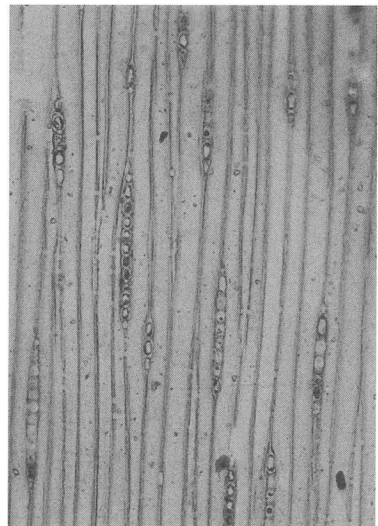
接線断面 ————— : 0.2mm



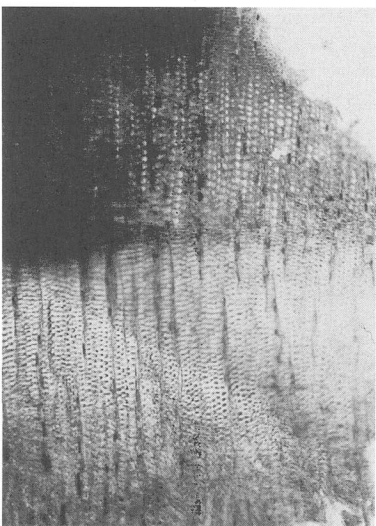
横断面 ————— : 0.2mm
2. W2 ツガ



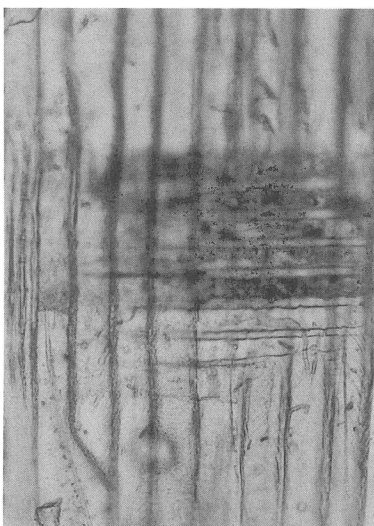
放射断面 ————— : 0.1mm



接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.5mm
3. W3 ツガ

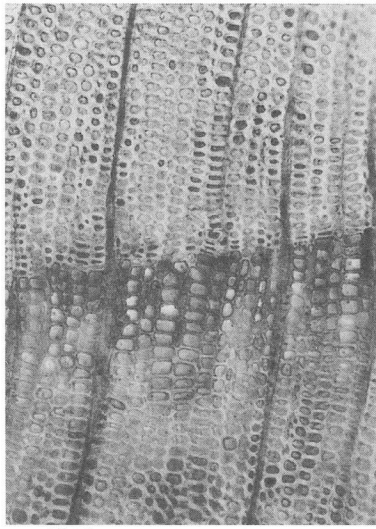


放射断面 ————— : 0.1mm

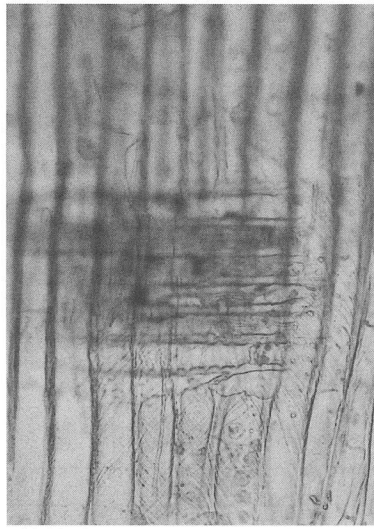


接線断面 ————— : 0.2mm

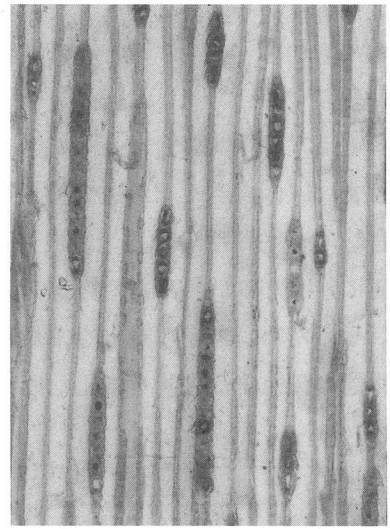
第176図 南天枝遺跡の木材 I



横断面 : 0.2mm
4. W4 ツガ



放射断面 : 0.1mm



接線断面 : 0.2mm

第177図 南天枝遺跡の木材 II

第V章 集落の変遷

前章までの事実報告をもとに、大まかな時代単位に集落の変遷をまとめる。南天枝遺跡の遺構を時期区分すれば、大きく4期区分できる。Ⅰ期：古墳時代前期Ⅱ期：古墳時代後期末～奈良時代初頭Ⅲ期：鎌倉時代～室町時代前半Ⅳ期：室町時代後半～江戸時代前半までに区分できる。おもな報告遺構を各時期に分けたのが第20表である。なお、掘立柱建物は出土遺物が乏しく、時期区分をする上で困難を伴った。そのため、各期の鍵となる建物を最初に抽出し、その主軸方位・切り合い関係・建物配置等をもとに、他の類似する建物を類別し時期区分にあてた。

第20表 時期別遺構一覧

時期	住居跡	柱穴・柵列	井戸・土坑	溝・不整形遺構
Ⅰ期	SB30	SP035		SD19・20
Ⅱ期	SH01・02 SB02・11・12・14～17・20・21・ 23・24・28・29・31～38	SP002・010・026～029・036 ～038 SA01・03	SK04・09・ 18・19	SD03・05・11 SX08・09・12・13
Ⅲ期	SB01・03・06・09・10・18・41	SP003・004～009・011～014・ 016・017・019・020・022～0 25・030・031・039	SE01 SK01・03・ 10～13・15	SD32
Ⅳ期	SB04・05・07・08・13・18・25・ 19・22・26・39・40	SP001・015・021・032・033 SA02	SE02	SD01・06・09・10・12・ 14～18・21～23・26～27 SX02～04

Ⅰ期

古墳時代前期（4世紀末頃）頃の遺構は、少数ながらⅠ・Ⅲ区で確認された。主要な遺構では、SB30、SP035、SD19・20等の遺構が該当する。この時期の遺物を含む遺構が抽出できなかったため確認できなかったが、先の遺構以外に、この時期に含まれる遺構の存在する可能性は高い。

SD19・20は出土遺物を伴わないため、詳細な時期は不明であるが、Ⅱ期に含まれるSB34・35等に切り込まれているためこの時期に含めた。この2条の溝は微高地上の水を集積し、調査地西方の南北に延びる旧河道1に排水するための排水路と考えられる。SB30は、浅谷2と浅谷3の間の微高地上に位置し、建物主軸はN80°Wを示し、他の建物群と主軸方位の上で明瞭に区分できる。時期的には「川入・大溝上層」頃の時期が考えられる建物であり、とりあえずこの建物を1群とする。なお、弥生時代の遺物が少量出土している。そのため、周辺域に弥生期の集落が展開する可能性は高い。

Ⅱ期

古墳時代後期末～奈良時代初頭（7～8世紀初頭）の遺構・遺物は豊富である。集落はⅡ～Ⅲ区の東半部を中心にして、ほぼ、調査区全域に展開している。主要な遺構ではSH01・02、SB02・11・12・14～17・20・21・23・24・28・29・31～38、SK04・09・18・19、SD03・05・11、SX08・09・12・13等の諸遺構があげられる。なお、この頃の浅谷1～3は埋没過程の初期の段階のため、集落範囲の中で平地の占める割合はかなり低く、集落を展開するには土地条件の悪い地域と考えられる。この時期、土地条件の悪い地域に集落が開始される事例は、県下でも増えている。南天枝遺跡のⅡ期集落もこの一例といえる。

集落の東端に所在するSD03・05は、周辺の条理型地割方向に規制を受けたように、南北方向に直線

的に延びる溝で、集落の東限を画した7世紀中葉頃の区画溝と考えられる。竪穴住居跡SH01・02は、出土遺物と当期の建物に切り込まれている点よりⅡ期の中でも初期の段階にあたる住居と考えられる。集落を構成する主要な遺構は掘立柱建物である。合計で20棟検出したが、柱穴出土の遺物が乏しくとりあえずこの時期に含めている建物も数棟ある。これらの建物を、配置及び主軸方位等で分類すれば、2群：SB17・23・35・38、3群：SB32・33・36・37、4群：SB24・28・29・31・34、5群：02・11・12・16、6群：20・21・15 計5群に分けられる。この分類が必ずしも時期差を表しているものとは言えないが、3～5期程度の時期差があるものと考えられる。

Ⅲ期

奈良時代頃より長期間廃絶していた集落は、当該期に再開するが、Ⅱ期に比べ集落規模も小規模で、建物の分布状況より2単位程度の集団が移り住んだものと考えられる。鎌倉時代～室町時代前半頃（12～14世紀）の遺構は、①Ⅰ区の中央部 ②Ⅱ区の中央部 ③Ⅲ区の西端部の三地点に分かれて展開している。主要な遺構ではSB01・03・06・09・10・41、SE01、SK01・03・10～13・15、SD32等の諸遺構があげられる。なお、この頃の浅谷1・3は、埋没過程にあり大よそ13世紀の初頭頃には埋没し、その上面に13世紀以降の集落は展開してくるが、浅谷2の埋没状況は、浅谷上面に建物が展開しない点より、他の浅谷に比べ幾分遅れ気味のようなのである。

掘立柱建物はⅠ区の中央部とⅢ区の西端部の二地点に分かれ合計で6棟検出した。これらの建物をⅡ期同様に、配置及び主軸方位等で分類すれば、7群：SB01・03・09、8群：SB41、9群：SB06・10 計3群に分けられる。Ⅰ区中央の7群と9群は建物が重複し時期差が認められる。出土遺物等より7群が12世紀末～13世紀初頭頃で、9群が13世紀の後半以降の時期が考えられる。また、7群のSB03は13世紀頃のSE01に切られている点でも納得できる話である。なお、9群に隣接するSE01は9群の建物群に伴う井戸と考えられる。これらの建物の中で9群のSB06は庇を備え、面積37.2m²を測る大型の建物で、13世紀集落の中心的な建物と考えられる。Ⅲ区西端の8群SB41は、周囲に同時期の遺構も少なく単独で所在する建物である。SB41の西に隣接するSD32はその配置状況よりSB41の雨落溝と考えられる。また、北に隣接するSD28～31は同時期の畝溝群であり、SB41の住人が耕作にあたった可能性は高い。SB41は雨落溝SD32出土の遺物より12世紀末～13世紀初頭頃の時期が考えられる。この時期の建物配置で注目できる点は、8・9群の建物群にみられるよう、周辺の条理型地割の方向に主軸を揃えた建物が出現する点である。浅谷1・3がかなり埋没し集落範囲の中で平地の占める割合が高くなった結果と考えられる。

Ⅳ期

室町時代後半～江戸時代後半頃（16～18世紀）の集落は遺構・遺物とも豊富である。浅谷がほぼ埋没し集落範囲の中で平地の占める割合が高くなり、当地の開発を本格的に開始した時期と考えられる。主要な遺構ではSB04・05・07・08・13・18・19・22・25・26・39・40、SP001・015・021・032・033、SA02、SE02、SD01・06・09・10・12・14～18・21～23・26～27、SX02～04等の諸遺構があげられる。これらの諸遺構を大まかに時期で分ければ以下に分類できる。

16世紀：SB18・25・39・40、SP032・033、SD01・12・13～18・21～23

17世紀：SB04・05・07・08・13・19・22・26、SP001・015・021、SA02、SD06・09・10・14～18・21～23・27、SX02～04

18世紀：SE02、SD26

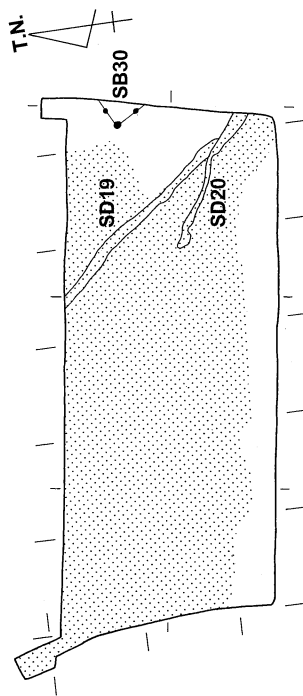
16世紀の集落はⅠ区～Ⅲ区東半部のほぼ全域に展開し、Ⅰ区とⅢ区で屋敷地を確認した。Ⅰ区では区画溝と考えられる、SD01・12等の南北溝を確認した。17世紀の屋敷地を巡る区画溝SD06等に類似しており、SD06が区画する前の屋敷地を巡る区画溝の一部である可能性が高く、SD01は屋敷地の東辺、SD12は西辺を画した区画溝と考えられる。区画溝の敷地内には当該期の建物は抽出できなかったが、多数の柱穴中には当期にあたる柱穴も多数存在するため、今後も検討する必要がある。なお、SD12は条里型地割の推定坪堺線上に位置し、条里型地割をもとに施工されたものと考えられる。Ⅱ区では10群：SB18・25とSD13～17を検出した。10群の建物は、この時期にも係わらず、主軸方位を条里型地割の方向に向けていない。おそらく基盤となる浅谷2の埋没が完全でなく地形に影響を受けて不整方向に配したものであろう。Ⅲ区では11群：SB39・40とSD18・21～23・25を検出した。SD18・21・22は、条里型地割の方向に揃えた方形区画の西辺（SD21・22）及び南辺（SD18）を画した区画溝で、その敷地内に11群SB39・40が棟を揃えて配されており、これらの遺構は屋敷地を画する溝と建物の関係と考えられる。この屋敷地の北辺は調査地を外れるため定かでないが、東辺はⅡ区のSD17が区画しているものと考えられる。仮にこの屋敷地が正方形の敷地を呈するのであれば、1辺約27m四方で面積730m²程の面積になる。

17世紀の集落は16世紀より継続する集落であり、Ⅳ期の中で最も遺構・遺物が豊富な時期である。Ⅰ区では、16世紀のSD01・12等の区画溝が画した敷地を、新たにSD04・06・07～10等の溝群を配し、区画しなおしている。幹線となるSD06は、屋敷地の外周を区画する堀割り状の溝で、周辺の地割方向に主軸を揃え、北辺、東・西辺、を画する各々の溝からなり、全体の形状は、南に空いた「コ」の字状の配置を呈している。方形に巡る区画溝のおおよそ北半分を検出した状態と考えられる。また、SD06の区画内に所在する、SD04・07～09等の南北溝は、敷地内を更に小区画するための溝と考えられる。中でもSD09は、敷地内を東西に2分割している。SD09により画された西区画と東区画は柱穴の密度がかなり異なり、西区画の密度がかなり高い点より、SD09は居住域の東辺を画する区画溝と考えられる。その区画された西区画の居住域より12群：SB04・07・15等の建物群を検出した。これらの建物は周辺の条里型地割の方向に建物を揃え配されている。12群中のSB04とSB15は、重複しているため厳密に言えば2時期に分かれが、柱穴同士が切り合わないため、その前後関係は明確でない。柱穴の数からみれば、より多数の建物が抽出できるはずであるが、多数の柱穴中より整合性をもつ建物を抽出するのは困難であり、今後の検討になるところが多い。なお、東区画では建物・柱穴等遺構密度がかなり低い点より畑地等の耕作域と考えられる。この屋敷地の面積は、南辺が調査区外に位置するため明らかにすることはできないが、仮に敷地が正方形を呈するのであれば、1辺約48mで面積約2,300m²を測る屋敷地が推定できる。この規模の屋敷地は下川津遺跡の第1微高地上に展開している16世紀頃の屋敷地の類例があり、おそらく有力農民層クラスの屋敷地と考えたい。Ⅱ区では、13群：SB13 14群：SB19・22・26等の建物群が展開している。厳密にみて14群のSB22・26は建物間がかなり接近しており時期差が考えられる。17世紀以降この集落は、遺構・遺物共に少なく、SE02、SD26等が確認できた程度である。そのため、この集落は急速に衰退し、現在の景観と同様に、農地化されたものと考えられる。

（参考文献）

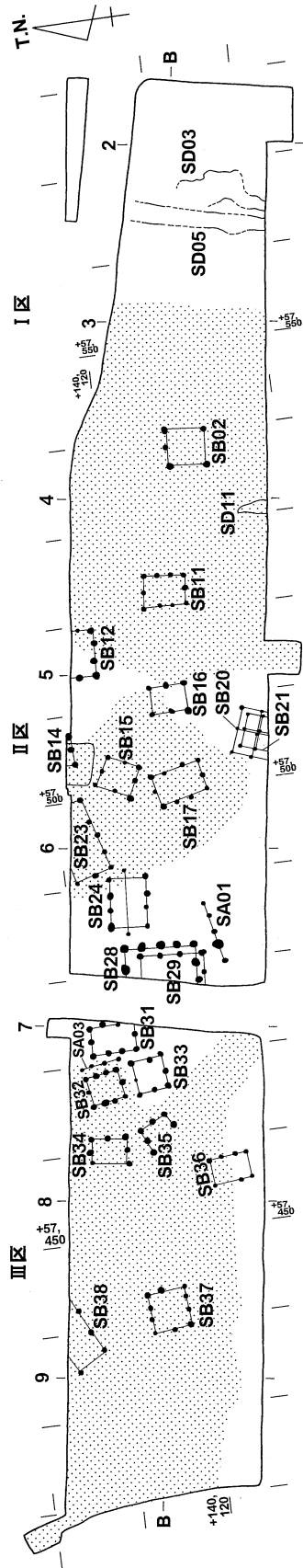
香川県教育委員会 1990『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ—下川津遺跡—』

西村尋文 1990「下川津遺跡における6～8世紀の集落構造と動向」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ—下川津遺跡—』香川県教育委員会



I 期 (4C末頃)

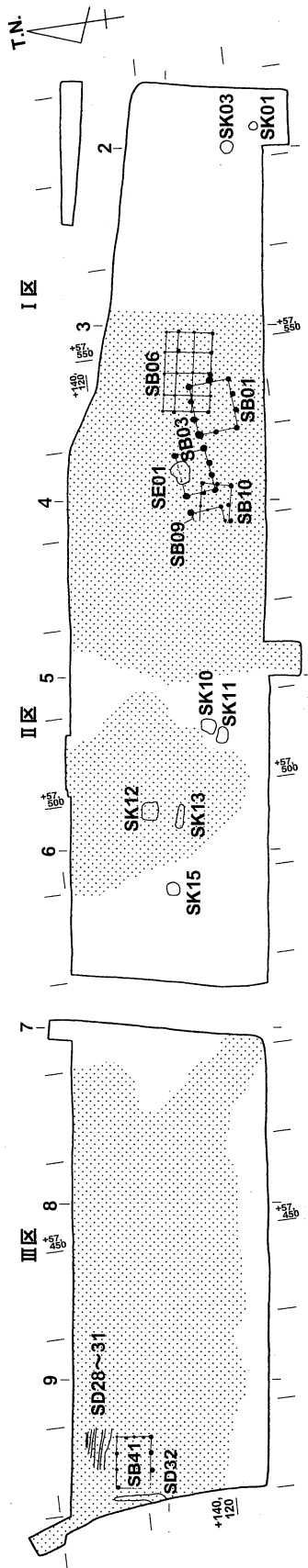
1 群 : SB30



II 期 (7C~8C初頃頃)

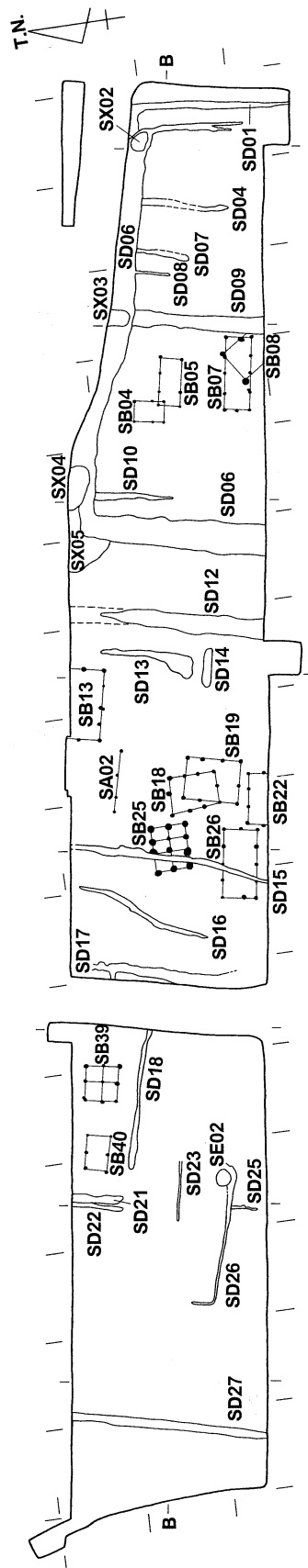
- 2 群 : SB17 · 23 · 35 · 38
- 3 群 : SB32 · 33 · 36 · 37
- 4 群 : SB24 · 28 · 29 · 31 · 34
- 5 群 : SB02 · 11 · 12 · 16
- 6 群 : SB20 · 21 · 15

第178図 集落変遷図 (1)



Ⅲ期 (12C~14C頃)

- 7 群 : SB01・03・09
- 8 群 : SB41
- 9 群 : SB06・10



Ⅳ期 (16C~18C頃)

- 10 群 : SB18・25
- 11 群 : SB39・40
- 12 群 : SE04・07・05
- 13 群 : SB13
- 14 群 : SB19・22・26
- その他 : SB08

第179図 集落変遷図(2)

南天枝遺跡 觀察表

第21表 南天枝遺跡掘立柱建物跡一覽表

報告遺構名	調査区	区画	主軸方位	構造・規模		面積(m ²)	柱間寸法		付属施設
				梁間(m)×桁行(m)	面積(m ²)		梁間(m)	桁行(m)	
SB01	I区	B3	N-87° -E	2間(4.6)×3間(5.7)	26.2	1.9~2.5	1.7~2.2		
SB02	I区	A3・B3	N-5° -E	2間(4.1)×1間(4.4)	17.9	2.0~2.2	4.4		
SB03	I区	B3	N-83° -E	2間(3.4)×3間(4.9)	16.7	1.4~2.0	1.4~1.9		
SB04	I区	A3	N-9° -E	1間(2.5)×2間(3.3)	8.1	1.2~1.3	1.2~2.1		
SB05	I区	A3・B3	N-80° -W	1間(2.6)×3間(5.0)	12.8	2.4~2.5	1.4~2.0		
SB06	I区	A3・B3	N-80° -W	2間(4.0)×4間(9.3)	37.2	1.8~2.2	1.8~2.6	北面庇、総柱	
SB07	I区	B3	N-81° -W	2間(2.9)×4間(8.3)	24.1	1.3~1.7	1.8~2.4		
SB08	I区	B3	N-34° -W	1間(4.0)以上×1間(2.6)以上	10.4以上	4.0	2.6		
SB09	I区	B3・4	N-81° -E	2間(3.4)×1間(1.7)以上	5.8以上	1.4~2.0	1.7		
SB10	I区	B3・4	N-78° -W	2間(3.4)×1間(2.5)以上	8.6以上	1.5~1.9	2.2~2.5		
SB11	I区	A4・B4	N-6° -E	2間(3.7)×3間(4.7)	17.4	1.4~2.0	1.5~1.6		
SB12	II区	A4・5	N-90° -E	1間(2.0)以上×3間(5.4)	10.8以上	2.0	1.5~2.0		
SB13	II区	A4・5	N-78° -W	1間(2.3)以上×4間(8.0)	18.4以上	2.3	1.7~2.5		
SB14	II区	A5	N-88° -E	? ×2間(3.3)以上	—	—	1.6~1.8		
SB15	II区	A5	N-27° -E	2間(3.6)×2間(4.1)	14.8	1.5~2.1	1.7~2.2		
SB16	II区	A5・B5	N-1° -W	1間(3.3)×2間(4.0)	13.2	3.3	1.9~2.1		
SB17	II区	A5・B5	N-15° -W	2間(3.8)×3間(5.7)	21.7	1.6~2.0	1.5~2.3		
SB18	II区	A5・B5	N-0° -E	2間(4.4)×3間(5.1)	22.4	1.7~2.7	1.6~2.1		
SB19	II区	A5・B5	N-13° -E	2間(4.8)×3間(6.1)	29.3	2.0~2.8	1.8~2.3		
SB20	II区	B5	N-20.5° -E	1間(2.5)以上×2間(5.3)	13.3以上	2.3~2.5	2.5~2.8	総柱	
SB21	II区	B5	N-20° -E	2間(3.8)×1間(1.7)以上	6.5以上	1.7~2.0	1.7	総柱	
SB22	II区	B5	N-81° -W	1間(1.9)以上×3間(5.7)	10.8以上	1.9	1.8~2.0		
SB23	II区	A5・6	N-71° -E	2間(4.2)×4間(8.7)	36.5以上	2.0~2.2	1.9~2.8		
SB24	II区	A6	N-85° -W	1間(4.2)×3間(5.6)	23.5	4.1~4.2	1.5~2.2	棟持柱	
SB25	II区	A5・6	N-88° -E	2間(3.8)×3間(5.1)	19.4	1.8~2.0	1.3~2.4	総柱	

報告遺構名	調査区	区画	主軸方位	構造・規模		面積(m ²)	柱間寸法		付属施設
				梁間(m)×桁行(m)	梁間(m)×桁行(m)				
SB26	Ⅱ区	B5・6	N-80°-W	2間(3.9)×4間(7.9)	30.8	1.5~2.5	1.9~2.1		
SB27	Ⅱ区	B6	N-73°-E	1間(2.5)以上×2間(5.3)	13.3以上	2.5	2.7		
SB28	Ⅱ区	A6・B6	N-4°-E	2間(4.0)以上×4間(8.0)	32.0以上	2.0~2.4	1.8~2.1		
SB29	Ⅱ区	A6・B6	N-4°-E	1間(2.3)以上×3間(7.3)	16.8以上	2.3	2.2~2.8		
SB30	Ⅲ区	A7	N-63°-E	1間(1.9)以上×1間(2.5)以上	4.8以上	1.9	2.5		
SB31	Ⅲ区	A7	N-3°-W	2間(3.1)×3間(5.1)	15.8	1.5~1.7	1.6~1.8		
SB32	Ⅲ区	A7	N-10°-W	2間(3.4)×3間(3.8)	12.9	1.5~1.7	1.2~1.5		
SB33	Ⅲ区	A7・B7	N-9°-W	2間(3.6)×2間(4.0)	14.4	1.5~2.2	1.8~2.1		
SB34	Ⅲ区	A7	N-5°-E	2間(3.0)×2間(4.3)	12.9	1.2~1.6	2.0~2.1		
SB35	Ⅲ区	A7・B7	N-26°-W	2間(3.0)×2間(3.4)	10.2	1.4~1.7	1.6~1.8		
SB36	Ⅲ区	B7	N-6°-W	1間(2.9)×3間(4.4)	12.8	2.9	1.3~1.6		
SB37	Ⅲ区	A8・B8	N-83°-E	2間(4.3)×3間(4.4)	18.9	1.6~2.7	1.1~1.8		
SB38	Ⅲ区	A8	N-70°-E	1間(3.1)×2間(6.2)以上	19.2以上	3.1	2.8~3.4		
SB39	Ⅲ区	A7	N-11°-E	2間(3.9)×2間(4.2)	16.4	1.6~2.0	1.8~2.1	総柱	
SB40	Ⅲ区	A7	N-77°-W	1間(2.8)×2間(4.0)	11.2	2.4~2.8	1.9~2.0		
SB41	Ⅲ区	A9	N-88°-W	4間(3.9)×3間(5.9)	23.0	0.9~1.1	1.9~2.0		

第22表 南天枝遺跡出土土器観察表

遺物番号	報告遺構名	調査区	区画	出土状況	器種	部位	法量	残存量	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
1	SH01	II区	A5		須恵 杯	口縁部		小片	石英中・小少、長石大・中少	内外：5Y6/1灰	回転ナデ	回転ナデ	
2	SH01	II区	A5		須恵 高杯	脚部		小片	石英・長石大・中少	内外：2.5Y7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	
3	SH01	II区	A5		土師 甕	口縁部	(口)20.4	4/8	石英大~小少、長石大~小普	内外：5YR6/6橙	(口)ヨコナデ、板ナデ(体)オサエ後ハケ、オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ、オサエ後ナデ(体)オサエ後ハケ	
4	SH02	III区	A7		須恵 高杯	脚部		小片	長石中・小微	内外：N6/灰	回転ナデ	回転ナデ	
5	SH02	III区	A7		須恵 高杯	脚部	(底)7.0	1/8	石英大・中微、長石大・中少	内外：N4/灰	回転ナデ	回転ナデ	
6	SH02	III区	A7		土師 甕	口縁部	(口)17.2	3/8	金雲母大・中微、石英・長石大~小少、赤色粒子大・中微	内外：10YR8/4浅黄橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ハラケズリ	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ハケ	
7	SH02	III区	A7		土師 鉢	口縁部	(口)23.8	1/8	石英中・小微、長石中・小少、赤色粒子大・中微	内外：10YR8/3浅黄橙	(口)ヨコナデ、板ナデ(体)板ナデ、ナデ	(口)ヨコナデ、オサエ後ナデ、オサエ後ハケ	
8	SB06	I区	B3	SP0166	土師 小皿		(口)7.4 (高)1.2 (底)5.6	1/8	石英中・小少、長石大・中普	内外：10YR7/3にぶい黄橙	回転ナデ	回転ナデ(底)ハラ	
9	SB06	I区	B3	SP0180	土師 小皿		(口)7.4 (高)1.4 (底)5.8	1/8	石英中・小普、長石中・中微、赤色粒子中少	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ	回転ナデ(底)ハラ	
10	SB06	I区	B3	SP0166	土師 小皿	底部	(口)7.6 (高)1.5 (底)5.3	6/8	石英中・小少、長石大・中普	内：7.5YR7/3にぶい橙 外：10YR7/3にぶい黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)静止糸切り	
11	SB06	I区	B3	SP0166	土師 杯		(底)7.0	小片	石英中・小少、長石中・小普	内外：10YR7/3にぶい黄橙	回転ナデ	回転ナデ	
12	SB06	I区	B3	SP0180	土師 杯			1/8	石英・長石中・小少、赤色粒子大・中微	内外：10YR7/3にぶい黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ハラ	
13	SB06	I区	B3	SP0121	青磁 皿	口縁部		小片	精緻	胎：7.5Y7/1灰白 釉：青磁釉7.5Y6/1灰	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	横田・森田 I-1b類
14	SB06	I区	B3	SP0217	須恵 甕			小片	石英中・小普、長石大・中少	内外：2.5Y6/1黄灰	ハケ、ナデ	格子タタキ	
17	SB07	I区	B3	SP0253	肥前系陶器 皿	口縁部	(口)12.1	2/8	精緻	胎：10YR5/1褐灰 釉：灰釉10Y6/2オリーフ灰	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	溝縁皿
20	SB08	I区	B3	SP0190	土師 小皿	口縁部	(口)5.9 (高)0.9 (底)5.1	1/8	石英中・小少、長石中・小微、赤色粒子大・中少	内：7.5YR7/6橙 外：7.5YR6/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ハラ	
21	SB08	I区	B3	SP0190	土師 小皿	底部	(口)6.4 (高)1.0 (底)5.8	1/8	石英中・小微、長石中・小少	内：2.5YR6/4にぶい橙 外：2.5YR6/4にぶい橙・10YR6/2灰黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ハラ	
22	SB08	I区	B3	SP0190	土師 杯	口縁部	(口)11.0 (高)2.9 (底)7.6	2/8	石英大・中少、長石中・中普	内：7.5YR7/6橙・5YR8/4淡橙 外：10YR7/4にぶい黄橙	(口)回転ナデ(底)回転ナデ後仕上ケナデ	(口)回転ナデ(底)	板目状圧痕
23	SB08	I区	B3	SP0190	土師 杯	底部	(口)11.4 (高)2.3 (底)8.1	2/8	角閃石中微、石英中少、長石大・中少	内：2.5Y4/1黄灰 外：10YR7/4にぶい黄橙・5YR7/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ハラ切り	
24	SB08	I区	B3	SP0190	須恵 杯蓋	口縁部	(口)11.7	1/8	石英大・中少、長石大・中普、赤色粒子大微	内：2.5Y7/1灰白 外：2.5Y6/3にぶい黄橙	回転ナデ	(天井部)回転ハラケズリ後ナデ(口)回転ナデ	
25	SB08	I区	B3	SP0190	青磁 碗			小片	精緻	胎：N8/灰 釉：2.5G Y6/1オリーフ灰	回転ナデ後施釉	回転ナデ、進弁文、施釉	横田・森田 I-5a類
26	SB08	I区	B3	SP0190	青磁 碗			小片	精緻	胎：N8/灰 釉：2.5G Y6/1オリーフ灰	回転ナデ後施釉	回転ナデ、鋤蓮弁文、施釉	横田・森田 I-5b類

遺物番号	報告遺構名	調査区	区画	出土状況	器種	部位	法量	残存量	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
27	SB08	I区	B3	SP0190	須恵 壺	口縁部	(口)14.9	2/8	石英・長石大・中少	内：2.5Y7/3浅黄・2.5Y7/1灰白 外：5YR7/2明褐灰・2.5Y7/1灰白	(口)回転ナデ(体)格子 タタキ、ナデ	(口)回転ナデ(体)格子 タタキ、ナデ	十瓶
28	SB08	I区	B3	SP0190	土師 土釜	脚部		5/8	金雲母中微、石英・長石大・中普 精緻	7.5YR5/4にぶい褐	板ナデ後ナデ	板ナデ後ナデ	
29	SB18	II区	B5	SP0259	青磁 碗	口縁部		小片		胎：5Y7/1灰白 釉：1 0Y5/2オリーブ灰	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	
30	SB18	II区	B5	SP0259	土師 把手 付鍋	口縁部		小片	金雲母大・中微、石英・長石大～小普	内外：5YR6/6橙	オサエ後ナデ	オサエ	把手部穿孔1箇所
31	SB19	II区	B5	SP0219	須恵 高杯	脚部	(底)9.6	1/8	石英・長石中・小微	内：2.5Y6/1黄灰 外：2.5Y7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	脚部外面自然釉
32	SB20	II区	B5	SP0304	土師 杯	口縁部		小片	長石中・小微	内外：2.5YR6/8橙	回転ナデ	回転ナデ	
33	SB24	II区	A6	SP1034	須恵 杯	口縁部		小片	長石中・小微	内外：2.5Y7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	
34	SB24	II区	A6	SP1013	須恵 搦瓶・ 平瓶?		(口)6.8	2/8	長石中・小微	内外：2.5Y7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	
35	SB25	II区	B6	SP0051	須恵 杯蓋		(口)22.3	小片	長石中・小微	内外：N5/灰	回転ナデ	回転ナデ	
36	SB25	II区	A6	SP1008	須恵 甕			1/8	石英大～小少、長石小 精緻	内外：2.5Y7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	
37	SB26	II区	B5	SP0448	陶器 鉢	口縁部		小片		胎：5Y5/1灰 釉：7.5 YR4/2灰褐	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	
38	SB26	II区	B5	SP0448	陶器 碗	口縁部		小片	長石中・小少	胎：10YR7/3にぶい黄 釉 釉：10YR3/3暗褐	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	天目茶碗
39	SB28	II区	A6	SP0045	須恵 杯 (身)	口縁部		小片	石英大～小少、長石中・ 小微	内外：2.5Y8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転 ヘラケズリ	
40	SB28	II区	A6	SP0045	須恵 杯身			小片	石英・長石中・小少	内外：2.5Y6/1黄灰	回転ナデ	回転ナデ	
41	SB28	II区	A6	SP0059	須恵 杯身		(口)11.3	1/8	長石大～小少	内外：N6/灰 外：N4/灰	回転ナデ	回転ナデ	
42	SB28	II区	A6	SP0059	土師 甕	把手部		6/8	石英・長石大・中少、 赤色粒子大微	内：7.5YR8/6浅黄橙 外：5YR7/6橙	オサエ後ナデ	オサエ後ナデ	
43	SB29	II区	B6	SP0065	須恵 甕			1/8	石英大～小少、長石中・ 小少	内：2.5Y5/2暗灰黄 外：2.5Y6/2灰黄	回転ナデ	回転ナデ、ハケ	
44	SB30	III区	A7	SP1017 SP1018	土師 甕		(口)14.5	2/8	石英・長石大～小少	内：7.5YR6/6橙・7.5Y R5/3にぶい橙 外：10YR8/4浅黄橙・ 7.5YR5/2灰褐	(口)ヨコナデ(体)オサ エ後ハケ(底)ナデ	(口)ヨコナデ(体)オサ エ後ハケ(底)ナデ	
45	SB31	III区	A7	SP1015	須恵 杯	口縁部		小片	石英大～小普、長石大 ～小少	内外：N5/灰	回転ナデ	回転ナデ	
47	SB32	III区	A7	SP0034	土師 杯	口縁部		小片	石英中・小微、長石中・ 小少	内外：2.5YR6/8橙	(口)ヨコナデ(体)ミ ガキ	(口)ヨコナデ(体)ナデ マメツ	
48	SB32	III区	A7	SP0037	縄文 鉢			小片	金雲母中・小微、石英 大～小少、長石大～小 微	内：N3/暗灰 外：10YR7/3にぶい黄 橙	ナデ	条痕文	
49	SB33	III区	A7	SP0127	須恵 甕	口縁部		小片	石英中・小微、長石大 ～小少	内：5Y6/1灰、N4/灰 外：5Y6/1灰、N4/灰	回転ナデ	回転ナデ	
51	SP002	I区	A2		須恵 杯身	底部	(高台)11. 8(高台高) 0.4	1/8	石英中・小少、長石大 ～小少	内外：N5/灰	回転ナデ	(底)回転ナデ 高台貼付	
52	SP003	I区	B2		瓦器 碗			小片	石英・長石小微	内外：N6/灰	ハラミガキ	ヨコナデ・オサエ後ナ デ	補葉?
53	SP004	I区	A3		土師 杯	底部	(底)8.5	2/8	石英中・小少、長石中・ 小微	内：10YR6/3にぶい黄 橙 外：10YR6/2灰黄褐 5YR7/4にぶい橙	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切 り	
54	SP005	I区	A3		土師 土釜	脚部		6/8	石英・長石大～小多		回転ナデ	オサエ後ナデ	

遺物番号	報告遺構名	調査区	区画	出土状況	器種	部位	法量	残存量	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
55	SP006	I区	B3		土師 小皿	口縁部	(口)7.3 (高)1.0 (底)5.2	6/8	石英・長石中・小少、赤色粒子大・中少	内外：5YR7/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
56	SP007	I区	B3		瓦器 椀		(高台高)0.6	小片	石英・長石中・小少	内外：N5/灰	ヘラミガキ	(底)ナデ(高)ヨコナデ、高台貼付	
57	SP008	I区	B3		土師 杯		(口)10.6 (高)3.4 (底)8.4	2/8	石英中・小少、長石中・小	内外：10YR7/4にぶい黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ヘラ切り後ナデ	
58	SP008	I区	B3		須恵 壺	頸部	(口)12.5	4/8	石英中・小少、長石中・小	内外：N6/灰	(口)(頸)回転ナデ(体)板ナデ、ナデ	(口)(頸)回転ナデ(体)タタキ後板ナデ	四耳壺？
59	SP009	I区	B3		土師 小皿		(口)8.0 (高)1.1 (底)7.1	2/8	石英小微、長石中・小少、赤色粒子大・中微	内外：7.5YR7/4にぶい橙 外：7.5YR6/4にぶい橙・2.5YR7/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ヘラ切り後ナデ	
60	SP010	I区	B3		須恵 杯身	口縁部	(口)12.5	1/8	石英・長石大・中普	内外：2.5Y7/1灰白	剥離	剥離	
61	SP011	I区	B3		土師 杯	底部	(口)11.0 (高)2.3 (底)8.4	1/8	石英中・小微、長石中・小少、赤色粒子大・中微	内外：10YR7/4にぶい黄橙・5YR7/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り後ナデ	
62	SP012	I区	B3		土師 小皿		(口)6.7 (高)1.6 (底)5.6	8/8	石英大～小少、長石大～小普	内外：5YR6/6橙 外：10YR8/2灰白・5YR7/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)静止糸切り	
63	SP013	I区	B3		土師 小皿	底部	(口)9.2 (高)1.5 (底)7.5	1/8	石英中・小少、長石中・小	内外：7.5YR8/3浅黄橙	回転ナデ	回転ヘラ切り	
64	SP013	I区	B3		土師 杯	体部	(口)13.0 (高)3.8 (底)9.0	2/8	石英・長石大・中・小普、赤色粒子大・中少	内外：2.5Y8/4灰白・2.5YR7/6橙	オサエ後回転ナデ	(口)オサエ後回転ナデ(底)静止ヘラ切り	
65	SP013	I区	B3		土師 小皿	底部	(底)8.1	2/8	石英大・中少、長石大・中普	内外：10YR7/3にぶい黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転糸切り	
66	SP014	I区	B3		土師 甕	口縁部		小片	金雲母大微、石英中・小少、長石大・中少	内外：7.5YR8/2灰白・2.5YR7/4淡赤橙・7.5YR6/4にぶい橙	(口)ハケ(体)ナデ	(口)ヨコナデ、オサエ後板ナデ(体)オサエ後ナデ	
67	SP016	I区	B3		土師 杯	底部	(口)10.9 (高)2.1 (底)7.6	2/8	石英大・中普、長石大・中少	内外：10YR7/3にぶい黄橙・5YR7/6橙 外：7.5YR6/4にぶい橙・7.5YR6/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り後ナデ	
68	SP016	I区	B3		土師 杯	底部	(口)11.3 (高)2.6 (底)9.3	2/8	石英大・中少、長石大・中普、赤色粒子大微	内外：10YR7/2にぶい黄橙・外：10YR7/2にぶい黄橙・2.5YR7/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り後ナデ	
69	SP017	I区	B3		土師 杯	口縁部	(口)9.4	1/8	石英小微、長石大～小	内外：10YR7/2にぶい黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ヘラ切り	
70	SP018	I区	B3		弥生 甕	頸部	(口)13.5	2/8	角閃石中微、石英大～小少、長石大～小普	内外：7.5YR6/4にぶい橙・2.5YR6/6橙 外：10YR6/3にぶい黄橙・5YR5/6明赤褐	(口)ヨコナデ(体)ナデ	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、ヘラミガキ	下川津B類？
71	SP019	I区	B3		土師 甕	口縁部		小片	石英・長石大・中普	内外：7.5YR5/3にぶい褐橙	ヨコナデ	ヨコナデ	
73	SP022	I区	B3		土師 杯	口縁部	(口)10.6 (高)3.5 (底)6.8	2/8	石英大～小普、長石大～小少	内外：10YR8/3浅黄橙・5YR7/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ヘラ切り後ナデ	
74	SP023	I区	B3		土師 土釜	脚部		6/8	石英・長石大～小多	10YR7/3にぶい黄橙・5YR7/4にぶい橙	オサエ・ナデ	オサエ・ナデ	
75	SP024	I区	B3		土師 小皿		(口)8.6 (高)1.4 (底)6.5	1/8	石英・長石大～小普	内外：5YR6/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転糸切り	

遺物報告番号	調査区	区画	出土状況	器種	部位	法量	残存量	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
76 SP024	I 区	B3		土師 小皿	底部	(口)8.3 (高)1.2 (底)6.7	2/8	石英・長石中・小普	内外：10YR7/2にぶい黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)糸切り	
77 SP024	I 区	B3		土師 杯		(口)11.6	2/8	石英中・小少、長石中・小微	内外：7.5YR8/2灰白・2.5YR7/3淡赤橙	回転ナデ	回転ナデ	
78 SP025	I 区	B3		土師 杯		(口)11.2 (高)3.2 (底)9.1	2/8	石英大～小少、長石中・小微	内：10YR6/3にぶい黄橙 外：10YR6/3にぶい黄橙 外：5YR6/4にぶい黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り後ナデ	
79 SP026	I 区	B3		須恵 杯蓋			小片	長石小微	内外：N4/灰	回転ナデ	回転ナデ	内面天井部腹に転用か・外面自然釉
80 SP027	I 区	B3		須恵 甕			小片	石英・長石中・小微	内外：N7/灰	当て具痕	格子タタキ	
81 SP028	I 区	A4		須恵 杯蓋		(口)13.0	1/8	石英中・小少、長石中・小普	内外：N6/灰	回転ナデ	回転ナデ	口縁部外面自然釉付着
82 SP029	I 区	A4		須恵 壺	頸部		1/8	石英中・小少、長石小微	内外：N7/灰白	(頸)回転ナデ(体)当て具痕	(頸)回転ナデ(体)タタキ後曲目	
83 SP030	I 区	B4		土師 杯		(口)13.5 (高)3.1 (底)8.8	3/8	石英中・小少、長石大～小少	内外：10YR7/4にぶい黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)糸切り、板状圧痕	
84 SP039	I 区	B3		土師 小皿	口縁部	(口)6.9 (高)1.4 (底)5.4	2/8	石英・長石中・小少	内外：10YR5/1褐灰	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り後ナデ	
86 SP032	II 区	B5		土師 小皿	底部	(口)7.9 (高)1.8 (底)4.9	6/8	石英・長石中・小微、赤色粒子大・中微	内：2.5YR6/6橙 外：2.5YR6/6橙・10YR8/4浅黄橙	回転ナデ、板状工具痕	回転ナデ、静止糸切り	
87 SP033	II 区	B5		土師 土釜	口縁部		小片	石英・長石大～小少	内：10YR7/2にぶい黄橙 外：7.5YR6/4にぶい黄橙	(口)ヨコナデ、板ナデ(体)オサエ後板ナデ	(口)ヨコナデ、オサエ後ナデ(体)オサエ後ナデ	
88 SP033	II 区	B5		土師 土釜	脚部		3/8	石英・長石大～小普	10YR7/3にぶい黄橙	オサエ後板ナデ	オサエ後板ナデ	
91 SP035	III 区	A7		土師 甕		(口)14.3	1/8	石英大～小微、長石中・小微	内外：2.5YR6/8橙	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、ハケ	
92 SP036	III 区	B7		土師 杯			小片	金雲母・石英・長石中・小微	内：2.5YR6/8橙 外：2.5Y2/1黒	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
93 SP037	III 区	B7		須恵 高杯	口縁部	(口)12.3	1/8	石英・長石大～小少	内外：N4/灰	回転ナデ	回転ナデ	
94 SP038	III 区	B9		須恵 壺	高台部	(高台)11.6 (高)0.9	3/8	石英・長石大～小微	内外：2.5Y7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	
95 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 小皿		(口)6.8 (高)1.0 (底)5.3	8/8	石英中・小普、長石中・小少	内：10YR8/1灰白・7.5YR7/6橙 外：10YR8/1灰白・7.5YR7/6橙・5YR7/8橙	回転ナデ	(底)回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ(高)回転ナデ	内面に灯油痕
96 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 小皿	底部	(口)6.9 (高)1.0 (底)5.4	4/8	石英・長石中・小少	内外：5YR6/6橙・2.5YR6/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り	
97 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 小皿	口縁部	(口)7.4 (高)1.6 (底)5.2	1/8	石英中・小少、長石小微	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：10YR7/3にぶい黄橙・5YR7/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ヘラ切り	
98 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 小皿		(口)7.9 (高)1.4 (底)5.9	2/8	石英大～小普、長石大～小少	内外：10YR8/3浅黄橙・5YR7/6橙	回転ナデ	回転ナデ	板状圧痕
99 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 小皿	底部	(口)8.3 (高)1.2 (底)5.6	8/8	石英・長石大～小普、赤色粒子大・中微	内外：7.5YR6/4にぶい黄橙	(口)回転ナデ(底)回転ナデ後仕上げナデ	(口)回転ナデ(底)回転糸切り	

遺物番号	報告遺構名	調査区	区画	出土状況	器種	部位	法量	残存量	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
100 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 杯	底部	(口)10.5 (高)3.2 (底)7.0	6/8	石英中・小普、長石中・小少、赤色粒子大・中普	内外：10YR8/2灰白	(口)回転ナデ(底)回転ナデ後仕上ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ナデ		
101 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 杯		(口)10.6 (高)2.9 (底)6.2	1/8	石英中・小普、長石中・小少	内外：10Y8/2灰白・7.5YR7/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ヘラ切り後ナデ	ヘラ	
102 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 杯	口縁部	(口)10.0	1/8	石英中・小少、長石中・小微	内外：10YR8/1灰白	回転ナデ	回転ナデ		
103 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 杯	口縁部	(口)11.2	1/8	金雲母大・中少、石英中・小少、長石大・中少普、赤色粒子大・中少	内外：5YR6/6橙	回転ナデ	回転ナデ		
104 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 碗	口縁部	(口)13.2	1/8	石英大・中少、長石中・小微	内：10YR8/2灰白・10YR7/3にふい黄橙 外：10YR8/2灰白・10YR8/4浅黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	早高焼?
105 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 碗	口縁部	(口)13.2	1/8	石英中・小少、長石大・中微	内外：10YR7/4にふい黄橙	回転ナデ	回転ナデ		
106 SE01	I 区	B3	井筒内	黒色A 碗		(高台)7.2 (高台高)0.9	2/8	石英・長石中・小少、赤色粒子中・小微	内：N3暗灰 外：10YR6/2灰黄褐	ヘラミガキ	(底)ヘラ切り後ナデ(高)ヨコナデ、高台貼付	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ナデ、ナデ	
107 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 土鍋			小片	石英・長石大・中少	内：10YR6/1褐灰 外：10YR6/1褐灰・10YR7/3にふい黄橙・5YR7/3にふい橙	回転ナデ	回転ナデ		
108 SE01	I 区	B3	井筒内	須恵 壺		(口)12.8	1/8	石英大・小普、長石大・中少	内外：N5/灰	回転ナデ	回転ナデ		
109 SE01	I 区	B3	裏込め	土師 小皿		(口)6.5 (高)1.4 (底)5.5	2/8	石英大・小少、長石中・小少	内外：7.5YR7/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	
110 SE01	I 区	B3	裏込め	土師 小皿		(口)7.9 (高)1.4 (底)6.8	1/8	金雲母大微、石英中・小少、長石大・中少、赤色粒子大・中微	内：10YR6/2灰黄褐 外：10YR7/3にふい、黄橙	回転ナデ	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ヘラ切り	
111 SE01	I 区	B3	裏込め	土師 杯		(底)6.0	3/8	石英・長石・赤色粒子大・中少	内外：5YR6/6橙・10YR7/3にふい黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ヘラ切り後ナデ	東播系?	
112 SE01	I 区	-	裏込め	須恵 捏鉢	口縁部		小片	石英中・小少、長石大・中少	内外：5Y6/1	回転ナデ	回転ナデ		
115 SE02	Ⅲ区	B7	下層	肥前系陶器 碗		(高台)5.0 (高台高)0.8	3/8	精緻	胎：2.5Y8/3淡黄 釉：2.5Y7/3浅黄・鉄 釉5YR4/1褐灰	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉、高台量付露胎	器具手碗	
116 SE02	Ⅲ区	B7	下層	肥前系 鉢		(口)20.7	1/8	精緻	胎：10R6/6赤橙 釉：5YR5/2灰褐・7.5YR8/2灰白	回転ナデ後施釉後刷毛目	回転ナデ後施釉後刷毛目		
117 SE02	Ⅲ区	B7	中層	瓦質 羽釜		(口)19.1	4/8	角閃石中・小微、石英・長石大・中少	内外：N2/黒	(口)ヨコナデ、ハケ後板ナデ(体)ハケ	(口)ヨコナデ、ハケ(把手)オサエ、ナデ(鋳)ヨコナデ(体)オサエ後ハケ、ナデ		
118 SE02	Ⅲ区	B7	中層	瓦質 焙烙	口縁部		小片	金雲母大微、角閃石大・中少、石英・長石大・中少	内外：7.5YR5/3にふい褐	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ、オサエ後ナデ	外面煤付着
119 SE02	Ⅲ区	B7	中層	瓦質 焙烙	口縁部		小片	石英・長石大・中少	内外：10YR4/2灰黄褐	(口)回転ナデ(体)ヘラケスリ後板ナデ	(口)回転ナデ(体)オサエ、ハケ	外面煤付着	

遺物番号	報告遺構名	調査区	区画	出土状況	器種	部位	法量	残存量	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
120 SK01	I 区	B1	口縁底部	備前 大甕	口縁底部	(口)39.0 (底)31.7	2/8	石英大・中少、長石大・中普	内：2.5YR2/1赤黒・2.5YR5/1赤灰・N6/灰 外：2.5YR4/3にぶい赤褐・2.5YR5/1赤灰・2.5YR5/2にぶい赤褐	(口)回転ナデ(体)ナデ (底)板ナデ	(口)回転ナデ(体)ナデ (底)板ナデ、オサエナデ	口縁・肩部外面自然釉	
121 SK10	II 区	B5	土師 小皿	土師 小皿	(口)8.6 (高)1.6 (底)6.2	3/8	長石・赤色粒子中・小	内外：10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ、回転へラ切		
122 SK10	II 区	B5	土師 碗	土師 碗		小片	石英・長石小	内：2.5YR6/8橙 外：10YR7/4にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)へラミガキ、マメツ	(口)ヨコナデ(体)オサエ			
123 SK10	II 区	B5	瓦器 碗	瓦器 碗	(口)17.0	1/8	石英・長石小少	内外：5Y7/1灰白	(口)ヨコナデ(体)へラミガキ	(口)ヨコナデ(体)オサエ	和泉型		
124 SK10	II 区	B5	瓦器 碗	瓦器 碗		小片	石英・長石小少	内外：N3/黒	(口)ヨコナデ(体)へラミガキ	(口)ヨコナデ(体)オサエ	和泉型		
125 SD06	I 区	A4	青磁 皿	青磁 皿	(口)10.3	1/8	精緻	胎：5Y8/1灰白 釉：青磁釉5Y6/3オリー ア黄	回転ナデ後施釉、猫掻き文	回転ナデ後施釉	横田・森田 I-1-b類		
126 SD06	I 区	A2	肥前系陶器 皿	肥前系陶器 皿	(口)12.9 (高)4.1 (高台)4.5 (高台高)0.7	3/8	長石中・小	胎：10YR7/3にぶい黄 釉：5Y6/1灰	回転ナデ後施釉、砂目	回転ナデ後施釉、回転へラケケズリ、高台削り出し	砂目皿		
127 SD06	I 区	A2	肥前系陶器 皿	肥前系陶器 皿	(口)12.6 (高)2.7 (高台)4.5 (高台高)0.2	5/8	長石大	胎：10Y3/8浅黄橙 釉：灰釉10YR5/2オリー ア灰	回転ナデ後施釉、砂目 積み	回転ナデ後施釉、回転へラケケズリ、高台削り出し	溝縁皿		
128 SD06	I 区	A2	肥前系陶器 皿	肥前系陶器 皿	(口)14.4 (高)2.8 (高台)4.8 (高台高)0.2	4/8	精緻	胎：2.5Y7/1灰白 釉：灰釉7.5Y8/1灰白	回転ナデ後施釉、砂目	回転ナデ後施釉、回転へラケケズリ、高台削り出し	溝縁皿		
129 SD06	I 区	A2	土師 杯	土師 杯		小片	石英大～小少、長石中・小	内外：10YR7/4にぶい黄橙	回転ナデ	回転ナデ			
130 SD06	I 区	A2	土師 杯	土師 杯	(口)10.7 (高)3.5 (底)8.5	4/8	石英大・中少、長石中・小少、赤色粒子大・中少	内外：7.5YR7/4にぶい黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転へラ切	回転ナデ		
131 SD06	I 区	A2	土師 杯	土師 杯	(口)12.5	1/8	石英・長石中・小	内：7.5YR5/2灰褐 外：7.5YR5/1褐灰	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ		
132 SD06	I 区	B4	須恵 杯身	須恵 杯身	(口)11.6	1/8	石英中・小、長石大	内外：N6/灰	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転へラケケズリ	(口)回転ナデ(底)回転へラケケズリ	口縁部内面火摺痕	
133 SD06	I 区	B4	須恵 杯蓋	須恵 杯蓋		小片	長石中・小	内外：N5/灰	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ		
134 SD06	I 区	A3	須恵 杯蓋	須恵 杯蓋		8/8	石英・長石大・中少	内外：5Y7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ、回転へラケケズリ		
135 SD06	I 区	B4	須恵 杯	須恵 杯	(口)14.6	1/8	長石中・小	内外：N7/灰白	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ		
136 SD06	I 区	A3	須恵 杯	須恵 杯	(底)7.5	1/8	長石中・小	内外：N6/	回転ナデ	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)へラ切		
137 SD06	I 区	A3	土師 杯	土師 杯	(口)14.4	1/8	石英・長石大～小少	内外：5YR6/8橙	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		
138 SD06	I 区	A3	肥前系磁器 染付碗	肥前系磁器 染付碗	(口)9.3	2/8	精緻	胎：N8/灰白 明釉 具須：藍	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉、雷文草花文	回転ナデ後施釉、雷文草花文		
139 SD06	I 区	A3	肥前系磁器 染付碗	肥前系磁器 染付碗		小片	精緻	胎：N8/灰白 明釉 具須：藍	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ、施釉、一重網目文		

遺物番号	報告遺構名	調査区	区画	出土状況	器種	部位	質量	残存量	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
140	SD06	I区	A2		龜山焼? 把手鍋	口縁部		小片	石英中・小微、長石大 ~小少	内外：5Y3/1オリーブ 黒	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、オサエ後ナ デ	把手部穿孔1ヶ所
141	SD06	I区	A2		土師 片口 播鉢	底部	(口)18.8 (高)11.7 (底)10.2	4/8	石英大・中少、長石大 ~小普、赤色粒子大微	内外：7.5YR8/3浅黄橙 内外：7.5YR7/3にぶい 橙	(口)ヨコナデ(体)オサ エ後ハケ(底)ナデ	(口)ヨコナデ(体)オサ エ後ハケ(底)ナデ	
142	SD06	I区	A2		土師 播鉢	口縁部	(口)22.4	小片	石英、長石大・中普、 赤色粒子大・中少	内：10YR8/2灰白 外：7.5YR7/3にぶい 橙	ヨコナデ、板ナデ、 押し目	ヨコナデ、剥離	
143	SD06	I区	A2		土師 土釜	口縁部		小片	石英・長石大~小少	内：10YR6/3にぶい黄 橙 外：板ナデ、ナデ	(口)ヨコナデ、板ナ デ(体)板ナデ、ナデ	(口)ヨコナデ(体) オサエ後ハケ	
144	SD06	I区	A2		土師 土釜		(口)24.3	小片	石英大・中普、長石大・ 中少	内外：10YR8/3浅黄橙 内外：7.5YR7/3にぶい 橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、オサエ後ナ デ	
145	SD06	I区	A2		土師 羽釜	脚部		6/8	石英・長石大~小普	内外：7.5YR7/3にぶい 橙		オサエ後板ナデ、ナデ	
146	SD06	I区	B4		土師 羽釜	脚部		5/8	石英・長石大~小多	7.5YR8/1灰白・5Y7/6 橙		オサエ後ナデ	
147	SD06	I区	A2		土師 土釜	脚部		5/8	金雲母中微、石英・長 石大~小普	10YR7/3にぶい黄橙	オサエ後板ナデ		
148	SD06	I区	B4		土師 土釜	脚部		3/8	石英・長石大・中普	内外：5YR7/4にぶい 橙		オサエ後板ナデ、ナデ	
149	SD06	I区	B4		備前 甕			小片	石英・長石大・中少	内：2.5Y4/1黄灰 外：2.5Y4/1黄灰・10Y R4/3にぶい黄褐	回転ナデ	回転ナデ	肩部外面自然釉
151	SD01	I区	A1		土師 土釜			小片	石英・長石大~小普	内：10YR6/3にぶい黄 橙 外：5YR4/3にぶ い赤褐	板ナデ	格子タタキ、ナデ	
152	SD05	I区	B2		須恵 杯身	口縁部		小片	石英大~小少、長石中・ 小微	内外：5Y7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	
153	SD05	I区	A2		須恵 杯		(口)10.5 (高)3.9 (底)8.3	1/8	石英中・小少、長石大 ~小普	内外：N4/灰	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転 ヘラケズリ	
154	SD05	I区	B2		須恵 短頸 壺	頸部	(口)8.0	1/8	石英中・小普、長石中・ 小微	内外：N7/灰	回転ナデ	回転ナデ	体部外面自然釉付着
155	SD05	I区	B2		須恵 壺	頸部	(口)17.3	2/8	石英中・小少、長石大 ~小少	内外：N7/灰	回転ナデ	回転ナデ	
156	SD05	I区	A2		須恵 甕		(口)13.3	1/8	石英・長石中・小少	内外：N6/灰	(口)回転ナデ、当て 具痕	(口)回転ナデ、格子タ タキ	頸部外面へラ記号
157	SD05	I区	A2		須恵 鉢		(口)24.2	1/8	石英中・小微、長石大 ~小微	内外：N7/灰	回転ナデ	回転ナデ	
158	SD09	I区	B3		肥前系陶器 皿	口縁部	(口)11.6	1/8	長石中・小微	胎：5Y6/1灰 釉：灰 釉7.5Y6/2灰オリーブ	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	溝縁皿
159	SD09	I区	B3		肥前系陶器 皿	底部	(高台)5.4 (高台高) 0.3	2/8	精緻	胎：5Y7/1灰白 釉：灰釉5Y6/4オリー ブ黄	回転ナデ、施釉、砂 目積み	回転ナデ、回転ヘラケ ズリ、高台削り出し	
160	SD09	I区	B3		土師 土鍋	口縁部		小片	金雲母大・中少、石英・ 長石大~小普	内外：7.5YR7/4にぶい 橙	(口)ヨコナデ、板ナ デ(体)板ナデ	(口)ヨコナデ、板ナ デ(体)オサエ後板ナ デ	
161	SD12	I区	B4		磁器 椀	体部		小片	精緻	胎：5Y7/1灰白 釉：透明釉・7.5Y4/3 暗オリーブ	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	
162	SD12	I区	B4		青磁 椀	底部	(高台)4.4 (高台高) 1.3	2/8	精緻	胎：2.5Y7/1灰白 釉：7.5Y7/1灰	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケ ズリ、高台削り出し

遺物番号	報告遺構名	調査区	区画	出土状況	器種	部位	法量	残存量	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
163 SD12	I 区	B4			備前 播鉢	口縁部		小片	石英中・小微、長石大 ～小少	内：5YR6/4にぶい橙 外：2.5YR6/4にぶい橙・ 2.5YR5/6明赤褐	回転ナデ	回転ナデ	
165 SD15	II 区	A6			肥前系陶器 皿			小片	精緻	胎：5Y7/1灰白 釉： 底釉5Y6/2灰オリーブ	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	溝縁皿
166 SD15	II 区	A6			須恵 杯			小片	石英・長石大～小少	内外：5Y7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	
167 SD15	II 区	A6			白磁 皿	口縁部	(口)10.8	1/8	精緻	胎：2.5Y8/1灰白 釉：5Y8/1灰白	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	
168 SD15	II 区	A6			土師 土鍋	口縁部		小片	石英大～小普、長石大 ～小少	内：10YR8/3浅黄橙 外：10YR7/3にぶい黄 橙	(口)ヨコナデ(体)オサ エ後ナデ	(口)ヨコナデ(体)オサ エ後ナデ	
169 SD15	II 区	A6			土師 甕	把手部		8/8	石英大～小普、長石大 ～小少	内：5Y3/1オリーブ黒 外：5YR8/4淡橙	オサエ、ナデ	オサエ、ナデ	
170 SD17	II 区	A6			備前 播鉢			小片	石英・長石大・中微	内：10R5/3赤褐 外：10R4/1暗赤灰	回転ナデ、卸し目	回転ナデ	堺産
171 SD18	III 区	A7			土師 杯		(口)12.8 (高)3.5 (底)9.8	2/8	石英・長石大～少微、 赤色粒子大・中微	内外：5YR6/6橙	ヨコナデ、ヘラミガキ、 マメツ、回転ナデ	ヨコナデ、ヘラミガキ、 マメツ、回転ナデ	
172 SD22	III 区	A8			土師 甕			小片	石英・長石大～小普、 赤色粒子大・中微	内：7.5YR7/4にぶい橙 外：7.5YR6/4にぶい橙	(口)ヨコナデ、ハケ (体)ハケ、ヘラケス	(口)ヨコナデ(体)ハケ 後ナデ	
173 SD26	III 区	B7			須恵 壺	口縁部	(口)19.9	3/8	石英中・小少、長石大 ～小普	内外：N6/灰	(口)回転ナデ(体)当 て具痕	(口)回転ナデ(体)タタ キ後曲目	
174 SD27	III 区	A9			肥前系陶器 皿	口縁底 部	(口)11.4 (高)3.6 (高台)4.6 (高台高)0.3	3/8	精緻	胎：2.5Y6/2灰黄 釉：5Y7/1灰白	回転ナデ後施釉、砂 目	(口)回転ナデ後施釉 (底)回転ナデ、高台削 り出し	
175 SD31	III 区	A9			白磁 碗			小片	精緻	胎：5Y8/1灰白 釉：5Y7/1灰白	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	横田・森田Ⅱ-1類
176 SD32	III 区	A9			土師 小皿		(口)8.3 (高)1.5 (底)6.2	8/8	石英大～小普、長石大 ～小少、赤色粒子大・ 中微	内：10YR8/3浅黄橙 外：10YR8/3浅黄橙・ 5YR7/6橙	(口)回転ナデ(底)回 転ヘラ切り	(口)回転ナデ(底)回転 ヘラ切り後ナデ	板状庄痕
177 SD32	III 区	A9			瓦器 小皿		(口)8.2 (高)1.7 (底)4.5	7/8	石英・長石大・中微	内外：N5/灰	ヨコナデ、ナデ	(口)ヨコナデ(底)オサ エ後ナデ	
178 SD32	III 区	A9			瓦器 碗		(口)15.0 (高)3.6 (推定)4.8 (高台)4.1 (高台高)0.3	3/8	長石中・小微	内：7.5Y7/1灰白 外：N7/灰白	(口)ヨコナデ、板ナ デ(体)底)ヘラミガ キ	(口)ヨコナデ、オサエ 後ナデ(体)板ナデ	和泉型
179 SD32	III 区	A9			瓦器 碗		(口)16.9 (高)4.0 (推定)4.1 (高台)4.1 (高台高)0.3	1/8	石英・長石小微	内外：N6/灰	(口)ヨコナデ(体)ナ デ後ヘラミガキ(底) ナデ	(口)ヨコナデ(体)オサ エ後ナデ(底)ナデ(高) ヨコナデ(体)オサエ エ(底)ナデ(高)ヨコナ デ	和泉型
180 SX03	I 区	A3			肥前系磁器 茶付碗	口縁部	(口)9.4 (高)7.1 (高台)4.8 (高台高)0.7	2/8	精緻	胎：N8/灰白 釉：10GY8/1明緑灰 呉須：藍	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉、高台 露胎	
181 SX03	I 区	A3			備前 播鉢	口縁部		小片	長石中・小微	内：10YR4/1褐灰 外：5YR4/2灰褐	回転ナデ	回転ナデ	

報告 遺物 番号	調査区	区画	出土状況	器種	部位	法量	残存量	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
182 SX03	I区	A3		土師 土釜	脚部		3/8	石英・長石大~小多	内：10YR7/2にぶい、黄 橙 外：10YR6/2灰黄褐	オサエ後ナデ	オサエ後板ナデ	
185 SX04	I区	A3		肥前系陶器 皿	底部	(口)13.7 (高)3.4 (高)5.5 4(高台高) 0.3	2/8	精緻	胎：7.5YR7/3にぶい、橙 釉：透明釉・鉄軸2.5Y 2/1黒	回転ナデ、施釉、蛇 ノ目軸ハギ、砂白	回転ナデ、施釉、回転 ヘラ削り、高台削り出 し・露胎	
186 SX04	I区	A4		土師 椀		(口)14.2 (高)6.4	5/8	石英・長石大~小少、 赤色粒子大・中少	内：7.5YR7/4にぶい、橙 外：10R6/8赤橙	(口)ヨコナデ、ナデ (体)(底)オサエ後ナ デ	(口)ヨコナデ、ナデ (体)(底)オサエ後ハケ	口縁部内面へラ記号
188 SX05	I区	A4		土師 土釜	脚部		6/8	石英・長石大~小普	内外：10YR8/2灰白	ハケ	オサエ後ナデ、ナデ	
189 SX08	II区	A5		須恵 杯身		(口)11.8 (高)4.5	7/8	長石中・小少	内外：5Y6/1灰	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転 ヘラ削り、回転ヘラ 切り	外面全体自然釉
190 SX08	II区	A5		土師 甕	口縁底 部	(口)18.3 (高)20.0 (推定) (底)13.5	2/8	石英・長石大~小普	内：7.5YR4/2灰褐 外：2.5YR5/6明赤褐	(口)ヨコナデ、ハケ、 オサエ後ハケ(体)ナ デ(底)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ、ハケ オサエ後ハケ(底) ナデ	
191 SX13	III区	A7		須恵 杯蓋		(口)12.2	2/8	石英中・小微	内外：N7/灰	回転ナデ	回転ナデ	
192 SX13	III区	A7		須恵 杯身	口縁部		小片	長石中・小微	内外：N6/灰	回転ナデ	回転ナデ	
193 SX13	III区	A7		肥前系磁器 染付甕		(口)10.2 (高)5.5 (高台)4. 1(高台高) 0.8	5/8	精緻	胎：N8灰白 釉：透明釉 呉須：藍	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉、染付 高台量付露胎	
194 浅谷1	I区	B3	II㊟層	土師 小皿		(口)7.3 (高)1.3 (底)4.9	8/8	石英・長石中・小微、 赤色粒子中微	内外：10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転 ヘラ削り	
195 浅谷1	I区	A3	II㊟層	土師 小皿		(口)7.3 (高)1.5 (底)4.8	3/8	石英大~小多、長石中・ 小少	内：10YR8/3浅黄橙 外：7.5YR7/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転 ヘラ削り	
196 浅谷1	I区	B3	II㊟層	土師 小皿		(口)7.7 (高)1.2 (底)6.0	2/8	石英大~小少、長石大 ~小微	内外：10YR2/8灰白・ 5YR8/4淡橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転 ヘラ削り	
197 浅谷1	I区	B3	II㊟層	土師 小皿		(口)7.5 (高)1.2 (底)6.1	3/8	石英大~小普、長石大 ~小少	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転 ヘラ削り	
198 浅谷1	I区	B3	II㊟層	土師 小皿		(口)7.5 (高)1.6 (底)5.6	4/8	石英大~小普、長石大 ~小少	内外：10YR7/3にぶい 黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転 糸切り	
199 浅谷1	I区	B3	II㊟層	土師 杯		(口)11.1 (高)3.8 (底)8.0	6/8	金雲母中微、石英・長 石大~小少	内外：10YR7/3にぶい 黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転 ヘラ削り後ナデ	
200 浅谷1	I区	B3	II㊟層	土師 杯		(口)12.3 (高)3.6 (底)7.4	6/8	石英大~小多、長石大 ~小普	内外：10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転 ヘラ削り	
201 浅谷1	I区	A3	II㊟層	土師 杯	底部	(口)11.0 (高)3.5 (底)8.1	8/8	石英・長石・赤色粒子 大・中少	内外：10YR8/3浅黄橙	(口)回転ナデ(底)回 転ヘラ削り	(口)回転ナデ(底)ヘラ 切り	板状圧痕
202 浅谷1	I区	B3	II㊟層	土師 杯		(口)12.0 (高)3.2 (底)8.7	1/8	石英・長石大~小少	内：10YR5/1褐灰・10 YR8/3浅黄橙 外：10YR5/1褐灰	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)糸切 り	

遺物番号	報告遺構名	調査区	区画	出土状況	器種	部位	法量	残存量	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考	
203	浅谷1	I区	B3	II⑨層	土師杯		(口)11.9 (高)3.5 (底)8.2	5/8	石英大~小普、長石大~小少、赤色粒子大・中少	内外:10YR8/3浅黄橙・5YR7/6橙	(口)回転ナデ(底)オサエ後ナデ	(口)回転ナデ(底)糸切り	板状圧痕	
204	浅谷1	I区	B3	II⑨層	土師杯	底部	(口)11.7 (高)3.5 (底)7.7	3/8	石英大~小微、長石中・小微	内外:10YR8/2灰白	回転ナデ、ナデ	(口)回転ナデ(底)糸切り		
205	浅谷1	I区	A3	II⑨層	土師杯		(口)10.6 (底)8.6	1/8	金雲母中微、石英・長石大~小少	内:10YR7/4にぶい黄橙 外:7.5YR7/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ヘラ切		
206	浅谷1	I区	B3	II⑨層	土師杯		(口)10.8 (高)3.1 (底)8.1	5/8	石英大~小普、長石大~小少	内外:10YR8/2灰白・2.5YR7/4淡赤橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り後ナデ		
207	浅谷1	I区	A3	II⑨層	土師杯	口縁底部	(口)11.7 (高)2.9 (底)7.9	3/8	石英中・小少、長石中・小微、赤色粒子中微	内外:10YR8/2灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ナデ		
208	浅谷1	I区	A3	II⑨層	土師碗		(口)13.7 (高)4.4 (高台)4.3 (高台高)0.2	4/8	石英中・小少、長石中・小微	内外:N8/灰白	回転ナデ、ナデ	(口)回転ナデ(体)オサエ後ナデ(底)ナデ、高台貼付	西村産	
209	浅谷1	I区	B3	II⑨層	青磁碗			1/8	精緻	胎:N8/灰白 釉:2.5GY6/1オリーブ灰	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉、錫運弁文	横田・森田 I-5b類	
210	浅谷1	I区	B3	II⑨層	青磁碗			小片	精緻	胎:5Y7/1灰白 釉:5Y6/2灰オリーブ	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉、運弁文	横田・森田 I-5a類	
211	浅谷1	I区	B3	II⑨層	青磁碗		(高台)6.2 (高台高)0.7	1/8	精緻	胎:7.5Y6/1灰 釉:10Y6/1灰	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉、運弁文	横田・森田 I-5a類	
212	浅谷1	I区	A4	II⑨層	土師火鉢			1/8	石英大~小少、長石大~小普	内:10YR7/3にぶい黄橙 外:7.5YR6/6橙	ヨコナデ、板ナデ後ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	口縁部外面沈線1条、印花文、沈線1条	
213	浅谷1	I区	B4	II⑨層	須恵高杯		(底)8.8	1/8	石英・長石大・中微	内外:N5/灰	回転ナデ	回転ナデ		
214	浅谷1	I区	B4	II⑨層	土師甕		(口)15.4	1/8	石英大~小普、長石大・中微	内:2.5YR6/6橙・10YR7/3にぶい黄橙 外:2.5YR6/6橙	(口)ヨコナデ、ハケ、マメツ(体)オサエ、ヘラケズリ	(口)ヨコナデ、マメツ(体)ハケ、マメツ		
215	浅谷1	I区	B4	II⑨層	土師甕		(口)14.9	3/8	石英・長石大~小少	内外:2.5Y7/3浅黄・2.5YR6/6橙	(口)ハケ、マメツ(体)オサエ、ヘラケズリ	(口)マメツ(体)ハケ、マメツ		
216	浅谷1	I区	B3	II①層	土師土鍋	口縁部		小片	石英・長石大~小普	内:7.5YR8/2灰白・5YR7/6橙 外:10YR7/2にぶい黄橙	(口)ヨコナデ(体)ハケ	(口)ヨコナデ、オサエ後ナデ(体)オサエ後ナデ		
222	浅谷2	II区	B5	II①層	須恵盃(盃)		(口)11.8	2/8	石英大~小少、長石大~小普	内外:N5/灰	回転ナデ	回転ナデ		
223	浅谷2	II区	A6	II①層	須恵杯身		(口)12.5	1/8	長石中・小少	内外:5Y6/1灰	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラケズリ	外面自然釉	
225	浅谷3	III区	A7	II①層	須恵杯		(口)10.5 (底)7.1	1/8	長石中・小微	内外:N6/灰	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ切り後ナデ		
226	浅谷3	III区	A8	II①層	須恵短頸壺		(口)8.6	1/8	長石中・小微	内外:N6/灰	回転ナデ	回転ナデ		
227	浅谷3	III区	A7	II①層	須恵壺		(口)18.3	5/8	長石大~小普	内外:N5/灰	(口)(頸)回転ナデ(体)当て具痕	(口)回転ナデ(体)タタキ後曲目	(口)(頸)回転ナデ(体)タタキ後曲目	
228	浅谷3	III区	A9	II①層	土師小皿		(口)7.2 (高)1.0 (底)4.9	3/8	石英・長石大・中少	内外:10YR8/3浅黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)糸切り後ナデ		
229	浅谷3	III区	A9	II①層	瓦器小皿		(口)10.0 (底)8.0	2/8	石英・長石中・小微	内:N3/暗灰・7.5Y8/1灰白 外:N3/暗灰	ヨコナデ	ヨコナデ、オサエ		

遺物番号	報告遺構名	調査区	区画	出土状況	器種	部位	法量	残存量	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
230	浅谷3	Ⅲ区	A9	Ⅱ⑩層	土師 杯			2/8	石英中・小少、長石中・小普	内：10YR8/2灰白 外：10YR7/2にぶい黄橙	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、ヘラケズリ	内面赤色顔料付着
231	浅谷3	Ⅲ区	A9	Ⅱ⑩層	瓦器 椀		(口)17.4	2/8	石英中・小少、長石中・小微	内：5Y8/1灰白 外：5Y7/1灰白	ヨコナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ、オサエ	外面煤付着
232	浅谷3	Ⅲ区	A8	Ⅱ⑩層	土師 土釜		(口)28.2	3/8	石英・長石大～小少	内：10YR6/4にぶい黄橙 外：10YR7/4にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、オサエ、ハケ、格子タタキ	外面煤付着
233	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	土師 甕	把手部		8/8	石英大～小少、長石大～小微	内：7.5YR6/4にぶい黄橙 外：2.5Y7/1灰白	ナデ	オサエ	
235	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	須恵 杯(蓋)		(口)12.0	1/8	石英・長石中・小微	内：5Y6/1灰 外：5Y7/1灰	回転ナデ	回転ナデ	
236	浅谷3	Ⅲ区	B7	Ⅱ⑩層	須恵 杯身	口縁部	(口)11.4	1/8	石英中・小微、長石中・小少	内外：N5/灰	回転ナデ	回転ナデ	
237	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	須恵 杯		(口)10.0 (高)3.8 (底)7.0	7/8	長石中・小微	内外：5Y7/1灰白	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ 切り後ナデ	底部内面火ぶくれ
238	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	須恵 杯		(口)10.1 (高)3.6 (底)6.4	1/8	石英・長石中・小微	内外：N6/灰	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ヘラ 切り後ナデ	
239	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	須恵 高杯	杯部	(口)12.7	4/8	石英・長石大～小少	内外：N5/灰	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ ケズリ後回転ナデ	
240	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	土師 杯	口縁部	(口)10.3 (高)2.9 (底)7.3	6/8	石英・長石中・小少、赤色粒子大・中少	内外：5YR6/8橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転ヘラ 切り後ナデ	
241	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	土師 杯	口縁部	(口)12.8	1/8	長石中・小少	内外：2.5YR7/8橙	ヨコナデ	ヨコナデ、オサエ後ナデ	
242	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	土師 杯	口縁部	(口)12.4	1/8	石英・長石中・小少	内外：5YR4/2灰褐・2.5YR6/6橙	ヨコナデ	ヨコナデ	
243	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	土師 杯	口縁部		小片	石英大・中少、長石中・小微	内外：5YR7/8橙	ヨコナデ	ヨコナデ、マメツ	
244	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	土師 杯	口縁部		小片	石英大・中少、長石中・小微	内：5YR7/8橙 外：5YR7/6橙	ヨコナデ	ヨコナデ、オサエ後ヘラケズリ	
245	浅谷3	Ⅲ区	B7	Ⅱ⑩層	土師 甕		(口)21.7	1/8	石英大・中少、長石大・中微 赤色粒子大	内外：5YR7/8橙	(口)ヨコナデ、ハケ (体)オサエ、ハケ	(口)ヨコナデ、ハケ (体)ハケ	
246	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	土師 甕	頸部	(口)23.3	1/8	石英・長石大～小微	内：7.5YR8/3浅黄橙 外：10YR7/3にぶい黄橙	(口)ヨコナデ、ハケ (体)オサエ、ハケ	(口)ヨコナデ、オサエ (体)ハケ	
247	浅谷3	Ⅲ区	B7	Ⅱ⑩層	土師 甕	口縁部	(口)27.7	4/8	石英・長石大～小普、赤色粒子大微	内：7.5YR5/6明褐・5YR5/6明赤褐 外：5YR5/6明赤褐	(口)ヨコナデ(体)オサエ後板ナデ、ナデ	(口)ヨコナデ(体)オサエ後ハケ(把手)ナデ	
248	浅谷3	Ⅲ区	B7	Ⅱ⑩層	土師 甕	把手部		6/8	石英大～小少、長石中・小少、赤色粒子大・中微	内：10YR7/4にぶい黄橙 外：7.5YR7/4にぶい黄橙	ナデ	オサエ、オサエ後ハケ	
249	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	緑釉陶器 皿		(口)12.7 (高)2.3 (底)7.2(高台高)0.5	6/8	石英大・中微、長石大～小微	胎：2.5Y7/1灰白 釉：7.5Y6/3オリーブ黄	回転ナデ後施釉	(口)高)回転ナデ後施釉(底)静止茶切り後施釉、高台貼付	素地は須恵質 口縁部に補修痕 内面にトナシ
251	浅谷3	Ⅲ区	A9	Ⅱ⑩層	須恵 杯蓋	口縁部	(口)13.2	1/8	長石中・小微	内外：N6/灰	回転ナデ	回転ナデ	外面自然釉

遺物番号	報告遺物名	調査区	区画	出土状況	器種	部位	法量	残存量	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
252	包含層 I 区	I 区	A4		須恵 高杯	体部		4/8	石英・長石大～小少	内：N6/灰 外：N5/灰	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケ スリ、ナデ	
253	包含層 I 区	I 区	A2	I ③層	須恵 壺	口縁部	(口)17.0	3/8	石英大～小少、長石大 ～小微	内外：5Y7/1灰白	回転ナデ、タタキ	回転ナデ、当て具痕	口縁部外面ヘラ記号？
254	包含層 I 区	I 区	A2	I ③層	土師 碗		(高台)7.6 (高)0.6	2/8	石英・長石中・小少	内外：5YR7/6橙	回転ナデ	回転ナデ、高台貼付	
255	包含層 I 区	I 区	A2		肥前系陶器 碗	底部	(口)11.7 (高)7.4 (高台)5.1 (高)1.2	8/8	精緻	胎：2.5Y8/3淡黄 釉：2.5Y7/2灰黄	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉、高台 量付露胎	貫入 器具手腕
256	包含層 I 区	I 区	A1-2	I ③層	土師 三脚 土釜		(口)28.2	1/8	石英大～小少、長石大 ～小微	内外：2.5Y8/2灰白	ヨコナデ	(口)ヨコナデ(体)オサ エ後ナデ	外面煤附着
258	包含層 I 区	I 区	B1・ 2	I ③層	土師トチン		(長)5.7 (幅)4.6 (高)4.5	8/8	石英・長石大～小多	7.5YR6/4にぶい橙		オサエ、ナデ	
263	包含層 I 区	I 区	B2	I ③層	須恵 杯蓋	口縁部		小片	石英・長石大～小少	内外：5Y7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケ スリ	
264	包含層 I 区	I 区	B2	I ③層	土師 杯	口縁部	(口)12.4 (高)4.1 (底)8.2	2/8	石英・長石大～小普	内外：10YR8/4浅黄橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ヘラ 切り後ナデ	
265	包含層 I 区	I 区	A1-2		須恵 平瓶		(口)7.9	5/8	石英・長石大～小普	内外：N7/灰白	回転ナデ	回転ナデ	
266	包含層 II 区	II 区	—		須恵 高杯	口縁部	(口)13.8	1/8	長石大～小少	内：N6/灰 外：N5/灰	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転 ヘラケスリ	
267	包含層 II 区	II 区	A5 ～ B 5		土師 杯		(口)12.6 (高)3.5 (底)7.3	2/8	石英・長石中・小微	内：5YR7/6橙 外：5YR7/6橙・2.5YR 6/6橙	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ヘラ 切り後ナデ	
268	包含層 II 区	II 区	B6		須恵 短頸 壺		(口)13.1	1/8	長石大～小微	内外：N5/灰	回転ナデ	回転ナデ	
269	包含層 II 区	II 区	B6		土師 高杯	脚部	(底)12.5	6/8	石英・長石大～小少	内外：5YR6/6橙	絞り目後ヨコナデ、 ハケ後ヨコナデ	オサエ後ナデ、オサエ 後ヨコナデ、ヨコナデ	
270	包含層 II 区	II 区	—		土師 甕	把手部	(口)9.4	8/8	石英・長石大～小少	内外：2.5YR6/8橙	オサエ、板ナデ	オサエ後ナデ	
271	包含層 II 区	II 区	A4・ 5	II 層	須恵 杯		(高)3.5 (底)6.0	2/8	長石中・小少	内外：5Y6/1灰	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ヘラ 切り後ナデ	
272	包含層 II 区	II 区	A5	II 層	青磁 碗			小片	精緻	胎：5Y8/1灰白 釉：10Y6/1オリーブ灰	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉 雷文	
273	包含層 II 区	II 区	A4・ 5	II 層	土師 土釜			小片	石英・長石大～小普	内外：7.5YR7/6橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、オサエ後ナ デ	外面煤附着
274	包含層 II 区	II 区	B5	II 層	土師 土釜			小片	金雲母大・中微、石英 大～小少、長石大～小 普	内：10YR8/3浅黄橙 外：10YR8/3浅黄橙・ 5YR7/6橙	ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ、オサ エ後ナデ	
275	包含層 II 区	II 区	A4・ B4	II ⑤層	土師 土鍋	口縁部		小片	石英・長石大～小普	内：10YR7/3にぶい黄 橙 外：10YR8/3浅黄橙	ヨコナデ、板ナデ	ヨコナデ、オサエ後ナ デ	
276	包含層 II 区	II 区	A4・ B4	II ⑤層	土師 土鍋	口縁部		小片	石英・長石大～小少	内：10YR7/3にぶい黄 橙 外：10YR5/2灰黄褐	ヨコナデ、板ナデ	ヨコナデ、板ナデ、オ サエ後ナデ	外面煤附着

遺物番号	報告遺構名	調査区	区画	出土状況	器種	部位	法量	残存量	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
277	包含層	II区	A4-B4	II⑨層	土師土釜	脚部		5/8	7.5YR6/4にぶい橙		オサエ後板ナデ		
278	包含層	II区	B4	II⑨層	土師擂鉢	底部	(底)12.0	2/8	石英・長石大～小普	内：10YR7/3にぶい黄橙 外：7.5YR6/4にぶい橙	(体)ナデ、御し目(底)ナデ	(体)ナデ、板ナデ(底)ナデ	
279	包含層	II区	A4-B4	II⑨層	土師擂鉢	口縁部		小片	石英・長石大～小普	内外：10YR6/2灰黄褐	ナデ、御し目	剥離	

第23表 南天枝遺跡出土石器観察表

遺物番号	報告遺構名	調査区	区画	出土状況	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	残存度	備考
46	SB31	Ⅲ区	A7		石鏃	サヌカイト	18.0	13.0	3.0	0.50		
50	SB39	Ⅲ区	A7	SP0087	砥石		136.0	126.0	51.0	1386.50		
89	SP015	I区	B3		石臼		307.0	299.0	139.0			
90	SP034	Ⅲ区	A7		楔形石器素材	サヌカイト	73.0	73.0	20.0	115.40		
113	SE01	I区	B3		砥石		188.0	88.0	47.0	986.50		
114	SE01	I区	B3		砥石		261.0	144.0	88.0			
150	SD06	I区	B4		槍先形石器	サヌカイト	42.0	24.0	14.0	15.00		
183	SX03	I区	A3		石製紡錘車未製品		34.0	40.0	7.0	12.50		
184	SX03	I区	A3		石製紡錘車未製品		34.0	36.0	8.0	10.30		
187	SX04	I区	A3		石製紡錘車未製品		44.0	48.0	4.0	13.20		
218	浅谷1	I区	B3	II①層	砥石		6.0	49.0	27.0	105.35		
219	浅谷1	I区	A3	II①層	石鏃	サヌカイト	22.0	14.0	4.0	0.50		
220	浅谷1	I区	B3・4	II①層	調整有る剥片	サヌカイト	74.0	66.0	10.0	55.60		
221	浅谷1	I区	B3	II①層	石臼		300.0	176.0	113.0			
224	浅谷2	II区	A5	II①層	石核	サヌカイト	36.0	38.0	9.0	10.50		旧石器?
234	浅谷3	Ⅲ区	A8	II①層	石鏃	サヌカイト	29.0	17.0	6.0	2.00		
250	浅谷3	Ⅲ区	B7	II⑥層	剥片	サヌカイト	32.0	25.0	7.0	4.30		旧石器?
259	包含層	I区	A2	I③層	楔形石器	サヌカイト	43.0	54.0	15.0	36.60		
260	包含層	I区	A2・B2	I③層	石製紡錘車未製品							
280	包含層	Ⅲ区	A8		柱状片刃石斧		134.0	44.0	24.0	245.00		

寺田・産宮通遺跡 図版



I 区調査区全景（北より）



II 区調査区全景（南より）



SH01全景（西より）



SH02,SD03全景（西より）

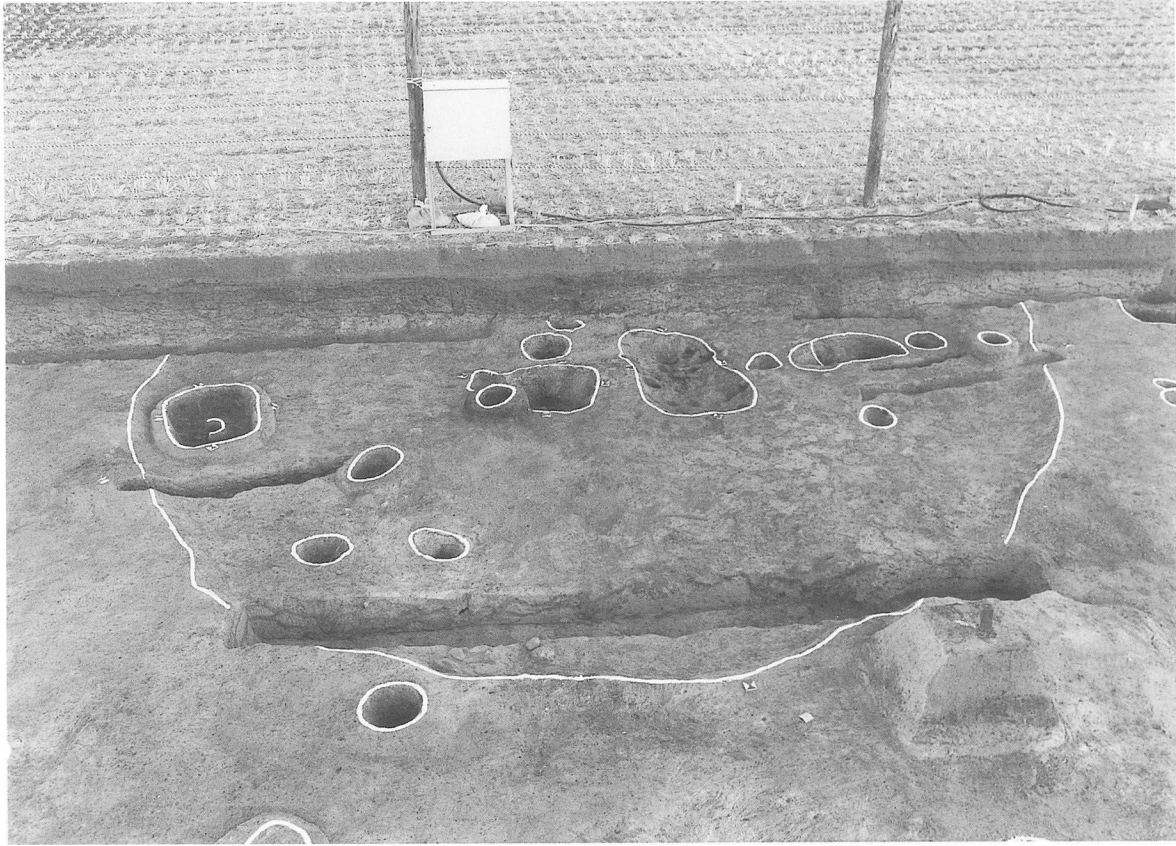


SH03全景（東より）



SH04・05全景（北より）

図版4



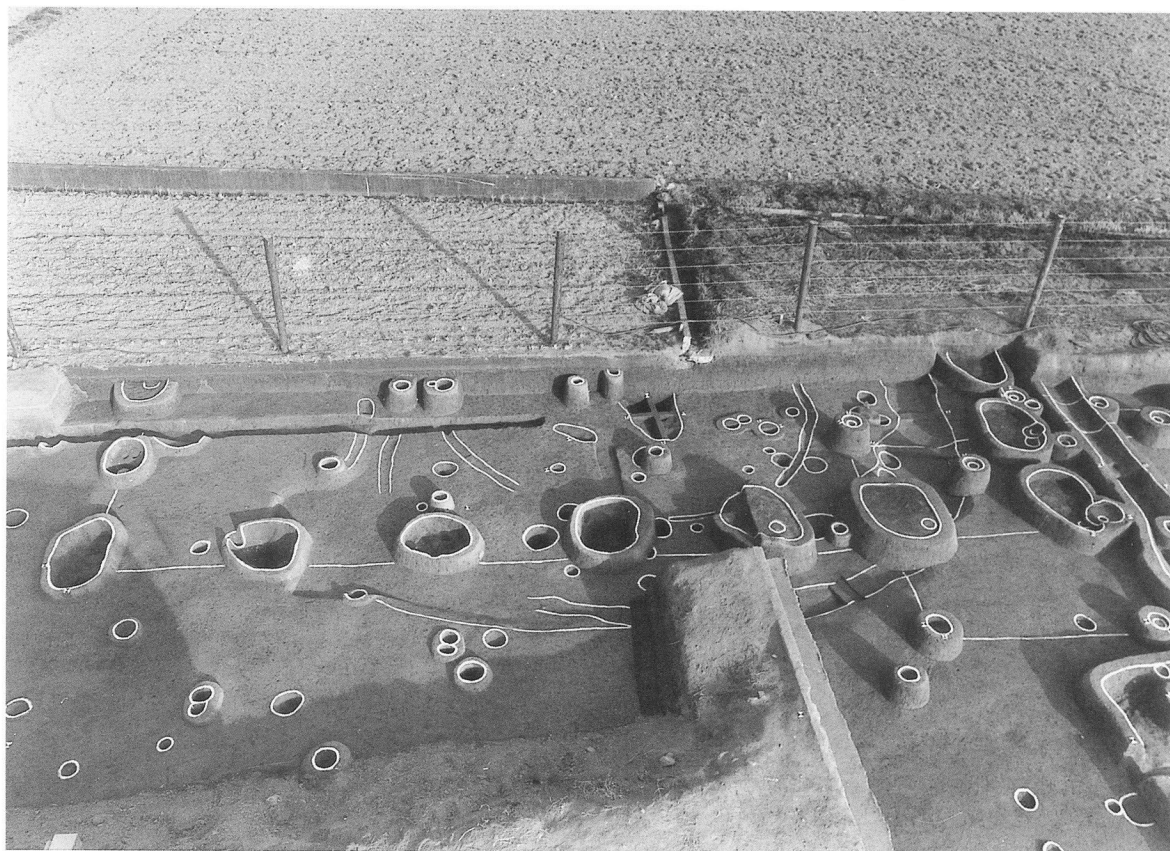
SH06全景（西より）



SH06 1・2号炉（北より）



SB01~03全景（北より）



SB03全景（西より）